

経済学科

開設科目	ミクロ経済学 Ia	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	NGUYEN PHUC HUU/陳 禮俊				

授業の概要 ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義をします。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくるとは思いますが、しっかり出席して学習しましょう。

授業の一般目標 経済学の用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経済学の用語の意味を理解する。 思考・判断の観点：経済学の用語を用いて、経済の仕組みを考える。 関心・意欲の観点：経済問題に関心をもつようになる。 態度の観点：周りの人に迷惑になるので私語をしない。

授業の計画（全体）テキストに従って授業をします。前半は需要と供給の理論を中心に学び、市場の働きを理解します。後半は、企業の行動と消費者の行動を学習します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 数学の復習（1）
- 第 2 回 項目 レッスン 1 - 1 完全競争市場・需要
- 第 3 回 項目 レッスン 1 - 2 供給曲線・市場均衡
- 第 4 回 項目 レッスン 1 - 2 供給曲線・市場均衡
- 第 5 回 項目 レッスン 1 - 5 価格弾力性
- 第 6 回 項目 レッスン 1 - 5 価格弾力性
- 第 7 回 項目 レッスン 2 - 1 無差別曲線
- 第 8 回 項目 レッスン 2 - 1 無差別曲線
- 第 9 回 項目 レッスン 2 - 2 最適消費点
- 第 10 回 項目 レッスン 2 - 2 最適消費点
- 第 11 回 項目 レッスン 2 - 3 個別需要曲線
- 第 12 回 項目 レッスン 2 - 3 個別需要曲線
- 第 13 回 項目 問題演習
- 第 14 回 項目 中間試験（I）
- 第 15 回 項目 中間試験の解説
- 第 16 回 項目 レッスン 3 - 1 企業の分析
- 第 17 回 項目 レッスン 3 - 2 限界生産性逓減の法則
- 第 18 回 項目 レッスン 3 - 2 限界生産性逓減の法則
- 第 19 回 項目 レッスン 4 - 1 総費用曲線
- 第 20 回 項目 レッスン 4 - 1 総費用曲線
- 第 21 回 項目 レッスン 4 - 2 限界原理
- 第 22 回 項目 レッスン 4 - 2 限界原理
- 第 23 回 項目 問題演習
- 第 24 回 項目 中間試験（II）
- 第 25 回 項目 中間試験の解説
- 第 26 回 項目 レッスン 5 - 1 独占市場
- 第 27 回 項目 レッスン 5 - 1 独占市場
- 第 28 回 項目 予備日
- 第 29 回 項目 前期末試験
- 第 30 回

成績評価方法（総合） 中間・期末試験を実施して、授業の理解度をみる。

教科書・参考書 教科書：グラフィック ミクロ経済学, 金谷 貞男・吉田 真理子, 新世社, 1999年 / 参考書：大学会館内の山口大学生協にて販売

メッセージ 授業の内容で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	ミクロ経済学 I b	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義します。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って説明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくると思いますが、しっかり出席して学習しましょう。

授業の一般目標 経済学の用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経済学の用語の意味を理解する。思考・判断の観点：経済学の用語を用いて、経済の仕組みを考える。関心・意欲の観点：経済問題に関心をもつようになる。態度の観点：周りの人に迷惑になるので、私語をしない。

授業の計画（全体）テキストに従って授業します。前半は需要と供給の理論を中心に学び、市場の働きを理解します。後半は、企業の行動と消費者の行動を学習します。（1）ガイダンス（2）レッスン1-1 完全競争市場・需要（3）レッスン1-2 供給曲線・市場均衡（4）レッスン1-2 供給曲線・市場均衡（5）レッスン1-5 価格弾力性（6）レッスン1-5 価格弾力性（7）レッスン2-1 無差別曲線（8）レッスン2-1 無差別曲線（9）レッスン2-2 最適消費点（10）レッスン2-2 最適消費点（11）レッスン2-3 個別需要曲線（12）レッスン2-3 個別需要曲線（13）問題演習（14）中間試験（I）（15）中間試験の解説（16）レッスン3-1 企業の分析（17）レッスン3-2 限界生産性逓減の法則（18）レッスン3-2 限界生産性逓減の法則（19）レッスン4-1 総費用曲線（20）レッスン4-1 総費用曲線（21）レッスン4-2 限界原理（22）レッスン4-2 限界原理（23）問題演習（24）中間試験（II）（25）中間試験の解説（26）レッスン5-1 独占市場（27）レッスン5-1 独占市場（28）予備日（29）予備日（30）前期末試験

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済学とは何だろうか
- 第 2 回 項目 市場競争
- 第 3 回 項目 競争市場と需給の法則
- 第 4 回 項目 競争市場と需給の法則
- 第 5 回 項目 需給変化と比較静学
- 第 6 回 項目 需給変化と比較静学
- 第 7 回 項目 消費者余剰と交換の利益
- 第 8 回 項目 消費者余剰と交換の利益
- 第 9 回 項目 生産者余剰と生産の効率性
- 第 10 回 項目 生産者余剰と生産の効率性
- 第 11 回 項目 競争市場均衡と効率性
- 第 12 回 項目 競争市場均衡と効率性
- 第 13 回 項目 市場介入の経済効果
- 第 14 回 項目 市場介入の経済効果
- 第 15 回 項目 価格支配力と不完全競争

成績評価方法（総合） 期末試験を実施して、授業の理解度をみる。

教科書・参考書 教科書：グラフィック ミクロ経済学, 金谷貞男・吉田真理子, 新世社

メッセージ 授業の内容で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302 室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ミクロ経済学 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 ゲーム理論を用いた、ミクロ経済学の戦略的アプローチを学びます。かつてミクロ経済学は市場の分析が主でしたが、最近では組織や制度の分析に関心が移ってきています。組織や制度を分析するには、ゲーム理論が不可欠です。この授業では、簡単な二人ゲームを使って、ゲーム理論の初歩を学びます。

授業の一般目標 ゲーム理論の基礎を身につける。ゲーム理論を使って、現実の問題を分析できるようになる。

授業の計画（全体） 主に二人のプレイヤーを想定し、展開型ゲームと戦略型ゲームを学ぶ。実際の問題にゲーム理論を応用する。

成績評価方法（総合） 期末試験を実施して、授業の理解度をみる。

教科書・参考書 参考書：ミクロ経済学 戦略的アプローチ, 梶井厚志・松井彰彦, 日本評論社, 2000年；入門—ゲーム理論 戦略的思考の科学, 佐々木宏夫, 日本評論社, 2003年；入門ゲーム理論と情報の経済学, 神戸伸輔, 日本評論社, 2004年；ゲーム理論と蒟蒻問答, 金子守, 日本評論社, 2003年

メッセージ 授業で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	マクロ経済学 Ia	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。

授業の一般目標 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 GDP
- 第 3 回 項目 失業率と物価水準の測定
- 第 4 回 項目 消費関数
- 第 5 回 項目 45 度線分析
- 第 6 回 項目 乗数効果
- 第 7 回 項目 均衡予算乗数の定理
- 第 8 回 項目 投資関数
- 第 9 回 項目 貨幣供給と貨幣需要
- 第 10 回 項目 貨幣市場の均衡
- 第 11 回 項目 IS 曲線
- 第 12 回 項目 LM 曲線
- 第 13 回 項目 財政政策
- 第 14 回 項目 金融政策
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験および出席で判定する。出席は加点要素とし最大 10 点加点する。

教科書・参考書 教科書：マクロ経済学 I 2008 年度版, 馬田哲次, 自費出版, 2008 年

メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問です。積み上げタイプの学問ですから、途中で分からなくなると先に進んでも理解できません。きちんと復習することを心がけてください。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	マクロ経済学 Ib	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。

授業の一般目標 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 GDP
- 第 3 回 項目 失業率と物価水準の測定
- 第 4 回 項目 消費関数
- 第 5 回 項目 45 度線分析
- 第 6 回 項目 乗数効果
- 第 7 回 項目 均衡予算乗数の定理
- 第 8 回 項目 投資関数
- 第 9 回 項目 貨幣供給と貨幣需要
- 第 10 回 項目 貨幣市場の均衡
- 第 11 回 項目 IS 曲線
- 第 12 回 項目 LM 曲線
- 第 13 回 項目 財政政策
- 第 14 回 項目 金融政策
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験および出席で判定する。出席は加点要素とし最大 10 点加点する。

教科書・参考書 教科書：マクロ経済学 I 2008 年度版, 馬田哲次, 自費出版, 2008 年

メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問です。積み上げタイプの学問ですから、途中で分からなくなると先に進んでも理解することが出来ません。きちんと復習することを心がけてください。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	マクロ経済学 II	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 この講義では、マクロ経済学の分析ツールを使って、インフレーションと失業に関する諸問題を理論的に分析していきます。

授業の一般目標 インフレーションと失業に関する諸問題を理論的に考えることができる。

授業の計画(全体) 教科書の第9章と第10章を学びます。以下のようなトピックを扱う予定です。
・総需要曲線・総供給曲線・ピグー効果(実質残高効果)・インフレ供給曲線・フィリップス曲線・オークンの法則・インフレ期待の形成・インフレ需要曲線

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 総需要曲線
- 第2回 項目 労働需要
- 第3回 項目 労働者錯覚モデル
- 第4回 項目 流動性のわな
- 第5回 項目 ピグー効果
- 第6回 項目 総需要 - 総供給分析
- 第7回 項目 フィリップス曲線
- 第8回 項目 期待を考慮したフィリップス曲線
- 第9回 項目 インフレ需要曲線
- 第10回 項目 インフレ供給曲線
- 第11回 項目 長期均衡への調整過程
- 第12回 項目 合理的期待形成
- 第13回 項目 インフレと失業
- 第14回 項目 ベバリッジ曲線
- 第15回

成績評価方法(総合) 期末試験と出席によって評価します。出席は加点要素とし、最大10点加点します。

教科書・参考書 教科書：入門マクロ経済学 第5版, 中谷巖, 日本評論社, 2007年

開設科目	政治経済学 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	植村高久				

授業の概要 政治経済学(マルクス経済学)の原理の骨格を理解すること、および経済体制としての資本主義の歴史的変遷と現代的な種々の問題について基礎的な点を理解することを課題にする。マルクスの経済学は現代の主流派経済学とは違ったやり方で経済活動を解明しようとするもので、資本主義の歴史的变化を捉えようとする視点とそれに適した分析用具をもつことが、特徴である。古くなったとはいえ、資本主義の発展段階や経済的变化、さらに不況などの経済変動を捉えることを得意とする。この授業では、こうしたマルクス経済学の特質を理解するとともに、その特徴を生かして、資本主義とは何であるかを歴史に即しながら概観し、あわせて現代の経済問題への展望も試みる。

授業の一般目標 現代経済の動きや諸現象について、政治経済学の用語を用いて概略説明できること。政治経済学の用語について、そのあらましを説明できること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 政治経済学の基本的な用語を理解し、適切に使用できる。思考・判断の観点: 経済的諸現象について、経済学的思考法に基づいて、把握しようとする。関心・意欲の観点: 様々な経済現象に興味をもって継続的に観察できる。技能・表現の観点: 経済学的な用語を含む平易な文献を自力で読むことができる。

授業の計画(全体) 前半部分は理論の提示であり、後半は資本主義の歴史的発展と変貌の分析である。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 政治経済学とは何か: 古典派とマルクス 2. 商品・貨幣・資本 内容 1. 政治経済学と新古典派の違い、政治経済学の主要内容の紹介。 2. 資本主義の主要要素である市場の仕組みの基本を示す。 3. 資本主義の主要要素である市場の仕組みの基本を示す。
- 第 2 回 項目 3 労働・価値・剰余価値 内容 賃金や利潤などの所得の内容を労働価値説に基づいて解明する。
- 第 3 回 項目 4. 資本と技術革新 内容 資本はなぜ技術革新に熱心なのか、またその効果は何かを示す。 授業外指示 第 1 回レポート出題
- 第 4 回 項目 5. 資本蓄積 (1) 内容 資本主義の拡大・成長の過程を労働力との関連で解明する。
- 第 5 回 項目 5. 資本蓄積 (2) 内容 前回の続き。 授業外指示 第 2 回レポート出題
- 第 6 回 項目 6. 近代化と消費者化 内容 資本主義の発生にまつわる歴史を考察。
- 第 7 回 項目 7. 産業革命と近代社会 (1) 内容 資本主義の自立化の起点である産業革命の影響について解説。 授業外指示 第 3 回レポート出題
- 第 8 回 項目 7. 産業革命と近代社会 (2) 内容 前回の続き。
- 第 9 回 項目 8. 大企業と組織された資本主義 (1) 内容 19 世紀後半からの寡占的資本主義の特質を解明する。 授業外指示 第 4 回レポート出題
- 第 10 回 項目 8. 大企業と組織された資本主義 (2) 内容 前回の続き
- 第 11 回 項目 9. 大恐慌と世界経済の解体 (1) 内容 1920 年代～30 年代の危機的な資本主義の時代を示す。
- 第 12 回 項目 9. 大恐慌と世界経済の解体 (2) 内容 前回の続き 授業外指示 第 5 回レポート出題
- 第 13 回 項目 10. 組織された資本主義の黄金時代 内容 戦後の黄金時代 (1950～1970) を解明する。
- 第 14 回 項目 11. グローバル化する資本主義 内容 1970 年代から現代までの新自由主義的な資本主義の特徴を示す。 授業外指示 第 6 回レポート出題
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験を中心にして評価するが(70%)、これに宿題(練習問題のレポート)を加える(30%)。質問票を提出してもらい、これで出席をチェックする。欠席は3回を超えると受講放棄と見なす。なお、読んだ質問票は1回につき5点を加算する。定期試験は、比較的短い分量の記述式を中心にする。

教科書・参考書 教科書：テキストの代わりに毎回プリントを配布する。プリントは後からは配布しないので、各自でファイル等を用意して確実に保管しておくこと。

メッセージ 確実に出席し、ちゃんと授業を聞いていて、練習問題レポートを提出していればなんとか合格はできます。ともかくは、遅刻しないで毎回出席することを心がけて下さい。

連絡先・オフィスアワー uemura@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	政治経済学 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福留久大				

授業の概要 政治経済学（マルクス経済学）の原理の骨格を理解すること。その理解に基づいて、資本制経済の鈍化と変容の歴史的動向を把握すること。その把握に支えられて、現代的な種々の問題について検討する思考枠組を形成することを課題とする。／検索キーワード 商品・貨幣・資本、労働・生産、生活・消費、剰余価値、利潤・地代・利子、景気循環

授業の一般目標 政治経済学の概念・用語について、その概略を説明するとともに、現実の諸問題との対応関係を察知することができる。現代経済の主要特徴を把握して、政治経済学の概要・用語を用いてその動向のあらましを説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：政治経済学の主要な概念・用語を理解し、適切に使用できる。

思考・判断の観点：政治経済学の主要な概念・用語を、現代の経済的諸現象に関連づけようと努める。

関心・意欲の観点：様々の経済現象に興味をもって観察し、先人の創出した概念・用語の適用を試みる。態度の観点：豊かな現代経済における Working Poors の存在を見詰めて、経済現象の陽と陰を考え続ける。技能・表現の観点：政治経済学の概念・用語を用いて、現代の経済現象に関する平易な文章を作成できる。その他の観点：ペティ、スミス、リカード、マルクスという古典学派の面々は、なかなかの人物です。一寸だけでも接してください。

授業の計画（全体）近代英国に産声をあげ、ペティ、スミス、リカード、マルクスの作品に結実し、第二次大戦後の日本に継承され彫琢を加えられた古典学派の政治経済学、その概略と精髓との検討を試みる。それを通じて、政治経済学 I の補強が可能となれば幸甚である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. マルクス労働価値学説 内容 古典学派の経済学の概略を紹介する。授業外指示 テキスト 55-72 頁 < BR > 読書予習を求める
- 第 2 回 項目 2. リカード比較生産費説 内容 国際経済関係と労働価値学説の関連を考える。授業外指示 第 1 回目に、資料を配布し、予習を求める。
- 第 3 回 項目 3. 商品から貨幣への分化 内容 市場経済の基本要素としての商品形態、貨幣形態を視る。授業外指示 テキスト 91-111 頁の予習が望ましい。
- 第 4 回 項目 4. 貨幣から資本への転化 内容 営利企業の姿をとる資本形態という概念を理解する。授業外指示 テキスト 112-126 頁の予習が望ましい。
- 第 5 回 項目 5. 資本による生産の掌握 内容 資本を主体とする商品生産の機構を探る。授業外指示 テキスト 129-148 頁の予習が望まれる。
- 第 6 回 項目 6. 剰余価値の生産と増進 内容 剰余価値の生産の秘密と技術革新による増進を考える。授業外指示 テキスト 149-160 頁の予習が望まれる。
- 第 7 回 項目 7. 労働力における主体性 内容 人間の労働力の特質と資本制下における労働者の反発と親和を視る。授業外指示 6 回目に資料を配布し、予習を求める。
- 第 8 回 項目 8. 資本主義の物的再生産 内容 資本制経済の再生産条件を物的側面から視る。授業外指示 テキスト 199-210 頁の予習が望ましい。
- 第 9 回 項目 9. 資本主義の人的再生産 内容 資本制経済の再生産を人的側面から視る。授業外指示 テキスト 211-216 頁の予習が望ましい。
- 第 10 回 項目 10. 産業資本の利潤の構造 内容 モノ作り企業としての産業資本の特質とその相互競争の態容を探る。授業外指示 テキスト 219-224 頁の予習が望まれる。
- 第 11 回 項目 11. 地代と土地所有の構造 内容 制限された自然としての土地に対する資本の関係を探る。授業外指示 テキスト 225-230 頁の予習が望まれる。
- 第 12 回 項目 12. 銀行資本の利潤の構造 内容 銀行を頂点とする信用関係と、そこにおける経済的知力の機能を探る。授業外指示 テキスト 231-236 頁の予習が望まれる。

第 13 回 項目 13. 商業資本と証券業資本 内容 商業活動と証券業活動の特質を探り，そこにおける経済学的知力のあり方を考える。授業外指示 テキスト 237-242 頁の予習が望まれる。1 2 回目に資料を配布する。

第 14 回 項目 14. 資本と労働と景気循環 内容 景気循環の必然性を理解し，経済学的知力の特性の存在意義を探る。授業外指示 テキスト 243-252 頁の予習が望まれる。1 3 回目に資料を配布する。

第 15 回 項目 15. 定期試験

成績評価方法 (総合) ・定期試験を中心として評価する (70%)。これに小テスト・授業内レポート 2 ~ 3 回，宿題・授業外レポート 1 ~ 2 回を加える。(30点) ・予習を望ましいと考え，それに基づく質問の提出を歓迎する (総合判断)。質問票を提出して貰い，これを対話の手掛かりとする。 ・定期試験は，短文の記述と加減乗除の計算問題とで構成される。

教科書・参考書 教科書：『ポリチカルエコノミー』，福留久大，九州大学出版会，2004 年 / 参考書：『経済学』，日高 普，岩波書店刊；『経済原論講義』，山口重克，東京大学出版会刊；平易理解を好む人に『経済学』，論理整合性好みの人に『経済原論講義』

メッセージ 気楽に，真面目に。のんびりと，根気よく。

連絡先・オフィスアワー 受講生と相談のうえ，決めます。

開設科目	経済理論史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	植村 高久				

授業の概要 経済学の発展史を理論とそれが捉えた世界像との関係で時系列的にたどる。内容は、スミス、リカード、マルクス、ワルラス、ケインズの理論を扱う。

授業の一般目標 経済学の諸理論について、その古典的な源泉との関連をたどることができ、様々な理論を相対化して捉えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： スミス、リカード、マルクス、ワルラス、ケインズの理論モデルを説明できる。 思考・判断の観点： 経済理論の歴史を背景にして、現代理論の思考法を相対化できる。

関心・意欲の観点： 経済学の古典に敬意と関心をもつことができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . イントロダクション 内容 経済理論史を概観する
- 第 2 回 項目 2 . スミス (1) 内容 スミスの道徳哲学と経済学
- 第 3 回 項目 2 . スミス (2) 内容 スミスのポリティカル・エコノミー
- 第 4 回 項目 2 . スミス (3) 内容 スミスの経済理論とその意義
- 第 5 回 項目 3 . リカード (1) 内容 労働価値説と古典派経済学 授業外指示 課題：第 1 回
- 第 6 回 項目 3 . リカード (2) 内容 比較生産費説と交換の一般的利益
- 第 7 回 項目 4 . マルクス (1) 内容 貨幣と資本
- 第 8 回 項目 4 . マルクス (2) 内容 剰余価値と蓄積論
- 第 9 回 項目 4 . マルクス (3) 内容 利潤論
- 第 10 回 項目 5 . ワルラス (1) 内容 純粋経済学と効用理論 授業外指示 課題：第 2 回
- 第 11 回 項目 5 . ワルラス (2) 内容 均衡論
- 第 12 回 項目 6 . ケインズ (1) 内容 無数の均衡：需要サイドの経済理論
- 第 13 回 項目 6 . ケインズ (2) 内容 経済の管理可能性
- 第 14 回 項目 6 . ケインズ (3) 内容 ケインズ以後：不幸な経済理論 授業外指示 課題：第 3 回
- 第 15 回 項目 定期試験

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：別途指示する。

開設科目	経済統計学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 本講義のねらいは統計学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実に統計学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。また直感的な理解を優先するので、説明において厳密には不正確な場合が存在する。後半では、2変数の関係を単回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。統計学を習得するには、本来実際のデータを用いてコンピュータにより実習を重ねる必要があるが、本講義では時間的・空間的制約のためコンピュータ実習は行わない。ただし各自が自習できるように資料を用意する予定である。

授業の一般目標 統計学の基礎的な理論を修得し、統計学の見方・考え方を理解する。統計的手法を現実の経済データに応用し、得られた結果を正しく解釈・考察できるようにする。2変数の関係を扱うための理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な統計学の理論を理解している。思考・判断の観点：統計学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。態度の観点：分からないところを積極的に質問する。

授業の計画(全体) 1. 統計学の復習 2. 統計的推測 3. 単回帰分析

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 講義概要、成績評価方法
- 第2回 項目 1変数の統計的記述 内容 統計学入門の復習
- 第3回 項目 1変数の統計的推測(1) 内容 母集団・標本、確率変数、確率分布、期待値
- 第4回 項目 1変数の統計的推測(2) 内容 標本抽出、標本分布、中心極限定理、正規分布、t分布
- 第5回 項目 1変数の統計的推測(3) 内容 推定量の性質、点推定、区間推定
- 第6回 項目 1変数の統計的推測(4) 内容 母平均の検定、母比率の検定
- 第7回 項目 1変数の統計的推測(5) 内容 母分散の検定、母平均の差の検定、適合度の検定
- 第8回 項目 2変数の統計的記述(1) 内容 散布図、相関係数
- 第9回 項目 2変数の統計的記述(2) 内容 最小2乗法、決定係数
- 第10回 項目 2変数の確率分布 内容 条件付確率、統計的独立、ベイズ定理、積率、積率母関数
- 第11回 項目 最小2乗推定量の性質(1) 内容 期待値、分散
- 第12回 項目 最小2乗推定量の性質(2) 内容 最良線型不偏推定量、一致性
- 第13回 項目 最小2乗推定量の性質(3) 内容 t検定
- 第14回 項目 単回帰分析 内容 分析方法、評価方法、問題点
- 第15回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法(総合) 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験80%、質問書・レポート20%。

教科書・参考書 教科書：入門統計学, 木下宗七, 有斐閣ブックス, 1996年 / 参考書：計量経済学, 山本拓, 新世社, 1995年; 計量経済学の教科書です。

メッセージ ルートの計算ができる電卓を用意すること。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	計量経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 計量経済学では2変数以上の関係を重回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。本講義のねらいは計量経済学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実に計量経済学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。後半では、重回帰分析の応用である連立方程式モデルについて学習する。現実の経済を理解するためには、様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する必要があり、その記述方法のひとつが連立方程式モデルである。実際にモデル分析をするためには、パソコンを用いる必要があるが、本講義では時間的・空間的な制約のため、パソコン演習は行わない。

授業の一般目標 多変数の関係を扱うための計量経済学の理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。経済理論を統計学的手法で検証する方法を習得する。様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する方法を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な計量経済学の理論を理解している。 思考・判断の観点：計量経済学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。 態度の観点：分からないところを積極的に質問する。

授業の計画(全体) 1. 重回帰分析 2. 重回帰分析の応用 3. 同時方程式モデル

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 講義概要、成績評価、前回試験結果の分析
- 第2回 項目 単回帰分析 内容 経済統計学の復習
- 第3回 項目 重回帰分析(1) 内容 多重共線性、自由度修正済み決定係数
- 第4回 項目 重回帰分析(2) 内容 F検定
- 第5回 項目 クロスセクション・データ(1) 内容 ダミー変数
- 第6回 項目 クロスセクション・データ(2) 内容 不均一分散
- 第7回 項目 時系列データ(1) 内容 トレンド変数、見せかけの相関
- 第8回 項目 時系列データ(2) 内容 系列相関、分布ラグ・モデル
- 第9回 項目 時系列データ(3) 内容 構造変化、単位根・共和分分析
- 第10回 項目 同時方程式モデル(1) 内容 識別性、誘導型
- 第11回 項目 同時方程式モデル(2) 内容 間接最小2乗法、2段階最小2乗法
- 第12回 項目 同時方程式モデル(3) 内容 モデルの解法、政策シミュレーション
- 第13回 項目 マクロ計量モデル 内容 分析方法、評価方法、問題点
- 第14回 項目 予備 内容 予備
- 第15回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法(総合) 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験80%、質問書・レポート20%。

教科書・参考書 教科書：計量経済学, 山本拓, 新世社, 1995年

メッセージ ルートの計算ができる電卓を用意すること。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	経済情報処理概論 a	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	吉田信夫				

授業の概要 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算 (Excel) の授業を行なう。 / 検索キーワード 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

授業の一般目標 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト (Excel) の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算の関数を説明できる。 思考・判断の観点：与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。 関心・意欲の観点：問題に対して、適切な表を作成することが配慮できる。

授業の計画 (全体) Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。 演習問題のうち何問かをレポート提出する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 データの型と計算式の書き方 内容 情報処理の基本としてのデータの型と表計算システムのデータの型、および算術演算子の優先順位
- 第 2 回 項目 表計算システムによる情報処理 内容 単発処理と常用システム、相対番地と絶対番地、および計算式の設定と表示形式
- 第 3 回 項目 制御構造の基本 内容 ルーピング、連続処理とマクロ定義、および分岐処理
- 第 4 回 項目 関数の利用 1 内容 端数処理と財務関数の利用 (ローン支払額の計算)
- 第 5 回 項目 関数の利用 2 内容 初等統計処理 (平均、分散、標準偏差、および偏差値の算出)
- 第 6 回 項目 配列操作 内容 座標変換、多元連立 1 次方程式の解法、および度数分布表の作成
- 第 7 回 項目 集計技法 1 内容 クロス集計
- 第 8 回 項目 集計技法 2 内容 他の表を参照しての集計、およびシート間の集計
- 第 9 回 項目 模擬試験
- 第 10 回 項目 データベースの作成 内容 リストを使ったデータベースの作成 (データの入力技法各種)
- 第 11 回 項目 データ管理 内容 データの保存方法、セキュリティ管理、および他のソフトウェアとの連携
- 第 12 回 項目 データ検索技法 内容 データ検索抽出技法各種
- 第 13 回 項目 データ解析 1 内容 初等統計解析 (グラフ作成と分析ツールによる統計解析)
- 第 14 回 項目 データ解析 2 内容 ゴールシークによる経営シミュレーション
- 第 15 回 項目 データ解析 3 内容 経営分析 (ソルバーによる最適解の算出)

成績評価方法 (総合) 定期試験、レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また欠席が多い場合は単位が出ません。

教科書・参考書 参考書：ホームページに簡易テキストと教材を掲載します。

メッセージ 1 クラス 50 名以内で行いますので、受講希望者は必ず 1 回目は出席してください。実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補って おいてください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェック を行ないます。

連絡先・オフィスアワー E-mail : yosida-n@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済情報処理概論 b	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田信夫				

授業の概要 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算 (Excel) の授業を行なう。 / 検索キーワード 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

授業の一般目標 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト (Excel) の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算の関数を説明できる。 思考・判断の観点：与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。 関心・意欲の観点：問題に対して、適切な表を作成することができる。

授業の計画 (全体) Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。 演習問題のうち何問かをレポート提出する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 データの型と計算式の書き方 内容 情報処理の基本としてのデータの型と表計算システムのデータの型、および算術演算子の優先順位
- 第 2 回 項目 表計算システムによる情報処理 内容 単発処理と常用システム、相対番地と絶対番地、および計算式の設定と表示形式
- 第 3 回 項目 制御構造の基本 内容 ルーピング、連続処理とマクロ定義、および分岐処理
- 第 4 回 項目 関数の利用 1 内容 端数処理と財務関数の利用 (ローン支払額の計算)
- 第 5 回 項目 関数の利用 2 内容 初等統計処理 (平均、分散、標準偏差、および偏差値の算出)
- 第 6 回 項目 配列操作 内容 座標変換、多元連立 1 次方程式の解法、および度数分布表の作成
- 第 7 回 項目 集計技法 1 内容 クロス集計
- 第 8 回 項目 集計技法 2 内容 他の表を参照しての集計、およびシート間の集計
- 第 9 回 項目 模擬試験
- 第 10 回 項目 データベースの作成 内容 リストを使ったデータベースの作成 (データの入力技法各種)
- 第 11 回 項目 データ管理 内容 データの保存方法、セキュリティ管理、および他のソフトウェアとの連携
- 第 12 回 項目 データ検索技法 内容 データ検索抽出技法各種
- 第 13 回 項目 データ解析 1 内容 初等統計解析 (グラフ作成と分析ツールによる統計解析)
- 第 14 回 項目 データ解析 2 内容 ゴールシークによる経営シミュレーション
- 第 15 回 項目 データ解析 3 内容 経営分析 (ソルバーによる最適解の算出)

成績評価方法 (総合) 定期試験、レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また欠席が多い場合は単位が出ません。

教科書・参考書 参考書：ホームページに簡易テキストと教材を掲載します。

メッセージ 1 クラス 50 名以内で行いますので、受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席してください。実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補って おいてください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェック を行ないます。

連絡先・オフィスアワー E-mail : yosida-n@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済数学 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 この講義の目的はミクロ経済学で使われている数学の概説である。具体的には、2変数関数の取り扱いに慣れ、効用最大化問題・支出最小化問題を解いて需要を数学的に定めることである。一部ではあるが、国家公務員 I 種、II 種、地方公務員上級試験の問題も簡単に解説する。内容は必ずしも易しくない。共通教育の数学概論程度の予備知識は必要である。この講義を取るにより自分の経済学の幅が広がる。

授業の一般目標 ミクロ経済学の理解に必要な数学を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 具体的な関数の偏導関数が計算できる。 2. ヘッセ行列式と縁付きヘッセ行列式の計算ができる。 3. 効用最大化問題・支出最小化問題を解くことができる。 **思考・判断の観点：** 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 **関心・意欲の観点：** 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業の計画 (全体) 最初に 1 変数関数の微分を復習し、次に多変数関数の微分の計算練習をする。また、必要最低限の行列式の計算方法を説明する。道具としてはこれでそろそろ。次に最大化問題・最小化問題を説明する。次に、陰関数定理の応用して無差別曲線と限界代替率を説明する。以上の準備の下で効用最大化問題・支出最小化問題の解法とこれらの解のミクロ経済学における意味を説明する。時間の許す範囲内で国家公務員、地方公務員上級試験の関連問題の解説をする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 変数関数の微分 その 1 内容 基本的関数の導関数。小テスト
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分 その 2 内容 合成関数の微分の練習。小テスト
- 第 3 回 項目 偏微分 その 1 内容 多変数関数、偏微分。小テスト
- 第 4 回 項目 偏微分 その 2 内容 偏微分の計算練習。小テスト
- 第 5 回 項目 全微分、Chain rule 内容 小テスト
- 第 6 回 項目 オイラーの同次関数の公式とその応用 内容 小テスト
- 第 7 回 項目 最大・最小問題 その 1 内容 最大・最小の必要条件。小テスト
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 最大・最小問題 その 2 内容 弾力性、特に需要の価格弾力性。小テスト
- 第 10 回 項目 最大・最小問題 その 3 内容 最大・最小の十分条件、ヘッセ行列。小テスト
- 第 11 回 項目 陰関数定理 内容 無差別曲線、限界代替率。小テスト
- 第 12 回 項目 効用最大化問題、支出最小化問題 内容 条件付き最大最小問題。小テスト
- 第 13 回 項目 効用最大化問題、支出最小化問題の必要条件 内容 ラグランジュの未定乗数法。小テスト
- 第 14 回 項目 効用最大化問題・支出最小化問題の十分条件 内容 2 階の条件。小テスト
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法 (総合) 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。演習問題を自分で解かねば合格点は取れない。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、授業内容の理解の確認で、成績とは無関係である。遅刻・欠席をしないように。テキストの誤植指摘に最大 20 点与える。

教科書・参考書 教科書：経済数学 I 第 3 版、柏木 芳美、2004 年；生協で販売する。

メッセージ 演習問題を着実に解くこと。分からないことは質問すること。遅刻・欠席をしないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp、電話:933-5595、研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	経済数学 II	区分	講義	学年	2~4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 線形計画法，産業連関論などで用いられる線型代数について概説する。内容は，連立 1 次方程式の掃き出し法による解法，行列，行列式，固有値などである。予備知識は高等学校の数学 I 程度の知識があればよい。線型代数と微積分は数学的に書かれたものを読むときには仮定されることが多いのでしっかり身につけるように。

授業の一般目標 経済学の理解に必要な程度の線型代数の基礎知識を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 連立 1 次方程式を掃き出し法で解くことができる。 2. 行列の基本的な演算ができる。 3. 行列式の基本的な性質を理解し計算ができる。 4. 固有値，固有ベクトルを求めることができる。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業の計画（全体） 連立 1 次方程式の 3 種類の解及び掃き出し法による解法を説明する。次に，行列の四則演算を説明する。特に割り算（逆行列）は注意を要する。次に，行列式の定義とその計算方法を説明する。応用としてクラメールの公式を利用した連立 1 次方程式の解法を説明する。最後に，固有値と固有ベクトルという産業連関論などで必要となる概念について簡単に説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 連立 1 次方程式の解法 その 1 内容 簡単な連立 1 次方程式，3 種類の解。小テスト
- 第 2 回 項目 連立 1 次方程式の解法 その 2 内容 掃き出し法，ランク。小テスト
- 第 3 回 項目 行列の演算（和，差，スカラー倍） 内容 小テスト
- 第 4 回 項目 行列の積，巾 内容 小テスト
- 第 5 回 項目 基本変形 内容 小テスト
- 第 6 回 項目 正則行列，逆行列（行列の割り算） その 1 内容 逆行列と正則行列の定義。小テスト
- 第 7 回 項目 正則行列，逆行列（行列の割り算） その 2 内容 逆行列の求め方，正則行列の性質。小テスト
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 行列式の定義 内容 小テスト
- 第 10 回 項目 行列式の基本性質 その 1 内容 行列式の定義，基本的性質。小テスト
- 第 11 回 項目 行列式の基本性質 その 2 内容 よく使う行列式の性質。小テスト
- 第 12 回 項目 行列式の計算 内容 小テスト
- 第 13 回 項目 クラメールの公式 内容 小テスト
- 第 14 回 項目 固有値と固有ベクトル 内容 小テスト
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。当然の事ながら毎回出す演習問題を自分で解かねば合格点は取れない。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは，テストという名前を付けているが実際には周りの人と相談してもよく，授業内容の理解の確認である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。テキストの誤植指摘に最大 20 点与える。

教科書・参考書 教科書： 経済数学 II, 柏木芳美, , 2004 年； 生協で販売する。

メッセージ 演習問題を着実に解くこと。分からないことは質問すること。遅刻・欠席をしないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	産業連関論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中谷孝久				

授業の概要 一国の経済活動は多くの企業や家計などによってなされている。産業連関論は企業の活動を中心にして一国の経済活動を捉える。その際、企業の活動をいくつかの産業の活動としてまとめて表現する。したがって、企業間の取引は産業間の取引として表現できるので、産業同士の関連も併せて検討することができる。この産業同士の取引を中心に一国の経済活動を一覧にした表が産業連関表である。産業連関分析では、産業連関表をデータソースとして分析する方法である。この分析方法の基本について講義する。/ 検索キーワード 投入・産出分析、産業連関分析、産業連関表、投入構造、販路構造、付加価値、最終需要、生産誘発、投入高、産出高、中間生産物、最終生産物、投入係数、波及効果、国内総生産

授業の一般目標 産業間の取引を核として経済活動全体を記述したものが「産業連関表」である。まず、産業連関表の構造や仕組みを理解する。次に、基本的な産業連関モデルを理解した上で、実際の産業連関表を用いた実証分析を把握する。このような理解を通じて、経済活動の全体的な構造や仕組みの理解を深める。

授業の計画（全体） この講義では、産業連関表・産業連関分析・地域産業連関分析の基本的事項を取り扱う。産業連関分析は理論的側面と実証的側面とを併せ持っている。この講義では、実証的な側面に重点をおき、Excelによる実証分析も紹介する。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済活動と産業連関
- 第 2 回 項目 投入・産出関係
- 第 3 回 項目 産業連関表
- 第 4 回 項目 産業連関表の構造
- 第 5 回 項目 投入構造と販路構造
- 第 6 回 項目 付加価値構造と最終需要構造
- 第 7 回 項目 産業連関データ
- 第 8 回 項目 中間テスト
- 第 9 回 項目 産業連関モデル
- 第 10 回 項目 生産誘発モデル
- 第 11 回 項目 波及効果分析
- 第 12 回 項目 Excel 演習
- 第 13 回 項目 地域産業連関モデル
- 第 14 回 項目 地域波及効果分析
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法（総合） 出席（講義態度を含めて）、小テスト、定期試験などを総合的に判断して、単位認定・成績評価を行う。

教科書・参考書 教科書：教科書は特に使用しないが、講義でプリントを配布する。講義はこのプリントを中心に行い、パワーポイントで補足する。/ 参考書：産業連関分析入門、宮澤健一、日本経済新聞社、1995年；他の参考書については、講義でプリントにより解説を加えながら紹介する。

メッセージ 必ずしも必須ではないが、PCとExcelの基本的操作を習得しておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 質問・相談があれば、講義の終わった後、時間を取ります。メールで質問も受けられますが、予めその旨を伝えてください。

開設科目	景気循環論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中村 保				

授業の概要 1. 景気循環とは何か、なぜ景気循環を分析する必要があるのかについて勉強する。 2. 現実の景気循環を理解するための必要な様々な経済データ・経済指標について学ぶ。 3. 景気循環に関する代表的なマクロ経済理論をきちんと理解する。 4. 景気循環に対する金融・財政政策の効果及びそれらの有用性について検討する。 5. 最近議論になっている Great Moderation について考える。 / 検索キーワード 景気循環、財政政策、金融政策、Great Moderation

授業の一般目標 1. 様々な統計データ・経済指標をみて経済が全体としてどのような状態にあるかを把握できるようになる。 2. 景気循環に関する代表的な理論の考え方を正しく説明できるようになる。 3. 金融政策や財政政策等の政策が効果及び有用性について議論できるようになる。 4. 先進諸国における最近の景気循環の特徴及びその変容についての知識を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 統計データ・経済指標に関する基礎的な知識 2. 日本をはじめとした先進諸国における最近の景気循環の特徴及びその変容についての知識 3. 代表的な景気循環理論に関する基礎的な理解 思考・判断の観点: 1. 統計データ・経済指標から現実の経済状態を判断する 2. 簡単な景気循環理論を現実の経済変動を説明するために応用し分析する

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の概要、今後との予定、学習の指針
- 第 2 回 項目 景気循環とは何か? 内容 景気循環の定義、その費用及び不可避性
- 第 3 回 項目 経済指標と景気循環 内容 経済指標・経済データと景気循環の実態
- 第 4 回 項目 マクロ経済モデルの復習 (1) 内容 新古典派モデル、2 分法
- 第 5 回 項目 マクロ経済モデルの復習 (2) 内容 ケインズモデル
- 第 6 回 項目 合理的期待と景気循環 内容 合理的期待均衡、ルーカス供給曲線
- 第 7 回 項目 実物的景気循環論 (1) 内容 異時点間の代替性
- 第 8 回 項目 実物的景気循環論 (2) 内容 貨幣の中立性
- 第 9 回 項目 新しいケインジアン理論 (1) 内容 メニューコスト、総需要外部性、
- 第 10 回 項目 新しいケインジアン理論 (2) 内容 協調の失敗
- 第 11 回 項目 資産価格の変動と景気循環 内容 資産効果
- 第 12 回 項目 インフレーションと景気循環 内容 実質残高効果、フィッシャー効果
- 第 13 回 項目 テイラー・ルールと景気循環 内容 インフレのコスト、< BR > テイラー・ルール
- 第 14 回 項目 Great Moderation 内容 先進国での景気循環の変容
- 第 15 回 項目 期末試験

教科書・参考書 教科書: 教科書のかわりにプリントを配布する。 / 参考書: マンキュー経済学 II 応用篇 (第 2 版), N.G. マンキュー, 東洋経済新報社, 2004 年

メッセージ 「マクロ経済学 I」「マクロ経済学 II」の履修を前提として授業をします。

連絡先・オフィスアワー 電子メールアドレス: nakamura@econ.kobe-u.ac.jp オフィスアワーについては最初の授業の際に伝えます。

開設科目	経済成長論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村 保				

授業の概要 1. 経済成長及び経済発展に関する基本的な事実に関する知識を身に付ける。2. 経済成長及び経済発展の基礎的理論としての新古典派成長モデルをきちんと理解する。3. 1980年代後半以降急速に発展した内生的成長理論の考え方・エッセンスを学ぶ。4. 理論と現実との整合性及びギャップについて考える。 / 検索キーワード 経済成長、所得格差

授業の一般目標 1. 経済成長及び経済発展の尺度、経験的な事実及び各国間の違いについて理解する。2. 簡単な数学モデルを用いて経済成長及び発展の多くの側面を説明出来るようになる。3. 研究開発投資と経済成長の関係、経済政策と経済成長の関係について議論できるようになる。4. 理論の有用性とともにもその限界についても正しく認識できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 経済成長会計によって経済成長の源泉及び主要な要因についての理解。2. ソローモデルを中心とした基本的な成長モデルに関する知識及び理解。3. 日本をはじめとした諸経済の現実の経済成長に関する知識。 思考・判断の観点： 簡単な成長モデルを現実の経済成長に適用してモデルの説明力と限界について考え判断すること。

授業の計画(全体) 1. 経済成長会計(現実の経済成長の理解とその要因分析) 2. ソローの成長モデル(基本的な成長モデルの理解とそれを適用しての現実の成長の分析) 3. 内生的成長モデル入門(内生的成長モデルの考え方、概要及びその重要性の理解) 4. 経済成長及び所得格差(理論を学習した後の現実の経済成長及び所得格差の再考)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 第 1 章 序論:経済成長について的事实 内容 経済成長会計
- 第 3 回 項目 第 2 章 ソロー・モデル (1) 内容 消費、投資、資本蓄積
- 第 4 回 項目 第 2 章 ソロー・モデル (2) 内容 定常状態、黄金律
- 第 5 回 項目 第 2 章 ソロー・モデル (3) 内容 人口成長、技術進歩
- 第 6 回 項目 第 3 章 ソロー・モデルの応用 (1) 内容 日本経済への応用
- 第 7 回 項目 第 3 章 ソロー・モデルの応用 (2) 内容 貧困の罨
- 第 8 回 項目 第 3 章 ソロー・モデルの応用 (3) 内容 経済成長と所得格差
- 第 9 回 項目 第 4 章 内生成長モデル (1) 内容 外部性と内生成長
- 第 10 回 項目 第 4 章 内生成長モデル (2) 内容 研究開発と内生成長
- 第 11 回 項目 第 4 章 内生成長モデル (3) 内容 経済政策と内生成長
- 第 12 回 項目 第 5 章 残された課題 (1) 内容 経済成長理論の発展の可能性
- 第 13 回 項目 第 5 章 残された課題 (2) 内容 理論と現実
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 期末テストと2回の宿題で成績評価を行う。単位が必要な学生には2回の宿題を必ず提出するように強く勧める。 1) 宿題 30% (各 15%) 2) 期末試験 70%

教科書・参考書 教科書：教科書のかわりに授業中にプリントを配布する予定。 / 参考書：経済成長理論入門 新古典派から内生的成長理論へ、チャールズ・ジョーンズ、日本経済新聞社、1999年；経済成長論 OECD 諸国における要因分析、OECD 編集、中央経済社、2005年

メッセージ 現在、日本やアメリカを初めとした多くの先進諸国で経済成長とともに拡大する貧富の格差が問題になっています。経済成長と所得格差についての基礎的な知識は21世紀の経済社会を考える上で不可欠です。

連絡先・オフィスアワー 電子メール：nakamura@econ.kobe-u.ac.jp オフィスアワーについては最初の授業の際に伝えます。

開設科目	経済政策総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	塚田広人				

授業の概要 グローバリゼーションの進展、環境・資源問題の深刻化、高齢化にともなう社会保障制度の見直しなど先進工業国において経済政策の諸課題が国民生活に大きくかかわるかたちで私たちの目の前にあります。経済政策とは一定の意思・目的のもとで経済過程に働きかけることです。政策諸課題の基本的な概要を学ぶなかで政府の役割、市民にとっての選択基準などを考えます。

授業の一般目標 先進工業国における政府の役割を理解する マクロ経済学との関連で経済政策を理解する。 今日的な経済政策課題の基本的な理解を得る。 政策的な展望について積極的に考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．先進工業国における政府の役割を理解する。 2．現代のさまざまな経済政策課題をめぐる論点を理解する。 思考・判断の観点： 1．経済政策の基本的メカニズムをマクロ経済学との関連で考えられるようになる。 関心・意欲の観点： 1．今日の日本経済における政策的議論の基本について関心をもって考えるようになる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済体制（1）
- 第 2 回 項目 経済体制（2）
- 第 3 回 項目 国民経済と政府の役割
- 第 4 回 項目 グローバリゼーションと国民国家
- 第 5 回 項目 対外政策、国際収支
- 第 6 回 項目 新自由主義と政策展開
- 第 7 回 項目 経済発展
- 第 8 回 項目 産業構造
- 第 9 回 項目 産業政策（1）
- 第 10 回 項目 産業政策（2）
- 第 11 回 項目 産業組織
- 第 12 回 項目 社会資本
- 第 13 回 項目 規制緩和（1）
- 第 14 回 項目 規制緩和（2）
- 第 15 回 項目 中小企業
- 第 16 回 項目 中小企業政策
- 第 17 回 項目 「公正」概念
- 第 18 回 項目 分配の公平
- 第 19 回 項目 社会保障
- 第 20 回 項目 福祉国家
- 第 21 回 項目 資源・エネルギー
- 第 22 回 項目 エネルギー政策
- 第 23 回 項目 環境政策（1）
- 第 24 回 項目 環境政策（2）
- 第 25 回 項目 雇用
- 第 26 回 項目 財政・金融政策
- 第 27 回 項目 政策決定のプロセス
- 第 28 回 項目 90年代日本経済と政策論争
- 第 29 回 項目 ヨーロッパ・モデル
- 第 30 回 項目 市場とコミュニティー、公共性

成績評価方法（総合） 出席、質問・意見ペーパー、レポート、期末試験

教科書・参考書 参考書：社会システムとしての市場経済, 塚田広人, 成文堂；現代の経済政策, 正村公宏,
東洋経済新報社

開設科目	金融経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 この講義では、初めて金融論を学ぶ学生諸君を対象にして、現実の金融現象を理解するために必要な基礎的な学力を育成することを目標としている。よって、できるかぎり「なぜこの理論を学ばなければならないのか」、あるいは、「理論がどのように現実を説明しているのか」がよくわかるような解説を心がけたいと考えている。 / 検索キーワード マネー、金融機関、金融政策、銀行、金融

授業の一般目標 金融論の基礎的知識の習得 国民経済というマクロ的視点を身につける 金融経済に関する統計データを正しく把握する力を身につける 貨幣の役割、利子率とはなにかなど、貨幣理論の基礎を理解する 我が国の金融市場や金融システムの概略を理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融仲介の基礎理論
- 第 3 回 項目 金融システムの変遷
- 第 4 回 項目 貯蓄・投資と資金循環
- 第 5 回 項目 貯蓄・投資と資金循環
- 第 6 回 項目 資金循環勘定と資金循環分析
- 第 7 回 項目 資金循環勘定と資金循環分析
- 第 8 回 項目 中間テスト 1
- 第 9 回 項目 金融政策のクレディビリティと運営戦略
- 第 10 回 項目 中央銀行とマネーサプライ
- 第 11 回 項目 中央銀行とマネーサプライ
- 第 12 回 項目 金融政策の分析
- 第 13 回 項目 国際金融の基礎
- 第 14 回 項目 国際金融の新展開
- 第 15 回 項目 中間テスト 2

成績評価方法 (総合) 中間テスト 30 % (二回) 期末テスト 70 % (テスト期間中に実施) 期末テストの受験資格は、出席率 75 % 以上とする

教科書・参考書 教科書：金融論, 大野早苗、小川英治、地主敏樹ほか, 有斐閣, 2007 年; 文栄堂大学前店にて購入可能

メッセージ 講義 ノート配布および質問の受付には当講義のメーリングリスト (<http://groups.yahoo.co.jp/group/yu-me/>) を使用します。参加方法などは講義中に説明します。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	金融システム論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	貞木展生				

授業の概要 わが国では、「金融革新」が主張され、「金融制度」が大幅に変革してきている。たとえば、銀行業と証券業の間に存在していた「垣根」が徐々に除去されてきている。また、郵便局が郵政公社へと変革し、更には、保険業の他の分野との境界線が薄れて、金融関連業界は「相互乗り入れ」をして、「金融の自由化」が形式的に完成の域へ到達しようとしている。それではわが国の金融システムはどこへ行くのであろうか。「間接金融方式」の金融システムを特徴とするわが国の金融システムはどのようなのであろうか。「直接金融方式」への転換はどのようなになるのであろうか。「金融政策」による効果をどのようにして評価すればよいのであろうか。戦後のわが国の金融システムの推移を「資金循環勘定」を通じて実証的に検討するとともに、金融システムの変革が金融政策の効果へどのような影響をもたらすのであろうかという理論的な検討をする。

授業の一般目標 マクロ経済学の一般的な理解の下に、LM曲線の意義を再検討する。「直接金融方式」の下でのLM曲線と「間接金融方式」の下でのLM曲線は異なるのであろうか、それとも同種と考えてよいのであろうか。この検討をするために、「資金循環勘定」の説明を通じて、金融システムの実証的分析を展開する。それは戦後の日本経済の展開過程の説明になるであろう。すなわち、高度経済成長期、ニクソンショックとオイルショックによる低迷期、バブル経済の展開と崩壊、それに伴うデフレ経済の進行、これらの典型的な事態を金融の側面から検討する。特に80年代以降の「金融革新の進行」には特別な注目が必要であろう。「所得倍増計画」、「人為的低金利政策」、「総需要管理政策」、「所得政策」、「インフレターゲット論」等々、さまざまな経済政策が提示され、そして実施されてきた。すべてについて講義はできないが、必要に応じて理論的・実証的に説明したい。

授業の計画(全体) (1)マクロ経済学の復習:特にIS-LM分析について(2)「貨幣供給の外生性」と財政収支(3)「所得循環」と「資金循環」の意義(4)「資金循環勘定」の説明(5)資金循環の実証的分析:金融システムの実体(6)「金融政策」のあり方(7)日本経済の将来展望 これらの項目を講義する予定です。学生諸君の理解度に応じて講義の進捗速度は不定です。ノート講義をするので、しっかりメモをしてください。

成績評価方法(総合) 主として、期末テストにより評価する。

教科書・参考書 教科書:『所得循環と資金循環』, 貞木展生, 日本経済評論社, 1999年; 在庫が存在しない場合は、教科書を指定せず。

メッセージ マクロ経済学についての知識があることを前提に講義をします。「資金循環勘定」のデータは、日本銀行のHPから入手できます。インターネットで確認してください。

開設科目	財政学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	倉本宜史				

授業の概要 現代の財政学は公共部門 = 政府の経済学と呼んでよいほどの広範な体系をもっている。財政学(総論)はその体系の導入部、基礎的分野を論ずるものである。指定したテキストと用意した講義ノートに基づき、スライドや板書を用いて講じてゆく。まとまった小単元が終わる度に「復習問題」を提示することで、授業のポイントとなることを示唆するとともに、復習の手助けにする。財政の理論を習得しようとする者は、公共政策論をこの財政学の必ずあとに履修することで体系的学習が完結しよう。

授業の一般目標 財政とは何か。なぜ財政活動が求められるのか。現代において、財政活動を通じて目指される政策目的はどのようなものがあるか。そのための手段には何があり、どのように用いられるのか。以上のような問題を考察してゆくことを目標としている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 財政に関する基礎概念の理解、用語の使い方に習熟すること。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 1 章 財政と財政学 内容 財政学とは < BR > 財政の範囲と規模
- 第 2 回 項目 第 1 章 財政と財政学 内容 財政の 3 機能 < BR > 経済循環
- 第 3 回 項目 第 1 章 財政と財政学 内容 予算 授業外指示 復習問題の提示
- 第 4 回 項目 第 2 章 公共財 内容 公共財とは < BR > 公共財の政治的な選択
- 第 5 回 項目 第 2 章 公共財 内容 国と地方自治体の公共財の供給 < BR > 地方分権と公共財の供給
- 第 6 回 項目 第 2 章 公共財 内容 地方自治体の人口規模 < BR > 社会資本 授業外指示 復習問題の提示
- 第 7 回 項目 第 3 章 租税の基礎 内容 租税原則 < BR > 税負担の公平
- 第 8 回 項目 第 3 章 租税の基礎 内容 課税の経済効果 < BR > 租税の帰着
- 第 9 回 項目 第 3 章 租税の基礎 内容 租税による所得再分配 < BR > 租税体系 授業外指示 復習問題の提示
- 第 10 回 項目 第 4 章 租税の各論 内容 累進税と逆進税 < BR > 所得課税
- 第 11 回 項目 第 4 章 租税の各論 内容 消費課税 < BR > 法人課税 授業外指示 復習問題の提示
- 第 12 回 項目 第 5 章 公債 内容 公債とは < BR > 国債をめぐる資金の流れ
- 第 13 回 項目 第 5 章 公債 内容 財政の持続可能性 < BR > 国債管理政策
- 第 14 回 項目 第 5 章 公債 内容 公債の負担 1
- 第 15 回 項目 第 5 章 公債 内容 公債の負担 2 授業外指示 復習問題の提示
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 期末試験の成績で成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：コンパクト財政学, 上村敏之, 新世社, 2007 年

開設科目	公共政策論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 なぜ政府は税金をとるのか？なぜ政府は公的年金制度を整備するのか？政府は景気対策のために力を注ぐべきなのか？政府は民間経済に対して、さまざまな規制をかけるべきか否か？本講義では、以上のようなトピックを、簡単なミクロ・マクロ経済学や新聞記事を利用しながら、丁寧に講義します。
 / 検索キーワード 税金・公的年金・政治と財政・規制

授業の一般目標 今までに履修した経済学を、現実的な問題分析や問題解決のために利用できるようになること。 時事的な問題・出来事を、経済学の論理で考えられるようにすること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1年次に履修した、簡単なミクロ経済学・マクロ経済学の考え方を、現実の諸問題分析に応用できること。 思考・判断の観点： 時事的な問題を論理的に、経済学を利用しながら論じられること。

授業の計画（全体） 課税・公的年金・景気対策の是非・規制と経済活動のトピックを、毎回配布する講義ノート、資料、パワーポイントを利用して講義。

成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験の2回のみで評価。中間試験と期末試験の合計点から平均点を算出。その平均点を評点とする。なお出席はとらない。従って出席点は全く考慮しない。

教科書・参考書 参考書： 現代経済学入門 財政, 井堀 利宏, 岩波書店, 1996年；参考書の購入の必要はない。 また1年次に利用したミクロ・マクロ経済学のテキストも、参考書として利用可能。

メッセージ 政治と財政、政府の問題、税金・公的年金問題を少し理論的に考えてみたい方の出席をお待ちしています。

連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本財政論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 この講義では日本財政が抱える諸問題を、講義ノート・資料・パワーポイントを利用しながら講義する。今年度扱う諸問題は、次のとおり。財政赤字は家庭・企業にどのような影響をもたらすのか？少子化と高齢化は、日本財政にとってまずい現象なのか？日本の歳出入は持続可能な状態であるのか？ / 検索キーワード 財政赤字・日本の歳出入・少子高齢化

授業の一般目標 日本財政が抱える諸問題を、自身で明確に感じ取られるようになること。新聞・ニュースで見聞きする財政問題への理解を深められるようにすること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 日本財政の抱える問題点を、自身の言葉で指摘できること。 **思考・判断の観点：** 日本財政の抱える問題点に対する処方箋を、自身の言葉で述べられること。

授業の計画（全体） 毎回配布する講義ノート・資料・パワーポイントを利用して、次のトピックを講義する。財政赤字は家庭・企業にどのような影響をもたらすのか？少子化と高齢化は、日本財政にとってまずい現象なのか？日本の歳出入は持続可能な状態であるのか？

成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験の2回のみで評価。中間試験と期末試験の合計点から平均点を算出。その平均点を評点とする。なお出席を全くとらない。従って出席点は全く考慮しない。

教科書・参考書 参考書：教科書を指定しない。なお参考書は初回講義時に指定する。

メッセージ 日本財政の抱える問題点を、わかりやすく講義します。そして自身の将来と日本財政が密接に関わっている点を、理解していただければと思います。

連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地域経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	齋藤英智				

授業の概要 地域における経済現象とその主要な理論・モデルについて学ぶ。経済学を基礎とし、空間という要素を取り入れてヒト、モノ、カネ、情報の動きを見ていく。経済のグローバル化とともに、地方分権が叫ばれるなかで、平成の大合併などにより地域の役割はますます重要な局面を迎えている。地域内、地域間での財・サービスやヒトの往来、さらには大都市がある一方で農村もあり、単に地域といってもさまざまな形態がみられ、地理的特性や人口構成、産業構造などによっても異なる。これら地域経済に関わる諸活動や地域の構造を理論的な観点から学んでいくとともに、地域に関連するデータを用いてグラフの見方やその背景を検討しながら地域間の比較や分析を行う。／検索キーワード 地域経済、都市経済、地域活性化、まちづくり

授業の一般目標 地域の諸問題に関する理論・背景を理解するとともに、地域データに基づいて地域を分析し、地域の課題に対する考え方を修得する。また、関心の深い地域・テーマを自ら設定し、レポートの作成を通じて、問題の所在と解決へ向けた多面的なものの見方ができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経済学の基礎理論・モデルに基づいた現実の地域経済の理解、応用力を身につける。思考・判断の観点：問題に対する多面的な見方を培い、それに対処するための道筋をつけることができる。関心・意欲の観点：日ごろから抱いている地域経済に関する疑問を学問的観点から捉える。態度の観点：疑問に思ったことは自ら積極的に調べる。技能・表現の観点：理論・モデルの基礎に基づいてデータを正しく処理・分析し、レポートが作成できる。その他の観点：パソコン・ソフト（ワード、エクセル）を利用して地域データを加工・分析し、レポートを作成することが可能となる。

授業の計画（全体） 1. 地域経済学の諸問題、2. 地域経済学の理論・モデル、3. 地域データによる現状分析、の3つの点を中心にシラバスに沿って授業を行う。授業内で資料を配布し、板書・パワーポイントを用いて授業を進める。授業では地域データに基づく図表を提示し、その見方・背景を考えるとともに、図表の作成方法や分析方法を適宜紹介することによって各自で図表が作成できるようにする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス：地域経済学とは何か 内容・担当教員の紹介・授業の進め方・成績評価の方法・注意事項・地域経済学とは何か（経済学と地域経済学）（地域経済学の課題）
- 第 2 回 項目 地域経済学のアプローチ 内容・地域とは何か（地域の定義）（地域の概念）（地域の範囲）
- 第 3 回 項目 経済のグローバル化と地域経済 内容・ヒト・モノ・カネ・情報の世界的交流（世界の中での地域）（日本経済と地域経済）（産業空洞化）（地域間格差）
- 第 4 回 項目 東京一極集中と地方分権 内容・地域の人口規模（少子高齢化）・東京一極集中（都市と農村）・地方分権（市町村合併と道州制）（地方財政）
- 第 5 回 項目 都市集積の経済性 内容・都市集中のメカニズム・集積の経済（規模の経済性）（都市化の経済）（地域特化の経済）
- 第 6 回 項目 地域成長のモデル 内容・需要主導型成長（経済基盤説）・供給主導型成長（新古典派モデル）・都市の盛衰・住宅の立地
- 第 7 回 項目 経済立地の理論 内容・中心地理論・農業立地論・工業立地論
- 第 8 回 項目 地域の産業構造 内容・ペティ＝クラークの法則・三角形ダイアグラム・特化係数
- 第 9 回 項目 地域経済循環と産業連関分析 内容・産業連関表（生産波及効果）・域内・域外需要と地域間交易
- 第 10 回 項目 地域間相互作用のモデル 内容・重力モデル・小売重力モデル・商圈モデル
- 第 11 回 項目 全国総合開発計画と地域政策 内容・国土計画（戦後の地域政策）・社会資本整備と公共事業（地方公共財）

- 第 12 回 項目 地域づくり 内容 ・ S W O T 分析 ・ 地域づくりのキーポイント ・ 地域と交通 ・ 地域の福祉 ・ 地域の歴史 ・ 文化保護 ・ 地域と観光（持続可能な観光）
- 第 13 回 項目 コミュニティの再生 内容 ・ まちづくりの源泉 ・ 地域ブランド
- 第 14 回 項目 地域の持続的発展と環境問題 内容 ・ 地域のアメニティ ・ 地域の環境問題 ・ コモンズの理論 ・ 外部性 ・ 地域の持続的発展
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 ・ 地域の自立的発展 ・ 成績評価について

成績評価方法 (総合) 出席 : 15 %、授業外課題レポート (3 回程度): 30 %、最終レポート (定期試験に代える): 55 % を総合して評価する。 授業外課題レポートを一度も提出しないものについては単位を認定しないので注意すること。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用せず、教材として適宜資料を配布する。 / 参考書：『地域経済学』、宮本憲一・横田茂・中村剛治郎、有斐閣、1990 年；『現代都市経済学』（第 2 版）、宮尾尊弘、日本経済評論社、1995 年；『都市と地域の経済学』、中村良平・田淵隆俊、有斐閣、1996 年；『地域分析入門』（改訂版）、大友篤、東洋経済新報社、1997 年；『グリーン共創序説 循環型社会をめざして』、吉村弘・戸田常一・齋藤實男編著、同文館、2002 年；その他、授業中に適宜紹介する。

メッセージ 地域経済論は、ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎とする応用の分野となります。履修の条件ではありませんが、これらの理論を良く理解していることが望まれます。理論や方法論といった抽象的な部分もありますが、出来る限り地域独自の問題や実際のデータを取り上げ、今日の地域問題を考えられるようにします。また、理論と現実を融合させた考え方を身につけるために、データによる分析も行ってもらいますので、パソコン（ワード、エクセル）等が使えることもレポート作成の助けになります。一連の作業を通じて地域の問題に関心を持ち、自分の考えをまとめられるようになることを目標とします。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日（ 10：20～11：50 ） 研究室：経済学部 A 棟 4 階（ 407 研究室 ） オフィスアワーは上記としますが、いつでも研究室に来ていただいて結構です。

開設科目	地方財政論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 わが国の地方財政について、法制度、歴史、現状と課題について講じる。内容としては、地方公共団体、予算制度、財政分析、国と地方の財政関係を取り上げる。

授業の一般目標 わが国における地方政府、地方財政の仕組み、歴史、実情を把握し、これからの在り方を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地方財政が果たしている役割、国家財政との違い 関心・意欲の観点： 地方分権時代に求められる地方財政像

授業の計画(全体) 第1章 地方公共団体 第2章 地方の予算と会計 第3章 地方の財政構造
第4章 国と地方の財政関係

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 第1章 地方財政の機能 内容 財政の役割
- 第2回 項目 第1章 地方財政の機能 内容 財政システムと財政の規模
- 第3回 項目 第1章 地方財政の機能 内容 地方財政の役割 授業外指示 復讐課題の提示
- 第4回 項目 第2章 地方財政の仕組みと課題 内容 地方制度と地方財政
- 第5回 項目 第2章 地方財政の仕組みと課題 内容 地方分権の推進 授業外指示 復讐課題の提示
- 第6回 項目 第4章 地方財政の動向 内容 地方の歳出と歳入の構造
- 第7回 項目 第4章 地方財政の動向 内容 地方財政の実態 授業外指示 復讐課題の提示
- 第8回 項目 第5章 地方税原則と地方税体系 内容 地方税原則
- 第9回 項目 第5章 地方税原則と地方税体系 内容 地方税体系 授業外指示 復讐課題の提示
- 第10回 項目 第7章 地方交付税 内容 地方交付税の意義
- 第11回 項目 第7章 地方交付税 内容 地方交付税の仕組み 授業外指示 復讐課題の提示
- 第12回 項目 第8章 国庫支出金 内容 国庫支出金とは
- 第13回 項目 第8章 国庫支出金 内容 国庫支出金の現状と課題 授業外指示 復讐課題の提示
- 第14回 項目 第7章 地方債 内容 地方債の発行
- 第15回 項目 第7章 地方債 内容 地方債と国の関与 授業外指示 復讐課題の提示

成績評価方法(総合) 期末試験の結果で成績評価を行なう。

教科書・参考書 教科書： 入門地方財政第2版, 林宏昭・橋本恭之, 中央経済社, 2007年 / 参考書： 図説日本の財政 平成20年度版, 未定, 東洋経済新報社, 2008年 ; 図説地方財政データブック 平成20年度版, 未定, 学陽書房, 2008年 ; 地方財政白書 平成20年度版, 総務省, 印刷局, 2008年 ; 授業時間中に伝える。

開設科目	地域福祉社会学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 地域社会と福祉の関わりについて、高齢者福祉をテーマに考えていく。マスコミによって連日のように「高齢化の危機」が叫ばれている。では一体、高齢化とはわれわれの社会にどのような変化をもたらすのだろうか。本講義では、高齢者のおかれている現状とこれまでの日本の高齢者福祉政策の変遷とを明らかにし、今後「いかなる超高齢社会が目指されているのか」について考察を進める。その際、地域社会の役割変化に着目し、新たなコミュニティのあり方を考える。また、ジェンダー視点を有効な分析手段として使用するため、ジェンダー概念についても詳しく講義する。/ 検索キーワード 地域福祉・介護・高齢者福祉・ジェンダー

授業の一般目標 1. 日本の高齢化状況と高齢者の生活を知る 2. 社会政策としての高齢者福祉の成立を理解する 3. 国家・市場・家族・地域と高齢者介護との関連について理解を深める 4. 現行の高齢者福祉政策に関する知識を得る 5. 自分の生きていく社会状況として高齢化を理解する

授業の計画(全体) 高齢化の状況・高齢者の生活・社会福祉の概念・福祉国家の成立・近代社会と高齢者観(尊厳死にみる個人と共同体)・日本における高齢者福祉の変遷・地域福祉の展開と動向・高齢者福祉と家族機能・高齢者福祉におけるNPO・高齢者介護とジェンダー・ボランティアと地域福祉・福祉ミックス論・公的介護保険制度・比較福祉国家論などのテーマを毎回設定する。授業では、統計データの提示によって状況の理解を促したり、視覚メディアも利用しながら思考を深めてもらう。

成績評価方法(総合) 出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内外レポート30%・定期試験70%とする。ただし、定期試験の点数が、70点満点中35点に満たない者は不可とする。

教科書・参考書 教科書：特定のテキストは使用せず、必要なデータ等についてはコピーを配布する。/ 参考書：授業テーマに沿って、理解を深めるのに適した文献を随時提示する。

メッセージ 社会の高齢化を「自分の問題」として、当事者意識を持ちながら受講をしてもらうことを望みます。

連絡先・オフィスアワー E-mail:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 10:00 - 11:00

開設科目	社会政策論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 現在、格差や少子高齢化、長時間労働、ワークライフ・バランス(仕事と生活の調和)、年金・介護・医療などの問題が焦眉の課題となっているが、社会政策論では次のような内容をやることにより、それらの問題を考えていく。社会政策論は労働政策と社会保障からなる。労働政策には労働基準政策、失業政策、雇用能力開発政策、労使関係政策などが含まれ、社会保障には社会保険、社会福祉、公的扶助(生活保護)などがある。なお労働基準政策では男女雇用機会均等法、解雇権濫用法理、社会保険には年金、医療保険、介護保険、雇用・労災保険などの問題を扱うことになる。なお、適宜、ビデオを観せて、現場を感得してもらう。/ 検索キーワード 社会政策、労働政策、社会保障、労働基準政策(長時間労働等)、失業政策、雇用能力開発政策、労使関係政策、社会保険(年金、医療保険、介護保険、雇用・労災保険)、社会福祉、公的扶助(生活保護)、男女雇用機会均等法。

授業の一般目標 社会政策とは何かを理解し、格差、失業・就職、少子高齢化、長時間労働、ワークライフ・バランス(仕事と生活の調和)、年金・介護・医療などといった労働政策と社会保障について基礎的かつ社会に出てから有益な知識を身につけること。

授業の到達目標 / その他の観点: 労働政策と社会政策に関して、自ら主体的に調べて、認識を深めて知識を定着させることを目標とする。したがって、課題は各自に考えさせて、模擬試験をやらせて、全員に添削して返却し、それに基づいて本試験を受けさせる方式を用いる。

授業の計画(全体) 各週の前半で社会保障、後半で労働政策と交互に行なう。社会政策には労働政策も含むということをよく認識していない者が多いので、注意してもらいたい。各内容については別記する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 社会政策論とは何か? - 労働政策と社会保障
- 第 2 回 項目 社会保障(1): 社会保険(1) 内容 年金(1)
- 第 3 回 項目 労働政策(1): 雇用失業政策(1) 内容 雇用失業政策(1)
- 第 4 回 項目 社会保障(2): 社会保険(2) 内容 年金(2)
- 第 5 回 項目 労働政策(2): 雇用失業政策(2) 内容 雇用失業政策(2)
- 第 6 回 項目 社会保障(3): 社会保険(3) 内容 介護(1)
- 第 7 回 項目 労働政策(3): 職業訓練政策(1) 内容 職業訓練政策(1)
- 第 8 回 項目 社会保障(4): 社会保険(4) 内容 介護(2)
- 第 9 回 項目 労働政策(4): 職業訓練政策(2) 内容 職業訓練政策(2)
- 第 10 回 項目 社会保障(5): 社会保険(5) 内容 医療(1)
- 第 11 回 項目 労働政策(5): 労働基準政策(1) 内容 労働条件、労働時間(1)
- 第 12 回 項目 社会保障(6): 社会保険(6) 内容 医療(2)
- 第 13 回 項目 労働政策(6): 労働基準政策(2) 内容 労働条件、労働時間(2)
- 第 14 回 項目 社会保障(7): 社会保険(7) 内容 雇用保険・労災(1)
- 第 15 回 項目 労働政策(7): 労働基準政策(1) 内容 男女雇用機会均等法(1)
- 第 16 回 項目 社会保障(8): 社会保険(8) 内容 雇用保険・労災(2)
- 第 17 回 項目 労働政策(8): 労働基準政策(2) 内容 男女雇用機会均等法(2)
- 第 18 回 項目 社会保障(9): 公的扶助(1) 内容 公的扶助(1)
- 第 19 回 項目 労働政策(9): 労使関係政策(1) 内容 労使関係政策(1)
- 第 20 回 項目 社会保障(10): 公的扶助(2) 内容 公的扶助(2)
- 第 21 回 項目 労働政策(10): 労使関係政策(2) 内容 労使関係政策(2)
- 第 22 回 項目 社会保障(11): 社会福祉(1) 内容 社会福祉(1)
- 第 23 回 項目 予備 内容 予備
- 第 24 回 項目 社会保障(12): 社会福祉(2) 内容 社会福祉(2)

- 第 25 回 項目 労働政策 内容 予備
- 第 26 回 項目 社会保障 (13) : 公衆衛生 (1) 内容 公衆衛生 (1)
- 第 27 回 項目 予備 内容 予備
- 第 28 回 項目 社会保障 (14) : 公衆衛生 (2) 内容 公衆衛生 (2)
- 第 29 回 項目 予備 内容 予備
- 第 30 回 項目 総括

成績評価方法 (総合) 出席 (質問・意見票の提出) で平常点をみながら、模擬試験で中間評定を行ない、最終の本試験を最も重視する。出題は基本的に模擬試験と本試験で同じ。模擬試験は模範解答を事前に配布する予定。労働政策と社会保障から一題ずつ各自自分で課題を考えて、深く追求していくことを期待する。あと、本試験では基本的な 4 択問題を課すだろう。【観点別】知識・理解の観点からは基本的な 4 択問題を課し、思考・判断能力の面では模擬答案 本試験と論理的思考能力と文章表現力を磨き、関心・意欲の点からは自分で主体的に調べることを評価する。

教科書・参考書 教科書：今回は配付プリントにする予定 / 参考書：適宜指摘する。

メッセージ 社会に出てから有益な知識を！生きた現場を重視せよ！

連絡先・オフィスアワー Eメール・アドレス：hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ジェンダー論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 ジェンダー (gender) とは、生物学的な性差を意味するセックス (sex) とは異なり、社会・文化的な性差を意味するもの。私たちは何故、身体的な性差によって当たり前のように、男なら「男らしく」、女なら「女らしく」振る舞っているのだろうか。そこに必然性はあるのか。また、広く社会における男女関係を規定している「性別役割分業」という考え方に、私たちの生き方はどこまでしぼられているのだろうか。本講義では、生活の様々な場面に織り込まれているジェンダー構造を可視的にすることを試み、ジェンダーが私たちの生活や選択に与える影響とその帰結を考察する。 / 検索キーワード ジェンダー、性別役割分業

授業の一般目標 ジェンダー論(授業)の目的 (1)ジェンダー構造とは何か?を知る (2)自分のなかにあるジェンダー構造を意識化する。(3)日常生活(社会)に潜むジェンダー構造を意識化する。(4)ジェンダー構造が引き起こす社会問題について理解を深める。(5)(応用として)「当たり前(本質的なもの)」とされている様々なものが、実は社会的に作られた物(社会制度)である、ということを理解する。以上を目標として授業をおこないます。価値観はひとそれぞれですが、その価値観がどのように社会によって創られ、その価値観が再生産されることによって、社会的にどのような問題が発生するのか、について考察・理解してもらおうのが、授業目標達成の最低ラインです。

授業の計画(全体) まず、「ジェンダー」とは何か?という基本的な問題意識を共有することから始める。そして、私たちが日常生活をおくっている社会のあらゆる場面に潜んでいる「ジェンダー」について明らかにし、その現状や問題点を自分自身の事柄として考えていく。また、ジェンダー視点を取り入れることで、具体的な日々の社会的経験が、さまざまな領域での「学問」として体系的に研究されてるということをよりリアルに感じてもらいたい。

成績評価方法(総合) 出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内外レポート30%・定期試験70%とする。ただし、定期試験の点数が、70点満点中35点に満たない者は不可とする。

教科書・参考書 教科書：特定のテキストは使用せず、必要なデータ・資料等についてはコピーを配布する。 / 参考書：授業テーマに沿って、理解を深めるのに適した参考文献については適宜提示する。

メッセージ 本講義は女性学と男性学両方の視点を含むものです。「当たり前」とされていることを「疑う」ことができる社会学的思考を基礎としています。

連絡先・オフィスアワー E-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 10:00 - 11:00

開設科目	日本経済史総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 本講義では、明治維新以降の近代日本経済史を取り扱う。近代日本は、幕末の開国により世界資本主義体制の下に強制的に編入され、「後進資本主義国」として出発することになった。その日本が、産業革命を成功させ、経済的発展を成し遂げた事実は周知の通りである。本講義では、そうした近代日本の経済発展のプロセスを具体的に明らかにするとともに、資本主義社会の形成過程や特質、その将来像についても検討していく。 / 検索キーワード 経済史、資本主義社会、明治維新、産業革命

授業の一般目標 1. 現在我々が生きる資本主義社会の歴史的特徴を把握する。 2. 日本経済史に関する様々な視点・学説について理解する。 3. 日本の経済発展のプロセスや要因を具体的に把握する。 4. 日本経済の歴史を学ぶことを通じて、現代の経済社会を分析するのに必要な幅広い視野を養う。

授業の計画(全体) 1, 配布プリント・資料をもとにした講義形式で授業を進める。 2, 資本主義社会の成立と展開について、一般的な流れを概観する。 3, それをふまえた上で、日本ではどの様に資本主義社会が成立し展開していったのかを、時代を追って具体的に解明していく。 4, 日本の資本主義社会の特質について考察する。 5, 日本資本主義論争など、日本経済史に関する諸学説、あるいは近年の新視点を紹介する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近代日本経済史の課題
- 第 2 回 項目 資本主義社会の歴史的特徴
- 第 3 回 項目 資本主義社会の形成と発展
- 第 4 回 項目 明治維新と資本主義社会の成立
- 第 5 回 項目 殖産興業と産業革命
- 第 6 回 項目 独占資本主義の形成
- 第 7 回 項目 社会主義の影響と 20 世紀型資本主義
- 第 8 回 項目 日本における独占資本主義(帝国主義)の成立
- 第 9 回 項目 恐慌の時代と日本経済
- 第 10 回 項目 十五年戦争下の日本経済とその破綻
- 第 11 回 項目 日本資本主義論争
- 第 12 回 項目 戦後日本経済の概要
- 第 13 回 項目 社会主義の崩壊と 20 世紀型資本主義の変容
- 第 14 回 項目 日本経済の未来
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 学期末試験は論述形式。講義中、数回程度の小レポートを課す。期末試験 65%、小レポート 20%、出席 15% により成績を評価する。ただし出席状況によっては、この基準に関係なく不合格とする場合がある。

教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定しない。毎回単元毎に、アウトラインの資料プリントを配布する。 / 参考書：概説日本経済史 近現代[第2版]、三和良一、東京大学出版会、2002年；日本資本主義百年の歩み、大石嘉一郎、東京大学出版会、2005年；経済史入門(日経文庫)、川勝平太、日本経済新聞社、2003年；この他の参考文献は、授業中、適宜紹介する。

メッセージ 2005年以前入学の学生で、すでに「経済史総論」の単位を取った者は、この科目は受講できないので注意すること。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566、E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋経済史総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀大介				

授業の概要 わたしたちは、今、資本主義経済と仕組みの中で生きています。皆さんは、いつ、どこで、どのようにして、この仕組みが生まれてきたか知っていますか？ 実は、この仕組みは、今から約200年前にヨーロッパ・イギリスで生まれたものです。では、なぜ世界中のどこでもなく約200年前のヨーロッパ・イギリスで生まれたのでしょうか？ そして、どのように世界中に広がっていったのでしょうか？ 人々の生活をどのように変えてきたのでしょうか。本講義では、こうした疑問に答えていくのと同時に、現在わたしたちが「常識」だと思っていることが、どのように作られてきたかを紹介し、発想の柔軟性を養っていききたいと思います。

授業の一般目標 1．現代の資本主義社会が、どのような歴史的変遷を経て成立してきたのかを、グローバルな視点から理解する。 2．歴史(経済史)をツールとして、柔軟な思考を養う。

授業の計画(全体) (1)オリエンテーション - 何のために歴史を学ぶのか (2)アフリカのすべての国が「先進国」に? - 近代化論の是非 (3)「歴史の終わりに」 - 経済理論から考える未来社会 (4) おしゃれから始まった工業化ー世界で最初の工業国家イギリス (5) 朝食革命ーパンと紅茶の朝ごはん成立とその意味 (6) 世界に広がる工業化 ライバル・ドイツの誕生 (7) 中間テスト (8) 作られたブランド フランスの工業化 (9) ドイツの反撃とイギリスの防衛 今後の日中関係を考えるヒント (10)(11) アメリカンドリームー西部劇とマクドナルド(前編・後編) (12)100年前のグローバル経済 (13) イギリス経済の没落と復活ー日本の未来のヒント? (14) われわれはどこに向かうのか?

成績評価方法(総合) 定期テスト100% 本講義では出席を欠格要件にはしていません。ただし、出席者には、出席点を差上げます。具体的には、毎回、授業の終わりに出席票を配布し、皆さんには質問・コメント等を書いてもらいますが、これを加点の対象とします。まじめに出席し、いいコメント、質問を書けば、単位取得はさほど難しくないでしょう。*注意!! この講義では私語・遅刻・途中抜けを厳禁とします。 これらの問題行動を取る学生には極めて厳しく対処します!

教科書・参考書 参考書：あなたが歴史と出会うとき、堺憲一、名古屋大学出版会、1989年

メッセージ この講義では、就職活動期にまでに身につけてもらいたい、ものの考え方や発想、それから経済や歴史に関する幅広い教養をお教えします。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A208(古賀研究室)

開設科目	日本経済史各論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 本講義では、第一次大戦とそれに続く恐慌の時代の日本経済の歴史について取り扱う。第一次世界大戦により日本経済は急成長を遂げたが、その後の戦後反動恐慌によって不況に突入し、1920年代の10年間は長期不況に苦しむことになった。しかしこの時代、現代につながる重要な変化が日本経済の中に芽生えたのも事実である。本授業では、日本経済にとって大きな転機であったこの時代を深く掘り下げてみるため、具体的な経過と共に、この時代を象徴する企業家や政治家、あるいは当時の山口県の経済状況など、多面的に取り上げていきたい。また、1920年代の恐慌の時代は、現代のバブル崩壊とそれに続く平成不況に酷似した局面が多く、両者の比較も行う予定である。/検索キーワード 経済史、資本主義社会、第一次世界大戦、恐慌、高橋是清、金子直吉

授業の一般目標 1. 第一次世界大戦から、戦後恐慌、1920年代の相次ぐ恐慌の時代、高橋財政による昭和恐慌脱出までの歴史の流れを理解する。 2. この時代に形成された、現代の日本経済の源流となる要素は何であったかを把握する。 3. 経済の歴史の中で、企業家や財政担当者などの「人」の果たした役割について考える。 4. 日本経済の歴史を学ぶことを通じて、現代の経済社会を分析するのに必要な幅広い視野を養う。

授業の計画(全体) 1, 配布プリント・資料をもとにした講義形式で授業を進める。 2, 第一次世界大戦から、戦後恐慌、1920年代の相次ぐ恐慌の時代、高橋財政による昭和恐慌脱出までの歴史の流れを概観する。 3, それをふまえた上で、この時代を象徴する鈴木商店と金子直吉について取り上げ、その功績と失敗の要因を分析する。 4, 高橋是清による財政政策を詳細に見ながら、現代的な財政政策手法の確立とその限界点を明らかにする。 5, この時期、地方レベルでも経済産業構造に大きな変化が見られたことを、山口県の事例から具体的にとりあげる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 第一次世界大戦・1920年代の重要性
- 第2回 項目 第一次世界大戦直前の日本経済
- 第3回 項目 第一次世界大戦と日本経済
- 第4回 項目 1920年恐慌(戦後恐慌)の勃発
- 第5回 項目 慢性不況の1920年代
- 第6回 項目 関東大震災と金融恐慌
- 第7回 項目 昭和恐慌の勃発と高橋財政
- 第8回 項目 高橋財政の評価
- 第9回 項目 神戸鈴木商店と金子直吉(1)
- 第10回 項目 神戸鈴木商店と金子直吉(2)
- 第11回 項目 第一次世界大戦以降の山口県経済の発展
- 第12回 項目 現代との比較(1)バブル崩壊と平成不況
- 第13回 項目 現代との比較(2)1920年代との比較
- 第14回 項目 戦前からの教訓に何を学ぶか
- 第15回 項目 試験

成績評価方法(総合) 期末試験(論述)65%、小レポート(2回程度)20%、出席15%により成績を評価する。ただし出席状況によっては、この基準に関係なく不合格とする場合がある。

教科書・参考書 教科書: テキストは特に指定しない。毎回単元毎に、アウトラインの資料プリントを配布する。/参考書: 概説日本経済史 近現代[第2版], 三和良一, 東京大学出版会, 2002年; 昭和の恐慌(昭和の歴史2), 中村政則, 小学館, 1994年; 日本資本主義百年の歩み, 大石嘉一郎, 東京大学出版会, 2005年; この他の参考文献は、授業中、適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566、E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋経済史各論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	金井雄一				

授業の概要 経済の発展過程において金融システムが果たした役割を中心に、資本主義の今日までの歩みを辿ります。それによって、金融の視点から資本主義の歴史を学ぶだけでなく、現代の金融問題を本質的な次元から考察する力を養いたいと思います。現代の金融システムは非常に複雑化していますが、その発展過程を学ぶと、現代だけを見ては気付にくいことも分かってきます。具体的にはイギリスの金融史を主な素材として、信用貨幣、預金通貨、信用創造、中央銀行、金融政策、外国為替、国際通貨などについて考えてゆきます。

授業の一般目標 ・資本主義の発展にとって金融機能が持った意義について考察できるようになる。 ・信用貨幣の生成過程を学び、現代の通貨の性格を理解する。 ・手形交換と預金通貨の機能（信用創造）を学び、貨幣はどこで創られるのかを理解する。 ・中央銀行や金融政策の形成を学び、現代の金融政策が担っている役割を理解する。 ・国際決済制度の確立と展開を学び、外国為替や国際通貨について理解を深める。 ・国際通貨制度の歴史を踏まえて、現代の変動相場制が生み出している問題を考察できるようになる

授業の計画（全体） 初めに、金融問題への歴史的アプローチが必要であることについて問題提起を行なう。次いで、イギリス資本主義の発展過程を主な素材としつつ、信用貨幣の生成、中央銀行制度の成立、預金通貨の機能、金融政策の形成を検討してゆく。さらに、国際通貨制度に視野を広げ、その展開を国際金本位制、再建金本位制、IMF体制、変動相場制の順に辿る。以上を踏まえて最後に、社会にとっての金融活動の意味を考えてみたい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目Ⅰ 問題提起 内容 「おかね」はどこで創られるのか？
- 第2回 項目Ⅱ 信用貨幣の生成と発展（1） 内容 「借金の証文」が「おかね」になる？
- 第3回 項目Ⅱ 信用貨幣の生成と発展（2） 内容 債務の貨幣化
- 第4回 項目Ⅲ 中央銀行制度の成立 内容 なぜ中央銀行が生まれたのか
- 第5回 項目 手形交換制度の発展 内容 預金通貨、信用創造
- 第6回 項目Ⅴ 金融政策の形成（1） 内容 地金論争、通貨論争
- 第7回 項目Ⅴ 金融政策の形成（2） 内容 ピール銀行法
- 第8回 項目Ⅴ 金融政策の形成（3） 内容 バジヨットの原理
- 第9回 項目Ⅴ 補論：現代の金融政策論争 内容 外生的貨幣供給、内政的貨幣供給
- 第10回 項目 国際通貨制度の展開（1） 内容 国際金本位制
- 第11回 項目 国際通貨制度の展開（2） (1) 内容 再建金本位制
- 第12回 項目 国際通貨制度の展開（2） (2) 内容 金本位崩壊、為替管理
- 第13回 項目 国際通貨制度の展開（3） 内容 プレトン・ウッズ、IMF体制
- 第14回 項目 国際通貨制度の展開（4） 内容 変動相場制
- 第15回 項目 まとめ 内容 資本主義と金融、社会と金融

成績評価方法（総合） 集中講義であるため、学期中に時々レポートを出してもらうということをするのは不可能ですから、定期試験の成績に基づいて評価するのが原則とします。

教科書・参考書 教科書：講義中に資料などを配布します。 / 参考書：イングランド銀行金融政策の形成、金井雄一、名古屋大学出版会、1989年；ポンドの苦闘、金井雄一、名古屋大学出版会、2004年

経営学科

開設科目	経営学総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	内田恭彦				

授業の概要 経営学総論は、経営学科の基盤科目である。そこで、経営学の最も基本的な理論、思考、専門用語について、分かりやすく、また事例を豊富に使って解説し、学生に会得してもらうように、ゆったりと事業を進める。 / 検索キーワード 自分が会社を作るとしたら？を考える。

授業の一般目標 学生が経営ビジネスについて、プレゼンテーションできるように、基礎学力の養成をはかる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：事例問題を提示し、学生に意見を求める。

そのことから、学生の知識・理解度について、評価資料にする。

思考・判断の観点：事例問題を示し、学生の判断を求める。

例えば、公害問題について、判断と思考力を評価する。 関心・意欲の観点：出席を重視し、また発言を重視する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営学とは何か（ 1 ）
- 第 2 回 項目 経営学とは何か（ 2 ）
- 第 3 回 項目 経営史
- 第 4 回 項目 経営組織（ 1 ）
- 第 5 回 項目 経営組織（ 2 ）
- 第 6 回 項目 戦略論（ 1 ）
- 第 7 回 項目 戦略論（ 2 ）
- 第 8 回 項目 戦略論（ 3 ）
- 第 9 回 項目 国際経営（ 1 ）
- 第 10 回 項目 国際経営（ 2 ）
- 第 11 回 項目 人事管理論（ 1 ）
- 第 12 回 項目 人事管理論（ 2 ）
- 第 13 回 項目 生産管理論（ 1 ）
- 第 14 回 項目 マーケティング（ 1 ）
- 第 15 回 項目 マーケティング（ 2 ）
- 第 16 回 項目 財務管理（ 1 ）
- 第 17 回 項目 財務管理（ 2 ）
- 第 18 回 項目 情報管理（ 1 ）
- 第 19 回 項目 情報管理（ 2 ）
- 第 20 回 項目 経営計画（ 1 ）
- 第 21 回 項目 経営計画（ 2 ）
- 第 22 回 項目 経営コントロール（ 1 ）
- 第 23 回 項目 経営コントロール（ 2 ）
- 第 24 回 項目 財務報告（ 1 ）
- 第 25 回 項目 財務報告（ 2 ）
- 第 26 回 項目 企業監査（ 1 ）
- 第 27 回 項目 企業監査（ 2 ）
- 第 28 回 項目 リスク管理（ 1 ）
- 第 29 回 項目 リスク管理（ 2 ）
- 第 30 回 項目 企業の社会的責任

成績評価方法（総合） 定期試験を重視し、くわえて、出席、発言、質問、あるいはレポートを評価対象にする。

教科書・参考書 教科書：経営学をやさしく学ぶ, 山口大学経営学科編, 中央経済社, 2005年

メッセージ 図書館で、ビジネス関係の資料をよく見る。

開設科目	経営管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 経営管理論は、戦略、組織、管理に関わる基本的で重要な問題について、また事例を提示し、解説しながら学生に説明していく。 / 検索キーワード 日経新聞のビジネス記事をよくみる。

授業の一般目標 戦略と組織について、事例問題を提示し、それについて分析できる能力を要請する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的経営問題の理解から、個別問題の理解への展開をしようとする。 個別問題の解決方法の考え方から、経営の思考力を診断する。 思考・判断の観点： 事例問題を示し、学生に意見を求め、判断力と指導力について、評価する。 関心・意欲の観点： 出席を求め、発言を評価する。

授業の計画（全体） 基本的な経営思考の到達度を、見ながら、個別問題の解決を始動刷る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 科学的管理法
- 第 2 回 項目 人間関係論
- 第 3 回 項目 人間関係論
- 第 4 回 項目 組織管理
- 第 5 回 項目 組織管理
- 第 6 回 項目 リーダーシップ論
- 第 7 回 項目 リーダーシップ論
- 第 8 回 項目 分社制
- 第 9 回 項目 分社制
- 第 10 回 項目 研究開発管理
- 第 11 回 項目 研究開発管理
- 第 12 回 項目 知識管理
- 第 13 回 項目 知識管理
- 第 14 回 項目 個別事例
- 第 15 回 項目 個別事例

成績評価方法（総合） 定期試験を重視しながら、授業の出席と発言を評価する。

教科書・参考書 教科書： 長谷川光圀「企業組織論の展開」千倉出版、2000年 / 参考書： その都度、知らせる。

メッセージ 戦略の立案を試みる。

連絡先・オフィスアワー 長谷川研究室水曜日午前10：00～11：30

開設科目	労務管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	内田恭彦				

授業の概要 人々がいきいきと働くことが出来、なおかつ企業間競争においても人材の力を最大限に発揮でき、持続的な優位性を築くことができるような人材のマネジメントのあり方についての基本的考えと歴史的変遷、個別システムおよび今日的課題と方向性について理論と現実の双方から理解を深めていくものです。 / 検索キーワード 労務管理、戦略的人的資源管理、人材ポートフォリオ・マネジメント

授業の一般目標 1. 労務管理および背景理論の習得 2. 労務管理の個別制度の考え方の理解 3. 人材ポートフォリオ・マネジメントに関する理解

授業の計画(全体) 本授業は大きく3つの部分から構成される。第1は労務管理に関する基本的知識および背景理論を扱う。第2は労務管理の個別テーマ(雇用、人事考課、給与、昇進・昇格、能力開発など)について説明する。第3は人々の価値観の多様化、および企業側の競争環境を前提として新たな潮流と考えられている人材の類型管理(人材ポートフォリオ・マネジメント)を取り上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業全体の概要説明 労務管理とは何か
- 第2回 項目 科学的管理法と労務管理1
- 第3回 項目 人間関係論と労務管理
- 第4回 項目 モティベーション理論と労務管理
- 第5回 項目 人的資源論、取引費用論と労務管理
- 第6回 項目 資源ベースの戦略論と労務管理
- 第7回 項目 雇用管理
- 第8回 項目 人事考課
- 第9回 項目 賃金管理
- 第10回 項目 能力開発
- 第11回 項目 専門職制度・キャリア開発
- 第12回 項目 福利厚生・労使関係
- 第13回 項目 人材ポートフォリオ・マネジメント1
- 第14回 項目 人材ポートフォリオ・マネジメント2
- 第15回 項目 人材ポートフォリオ・マネジメント3

成績評価方法(総合) 中間試験25%、期末試験60%、小テスト(出席を兼ねる)15%

教科書・参考書 教科書: 入門人的資源管理, 奥林康司(編著), 中央経済社, 2003年 / 参考書: 正社員時代の終焉(仮) 大久保幸夫(編) 日経BP社(2006年3月出版予定)

メッセージ 未来に向けてよりよい人と企業の間を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています

開設科目	財務管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 財務の基礎知識の習得

授業の一般目標 企業財務だけでなく個人の財務に関する基礎知識の習得をめざします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財務の基礎知識を習得できているか 思考・判断の観点：財務の知識を使って企業分析などができるか 技能・表現の観点：レポートを目的を明確にして書けるか

授業の計画（全体）財務管理とは何か、財務分析、時間の価値、株式・債券評価、投資決定、資本コスト
資金調達、運転資本管理

成績評価方法（総合）レポートと小テスト、前期試験で決定

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：講義の中で紹介します

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	生産管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森 正紀				

授業の概要 この科目は、文科系学生に、メーカーの基本を学んでもらうための科目です。生産の話だけでなく、会社全体のことを話します。たとえば、よい会社経営の仕方、ヒット商品の作り方、よいモノづくり計画の立て方、よい部品の仕入れ方、生き生きと働く方法などを学びます。試験に出るポイントはすべて講義で指摘しますので、学習しやすい科目です。 / 検索キーワード メーカー、経営

授業の一般目標 メーカーの営業部に就職する人はもちろん、あらゆる会社に就職する人に役立ちます。むつかしい理論や数式は出てきません。実際の会社の事例を挙げて、わかりやすく説明します。この科目を学べば、会社が動くしくみをよく理解できます。将来リーダーになる人は新人の時からリーダー的発想をしているといわれています。この科目を学んで、そのようないい人材になりましょう。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 会社のことがよくわかる。 思考・判断の観点： リーダー的発想ができる。 関心・意欲の観点： 仕事の意義を理解できる。 態度の観点： 熱意を引き出せる。 技能・表現の観点： 行動のテクニックを学ぶ。 その他の観点： 学習の目的が明確になる。

授業の計画（全体） 文系学生のために、生産管理のみならず、会社全体のことを講義します。経営とは何かから始まって、生き生きと働く方法まで、実務的に説明します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ・はじめに < BR > ・経営のしくみ 内容 この科目の内容、学ぶ意義、会社が動いていくしくみ
- 第 2 回 項目 メーカーの経営 内容 経営の目的は何か < BR > 何をするのか
- 第 3 回 項目 よい経営をするための目安を学ぶ（1） 内容 生産性の測り方
- 第 4 回 項目 よい経営をするための目安を学ぶ（2） 内容 経済性の測り方
- 第 5 回 項目 ヒット商品の作り方を学ぶ（1） 内容 企画の仕事を学ぶ
- 第 6 回 項目 ヒット商品の作り方を学ぶ（2） 内容 開発の苦労物語
- 第 7 回 項目 ヒット商品の作り方を学ぶ（3） 内容 売するためのさまざまな工夫を学ぶ
- 第 8 回 項目 よいものづくり計画を学ぶ（1） 内容 会社の将来計画（長期計画）の立て方を学ぶ
- 第 9 回 項目 よいものづくり計画を学ぶ（2） 内容 中期の計画（来月の計画）の立て方を学ぶ
- 第 10 回 項目 よい部品を手に入れる方法を学ぶ（1） 内容 会社の中のバイヤーの仕事の基本を学ぶ
- 第 11 回 項目 よい部品を手に入れる方法を学ぶ（2） 内容 バイヤーの実際の活動について学ぶ
- 第 12 回 項目 生き生きと働く方法を学ぶ（1） 内容 人間らしい仕事を求めて
- 第 13 回 項目 生き生きと働く方法を学ぶ（2） 内容 人間の欲求を管理する方法
- 第 14 回 項目 生き生きと働く方法を学ぶ（3） 内容 社員と会社の調和を求めて < BR > まとめ
- 第 15 回 項目 （テスト）

成績評価方法（総合） 試験の成績と出席点で評価します。80%対20%の比率です。

教科書・参考書 教科書：工業の経営学, 森 正紀, 中央経済社

開設科目	国際経営論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 この授業では、近年大変注目されているダイバーシティ・マネジメントについて学習します。ダイバーシティ・マネジメントとは、人々間の違い、例えば、人種や民族の違い、性別や年齢の違い、ライフスタイルの多様性などを競争優位のために生かしていく戦略と組織変革のことです。例えば、日本企業がアメリカに進出した際、同国の人種や民族問題にどのように対処していけばいいのか？日本国内において、なぜ女性の地位は男性よりも低いのか？今後の高齢化社会において、高齢者をどのようにして活用していけばいいのか？このような問題について企業経営の観点から考えていくのがダイバーシティ・マネジメントです。

授業の一般目標 1.ダイバーシティ・マネジメントとは何かを理解する。2.日本企業が米国に進出した際の人事問題について考える。3.日本国内において女性や高齢者、若者、外国人などをどのようにして活用していけばいいのかを考える。

授業の計画（全体）。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 日本的経営 VS アメリカ的経営
- 第 2 回 項目 ダイバーシティ・マネジメント I
- 第 3 回 項目 ダイバーシティ・マネジメント II
- 第 4 回 項目 ダイバーシティ・マネジメント III
- 第 5 回 項目 在米日系企業とダイバーシティ・マネジメント I
- 第 6 回 項目 在米日系企業とダイバーシティ・マネジメント II
- 第 7 回 項目 在米日系企業とダイバーシティ・マネジメント III
- 第 8 回 項目 在日米国企業とダイバーシティ・マネジメント I
- 第 9 回 項目 在日米国企業とダイバーシティ・マネジメント II
- 第 10 回 項目 在日米国企業とダイバーシティ・マネジメント III
- 第 11 回 項目 日本 P & G の事例 I
- 第 12 回 項目 日本 P & G の事例 II
- 第 13 回 項目 日本企業とジェンダー I
- 第 14 回 項目 日本企業とジェンダー II
- 第 15 回 項目 イトーヨーカ堂の事例

成績評価方法（総合） 期末テスト

教科書・参考書 教科書：ダイバーシティ・マネジメントの研究, 有村 貞則, 文真堂, 2007 年

開設科目	経営戦略論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	大久保隆弘				

授業の概要 企業経営を取り巻く環境は刻々と変化している。東アジア諸国の台頭、ボーダレス化と国際的な産業間競争の激化、IT技術などイノベーションの急速な進展、急激な国内人口の高齢化・少子化や顧客の多様化など、社会・経済や産業の構造的な転換が複雑に進む中で、企業経営の舵取りが一層難しい時代になっている。この時代において企業経営を成功に導くためには、環境変化に適合し、事業の方向性を見極め、技術や人材、資金やインフラなどの経営資源を有効に活用し、競合企業も意識しながら、戦略的に経営課題に対処していかねばならない。本科目は、戦略的な経営を行うための基礎的な経営理論の習得とともに製造業、サービス業などの事例ケースを中心とした教材を用いて、経営課題を実践的に解決する能力を養うのを目的とする。

授業の一般目標 この科目を受講し、以下のような実力が身に付くと、この科目の目指す学習目標に到達したと考えられる。(1)企業経営における経営戦略の意義、重要性の理解(2)企業環境分析と重要課題の抽出の手法の習得(3)企業の成長戦略、競争戦略の理論的フレームワーク、応用手法の習得(4)戦略体系にそった経営計画の立案に関する方法の理解(5)企業経営のトータルシステムをデザインし、経営資源を有効に活用する「仕組み」やビジネスモデルの構築方法についての理解(6)企業の事例研究による企業経営と経営戦略の実際についての理解

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営戦略の基本的理論に関する体系や応用についての知識が説明できる。具体的には、経営理念・ビジョンの役割、環境分析の手法とその意義、競争戦略、成長戦略に関する基本的な理論を説明できる。また、組織やマネジメント、情報システムなどのトータル的な経営の仕組みについて説明できる。思考・判断の観点：経営理論や企業事例研究の修得を通じて経営の総合的な見地から、経営者としての立場で戦略的な意思決定について評価と応用ができる。関心・意欲の観点：社会経済と経営環境、産業動向と企業経営に関する興味と関心を高めるとともに、経営には戦略的なアプローチが重要であり、その思考方法や理論体系、経営の実際についての問題意識を高める。態度の観点：企業経営をより身近なものと考えるとともに、経営の戦略的な側面を考察する姿勢や習慣を身につける。技能・表現の観点：事例ケースを読み、その中から対象企業の優れている点や課題を抽出する。自分で把握した問題点を整理し表現できる。

授業の計画(全体) 個別の機能戦略や事業戦略を束ねて、全体最適の思想から企業経営の方向を明確にして、適切な手段を講じるのが、経営戦略である。そのための理論的な考え方と実践における様々な事例を通じて、「経営戦略とは何か」を理解するのが本科目の目的である。具体的には、経営理念・ビジョンと経営戦略の関係、経営戦略の基本的な理論体系と内容、戦略の実行と組織マネジメント、経営システムとビジネスモデル等について、理論的背景と今日的な課題を講義する。また、製造業、サービス業、流通業などの実際の経営事例を5回程度扱い、企業経営において、どのような意思決定が行われているかを体験的に理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目・オリエンテーション・「経営戦略とは何か」内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 経営理念、経営ビジョン、経営戦略の関係 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第2回 項目 企業環境変化と経営戦略 内容 & # 8226; 企業環境変化と経営戦略・ビジョンと経営戦略体系 & # 8226; 全体戦略と事業戦略、機能別戦略 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第3回 項目 事業ドメイン 内容 & # 8226; 企業環境変化と経営戦略 & # 8226; SWOT分析 & # 8226; 戦略市場経営 & # 8226; プロダクトライフサイクル & # 8226; 事業ポートフォリオの概念(市場ライフサイクルと競争力) 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第4回 項目 成長戦略1 内容 & # 8226; コア・コンピタンスと成長領域 & # 8226; アンゾフのマトリクス 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること

- 第 5 回 項目 成長戦略 2 内容 & # 8226; 多角化と企業成長 & # 8226; 非関連多角化 & # 8226; 戦略アライアンス、M & A 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 6 回 項目 競争戦略 内容 & # 8226; M・Eポーターの競争戦略(コストリーダーシップ、差別化、集中の概念、5フォース分析、価値連鎖) & # 8226; フィリップコトラー：リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーの競争戦略 & # 8226; デファクトスタンダード、標準化の競争 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 7 回 項目 経営システムとビジネスモデル 内容 & # 8226; トータル経営システム(技術、人材、資金、組織、システム、)・事業システム & # 8226; ビジネスモデル(利益を生む事業の仕組み)・ITとビジネスモデル 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 8 回 項目 中間試験 内容 設問・論述回答方式の記述試験 授業外指示 経営理論を用いた企業経営における応用問題
- 第 9 回 項目 組織戦略 イノベーション戦略 内容・企業変革と組織論(企業組織の今日的状況) & # 8226; 組織の変遷(階層型組織から自律分散型組織へ) & # 8226; 機能別組織、事業部制、事業本部制、カンパニー制、グループ経営・イノベーションと経営・組織学習と技術進化・プロセスイノベーションとプロダクトイノベーション & # 8226; ものづくりと組織学習 & # 8226; 破壊的イノベーション & # 8226; 技術戦略と投資 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 10 回 項目 事例研究 内容 シャープ株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 11 回 項目 事例研究 内容 キヤノン株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 12 回 項目 事例研究 内容 ヤマト運輸株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 13 回 項目 事例研究 内容 トリンプ・インターナショナル・ジャパン株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 14 回 項目 事例研究 内容 三和酒類株式会社「いいちこ」 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 事例研究に関する論文記述 授業外指示 企業事例に対する論述問題

成績評価方法(総合) 1) 試験を中間、期末の2回実施する。2) 所定の出席に満たない場合は単位を与えないことがある

教科書・参考書 教科書：毎回講義プリントと補助教材を配布、事例研究においては、ケース教材を配布。
 / 参考書：最強の「ジャパンモデル」、柳原一夫、大久保隆弘、ダイヤモンド社、2002年；シャープの「ストック型」経営、柳原一夫、大久保隆弘、ダイヤモンド社、2004年；ヤマトは我なり！、大久保隆弘、ダイヤモンド社、2003年；早朝会議革命、大久保隆弘、日経BP社、2003年；競争の戦略、M・E・ポーター、ダイヤモンド社、1982年；M・E・ポーター「競争優位の戦略」、ダイヤモンド社、1985年 D・A・アーカー「戦略立案ハンドブック」東洋経済新報社、2002年なども参考図書。プリントを配布。

メッセージ 製造業の経営企画部門、MBA、経営コンサルタント等の実務経験から、理論だけではなく、事例を豊富に盛り込んだ内容にしたいと思っています。

連絡先・オフィスアワー e-mail：tokubo@yamaguchi-u.ac.jp 通常、常盤キャンパス大学院技術経営研究科に所在

開設科目	投資論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 証券市場の仕組みと分析

授業の一般目標 投資論に関する基礎知識の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門知識の習得 思考・判断の観点：専門知識に基づき分析・判断できるか

授業の計画（全体） 投資とは、時間価値、企業分析、株式市場、債券、ポートフォリオ、行動ファイナンス デリバティブ

成績評価方法（総合） 後期試験・レポート・小テスト

教科書・参考書 教科書：入門証券論，榊原，有斐閣，2005年

開設科目	経営分析論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	羽生正宗				

授業の概要 経営分析とは、貸借対照表や損益計算書などの財務資料を分類、整理、比較、検討することによって、企業活動の実態を明らかにし、その将来を予測し、経営計画を立てることに役立つ技法である。複雑化、流動化の著しい近年の経済環境のもとでは、企業の経営実態を的確に把握することは非常に重要なことである。そこで講義では、経営分析の基礎を体系的に修得できるよう解説していく。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営分析の意義と目的 内容 企業を取り巻く環境は刻々と変化する。企業の体質を常に的確に把握しておくことや、他企業に比べた自社の強み弱みを計数管理に基づいて客観的に判断することが必要である。経営分析の意義と目的について学ぶ。
- 第 2 回 項目 経営分析の体系と方法 内容 経営分析の全体体系を概観的に学習した上で、具体的な分析手法としての (1) 比較分析、(2) 数値分析（実数分析、比較分析）(3) 非財務資料分析の分析手法と特徴について論ずる。
- 第 3 回 項目 財務諸表の内容と見方 内容 財務諸表の中でもまず貸借対照表を取り上げる。貸借対照表の見方と主要勘定科目の内容を解説し、資本構成（資本の中味、負債の中味）資産の構成（資産の中味）を把握する際の留意事項について論ずる。
- 第 4 回 項目 安全性の分析 内容 企業の安全性・健全性を検討する指標として、流動比率を中心に、当座比率、固定比率、固定長期適合比率、負債比率、資本構成比率などの指標の算出方法と利用時の留意事項について論ずる。
- 第 5 回 項目 回転率と安全性の総合的分析法 内容 資本回転率を基礎に回転率の意味と算出方法、計算上の留意点を論ずる。
- 第 6 回 項目 収益性の分析 内容 企業の収益力を示す損益計算書の見方とその内容を解説し、収益性を把握するための基礎を学習する。財務諸表から算出される投下資本と利益の関係、資本利益率、自己資本利益率などについて論ずる。
- 第 7 回 項目 売上と利益 内容 各段階の利益項目を確認した上で売上総利益率、売上原価率、売上営業利益率、売上経常利益率、売上純利益率などの指標について論ずる。
- 第 8 回 項目 損益分岐点 内容 分析企業の運営実態を損益分岐点の算出という観点から、企業の経営改善の手法としての意義を確認する。さらに実施する際に必要な費用区分を固定費・変動費に分けて論ずる。
- 第 9 回 項目 費用分解の方法 内容 費用分解の手法としての勘定科目法、総費用法、スキャター・グラフ法、最小自乗法による変動費・固定費の分解方法について、それぞれの特徴と利用上の留意点について論ずる。
- 第 10 回 項目 損益分岐点 内容 図表の作り方と損益分岐点の業種別特徴損益分岐点図表作成の原理を理解した上で、各自が実際にグラフ用紙を用いて図表を作成する。
- 第 11 回 内容 損益分岐点比率と経営安全率損益分岐点分析の応用としての損益分岐点比率（不況抵抗力）や、経営安全率、不況ショック度などについて算出方法やその意義を論ずる。
- 第 12 回 項目 付加価値分析 内容 企業の経済活動は付加価値を新たに付加することに意義がある。まず付加価値の計算方法を学び、さらにそれを労働生産性、資本生産性という2つの要素に分けた分析手法について論ずる。
- 第 13 回 項目 キャッシュ・フロー計算書 内容 キャッシュ・フロー計算書の仕組みを理解した上で、営業キャッシュ・フロー、投資キャッシュ・フロー、そして財務キャッシュ・フローの構造を論ずる。
- 第 14 回 項目 キャッシュ・フロー分析 内容 第三の基本財務諸表であるキャッシュ・フロー計算書を使って企業の財務構造の分析方法を論ずる。
- 第 15 回 項目 学期末試験

成績評価方法（総合）出席 20%、レポート 30%、期末試験 50%

教科書・参考書 教科書：テキストは特に使用せず、講義ノートによる授業を行う。必要に応じて統計データや資料を配布し、その解説を行う。各種指標計算や損益分岐点図表の作成などを授業内で行う。

開設科目	経営史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 授業の概要 歴史に学ばない者は、また現在を知らない。周知の名言です。いま私たちがどのようなビジネス社会に暮らしているかを認識することは、将来の就職先を選ぶ上でも、またビジネスの世界に身を置いて活躍する上でも、非常に重要なことでしょう。現代の企業社会の目まぐるしい変化が、身近には雇用構造の変化に伴う求人態様の変化となって現れています。そうした激変の波に飲み込まれて自分の進むべき進路を見失わないためにも、経営史、つまりビジネス・ヒストリー（Business History）に学ぶ意義は小さくないでしょう。アメリカのハーバード大学で20世紀中葉にビジネス・ヒストリーの教育研究体制が確立された背景には、そうした理由もあるように思います。半世紀を経て、国際ビジネスはますます全世界を巻き込み、各国間の時間・情報・移動の距離を縮め、生態系環境を激変させ、伝来の社会を席卷するなかにあって、みなさんが自分の進路を見失わないためにも、それに学ぶ意義は、よりいっそう大きくなっています。現在の世界経済を動かし社会の変化に大きな影響力を及ぼしている国際ビジネスの世界では、何が起きているのでしょうか。現在の国際ビジネスの実状に目を向け、その特徴を概観するなかで、国際ビジネスの進化のプロセスを歴史的視点から見つめ直すのが、この講義のテーマです。日本をはじめとする世界の企業・経営システムには、何が起きているのか。何が変化しつつあるのか。そもそも国際ビジネスを展開する企業は、いかなる状況下で歴史的に変貌してきたのか。またどこへ向かって更なる変貌を遂げようとしているのか。現代企業は、大企業だけでなく、中小企業を含めて、どのような方向へ歩もうとしているのか。そうした疑問を解き明かすために、企業と経営の歴史を遡り、現代企業・経営システムを生み出してきた歴史的プロセスを検討することにします。そして、国際ビジネスの更なる進化への方向を展望してみたいと思います。具体的な事例も、とくに自動車産業を中心に取り上げます。 / 検索キーワード 国際ビジネスの進化、現代企業の系譜

授業の一般目標 (1) 現代国際ビジネスを展開する企業の事業展開や戦略について、何が問題になっているかを知る。(2) 現代企業が歴史的にどのようなプロセスをへて進化・発展してきたのかについて、理解する。(3) 現代企業の経営戦略と組織がどのようにして進化・発展してきたかについて、理解する。(4) 現代企業のサバイバル競争とマネジメントの基礎問題について、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 企業経営史の基礎知識を身に付ける。とくに現代企業とそのマネジメントの出現及び進化について、理解を深めること。 思考・判断の観点： 現代のマネジメントとはどのようなものか。それは、どのような進化を辿って今日に至ったのかを理解し、企業経営の諸問題を把握する思考力を養うこと。 関心・意欲の観点： 企業とマネジメントの歴史的進化について、関心を持ち、積極的にビジネス社会について、そのシステムを知ろうとする意欲が必要である。 態度の観点： 授業では、完全出席し、積極的に学ぶ姿勢が重要である。積極的な質問や問題提起は大歓迎である。 技能・表現の観点： 積極的に質問し、あるいは問題提起を行い、自分の見解を理路整然と表明できることが望ましい。 その他の観点： 講義では、パワーポイントを使う。受講ノートを自分の理解力と要点要約力を身に付けてもらいたいとの観点から、敢えて印刷物は配布しない。受講者は、単に書き取り作業をするのではなく、意識的に講義内容の要点を理解し、それをノートに書き留める訓練をしていただきたい。

授業の計画(全体) 授業は、一応、以下のような内容を取り扱う予定ですが、状況に応じて、新しい話題やビデオ等を活用した情報等も提供しますので、必ずしも、下記のプログラム通りではありません。 1. 現代企業と国際ビジネス (1) 国際ビジネスの実状と歴史的進化のプロセス (2) 現代国際ビジネスと企業をどのように理解すべきか 2. 現代企業の誕生と進化の歴史的プロセス (3) 現代企業誕生への遡源 (4) 現代企業誕生と市場拡大 (5) 新産業の出現と新ビジネス (6) 巨大企業の出現と企業システムの変化 (7) 経営学と経営者 (8) 戦争、革命、恐慌、体制転換と企業 (9) イノベーションとビジネス (10) イノベーションとビッグ・ビジネス誕生 (11) 科学技術と企業 (12) 特許と大企業 (13) 企業の組織的研究開発 (14) 国際技術移転 3. 経営戦略の進化

と組織 4 . 市場とマーケティング 5 . 経営組織の形成と進化 6 . 労務管理の発達と進化 7 . 財務管理の発達と進化 8 . 経営理念と企業カルチャー

成績評価方法 (総合) 期末試験実施 (自筆ノートのみ持ち込み可)。成績には、出席度合いを反映させます。またその都度の小テストやレポートを課すことがある場合、それらも同様に成績評価に反映させます。質問・討論時間を設けますので、積極的に質問・討論をして、勉学意欲を示した方を高く評価し、成績に大きく反映します。

教科書・参考書 教科書：『経営学をやさしく学ぶ』山口大学経済学部経営学科編、中央経済社、2005年の中の「経営史」は必読です。 / 参考書：『現代経営史』藤井・井上編、古川他9名執筆、ミネルヴァ書房、1999年

メッセージ グローバル・ビジネスの現状と歴史に関心を持ち、自分がかかるビジネス社会にどのように関わっていくのかを考えてほしい。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に、面会可

開設科目	日本経営史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 授業の概要： 明治期から平成の現代までの日本企業の経営史を取り上げます。19世紀末には、欧米先進諸国とくにイギリス、アメリカ、それに続いてフランス、ドイツでは産業革命を経て、逸早く産業発展させていました。すでに蒸気機関をベースにした鉄道が発展し、電信や電話が発展し始めていました。日本は、徳川幕藩体制の封建社会であった「江戸時代」(徳川家康が江戸に幕府を開いた1603年から、徳川慶喜が大政奉還を行なった1867年までの265年間の時代：徳川時代)の末の時代です。1854年、蒸気船で浦賀にやってきたペリーは日本に電信を持ち込み、電線を1kmほど引いて、公開実験をおこなったと言われます。電話は1854年にフランスのブルサールが理論的な提案をしました。その後1876年にグラハム・ベルが米国特許を取得し、普及していきました。フランスのエッフェル塔はパリの象徴ですが、フランス革命100周年を記念して、1889年のパリ第4回万国博覧会のために建造された。日本は明治期に入ると、世界の産業発展に追いつくために、欧米の産業技術を導入し、近代化を推進しました。財閥が生れたのも明治でした。20世紀に入って、日本は2つの世界大戦を経験した後、明治初期から70年近くを経て1970年代には高度経済成長を実現し、1980年代には国際舞台で競争力を争うビジネス活動を展開するようになり、1980年代後半から1990年代初頭にかけて「バブル景気」(好景気)を、その後「バブル崩壊」を経験して、今日に至っています。島国の日本は近代社会に入って100年という短期間に世界経済の舞台で影響力を与える産業力を実現しています。学生の皆さんの祖父母の親(曾祖父母)は明治生まれでしょう。僅か3世代前は明治です。なぜ、日本はアジア諸国の中で、このような短期間に産業を高度に発展させたのでしょうか。日本は、アジアの中でも、産業を逸早く高度に発展させた珍奇な国と言えるのでしょうか？今日、アメリカではサブプライム問題に起因して経済的失速が危惧される中で、中国やインドが世界経済に大きな影響力を与える国に成長してきています。日本企業も、グローバルに事業展開する企業と、国内市場に限定した事業を展開する企業とでは、その将来に明暗を分けるであろうとの予想が出ています。 以上のような問題意識から、日本企業の誕生と発展、経営システムとその変化などを中心に、講義を行います。 / 検索キーワード 国際ビジネスの進化、現代企業の系譜

授業の一般目標 (1)現代国際ビジネスを展開する日本企業とは、どこから来て、どこへ行こうとしているのか、考える。(2)現代日本企業は、歴史的に、どのようなプロセスをへて進化・発展してきたのかについて、理解する。(3)現代日本企業の経営戦略と組織は、歴史的に、どのようにして進化・発展してきたかについて、理解する。(4)明治期、大正期、昭和期、平成期の企業の特徴と相違を理解し、現代日本企業について、その特質を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 企業経営史の基礎知識を身に付ける。とくに明治から今日までの日本企業とそのマネジメントの進化について、理解を深めること。 思考・判断の観点： 日本企業とそのマネジメントとは、どのようなものなのか。それらは、どのような進化を辿って今日に至ったのかを理解し、企業経営の諸問題を把握する思考力を養うこと。 関心・意欲の観点： 企業とマネジメントの歴史的進化について、関心を持ち、積極的にビジネス社会について、そのシステムを知ろうとする意欲が必要である。 態度の観点： 授業では、完全出席し、積極的に学ぶ姿勢が重要である。積極的な質問や問題提起は大歓迎である。 技能・表現の観点： 積極的に質問し、あるいは問題提起を行い、自分の見解お理路整然と表明できることが望ましい。 その他の観点： 講義では、パワーポイントを使う。受講ノートを自分の理解力と要点要約力を身に付けてもらいたいとの観点から、敢えて印刷物は配布しない。受講者は、単に書き取り作業をするのではなく、意識的に講義内容の要点を理解し、それをノートに書き留める訓練をしていただきたい。

授業の計画(全体) 授業は、一応、以下のような内容を取り扱う予定ですが、状況に応じて、新しい話題やビデオ等を活用した情報等も提供しますので、必ずしも、下記のプログラム通りではありません。 1. 現代日本企業と国際ビジネス (1)国際ビジネスの実状と歴史的進化のプロセス (2)現代国際ビジネスと日本企業をどのように理解すべきか 2. 現代日本企業の誕生と進化の歴史的プロセス (3)現代日本企業誕生への遡源 (4)現代日本企業誕生と市場拡大 (5)日本の産業の出現とビジネス

(6) 日本巨大企業の出現と企業システムの変化 (7) 日本の経営者と日本の経営学 (8) 戦争 , 革命 , 恐慌 , 体制転換と日本企業 (9) 日本企業のイノベーションとビジネス

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 日本企業小史 1
- 第 3 回 項目 日本企業小史 2
- 第 4 回 項目 明治期日本企業 1
- 第 5 回 項目 明治期日本企業 2
- 第 6 回 項目 明治期日本企業 3
- 第 7 回 項目 明治期日本企業 4
- 第 8 回 項目 大正期日本企業 1
- 第 9 回 項目 大正期日本企業 2
- 第 10 回 項目 昭和期日本企業 1
- 第 11 回 項目 昭和期日本企業 2
- 第 12 回 項目 昭和期日本企業 3
- 第 13 回 項目 グローバル日本企業 1
- 第 14 回 項目 グローバル日本企業 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 期末試験実施 (自筆ノートのみ持ち込み可)。成績には、出席度合いを反映させます。またその都度の小テストやレポートを課すことがある場合、それらも同様に成績評価に反映させます。質問・討論時間を設けますので、積極的に質問・討論をして、勉学意欲を示した方を高く評価し、成績に大きく反映します。

教科書・参考書 教科書：『経営学をやさしく学ぶ』山口大学経済学部経営学科編、中央経済社、2005 年の中の「経営史」は必読です。 / 参考書：『現代経営史』藤井・井上編、古川他 9 名執筆、ミネルヴァ書房、1999 年

メッセージ グローバル・ビジネスの現状と歴史に関心を持ち、自分がかかるビジネス社会にどのように関わっていくのかを考えてほしい。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に、面会可

開設科目	欧米経営史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 受講生の皆さんは、欧米経営史に何を学ぶのでしょうか。ドイツの天才知識人で政治家でもあったゲーテは言いました。「三千年の歴史から学ぶことを知らぬものは、知ることもなく、闇の中にいよ。その日その日を生きるとも。」また次のようにも言いました。「世界歴史の中に生きるものは瞬間を標準とすべきであろうか。時代を洞察し、時代に働きかけるもののみが、語り、且つ詩を作るに値する。」ゲーテの言葉から、私たちは多くを学びます。経営史的には、皆さんは、経営史に学ぶことで、将来、企業社会に身を置いて現代のビジネスを洞察し、自分の行き方をもって時代に働きかけるでしょう。そしてビジネスの歴史、つまりビジネスヒストリー（経営史）では、世界の歴史の中で逸早く企業活動を始めた欧米の人々がどのようなビジネスの歴史を作ってきたのか、それは今日のグローバルなビジネス活動にどのような影響を与えているのか、といったことをこの講義で学べるでしょう。再びゲーテの言葉を借りると、「人間こそ、人間にとって最も興味あるものであり、おそらくはまた人間だけが人間に興味を感じさせるものであろう。」とっています。まさに欧米のビジネスヒストリーを作ってきたのは、欧米の人々、企業家や経営者たち、技術者たちです。また企業に生活の糧を求めてきた労働者たちも忘れてはならないでしょう。今日、西洋と東洋のビジネスはもはや分かたつことのできないものです。しかし違いもあるように思われます。本講義では、欧米経営史の世界に皆さんの思索を飛翔させて、産業出現にまで時代を遡り、やがて19世紀末から20世紀初頭に出現するビッグ・ビジネスの時代を旅して、今日のグローバル・ビジネスの時代へ戻ってきたいと思います。講義内容を大きく分けると、(1)会社の誕生、(2)ビッグ・ビジネスの成立、(3)グローバル競争時代、(4)経済倫理の時代、となる予定です。/検索キーワード 経営史、経営学、ビッグ・ビジネス、イノベーション

授業の一般目標 将来、ビジネスの世界に身を置いて、自分がどのような時代に生きていて、ビジネスマンとして時代にどのように働きかけているかを意識できるような経営史観を養うことが肝要です。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：欧米企業の経営史の基本的知識を習得すること。 **思考・判断の観点**：なぜ欧米経営史を学ぶ必要があるかを認識すること。 **関心・意欲の観点**：将来の就職を考えて、ビジネスの歴史を学ぶこと。 **態度の観点**：受講の礼儀を重視します。授業中に飲食物の持ち込み、帽子・マフラーの使用、私語を行うことを禁止します。やむを得ない方は事前にお知らせ下さい。違反者は、即座に単位取得不可とします。 **技能・表現の観点**：積極的に質問すること。また質問を受けた場合には、積極的に答え、授業に参加すること。

授業の計画（全体） (1)会社の誕生、(2)ビッグ・ビジネスの成立、(3)グローバル競争時代、(4)経済倫理の時代

成績評価方法（総合） 試験を実施します。また授業出席を重視します。試験は自筆ノートのみを持ち込み可としますので、しっかりノートを作成してください。

教科書・参考書 教科書：指定なし / 参考書：経営史に関する図書であれば、何を参考にしてもよい。

メッセージ 昔、ある経済学者が「すべてを疑え」と言いました。ゲーテは言います、「もし疑うことがなかったら、確実なことを知る喜びがどこにある？」とね。講義での話しを疑ってみて下さい。そして、考えましょう!!

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に面会可能。

開設科目	企業論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河村榮				

授業の概要 企業は経営計画で戦略を構築し、予算で経営資源の最適配分をはかりながら、成長と適正利益を確保し、雇用維持と企業価値の最大化につとめている。さらに、日本市場での事業拡大には限界があるために、多くの企業がグローバル化を推進しており、企業経営は難しい局面にある。このような環境下における企業行動の考察と、Case Study で実際の事業戦略や経営戦略を学習することにより経営の基本的な知識を習得する。 / 検索キーワード 企業の目標は成長と利益により、社会的責任を果たすことである

授業の一般目標 企業が直面している諸問題（社会的責任、企業統治、組織形態、事業戦略、財務戦略など）などを通して、経営の基礎知識と実践力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業生成の歴史及び企業が抱える諸問題を学習すると同時に、経営戦略・財務戦略・労務戦略などを理解する 思考・判断の観点：問題に直面した場合に、論理的に考えて自分で解決できる思考力を養う 関心・意欲の観点：新聞や経済雑誌に掲載される企業に関連する記事に関心を持つことが重要

授業の計画（全体） 企業における経営理念、財務、組織などの役割や仕組みを学習すると共に、企業価値最大化、企業に内在するリスク、経営のグローバル化などに企業はどのように対処しているかを事例で考察し、経営の基本的な知識を習得する。実際の事例やDVDを活用し、理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 企業と経営理念 内容 企業経営において経営理念がなぜ必要かを事例を基に学習する
- 第 2 回 項目 企業組織と企業統治 内容 企業経営の組織形態とコーポレートガバナンスを事例で学習し、その実態を理解する
- 第 3 回 項目 CSRとSRI 内容 企業の社会的責任と社会的投資の関係を学習し、企業の役割を考える
- 第 4 回 項目 リスクマネジメント 内容 企業に内在するリスクについて学習し、企業の取り組みについて考察する
- 第 5 回 項目 企業と内部統制 内容 不祥事の事例を基に内部統制と牽制機能の役割を考察する
- 第 6 回 項目 企業価値とM&A 内容 企業価値とは何かについて学習し、価値向上の戦略を考察する
- 第 7 回 項目 事例研究（1） 内容 企業の事例を基に考察する
- 第 8 回 項目 企業と経営計画 内容 経営計画の目的・プロセスを学習し、経営への活用について考察する
- 第 9 回 項目 事例研究（2） 内容 企業の事例を基に考察する
- 第 10 回 項目 企業と企業財務 内容 企業における財務の目的・役割を学習し、その戦略を考察する
- 第 11 回 項目 事例研究（3） 内容 企業の事例を基に考察する
- 第 12 回 項目 経営と資本政策 内容 負債と資本の基礎を学習し、その戦略を考察する
- 第 13 回 項目 経営のグローバル化 内容 経営のグローバル化について学習し、海外事業の経営現地化についての基礎知識を習得する
- 第 14 回 項目 事例研究（4） 内容 企業の事例を基に考察する
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 授業中のミニ・テスト（4回実施）と期末レポート（1回）の合計5回の総合評価とする。合格最低条件はミニ・テスト（2回）と期末レポート（必修）の合計3回以上とする。

教科書・参考書 教科書：適宜指定する / 参考書：適宜紹介する

メッセージ 授業は実例を中心とした内容にし、自分で考えることを重視したい

連絡先・オフィスアワー 内線：5601（山口）研究棟1号館305室（火曜日は一日中在室） 9066
（宇部 大学院技術経営研究科）

開設科目	新事業創造論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村 伸一				

授業の概要 この授業では、ビジネスにおいて、なぜ新事業を創造する事やプロジェクトを興す事が重要なのかを実例や講義を通して学び、実際にビジネスプランを作成していきます。具体的には、基本的な組織、マーケティング、経営戦略・戦術を講義にて学習し、社会情勢やビジネス情報から新事業のアイデアを考え、ビジネスプランを作成し、プレゼンテーションができるまでを行います。ビジネスプラン作成においては、ワークショップを用いますので、実践形式の授業になります。また題材として地域資源の活用(ブランド化)も取り上げます。ビジネスプラン作成では、パワーポイントを使います。/検索キーワード 創業、ベンチャー、新事業、事業計画、ビジネスプラン、プロジェクト 地域資源、マーケティング、ブランド化

授業の一般目標 1. ビジネス情報の収集方法を習得する。 2. ビジネスプランの作成を理解する。 3. 自ら考えたアイデアやワークショップにて生まれたアイデアをもとにビジネスプランを作成するとともに、その内容を第3者に発表して理解させることができること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 組織形態の概要を知ること。経営(収支や経費等)に関する概要を知ること。 思考・判断の観点： アイデアをデザインしていく思考力と、プランに落していく判断力をつける。 関心・意欲の観点： 常に情報収集や社会情勢を把握しようとする意欲 地域資源に関して関心を持つこと。 その中から、ビジネスチャンスを見つけ、ビジネスアイデアとしてプラン化できること。

態度の観点： インディペンデント(自立)した観点で、判断していく事。 技能・表現の観点： さまざまなツールを利用して、自らの考えを他人に理解してもらえるようにすること。 パワーポイントを利用したプレゼンテーション用資料の作成。 その他の観点： ワークショップでは積極的にコミュニケーションをとり、人とのつながりを作る

授業の計画(全体) この授業は、講義と実習があります。講義では、講師が実際のビジネスから学んだ事を、実例を織り混ぜながら進めていきます。実習では、アイデア デザイン プラン プレゼンテーションという段階を進んで、事業もしくは、ビジネス・プロジェクトを生み出していきます。ビジネスにおいては、コミュニケーションを円滑に行うことや自分の考えを持つことが重要ですので、授業の中にこの2つの要素を盛り込んでいきます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 新事業創造論の概要説明と講師のプレゼンテーション
- 第 2 回 項目 ビジネスアイデアの考え方 内容 情報収集の方法や関心ごとを洗い出す。地域資源の活用について
- 第 3 回 項目 ビジネスアイデア実習 内容 ワークショップ 授業外指示 事前にアイデアを考えておくこと
- 第 4 回 項目 ビジネスアイデアの発表 内容 ワークショップ
- 第 5 回 項目 ビジネスデザイン(組織面) 内容 ビジネスを行うにあたってのプロジェクト思考と組織体系について 授業外指示 アイデアをまとめておくこと
- 第 6 回 項目 マーケティング 内容 販売展開を考える
- 第 7 回 項目 ファイナンス 内容 事業計画を作るための収支について考える
- 第 8 回 項目 ビジネスプラン作成方法
- 第 9 回 項目 ビジネスプラン作成(1) 内容 パワーポイントを使って実習
- 第 10 回 項目 ビジネスプラン作成(2) 内容 パワーポイントを使って実習
- 第 11 回 項目 ビジネス・プランのプレゼンテーション 内容 学生によるプレゼン。
- 第 12 回 項目 ビジネス・プランの修正(1)
- 第 13 回 項目 ビジネス・プランの修正(2)
- 第 14 回 項目 最終プレゼンテーション 内容 学生によるプレゼン。
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 1.出席 2.授業での発表・質問 3.ビジネスアイデアの内容 4.ワークショップでの取り組み姿勢 5.ビジネスプランの内容 6.プレゼンテーション

教科書・参考書 教科書：当面、用いる予定はないが、必要となったときはそのときに知らせる。

メッセージ この事業では、教科書に無い、実際に会社を運営する上で起こることも講義の中に織り交ぜながら進めていきます。アイデアは、自分で考えるだけでは生まれてきません。学生同士でディスカッション議論する場も作っていきますので、議論に参加しない学生には単位を出しません。モチベーションが高く、好奇心のある学生でないと授業についてこれません。この点を十分に踏まえた上で、履修するか否かを判断してください。

開設科目	多国籍企業論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 多国籍企業とは海外に自らの子会社を設立して事業活動を展開している企業のことです。この講義では、なぜ企業は多国籍化するのか、多国籍化によって生じる問題点や課題などについて理論と事例を交えながら学習します。

授業の一般目標 1．多国籍化の理論の習得 2．日本企業の多国籍化の歴史と現状を振り返る。 3．小売業の多国籍化について考える。 4．多国籍企業の今後について展望する。

授業の計画(全体) 多国籍化とは何かを具体的に紹介した後に、多国籍化について説明した理論を学習する。次いで日本企業の多国籍化の歩みを時代別・産業別に振り返り、日本の多国籍企業の今後について展望する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の全体計画と履修上の注意、および期末テストについての説明
- 第 2 回 項目 多国籍化とは 内容 具体例を踏まえながら、多国籍化と国際化はどのように違うのか、なぜ企業は多国籍化するのか、などについて考える。
- 第 3 回 項目 多国籍企業論 1 内容 ハイマー理論
- 第 4 回 項目 多国籍企業論 2 内容 ハイマー理論の続き
- 第 5 回 項目 多国籍企業論 3 内容 パーノン理論
- 第 6 回 項目 多国籍企業論 4 内容 パーノン理論の続き
- 第 7 回 項目 日本企業の多国籍化の歩み 1 内容 戦前
- 第 8 回 項目 日本企業の多国籍化の歩み 2 内容 戦後から 1984 年まで
- 第 9 回 項目 日本企業の多国籍化の歩み 3 内容 1985 年以降
- 第 10 回 項目 小売業の多国籍化 1 内容 製造業の多国籍化との違いについて説明
- 第 11 回 項目 小売業の多国籍化 2 内容 日本の小売業の多国籍化の動向
- 第 12 回 項目 小売業の多国籍化 3 内容 事例研究
- 第 13 回 項目 外資小売業の日本進出 1 内容 全体動向
- 第 14 回 項目 外資小売業の日本進出 2 内容 事例研究
- 第 15 回 項目 外資小売業の日本進出 3 内容 事例研究

成績評価方法(総合) 期末テスト

メッセージ テキストは別途指定します。

開設科目	経営工学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	橋本寛				

授業の概要 PERT、CPM、流量問題、最短経路問題などのネットワークで表現される計画問題を取り上げ、それらの解法と応用について平易に解説する。

授業の一般目標 PERT、CPM、流量問題、最短経路問題などの基本的なネットワーク計画問題を理解するとともにそのアルゴリズムの考え方について学ぶ。

授業の計画(全体) PERT(結合点時刻、全余裕、クリティカルパスなど)、CPM(標準所要時間、特急所要時間、作業時間の短縮)、流量問題(最大流量、最小カット、解法、最小費用流など)、最短経路問題(解法と例題など)

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 PERT および CPM
- 第2回 項目 アローダイアグラム
- 第3回 項目 作業リスト
- 第4回 項目 結合点時刻
- 第5回 項目 全余裕
- 第6回 項目 クリティカルパス
- 第7回 項目 計算表による時刻の計算
- 第8回 項目 例題
- 第9回 項目 自由余裕
- 第10回 項目 山積表
- 第11回 項目 作業時間の推定
- 第12回 項目 実行可能性
- 第13回 項目 CPM
- 第14回 項目 標準所要時間
- 第15回 項目 特急所要時間
- 第16回 項目 費用ネットワーク
- 第17回 項目 作業時間の短縮
- 第18回 項目 例題
- 第19回 項目 最大流量問題
- 第20回 項目 最小カット
- 第21回 項目 問題の解法
- 第22回 項目 流れの改善
- 第23回 項目 最小費用流問題
- 第24回 項目 プライマルデュアル法
- 第25回 項目 例題
- 第26回 項目 多期間生産販売モデル
- 第27回 項目 最短経路問題
- 第28回 項目 解法
- 第29回 項目 例題
- 第30回 項目 補足

成績評価方法(総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：使用しない。

メッセージ 出席して理解するのが能率的

連絡先・オフィスアワー 経済学部A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	情報科学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	成富敬				

授業の概要 情報技術の理解をとおして、情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて述べる。また、電子商取引やネットワーク犯罪等、最近の話題についても学習する。

授業の一般目標 情報技術や情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて理解する。

授業の計画(全体) 1. コンピュータ 2. ネットワーク 3. プログラミング 4. データ構造とアルゴリズム 5. データベース 6. 情報システム 7. 最近の話題その他

成績評価方法(総合) 試験と出席および提出物で評価する。

開設科目	情報処理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	成富敬				

授業の概要 経営科学におけるいろいろな問題をとりあげ，数理的あるいはコンピュータを用いたアプローチ方法について学習する．

授業の一般目標 経営科学におけるいろいろな問題に対する数理的あるいはコンピュータを用いた解決方法を習得する．

授業の計画（全体） 1. データの処理と分析 2. コンピュータによる問題解決 3. 最適化 4. 需要予測 5. 意思決定

成績評価方法（総合） 試験と出席および提出物で評価する．

メッセージ 情報科学の単位を修得していることが望ましい．

開設科目	経営数学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 経営に関わる問題のうち、数値計算を伴うものについて学ぶ。具体的には、「損益分岐点分析」や「金利の影響を考慮した資金計画」、「資源配分問題(資源制約下での最適化問題)」等を、すでに確立している分析手法を用いて問題解決する。また、数回はパーソナルコンピュータを使用できる教室へ移動し、それらの理論を簡単な数値例で実証する。/ 検索キーワード 損益分岐点分析、関数、グラフ、資源配分問題、線形計画法

授業の一般目標 数学を使った分析によって、経営に関わる様々な概念とそれらの相互作用に対する理解を深め、論理的思考力も養う。経営に関わる色々な量が、経営全体にどのようなインパクトを与えるかについても考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 利益、費用、収益(率)、資金の時間的価値、経営資源の制約下での最適化等の問題に関して正しい分析ができるようにする。問題を関数やグラフで表現して解を得る一般的な数学の知識と、問題全体から数量化できる側面を正しく抽出できる洞察力も身につける。思考・判断の観点: 経営に関わる問題の数量的な要因を正しく取り扱ったうえでの判断ができる。関心・意欲の観点: さまざまな"量"が、"経営"にどのような影響力をもつかについての関心があることが最低条件です。態度の観点: 計算問題を解く場面では、個々人の計算の速さが授業進行に大きく影響を与える。授業進行の流れに乗るには、適度な緊張感が必要である。

授業の計画(全体) 1次関数を使用した損益分岐点分析について、数と関数に関する一般的な理解を深める。資金の時間的価値を投資判断に適用する問題に合わせて、金利計算の仕組みを学ぶ。電卓では解けない問題を計算機(パーソナル・コンピュータ)で解くことも経験する。資源制約下での最適化にあわせて数理計画問題(線形計画問題)の基本を学ぶ。実習ではExcelのゴールシークやソルバーを使う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 損益分岐点分析、金利の計算、資源配分などの概要を知る
- 第2回 項目 損益分岐点分析の準備 内容 直線のグラフと交点について。
- 第3回 項目 関数の式とグラフによる損益分岐点分析 内容 パーソナル・コンピュータ上での直線のグラフ
- 第4回 項目 損益分岐点を求める 内容 Excelのゴールシークによる損益分岐点分析
- 第5回 項目 利益とWhatIf分析 内容 グラフの平行移動
- 第6回 項目 損益分岐点分析のまとめと金利について 内容 知識の確認と等比数列
- 第7回 項目 資金の時間的価値 内容 現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数、資本回収係数、減債基金係数
- 第8回 項目 資金の時間的価値と投資計画 内容 ゴールシークを使用した資金の時間的価値の求め方
- 第9回 項目 複数の投資案の比較 内容 資金の時間的価値の適用問題
- 第10回 項目 資金の時間的価値まとめ 内容 知識の確認
- 第11回 項目 資源の配分 内容 線形計画法
- 第12回 項目 資源の配分 内容 Excelのソルバーによる線形計画法の解法
- 第13回 項目 資源の配分 内容 感度分析等
- 第14回 項目 全体のまとめ
- 第15回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 定期試験70%、授業時の小テスト20%、態度10%

教科書・参考書 教科書: 基礎から学ぶ経営科学 - 文系の論理的な問題解決法 -, 高井徹雄編著, 税務経理協会, 2005年

連絡先・オフィスアワー E - m a i l : shibuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室はC棟2階です。在室中はいつでも入室して結構です。

開設科目	会計学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 会計原則、会計の基礎概念の把握した上で、財務諸表が企業の実態をどのように示す構造となっているのか。また会計ビッグバンとよばれた会計制度の大幅な変更により、どのような変化が生じたのかについて考えていきたい。/検索キーワード 財務諸表、会計基準、国際化

授業の一般目標 会計の役割を理解し、利害関係者にとって有用な情報とはどのようなものを把握してもらう。

授業の計画(全体) テキストに沿って進める。

成績評価方法(総合) 課題提出、試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：会計学の基礎, 氏原茂樹, 中央経済社, 2008年; わしづかみ経営分析, 田中弘, 中央経済社, 2008年

メッセージ 積極的な参加を望みます。

連絡先・オフィスアワー a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	税務会計論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	米谷 健司				

授業の概要 経営者の目的が企業価値の最大化であるならば、キャッシュの増減をもたらす税金が企業の投資上の意思決定（あるいは事業上の意思決定）に与える影響はかなり大きい。本講義では、こうした税金の影響を分析・評価するうえで必要となる税務会計の基本的なフレームワークを解説する。

授業の一般目標 税務会計に関する基本的なフレームワークの理解を目的とする。税務会計の基本は課税所得の計算方法（あるいはその理論的背景）を理解することであるが、本講義では企業の投資意思決定と税金の関係や財務報告上の会計利益に与える税金の影響についても考察する。

授業の計画（全体） 講義の大部分は課税所得の計算方法の説明にあてる。それを踏まえたうえで、実際に企業の投資上の意思決定（あるいは事業上の意思決定）と税金がどのように関係しているのかを説明する。

成績評価方法（総合） 講義への貢献（10％）、数回の課題提出（20％）および期末試験（70％）によって総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書はとくに指定しない。 / 参考書：講義中に適宜、紹介する。

開設科目	会計監査 1	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	栗林栄太				

授業の概要 現在の監査の中心である財務諸表監査が生成されることになった歴史的背景を学習するとともに、財務諸表監査の監査計画段階から監査報告書発行までの一連の監査手続について理解をする。

授業の一般目標 会計監査の用語の習熟、監査契約の締結、監査計画の策定から報告書作成・発行までの流れを理解するとともに外部監査人としての公認会計士の社会的役割についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財務諸表監査で用いられている専門用語についての説明ができる。

授業の計画（全体）財務諸表監査の生成の歴史、監査人の適格性について学習した後、監査実施のプロセス（監査計画、監査手続、監査報告書）の順に授業を進めていきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 財務諸表監査の枠組み 内容 財務諸表監査の意義
- 第 2 回 項目 財務諸表監査の生成と発展 内容 財務諸表監査の生成と発展及び日本における財務諸表監査制度の発展
- 第 3 回 項目 監査の目的と監査人の適格性 内容 二重責任の原則及び公認会計士法及び規律規則に基づく監査人の独立性等
- 第 4 回 項目 監査計画 内容 監査契約の締結から、監査計画の策定
- 第 5 回 項目 リスク・アプローチ 内容 リスクアプローチの解説
- 第 6 回 項目 内部統制 内容 内部統制の整備状況と運用状況
- 第 7 回 項目 試査とサンプリング 内容 試査とは
- 第 8 回 項目 監査要点と監査手続 内容 6つの監査要点及び合理的な基礎を得るための監査手続
- 第 9 回 項目 監査調書 内容 作成目的及び作成要件
- 第 10 回 項目 監査証拠 内容 監査証拠と合理的な監査証拠等
- 第 11 回 項目 合理的保証 内容 監査基準における保証の意味及び合理的な保証の意味すること等
- 第 12 回 項目 実質的判断 内容 平成 14 年の監査基準改訂で明示された実質的判断とは及び実質的判断と監査人の責任
- 第 13 回 項目 重要性の判断 内容 監査上の重要性とは。重要性の判断が適用される監査の局面とは
- 第 14 回 項目 監査報告書 1 内容 証券取引法監査及び商法特例法監査の下における監査報告書様式の理解
- 第 15 回 項目 監査報告書 2 内容 監査報告書の種類

成績評価方法（総合）成績評価は試験が 70%、出席が 30%。

教科書・参考書 教科書：新版監査論を学ぶ、八田進二編著、同文館出版 / 参考書：監査小六法、日本公認会計士協会編、中央経済社、2005年；参考書等に関しては、必要に応じ授業においてお知らせします。

メッセージ 監査の対象は財務諸表であるため、貸借対照表、損益計算書及びキャッシュフロー計算書等の基本財務諸表の知識があることが前提となります。したがって、最低、簿記 1 又は会計学を履修していることが必要です。

連絡先・オフィスアワー 在室中はいつでも質問にお答えします。

開設科目	会計監査 2	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	栗林栄太				

授業の概要 監査に関して基礎的な知識があることを前提に授業は進められます。授業の中心は、会計監査論 1 で取り上げなかった、より実践に即した監査手続き、その他の監査関連問題（内部監査、監査役監査等）になります。

授業の一般目標 監査の基礎だけでなく、応用・関連についても理解していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財務諸表監査の実践・応用他、内部監査や監査役監査についても理解すること。

授業の計画（全体） 会計監査論 1 で監査手続の一連の流れを理解していることを前提に、会計監査論 2 においては、その周辺問題を取り上げることになります。授業内容は、主に 1) 中間監査、2) 内部監査、3) 監査役監査、の順に進行していく予定です。

成績評価方法（総合） 成績の評価方法は、出席 30 % と成績（期末試験のみ）70 % です。

教科書・参考書 教科書：ベーシック監査論 [新版], 伊豫田 隆俊 著 / 松本 祥尚 著 / 林 隆敏 著, 同文館出版, 2006 年 / 参考書：新版監査論を学ぶ, 八田進二編著, 同文館出版, 2005 年

メッセージ 会計監査論 1 を履修後に履修してください。

連絡先・オフィスアワー 在室中はいつでも質問にお答えします。

開設科目	簿記 1 a	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村 弘				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をやることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送方費、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金過不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008 年

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	簿記 1 b	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村 弘				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をやることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送費
- 第 5 回 項目 現金および預金記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金過不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008 年

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	簿記 1 c	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村 弘				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をやることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的、貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送費、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金化不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008 年

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	簿記 1 d	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	米谷 健司				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的、貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送費、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金化不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

開設科目	簿記 2	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山下訓				

授業の概要 簿記 1 に続いて、いわゆる日商 2 級の商業簿記の水準を習得することが、この授業の概要である。

授業の一般目標 いわゆる日商 2 級の商業簿記の水準を習得する。ただし、本支店会計の部分は授業の進行を見て範囲に含めるかどうか決める。 1 簿記一巡手続 2 現金預金取引 3 有価証券取引 4 債権債務取引 5 手形取引 6 引当金取引 7 商品売買取引 8 特殊商品売買取引 9 固定資産取引 10 損益取引 11 株式会社取引 12 税金 13 決算

授業の計画(全体) 【全体】 株式会社における経済活動について 【週単位】 1 簿記一巡手続 2 現金預金取引 3 有価証券取引 4 債権債務取引 5 手形取引 6 引当金取引 7 商品売買取引 8 特殊商品売買取引 9 固定資産取引 10 損益取引 11 株式会社取引 12 税金 13 決算

成績評価方法(総合) 出席・課題提出等の平常点と試験を総合的に評価

教科書・参考書 教科書：新検定 簿記講義 <平成 20 年度版> 2 級 商業簿記, 加古宜士, 中央経済社, 2008 年; 開講時に指示する / 参考書：適宜指示する

メッセージ 原則として、簿記 1 を履修していることを前提としている。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 受講者と相談して決める。

開設科目	簿記 3	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山下訓				

授業の概要 簿記 2 に続いて、この授業では、連結会計財務諸表を作成する。

授業の一般目標 連結財務諸表、すなわち、連結損益計算書、連結貸借対照表、連結株主資本変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書を作成できるようにする。

授業の計画(全体) 1 100%子会社 2 少数株主が存在する場合 3 段階法と一括法 4 部分時価評価法と全部時価評価法 5 内部取引相殺消去 6 未実現損益消去 7 up stream 8 キャッシュ・フロー計算書 9 税効果会計

教科書・参考書 参考書：財務会計, 広瀬義州, 中央経済社, 2007 年

メッセージ 昨年度の会計学に利用した教科書の『財務会計』を参考書として利用する。あくまでも参考書であり、毎回プリントを用意する。い。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 受講者と相談して決める。

開設科目	商業簿記特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	河田一志				

授業の概要 公認会計士や税理士といった国家資格取得の土台となる日商簿記1級の内容のうち、商業簿記・会計学を中心に学習します。簿経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読む力、基礎的な経営管理や分析力を身につけることを目標とします。この商業簿記特論は財務会計特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。また、商業簿記特論は職業会計人コースの必修科目です。

授業の一般目標 日商簿記1級の内容のうち商業簿記・会計学を中心に学習し、11月検定での合格を目指します。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 総論・企業会計原則・簿記一巡
- 第2回 項目 一般販売・特殊商品売買
- 第3回 項目 長期請負工事
- 第4回 項目 棚卸資産
- 第5回 項目 固定資産・減損会計・繰延資産
- 第6回 項目 引当金・退職給付会計・社債
- 第7回 項目 資本・合併会計・会社分割
- 第8回 項目 確認テスト1
- 第9回 項目 金融資産・金融負債
- 第10回 項目 為替換算会計
- 第11回 項目 税効果会計
- 第12回 項目 本支店会計
- 第13回 項目 連結会計
- 第14回 項目 キャッシュフロー会計
- 第15回 項目 確認テスト2
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

成績評価方法(総合) 試験60% 確認テスト20% 出席20%

教科書・参考書 教科書: ALFA 商業簿記・会計学, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008年; ステップアップ問題集も利用する。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この商業簿記特論は財務会計特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	財務会計特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	河田一志				

授業の概要 日商簿記1級の内容のうち、商業簿記・会計学を中心に学習します。この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は、商業簿記特論を参照して下さい。なお、財務会計特論は職業会計人コースの必修科目です。

教科書・参考書 教科書：ALFA 商業簿記・会計学, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008年
 メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	工業簿記特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩寄昇				

授業の概要 日商簿記1級の内容のうち、工業簿記・原価計算を学習します。この工業簿記特論は原価計算特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。工業簿記特論と原価計算特論は職業会計人コースの必修科目です。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 原価・営業量・利益関係の分析
- 第 2 回 項目 予算編成
- 第 3 回 項目 事業部制
- 第 4 回 項目 業務的意志決定
- 第 5 回 項目 構造的意志決定
- 第 6 回 項目 戦略的原価計算
- 第 7 回 項目 単純個別原価計算・原価の費目別計算
- 第 8 回 項目 確認テスト 1
- 第 9 回 項目 部門別個別原価計算
- 第 10 回 項目 部門別計算
- 第 11 回 項目 実際総合原価計算
- 第 12 回 項目 全部原価計算・直接原価計算
- 第 13 回 項目 工程別総合原価計算・組別・等級別総合原価計算
- 第 14 回 項目 標準原価計算
- 第 15 回 項目 確認テスト 2
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

教科書・参考書 教科書：ALFA 工業簿記・原価計算, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008年；ステップアップ問題集も利用します。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この工業簿記特論は原価計算特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	原価計算特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩寄昇				

授業の概要 日商簿記1級の内容のうち、工業簿記・原価計算を学習します。この原価計算特論は工業簿記特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。詳細は、工業簿記特論を参照して下さい。なお、工業簿記特論と原価計算特論は職業会計人コースの必修科目です。

教科書・参考書 教科書：ALFA 工業簿記・原価計算, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008年
 メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この原価計算特論は工業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	法人税法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	香田一憲				

授業の概要 法人税は、法人が一事業年度に得た所得（もうけ）に対して課される国税です。ここでいう所得（もうけ）とは、損益計算書上の当期利益とはその範囲が若干異なるので、これを調整した上で、法人税額を計算することになります。このような調整項目を中心に学習します。この法人税法 I は法人税法 II と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。この法人税法 I・II は公認会計士試験を踏まえた内容になっています。職業会計人コース会計専攻 2 年生は履修すること。

授業の一般目標 納付税額の計算・条文理解を中心に、公認会計士試験の租税法を踏まえた、法人税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 会社計算と税務計算・別表四の作成（記入例）
- 第 2 回 項目 減価償却（通常・期中事業供用）・交際費等の損金不算入
- 第 3 回 項目 減価償却（通算・簿価・認容）
- 第 4 回 項目 受取配当等の益金不算入
- 第 5 回 項目 寄附金の損金不算入
- 第 6 回 項目 租税公課・納税充当金
- 第 7 回 項目 確認テスト 1・別表四の作成（留保・社外流出）・税額計算の概要
- 第 8 回 項目 試験研究費の特別控除
- 第 9 回 項目 受取配当等の益金不算入（証券投資信託）・同族会社・留保金課税の判定
- 第 10 回 項目 留保金課税
- 第 11 回 項目 減価償却（無形減価償却資産・償却可能限度額・少額減価償却資産・一括償却資産）
- 第 12 回 項目 貸倒引当金（一括評価）
- 第 13 回 項目 所得税額控除
- 第 14 回 項目 使途秘匿金
- 第 15 回 項目 確認テスト 2
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法（総合） 試験 60 % 出席 20 % 確認テスト 20 %

教科書・参考書 教科書：法人税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008 年

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この法人税法Ⅰは法人税法Ⅱと一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	法人税法 II	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	香田一憲				

授業の概要 法人税法の基礎的な内容を学習します。この法人税法 II は法人税法 I と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は、法人税法 I を参照して下さい。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この法人税法 II は法人税法 I と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	法人税法 III	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	香田一憲				

授業の概要 法人税は、法人が一事業年度に得た所得（もうけ）に対して課される国税です。ここでいう所得（もうけ）とは、損益計算書上の当期利益とはその範囲が若干異なるので、これを調整した上で、法人税額を計算することになります。このような調整項目を中心に学習します。この法人税法 III は法人税法 と一体で運営されます。履修にあたっては十分注意して下さい。なお、法人税 III・ は税理士試験を踏まえた内容になっているため、職業会計人コース税務専攻3年生は履修することが望ましい。

授業の一般目標 納付税額の計算・条文理解を中心に、税理士試験の法人税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 会社計算と税務計算・別表四の作成（記入例）
- 第 2 回 項目 減価償却（通常・期中事業供用）・交際費等の損金不算入
- 第 3 回 項目 減価償却（通算・簿価・認容）
- 第 4 回 項目 受取配当等の益金不算入
- 第 5 回 項目 寄附金の損金不算入
- 第 6 回 項目 租税公課・納税充当金
- 第 7 回 項目 確認テスト 1・別表四の作成（留保・社外流出）・税額計算の概要
- 第 8 回 項目 試験研究費の特別控除
- 第 9 回 項目 受取配当等の益金不算入（証券投資信託）・同族会社・留保金課税の判定
- 第 10 回 項目 留保金課税
- 第 11 回 項目 減価償却（無形減価償却資産・償却可能限度額・少額減価償却資産・一括償却資産）
- 第 12 回 項目 貸倒引当金（一括評価）
- 第 13 回 項目 所得税額控除
- 第 14 回 項目 使途秘匿金
- 第 15 回 項目 確認テスト 2
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

教科書・参考書 教科書：法人税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008年

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この法人税法 III は法人税法 と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	法人税法 IV	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	香田一恵				

授業の概要 この法人税法 III は法人税法 と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。詳細は法人税 III を参照して下さい。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	相続税法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	小林多恵子				

授業の概要 死亡した人が残した財産を引き継いだ場合に課される国税（相続税）と、他人から財産の贈与を受けた場合に課される国税（贈与税）について定めているのが相続税法です。人が死亡した時に、「誰がどの位の割合で財産を相続するのか？」などの学習をします。この相続税法 I は相続税法 II と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。

授業の一般目標 税額の計算・手続等一連の流れ・財産評価を中心に相続税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．正しく相続人・法定相続人の判定が出来る。 2．正確に相続税の計算が出来る。 3．正確に贈与税の計算が出来る。

授業の計画（全体） ・相続税・贈与税の計算の基礎 ・遺産の分割協議がまとまらない時の計算方法 ・財産評価 1 ・財産評価 2

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 贈与税の計算 内容 計算方法 < BR > 非課税
- 第 2 回 項目 相続税の計算 内容 税額控除の計算の基礎 2
- 第 3 回 項目 未分割の計算 内容 特別受益者の相続分
- 第 4 回 項目 みなし相続財産 内容 生命保険金等と生命保険規約に関する権利
- 第 5 回 項目 債務控除 内容 納税義務者の種類に伴う債務控除の範囲
- 第 6 回 項目 法定相続人の数 内容 法定相続人の養子の参入制限
- 第 7 回 項目 相続税の計算 内容 未成年者控除・障害者控除
- 第 8 回 項目 相続税の計算 内容 外国税額控除・贈与税額控除
- 第 9 回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第 10 回 項目 財産評価 内容 株式の評価
- 第 11 回 項目 みなし相続財産 内容 契約に基づかない定期金に関する権利
- 第 12 回 項目 措置法の減額 内容 特定事業用資産の減額計算
- 第 13 回 項目 みなし相続財産 内容 弔慰金の計算
- 第 14 回 項目 財産評価 内容 取引相場のない株式の評価
- 第 15 回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 試験 60 % 出席 20 % 確認テスト 20 %

教科書・参考書 教科書： 相続税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教育開発部, 大原簿記学校,
2008 年 / 参考書： 相続税法令通達集, 税務経理協会, 税務経理協会, 2008 年

メッセージ なお、1) 授業は 9 月始めから 12 月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定で
す。3) この相続税法 I は相続税法 II と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A 棟 2 階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時
間は授業中にお知らせします。

開設科目	相続税法 II	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	小林多恵子				

授業の概要 相続税法の基礎的な内容を学習します。この相続税法 II は相続税法 I と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は相続税法 I を参照して下さい。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この相続税法 II は相続税法 I と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	消費税法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	篠田聖一				

授業の概要 消費税は、商品の販売や建物賃貸など、お店が取引を行った場合に課される国税です。消費税にはこれらの取引の代金に5%が上乗せされますが、中には消費税が上乗せされないような取引もあります。その見分ける基準を中心に学習します。

授業の一般目標 税額の計算・手続等一連の流れを理解することを中心に、消費税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業の計画(全体) ・控除税額の計算の基礎 ・課税売上割合が95%未満の計算 ・納税義務の判定 ・課税の対象・非課税・免税

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 控除税額 内容 課税仕入の範囲
- 第2回 項目 控除税額 内容 売上返還・貸倒れ
- 第3回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第4回 項目 課税標準 内容 みなし譲渡・低額譲渡
- 第5回 項目 課税標準 内容 交換・代物弁済・負担付贈与
- 第6回 項目 控除税額 内容 課税売上割合の計算
- 第7回 項目 控除税額 内容 個別対応方式・一括比例配分方式
- 第8回 項目 控除税額 内容 仕入返還・引取り還付
- 第9回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第10回 項目 納税義務の判定 内容 基準期間と課税売上高
- 第11回 項目 課税の対象 内容 課税の対象・応用
- 第12回 項目 非課税取引 内容 非課税・応用1
- 第13回 項目 非課税取引 内容 非課税・応用2
- 第14回 項目 免税取引 内容 輸出免税・応用
- 第15回 項目 控除税額 内容 課税売上割合・応用
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

成績評価方法(総合) 試験60% 出席20% 確認テスト20%

教科書・参考書 教科書：消費税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008年 / 参考書：消費税法規通達集, 日本税理士会連合会 編, 中央経済社, 2008年

メッセージ なお、1)授業は9月始めから12月までです。2)試験は通常の試験期間中に行う予定です。
連絡先・オフィスアワー 質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。

開設科目	工業簿記	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤田 智丈				

授業の概要 企業にはヒト・モノ・カネといった様々な資源がありますが、会計の世界ではこれら全てを金額（貨幣価値）で把握する必要があります。企業は製品やサービスを提供するために、材料や労働力といった多様な資源を投入し、加工をしていきます。最終的な製品やサービスが完成するまでに、どのようにプロセスが進み、結果として各製品やサービスにどれくらいお金が使われたのかということをはっきりとさせる手段が工業簿記と呼ばれるものです。

授業の一般目標 製品やサービスを作るプロセスを貨幣価値で把握する手法や考え方を身につける。実践としては、日商簿記検定2級レベルの計算能力を身につけることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：簿記の「勘定」はばらばらに存在しているのではなく、実際の物作りの流れを反映して繋がっている。そのような流れに対応させて勘定の繋がりを理解できるようになる。 思考・判断の観点：実際の物作りを、簿記がどのように表現しているのかをイメージできるようになる。 技能・表現の観点：勘定の流れを理解し、正確な計算をできるようになる。

授業の計画（全体） まず工業簿記の基本的な考え方や計算手法を知ってもらい、それから詳細な各論を解説していきます。

成績評価方法（総合） 基本的に期末試験で評価しますが、出席も若干加味します。

教科書・参考書 教科書：工業簿記の基礎 [新版], 三代澤 経人, 同文館出版, 2005年

開設科目	原価計算論 1	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 原価計算の基礎についてテキストに基づきながら講義する。

授業の一般目標 原価計算の基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) テキストに従いながら原価計算の基本的知識を講義する。工業簿記の知識を必要とするので、受講しておくこと。

成績評価方法(総合) 試験と出席で評価する。

教科書・参考書 教科書：授業開始前に掲示により指示する。

開設科目	原価計算論 2	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 原価計算の目的には財務会計目的と管理会計目的とがある。原価計算論 1 では主に財務会計目的のための原価計算を講義する。これに対して、原価計算論 2 では管理会計目的のための原価計算を講義する。具体的には、意思決定と業績評価のための原価情報作成について講義する。標準原価計算、直接原価計算、品質原価計算、活動基準原価計算、ライフサイクルコストリング、などについて講義する。

授業の一般目標 原価計算についての応用的な知識を習得することを目標とする。

授業の計画（全体） 標準原価計算と直接原価計算についてはテキストに従いながら講義する。品質原価計算、活動基準原価計算、ライフサイクルコストリングについては資料を配布しながら講義する。

成績評価方法（総合） 試験・出席およびレポートで評価する。

教科書・参考書 教科書： 授業の開始前に掲示により指示する。

開設科目	管理会計論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤田 智丈				

授業の概要 管理会計にはマネジメントと意思決定分析のトピックがあります。前者には、利益獲得という組織目標を実現するためにどのような仕組みを作るか、どのように従業員のやる気を引き出すか、といった内容が含まれます。後者には、経営者や管理者の意志決定、従業員の業務遂行などにおいて、どのような会計情報が役立つか、どのように分析すればよいのか、といった内容が含まれます。この授業ではこのような内容について学習していきます。

授業の一般目標 上記の内容について、基本的な考え方を理解し、簡単な分析をできるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 管理会計の基礎となる考え方、分析手法を身につける。 思考・判断の観点： 私たちが普段は客として利用している店や企業は、何を考え、どのようにして儲けようとしているのか、といった身の回りにあるビジネスを分析できるようになる。また、会計情報を用いて事例分析をできるようになる。 関心・意欲の観点： 授業で習う知識や事例をきっかけとして、ビジネス関連のニュースや雑誌に興味を持ち、そのような情報を理解できるようになる。

授業の計画（全体） まず、管理会計の前提となる基本的な経営学を復習します。それから予算管理という管理会計の主要テーマについて詳しくみていきます。さらに、現代のビジネスでは必須となった戦略という観点から管理会計を展開します。具体的には、BSCや原価企画、ABC / ABMといったマネジメント手法をとりあげます。また、意志決定のための分析として、資源配分や投資決定等の分析をします。

成績評価方法（総合） 期末試験とレポートにより評価します。

教科書・参考書 教科書： 管理会計・入門 新版（有斐閣アルマ）、浅田孝幸 他、有斐閣、2005年

開設科目	管理会計 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	羽生正宗				

授業の概要 これからの日本企業にとって品質管理と原価管理だけを武器にただけでは競争優位に立つことは難しくなってきた。その為には徹底した経営の効率化を図るとともに戦略的実行のマネジメントシステムの活用が必要である。この講義では、企業価値の創造に役立つ管理会計手法のうち、ABCとBSCを取り上げる。 ・ABC(Activity Based Costing : 活動基準原価計算) 製品戦略や業務の改善を通して経営の効率化に役立つ ・BSC(Balanced Scorecard) 戦略実行の経営システム これらのコンセプトや手法を理論的に理解し、さらにこれらを実際に適用する実践能力を修得できるように解説していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 内容 ABC(Activity Based Costing : 活動基準原価計算) の背景について論ずる。
- 第 2 回 内容 ABC の誕生までについて、キャプラン(Kaplan) とクーパー(Cooper) の共同研究について論ずる。
- 第 3 回 内容 伝統的原価計算モデルと ABC モデルとの比較について論ずる。
- 第 4 回 内容 ABC の活動(アクティビティ) とプロセスについて論ずる。
- 第 5 回 内容 ABC の原価作用因(コスト・ドライバー) 及び活動作用因(活動ドライバー) について論ずる。
- 第 6 回 内容 演習 : ABC モデルの計算例題
- 第 7 回 内容 ABC から ABM(Activity Based Management : 活動基準管理) への展開について論ずる。
- 第 8 回 内容 バランスト・スコアカード(Balanced Scorecard : BSC) による企業価値の創造について論ずる。
- 第 9 回 内容 BSC の戦略実行、戦略マップの意義と役割について論ずる。
- 第 10 回 内容 BSC による戦略コントロールについて論ずる。
- 第 11 回 内容 BSC の業績評価について、その導入に向けての留意事項について論ずる。
- 第 12 回 内容 BSC における経営品質向上の役割について、ISO9001 と BSC の関係について論ずる(I)
- 第 13 回 内容 BSC における経営品質向上の役割について、ISO9001 と BSC の関係について論ずる(II)
- 第 14 回 内容 BSC の今後の課題(作成上の課題点、運用上の課題点) について論ずる。
- 第 15 回 内容 学期末試験

成績評価方法(総合) 出席 20%、レポート 30%、期末試験 50%

教科書・参考書 教科書 : テキストは特に使用せず、講義ノートによる授業を行う。

開設科目	流通論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	藤田健				

授業の概要 生産と消費の懸隔を架橋する流通は、近年、大きな変革期を迎えている。コンビニエンス・ストアの停滞、大手スーパー・百貨店の不振や倒産、中小卸売業の淘汰、零細小売業の減少、メーカーの流通系列化の揺らぎ、流通の情報化など、流通は日々変化し続け複雑さを増している。そこで本講義では、近年激しく変化する流通現象への関心を高めるとともに、現実を理解するための理論的な考え方を学ぶ。 / 検索キーワード 流通, 商業, マーケティング

授業の一般目標 1. 流通論を体系的に修得する。 2. 流通現象を理論的に理解できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：流通論の体系と個別理論を理解する。 関心・意欲の観点：流通現象への関心を高め、理論的な視点から理解する。

授業の計画(全体) 1. 流通の実態 2. 流通の役割 3. 分析アプローチを学ぶ 4. 流通フローの分析 5. 流通の動態

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN：流通の分析視角 内容 流通論の講義概要，分析視角を学ぶ
- 第 2 回 項目 流通の実態 内容 ケース(1)，ケース(2)
- 第 3 回 項目 流通の実態 内容 ケース(3)，ビデオ学習
- 第 4 回 項目 生産と消費の懸隔 内容 流通の社会的役割は何か
- 第 5 回 項目 商人の存立根拠 内容 なぜ商人が存在するのか
- 第 6 回 項目 流通へのアプローチ(1) 内容 機能別アプローチと商品別アプローチ
- 第 7 回 項目 流通へのアプローチ(2) 内容 行動システム・アプローチと流通成果
- 第 8 回 項目 前半の復習 内容 ケース(4)，ビデオ学習
- 第 9 回 項目 商流の分析(1) 内容 取引コストの経済学，継続的取引
- 第 10 回 項目 商流の分析(2) 内容 戦略的提携，協力・信頼関係の形成
- 第 11 回 項目 商流の分析(3) 内容 垂直的流通システム，マーケティング
- 第 12 回 項目 商流の分析(4) 内容 マーケティング・チャネルの構築と維持
- 第 13 回 項目 物流と情報流の分析と流通の動態 内容 ロジスティクスと情報技術，流通の動態
- 第 14 回 項目 後半の復習 内容 ビデオ学習
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体の復習

成績評価方法(総合) 期末試験(80%)，レポート(20%)

教科書・参考書 教科書：現代流通，矢作敏行，有斐閣アルマ，1996年 / 参考書：ビジネスエッセンシャルズ(5)流通，大阪市立大学商学部編，有斐閣，2003年

メッセージ 流通システム講座の基礎科目に位置づけられます。マーケティング論，商品学等を体系的に勉強したい人は，ぜひ受講してください。なお，授業中の私語は厳禁です。

連絡先・オフィスアワー A棟3階306研究室

開設科目	マーケティング論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 本講義では、マーケティングについての基本的概念、分析枠組みについて、理解を深めてもらうことを目的とする。マーケティングは、市場問題の解決策として、20世紀初頭アメリカで誕生し、日本に導入されたのは1950年代で、比較的新しい学問である。しかしながら、現在では、マーケティングは、商品経済社会における企業の基本的な行動指針であり、企業の経営行動の理解にとって、必要不可欠な知識となってきたといえる。本講義では、マーケティングの2つの側面を取り扱いたい。第1は、マーケティング現象を企業の中の管理でみる側面である。ここでは、マーケティングの観点のもとに、企業全体をどのようにコントロールするかということが、問題となってくる。第2は、マーケティング現象を社会全体でみる側面である。ここでは、他のマーケティング主体との競争関係の中で、企業のマーケティングに関わる行動を考察することになる。本講義を通じて、このような2つの視角から、企業行動について合理的な判断や考え方ができる能力を養ってもらえればと思う。

授業の一般目標 マーケティング現象を理解するための基本枠組みと基本概念、分析方法を修得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 製品政策
- 第3回 項目 流通チャネル政策
- 第4回 項目 販売促進政策
- 第5回 項目 価格政策
- 第6回 項目 市場細分化戦略
- 第7回 項目 製品ライフサイクル戦略
- 第8回 項目 消費行動と顧客満足(1)
- 第9回 項目 消費行動と顧客満足(2)
- 第10回 項目 マーケティング・リサーチ(1)
- 第11回 項目 マーケティング・リサーチ(2)
- 第12回 項目 マーケティング戦略(1)
- 第13回 項目 マーケティング戦略(2)
- 第14回 項目 マーケティング革新と企業成長(1)
- 第15回 項目 マーケティング革新と企業成長(2)

教科書・参考書 教科書：消費行動, 武居 奈緒子, 晃洋書房, 2000年

開設科目	マーケティング戦略論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 この講義の目的は、マーケティング戦略について理解を深め、マーケティング戦略を策定できるスキルを身につけることである。マーケティングにおける戦略論は、もともと経営学における戦略論のフレームワークを土台にして、構築された。マーケティング戦略論が、企業の生き残りをかけた市場競争下で、極めて有効な企業戦略であることは、言うまでもないことである。企業を取り巻く将来の不確定要因が増す現代においては、企業の戦略的思考、市場におけるマーケティング戦略を構築することの重要性が、増す一方である。この講義では、マーケティング戦略を理解するために、次のような問題に焦点を当てて考えていきたい。(1)企業は、どのように市場を選択するのか?(2)選択した市場をどのように分析するのか?(3)分析した市場にどのように接近するのか?(4)企業は、マーケティング展開に対して、消費者の反応をどのようにフィード・バックするのか? 以上のような諸課題を、理論と事例から追求していきたい。

授業の一般目標 1. マーケティング戦略について理解を深める。 2. マーケティング戦略を策定できるスキルを身につける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 マーケティング戦略への招待
- 第2回 項目 マーケティングの考え方
- 第3回 項目 製品差別化戦略
- 第4回 項目 市場細分化戦略
- 第5回 項目 製品ライフサイクル戦略
- 第6回 項目 消費行動
- 第7回 項目 新製品開発戦略
- 第8回 項目 マーケティング・ミックス
- 第9回 項目 市場データ分析(1)
- 第10回 項目 市場データ分析(2)
- 第11回 項目 競争分析(1)
- 第12回 項目 競争分析(2)
- 第13回 項目 競争分析(3)
- 第14回 項目 マーケティングの組織と資源
- 第15回 項目 マーケティングにおける関係の理論

教科書・参考書 教科書: 『現代マーケティング論』, 高嶋克義・桑原秀史, 有斐閣アルマ, 2008年

開設科目	商品学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 商品をめぐる諸問題を理解するための枠組みを、解説する。

授業の一般目標 商品をめぐる諸問題を知り、理論的枠組みを使って理解する。

授業の計画（全体） 幾つかの商品をめぐる問題の実際を説明し、その問題を理論的に捉えるための枠組みを解説する。いわゆる「講義」と呼ばれる形式で進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 現代の商品市場と商品研究
- 第 2 回 項目 商品の概念
- 第 3 回 項目 商品の品質と価格
- 第 4 回 項目 商品研究の史の変遷
- 第 5 回 項目 標準化と商品の価値
- 第 6 回 項目 市場の課題と商品開発
- 第 7 回 項目 商品デザインとパッケージ
- 第 8 回 項目 サービス経済における商品
- 第 9 回 項目 商品と市場の安全性
- 第 10 回 項目 ライフスタイルと消費行動
- 第 11 回 項目 ブランドの構造と機能
- 第 12 回 項目 商品と環境、そして環境コミュニケーション
- 第 13 回 項目 少子高齢社会における商品、市場創造
- 第 14 回 項目 商品と社会
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 原則として、定期試験 100 %。レポート等を課す場合がある。

教科書・参考書 教科書：教科書は、ない。 / 参考書：現代商品論, 見目洋子・神原理, 白桃書房, 2006 年

メッセージ 初回の講義の際に、詳しいレジユメを配布して、講義内容、進め方についての説明を行う。履修希望者は、必ず出席すること。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C220

開設科目	商品開発論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 商品開発に関連する基礎理論を学ぶ。

授業の一般目標 商品開発に関連する基礎理論を理解する。

連絡先・オフィスアワー C220(研究室)

開設科目	保険論 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石田成則				

授業の概要 保険の基礎理論として、保険構造論と保険市場論を講義する。保険構造論では、まず、基本的な原理・原則と特殊技術、さらに保険の対象となりうる付保危険の条件を理解する。つぎに、保険価格＝保険料率の決定過程を付保危険の分類と関連づけ、それにより、保険の本質的機能である、危険評価機能と危険分散機能を理解する。保険市場論では、保険市場の需要・供給分析のために、保険商品の財・サービスとしての特徴と保険のマーケティングを学習する。このように保険制度を理解した上で、個人や企業がどのように保険とリスクマネジメントを活用しているかを、具体例を用いて修得していく。

授業の一般目標 保険やリスクマネジメントの一般原則を理解する。また、周辺領域であるファイナンスや財務理論も一部取り入れながら、保険と金融の融合化や保険事業のイノベーションについてもその動向を理解する。このような基礎理論の理解に上に、保険経営の実態や運用、リスクマネジメントの事例を学習することにより応用力を身に付ける。それにより、企業・行政府のリスクマネジャーや金融機関のリスクアナリストを目指す学生を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保険とリスクマネジメントの基本原則を理解する。 思考・判断の観点： 個人や企業における意思決定のプロセスとその方法について修得する。

授業の計画（全体） 1. 食品事故や交通事故など日常生活を取り巻く危険・リスクについて分かり易く説明します。 2. テロや財務破綻など企業経営を取り巻く危険・リスクについて分かり易く説明します。 3. 危険に対処するためのリスクマネジメント手法について、リスクコントロールとリスクファイナンスに分けてお話しします。 4. リスクコントロールとリスクファイナンスの具体的内容について、回避・予防・転嫁について具体事例を解説します。 5. 転嫁の重要な事例として、保険制度を取り上げて、その仕組みを分かり易くお話しします。 6. 保険制度が成り立つために必要とされる要件を説明します。 7. 保険制度の対象となる保険事故とは何か、具体事例を取り上げて説明します。 8. 保険の価格である、保険料（率）について説明します。とくに、特性料率制と経験料率制について、理解を深めます。 9. 保険制度の社会的役割を、危険評価機能と危険分散機能という文言を使って説明します。 10. 賭け事・賭博や頼母子講などの保険類似制度について、その概略を説明し、保険制度への理解を深めます。 11. 保険制度を、生命保険、損害保険そして社会保険に分けて説明します。 12. 生命保険を取り上げて、その種類と役割を分かり易く解説します。 13. 損害保険を取り上げて、その種類と役割を分かり易く解説します。 14. 社会保険を取り上げて、その種類と役割を分かり易く解説します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生活を取り巻くリスク 内容 交通事故、食品事故など身近なリスクを考える
- 第 2 回 項目 生活設計（1） 内容 生活上や就労上のリスクと保障策を考える
- 第 3 回 項目 生活設計（2） 内容 退職後生活とリスクを取り上げる
- 第 4 回 項目 リスク管理法（1） 内容 生活上のリスクの対処法を考える
- 第 5 回 項目 リスク管理法（2） 内容 老後資金準備を考える
- 第 6 回 項目 リスク管理法（3） 内容 企業のリスク対策を考える
- 第 7 回 項目 保険の基礎理論（1） 内容 リスク対処策としての保険を取り上げる
- 第 8 回 項目 保険の基礎理論（2） 内容 保険の仕組みについて考える
- 第 9 回 項目 保険の基礎理論（3） 内容 保険料の決め方考える
- 第 10 回 項目 保険の社会的役割について（1） 内容 生命保険の社会的役割を考える
- 第 11 回 項目 保険の社会的役割について（2） 内容 損害保険の社会的役割を考える
- 第 12 回 項目 社会保険と保険の比較 内容 社会保険と保険を比較してその特徴を考える
- 第 13 回 項目 社会保険（1） 内容 年金制度について考える
- 第 14 回 項目 社会保険（2） 内容 医療保険と介護保険について考える
- 第 15 回 項目 社会保険（3） 内容 雇用保険の役割を考える

成績評価方法 (総合) 期末試験

教科書・参考書 教科書：所得保障の経済分析, 石田成則, 東洋経済新報社, 2006年 / 参考書：自由競争時代の生命保険経営, 石田重森・石田成則, 東洋経済新報社, 1997年；キーワード解説 保険・年金・ファイナンス, 石田重森・庭田範秋, 東洋経済新報社, 2004年；はじめて学ぶ リスクと保険, 下和田功, 有斐閣, 2004年

メッセージ 講義は保険やリスクマネジメントの導入なので、新聞・経済雑誌に目を通して、大きな事故や企業の不祥事などにも関心をもってほしい。

開設科目	保険論 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石田成則				

授業の概要 21世紀に入り、わが国経済社会は大きな転換期を迎えている。長期にわたる不況と高齢社会への突入により、雇用不安や老後生活への不安感が醸成されている。こうした現況を打破するための構造改革・財政再建のなかで、国家財政による社会保障・社会保険は縮小または見直しの機運にある。公的年金や医療保険では、人口高齢化現象に伴い勤労世代の保険料が高騰しているため、勤労世代の（可処分）所得の伸びは抑えられ、わが国の消費活動低迷の一因となっている。こうした事態を改善するために、公的年金の民営化措置も検討されている。また、長期化するデフレ経済下で失業者も急増しており、失業給付を行う雇用保険の財政が悪化し、失業者の生活保障も不十分な状況にある。さらに、企業経営においても、国際競争力の強化のために、財務のスリム化そして人員の削減が断行されており、企業内の福利厚生は縮小傾向にある。そこで、社会保障・社会保険の意義を再確認しながら、その改善策を習得する。

授業の一般目標 ライフ・サイクルに伴う生活リスクを整理し、合理的な生活保障のあり方について考えていく。とくに、福祉ミックス論に基づいて、社会保障・社会保険と、企業の福利厚生・民間保険の役割分担について学習する。また、民間保険や各種金融商品に関する情報を分かりやすく解説することで、賢い金融消費者を目指すとともに、社会人としての自己責任意識を涵養していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保険とリスクマネジメントの基礎理論を勉強した上で、年金・医療・介護などの社会保険について学習する。 **思考・判断の観点：** 社会保険の仕組みや構造を理解し、その上で望ましい将来像を考える。

授業の計画（全体） 1．生活リスクと生活保障・生活福祉 2．経済と福祉の関わりについて 3．社会保障の構造と役割 4．日本経済と社会保障の現状 5．公的年金の課題と改革方向 6．医療・介護保険の課題と改革方向 7．雇用保険の財政問題と改革方向 8．企業による福利厚生の仕組みと役割 9．企業福祉・福利厚生の現状と問題点 10．退職金・企業年金の改革方向 11．病院・福祉施設の経営（1）基礎理論 12．病院・福祉施設の経営（2）現状と現場での課題 13．民間保険の現状と従業員金融商品の台頭 14．経済成長と保障・福祉の両立を目指して 15．講義の纏め（予備）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 生活保障とは何か
- 第2回 項目 生活保障と生活設計
- 第3回 項目 福祉と経済の関わり（1）
- 第4回 項目 福祉と経済の関わり（2）
- 第5回 項目 福祉ミックス論について
- 第6回 項目 社会保険の基礎理論（1）
- 第7回 項目 社会保険の基礎理論（2）
- 第8回 項目 年金制度の現状と課題
- 第9回 項目 年金制度の構造改革
- 第10回 項目 医療保険の仕組みと現状
- 第11回 項目 介護保険の仕組みと現状
- 第12回 項目 雇用保険の仕組みと現状
- 第13回 項目 海外の社会保険（1）
- 第14回 項目 海外の社会保険（2）
- 第15回 項目 これからの社会保険（纏め）

成績評価方法（総合） 期末試験と日常点

教科書・参考書 教科書：老後所得保障の経済分析，石田成則，東洋経済新報社，2006年

メッセージ 民間の保険だけでなく、社会保険を含めて学習します。日頃から、年金や医療・介護保険に関する新聞記事等を熟読して、関心を高め問題意識を持ってもらいたい。

国際経済学科

開設科目	国際経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	豊 嘉哲				

授業の概要 国際経済に関わる制度・組織と貿易理論について概説する。通説とそれに対する批判を紹介する。 / 検索キーワード 比較優位, リカード・モデル, ヘクシャー＝オリーン・モデル

授業の一般目標 国際経済に関わる制度・組織と貿易理論について理解した上で、それらについて自分の意見を述べるができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際経済に関わる制度・組織と貿易理論について、基礎的事項を身につける。 思考・判断の観点： 国際経済に関わる制度・組織と貿易理論の基礎的事項を習得した上で、それに対して自分の意見を述べるができる。

授業の計画（全体） テキストに沿って、配付資料を利用しつつ、国際経済に関わる制度・組織と貿易理論について概説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 国際経済にかかわる制度 1
- 第 3 回 項目 国際経済にかかわる制度 2
- 第 4 回 項目 リカードモデル 1
- 第 5 回 項目 リカードモデル 2
- 第 6 回 項目 リカードモデル 3
- 第 7 回 項目 ヘクシャー＝オリーンモデル 1
- 第 8 回 項目 ヘクシャー＝オリーンモデル 2
- 第 9 回 項目 貿易政策 1
- 第 10 回 項目 貿易政策 2
- 第 11 回 項目 貿易政策 3
- 第 12 回 項目 生産要素の移動
- 第 13 回 項目 授業中小テストを数回実施する（時期未定）
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 授業中テスト 30 %、定期試験 70 %

教科書・参考書 教科書： 国際経済学, 大川昌幸, 新世社, 2007 年 / 参考書： 世界経済論, 本山美彦, ミネルヴァ書房, 2006 年； 国際経済学入門 I, ケイプス、フランケル、ジョーンズ, 日本経済新聞社, 2003 年

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際マクロ経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	豊 嘉哲				

授業の概要 国際経済の、主として金融的側面を学ぶ。 / 検索キーワード 国際収支、為替レート、開放マクロ経済学

授業の一般目標 国際経済の金融的側面にかんする基礎的事項を理解し、それについて自分の意見を述べることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際経済の金融的側面にかんする基礎的事項を身につける。 思考・判断の観点： 国際経済の金融的側面にかんする基礎的事項を理解した上で、それについて自分の意見を述べる。

授業の計画（全体） 国際収支、為替レート、開放マクロ経済学の基礎理論の解説、および、それらへの批判の紹介。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 国際収支 1
- 第 3 回 項目 国際収支 2
- 第 4 回 項目 為替レート 1
- 第 5 回 項目 為替レート 2
- 第 6 回 項目 為替レート 3
- 第 7 回 項目 開放マクロ経済学 1
- 第 8 回 項目 開放マクロ経済学 2
- 第 9 回 項目 金融危機の事例研究 1
- 第 10 回 項目 金融危機の事例研究 2
- 第 11 回 項目 金融危機の事例研究 3
- 第 12 回 項目 授業中小テストを数回実施する（時期未定）。
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 授業中テスト 30 %、定期試験 70 %

教科書・参考書 教科書： 国際経済学, 大川昌幸, 新世社, 2007 年 / 参考書： 世界経済論, 本山美彦, ミネルヴァ書房, 2006 年； 新版国際金融論, 尾上修悟, ミネルヴァ書房, 2003 年

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際金融論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高英求				

授業の概要 為替相場・国際収支・国際通貨システム等に関する基礎的な概念・理論を学び、国際通貨・金融の面から世界経済の現状・課題について考察する。 / 検索キーワード 円高・円安、為替相場、国際収支、国際通貨システム

授業の一般目標 (1) 基礎的な用語・概念を学び、国際通貨・金融に関する新聞・雑誌記事(日本語・英語)を読めるようになる。(2) 代表的な理論を学び、国際通貨・金融に関する学術論文を読むための基礎的な力を身につける。(3) 国際通貨・金融の現状・課題について、専門的な概念・理論を用いて考え、対話することができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 基礎的な用語・概念と代表的な理論の習得 世界経済の現状と課題に関する知識の獲得 思考・判断の観点: 専門的な概念・理論の習得による抽象的な思考 対立する学説の理解を通じた複眼的思考

授業の計画(全体) この講義は、大きく3つの分野(為替相場・国際収支・国際通貨システム)から成る。それぞれについて、基礎的な概念・理論を平易に説明する。あわせて、最新の動向を英語記事などで紹介する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション / 最近のトピックス
- 第2回 項目 為替相場1 内容 円高・円安を理解する
- 第3回 項目 為替相場2 内容 為替変動の影響・要因 / リスク・ヘッジ
- 第4回 項目 為替相場3 内容 国際金融市場
- 第5回 項目 為替相場決定理論1 内容 購買力平価説
- 第6回 項目 為替相場決定理論2 内容 金利平価説
- 第7回 項目 為替相場決定理論3 内容 その他の学説
- 第8回 項目 国際収支1 内容 基礎概念
- 第9回 項目 国際収支2 内容 世界的なマネー循環(1)
- 第10回 項目 国際収支3 内容 世界的なマネー循環(2)
- 第11回 項目 国際通貨体制1 内容 現在の国際通貨・金融 / 激動の時代
- 第12回 項目 国際通貨体制2 内容 国際金本位制と両大戦間期
- 第13回 項目 国際通貨体制3 内容 ブレトンウッズ体制
- 第14回 項目 国際通貨体制4 内容 欧州通貨統合
- 第15回 項目 テストと解説

成績評価方法(総合) 基本的にテストと発言で評価する。

教科書・参考書 教科書: 特定の教科書は使わず、配付資料を中心に講義を進める。 / 参考書: 現代経済学, 柴田徳太郎他編著, 岩波書店, 2008年

メッセージ 国際金融について一から学ぶ講義です。

備考 集中授業

開設科目	国際投資論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤原貞雄				

授業の概要 国際投資とは、その名の通り、企業もしくは個人あるいは政府が国際間で行う投資のことである。国際投資は、利息や配当、あるいは値上がり益を得るために行われる証券投資（間接）と現地会社を設立あるいは経営することを目的とした直接投資とに分類することができる。講義では直接投資に関する事柄を取り上げる。したがって国際株式投資などの間接投資や国際企業経営に関しては他に用意された講義を受講すること希望する / 検索キーワード 国際投資、対外直接投資、対内直接投資、国際証券投資、間接投資

授業の一般目標 講義の目標は、主に日本及びアジアの直接投資についての現実とそれがもたらす結果について学習することである。具体的には、日本及び中国の自動車産業をモデルに最新の直接投資の現実、直接投資にともなう本国と現地の産業、地域経済、マクロ経済との関係などに焦点を当てて、その原因、結果などについて学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：直接投資行動に関する基本的な知識を獲得する それらがもたらすさまざまな正負の効果に関する基本的知識を獲得する 試験でチェックする 思考・判断の観点：企業・産業の行動、政府の政策についての自身の評価、判断、予測できるようになる。レポートでチェックする 関心・意欲の観点：毎回提出する講義への質問・感想票で確認する。レポートで確認する。 態度の観点：出席頻度、講義中の態度、質問へ回答できるかどうかで確認する。

授業の計画（全体）全体 1 産業経済省の「海外事業活動報告書」（資料配布）で現状を認識する。2 日本自動車産業を軸にグローバルな経営活動の現状を認識する（資料配布）。3 直接投資がもたらす日本への影響について現状を認識する（資料配布）。4 中国自動車産業への国際投資と中国自動車産業の発展

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 国際投資とはなにか、何を対象とするのか、参考文献紹介
- 第 2 回 項目 日本の海外直接投資の現状（1）内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2007年版
- 第 3 回 項目 日本の海外直接投資の現状（2）内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2007年版
- 第 4 回 項目 日本の海外直接投資の現状（3）内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2007年版
- 第 5 回 項目 海外直接投資と日本経済（1）内容 日本の自動車産業のケース
- 第 6 回 項目 海外直接投資と日本経済（2）海外直接投資と日本経済（2）日本の海外直接投資の現状 < 5 > 内容 日本の自動車産業のケース
- 第 7 回 項目 海外直接投資と日本経済（3）内容 日本の自動車産業のケース
- 第 8 回 項目 海外直接投資と日本経済（4）内容 日本の自動車産業のケース
- 第 9 回 項目 海外直接投資と中国経済（1）内容 中国の自動車産業のケース
- 第 10 回 項目 海外直接投資と中国経済（2）内容 中国の自動車産業のケース
- 第 11 回 項目 海外直接投資と中国経済（3）内容 中国の自動車産業のケース
- 第 12 回 項目 海外直接投資と世界経済（1）内容 アジア自動車産業のケース
- 第 13 回 項目 海外直接投資と世界経済（2）内容 アメリカ自動車産業のケース
- 第 14 回 項目 海外直接投資と世界経済（3）内容 まとめ 21世紀の日本経済と海外直接投資
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）開講回数数の3分の2以上出席者のみを評価対象とする。レポート50% 最終試験50% 講義への積極的態（質問感想票などへ積極的に記入しているかどうか）で加点する。

教科書・参考書 教科書：とくに教科書を指定しない。参考文献一覧は初回講義で配布する。配付資料を保存すること / 参考書：とくに教科書を指定しない。参考文献一覧は初回講義で配布する。配付資料を保存すること

メッセージ 出席してトクした!!、と喜んでもらえる講義をしたいな。

連絡先・オフィスアワー 連絡方法は初回講義で知らせる。

開設科目	国際運輸論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 交通は、私たちにとって最も身近な経済的現象・事象であり、同時に私たちはその主体となることもあります。また、運輸インフラは経済活動にとって欠くことのできないものであり、その整備は経済発展のための条件ともなります。本講義では、旅客輸送や物流など交通に関する多くの最新の情報を提供しながら、交通の生産的三要素と交通の物理的三要素という観点から交通とビジネスについて講義します。

授業の一般目標 交通経済の基礎知識を習得しつつ、交通とビジネスの関係についての見目を養います。

授業の計画(全体) 講義の概要は以下の通りですが、一部変更することもあることをお断りしておきます。1. ガイダンス 2. 運輸技術とビジネス(人工衛星とロケット・ビジネスとリニア新幹線) 3. 運輸インフラと巨大構造物(運河と長大橋と人工島と政策評価) 4. 人とクルマと通信(GPSとITSとバス・ロケーションシステム) 5. 航空ビジネスと巨大空港とアメニティ(巨大空港と航空機事故) 6. 地方と鉄道とモビリティ(路面電車とローカル線と第三セクター鉄道) 7. 海と船と人の移動 8. 前半のまとめ(スライドショー) 9. ヒトの移動と事故と公害(モーダルシフトと静脈物流と低周波音公害) 10. モノの輸送と情報システム(100円マックの謎とコンビニ成功の秘訣と産業スパイ) 11. トラック輸送と地球環境(環境問題とモーダルシフトと循環型社会の形成) 12. 海上貨物輸送と港湾(コンテナ輸送とコンテナ港と離島航路) 13. 余暇と旅行と観光(テーマパークとグリーン・ツーリズムとホテル・旅館) 14. 後半のまとめ(スライドショー)

成績評価方法(総合) 成績評価は、出席(30点)、期末試験(70点)によって行います。

教科書・参考書 教科書：交通とビジネス, 澤喜司郎他編著, 成山堂書店, 2007年

開設科目	物流論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 わが国は、原油をはじめ石炭や鉄鉱石、ボーキサイトなどの原材料を 100 % 輸入し、食料品については熱量換算で 60 % を輸入しています。これらのエネルギーや原材料、食料品の輸送つまり物流は私たちの生活にとってのライフラインといえます。コンビニでお弁当が売っているのも、家庭で電気が使えるのも、すべて物流に依存しているのです。本講義では、私たちが何気なく使用しているモノを取り上げ、それらの流れの中で用いられる輸送機関(手段)や荷役機械、あるいはそれらが複合したシステムなどについて講義します。

授業の一般目標 物流に関する基礎知識を習得するとともに、経済と物流をめぐる諸問題について理解を深める。

授業の計画(全体) 講義の概要は以下の通りですが、一部変更することもあることをお断りしておく。ガイダンス 第1章 航空貨物輸送と航空機(航空貨物、航空機、空港、特殊航空輸送) 第2章 鉄道貨物輸送と車両(JR 貨物、コンテナ輸送、バルク輸送、私鉄の貨物輸送) 第3章 海上コンテナ物流とコンテナ船(コンテナ貨物、コンテナ船、港湾、特殊貨物) 第4章 トラック貨物輸送と宅配トラック(宅配貨物、宅急便、急送便、引越便) 第5章 外航バルク輸送と専用船(石炭・鉄鉱石専用船、オイルタンカー・LNG 専用船、木材専用船) 第6章 国内バルク輸送と専用船(LPG 専用船、セメント専用船、砂利・砂運搬船) 第7章 特殊貨物と専用輸送(自動車を運ぶ船、鉄道車両を運ぶ鉄道、飛行機を運ぶ飛行機) 第8章 企業内施設(専用道路と専用鉄道、地下施設、産業用ケーブルカーとロープウェイ) 第9章 人間生活と物流(コンビニと物流、食料品輸送、廃棄物とリサイクル物流) 第10章 日常生活と物流(電気・ガス・水道、郵便、宅配システム、手荷物の一時保管と配送サービス) 第11章 自衛隊とロジステックス(海上ロジ、陸上ロジ、航空ロジ)

成績評価方法(総合) 成績評価は、出席(30点)、期末試験(70点)によって行います。

教科書・参考書 教科書：交通と物流システム, 上羽博人他編著, 成山堂書店, 2008年

開設科目	貿易実務(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	上羽博人				

授業の概要 日本経済は深く貿易に依存していますが、そこには煩雑な貿易実務があります。現在、貿易実務は貿易システムの変化、交通手段の発達、経済のグローバル化にともない、簡素化、世界共通化の方向にあります。この講義では、物品を国際間で円滑に取引(商流)、移動(物流)させるために必要な基本的な貿易実務の知識、実務を習得します。/検索キーワード INCOTERMS 信用状 通関 船荷証券 海上保険

授業の一般目標 (1) 貿易実務に関する国際条約、国際ルールの理解 (2) 貿易手続き(輸出・輸入)(売買契約、代金決済、リスク・マネジメント、貿易管理、物流)の理解 (3) 貿易書類(船積関係書類、通関関係書類など)の作成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 貿易手続き(売買契約、代金決済、リスク・マネジメント、貿易管理、物流)の実態を理解し、貿易実務の全体構造を習得。 思考・判断の観点: 売買契約、取引商品、取引相手国ごとに異なる貿易実務を適切に行なう知識を習得。 関心・意欲の観点: 貿易に興味を持つとともに、貿易実務に関する資格試験(通関士試験、貿易実務検定、国際物流管理士など)に挑戦。

授業の計画(全体) 日本の貿易の実態、貿易実務の全体構造、それぞれの実務の内容を順番に説明し、最終的に各自が基本的な実務(船積関係書類、通関関係書類の作成)ができるように実習を行ないます。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 貿易と貿易実務の概要 内容 貿易、多国籍企業、貿易管理、貿易実務の概要 授業外指示 最近の貿易関係の事故、事件の資料を読んでおいてください。 授業記録 1つの項目は2週連続(午前2時間、午後2時間)です(合計30回)。
- 第 2 回 項目 国際条約、国際ルール 内容 売買契約、代金決済、リスクマネジメント、貿易管理、物流に関する法令とルールの概要
- 第 3 回 項目 INCOTERMS 内容 貿易条件(INCOTERMS)13項目 授業外指示 以下の項目は授業前に教科書を読んでおいてください。
- 第 4 回 項目 売買契約 内容 契約前手続き、契約手続き(信用状あり、信用状なし)など
- 第 5 回 項目 代金決済 内容 荷為替手形決済(信用状、D/P、D/A) 送金決済など
- 第 6 回 項目 リスクマネジメント 内容 貨物損害保険、貿易保険、運送責任、為替予約、クレーム処理、ロジスティクスなど
- 第 7 回 項目 貿易管理 内容 関税関係法令、他法令など
- 第 8 回 項目 国際物流 内容 物流手段、運送契約、船荷証券、運送状など
- 第 9 回 項目 輸出貿易手続き(手続きの構造) 内容 輸出手続き(売買契約、代金決済、リスクマネジメント、貿易管理、物流)の全体構造と関係など 授業外指示 以下の項目は配布する貿易書類を見ておいてください。
- 第 10 回 項目 輸出貿易手続き(輸出関係書類) 内容 輸出関係書類(売買契約書、荷為替手形、保険証券、輸出申告書、船荷証券など)の内容と関係など
- 第 11 回 項目 輸入貿易手続き(手続きの構造) 内容 輸入手続き(売買契約、代金決済、リスクマネジメント、貿易管理、物流)の全体構造と関係など
- 第 12 回 項目 輸入貿易手続き(輸入関係書類) 内容 輸入関係書類(売買契約書、荷為替手形、保険証券、輸入申告書、船荷証券)の内容と関係など
- 第 13 回 項目 船積関係書類の作成 内容 売買契約書、信用状など
- 第 14 回 項目 船積関係書類の作成 内容 INVOICE、PACKING LIST、輸出申告書、船荷証券など
- 第 15 回 項目 試験
- 第 16 回
- 第 17 回

- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) ・貿易実務の内容は幅広く複雑なので、欠席すると分からなくなります。このため、授業態度・授業への参加度や出席を重視します。(出席確認を毎日の午前の授業と午後の授業の 2 回行います。どこで行うかは授業の進み方により異なります。) ・成績は試験、授業態度・授業への参加度、出席など総合的に評価します。 試験(講義の最後の日に行います) = 約 60% 授業態度や授業への参加度 = 約 10% 出席 = 約 30%

教科書・参考書 教科書： 図解 貿易実務ハンドブック (ベーシック版 第 2 版), 日本貿易実務検定協会(編), 中央書院, 2005 年

メッセージ 将来、製造業、貿易商社、国際運送業界(船会社、航空会社など)など、貿易取引、国際物流分野へ就職希望のある方、通関士試験、貿易実務検定を受験される予定の方には、役立つ講義になります。

連絡先・オフィスアワー weber@yokohama-pc.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	現代世界経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河野真治				

授業の概要 現在の世界経済について、様々なトピックを取り上げながら概観していく。取り上げるテーマは、WTO や地域主義などの貿易体制、多国籍企業と直接投資、国際通貨問題、貧困と援助、地球環境問題などである。 さらに、トータルな世界経済の動向について、三極間の競争（米、欧、アジア）や情報化の影響、グローバリゼーション、国際的寡占化などについても検討する。

授業の一般目標 目標は、世界経済に関する日々の新聞報道が、文句なしに読めるようになることである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済に関する一般的知識を得ること。 関心・意欲の観点：世界経済に興味を持ち、毎日新聞を読むようになること。

授業の計画（全体） 1 この授業で何を学ぶか 2 世界の貿易問題 3 直接投資と多国籍企業
4 国際通貨体制 5 世界経済の諸問題（環境、貧困、人口） 6 世界経済の見方（アメリカ体制、三極構造、グローバル化）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業計画
- 第 2 回 項目 GATT/WTO について
- 第 3 回 項目 地域主義について
- 第 4 回 項目 EU について
- 第 5 回 項目 多国籍企業（1）
- 第 6 回 項目 多国籍企業（2）
- 第 7 回 項目 多国籍企業（3）
- 第 8 回 項目 国際通貨体制とドル
- 第 9 回 項目 世界の貧困と援助
- 第 10 回 項目 世界の人口問題
- 第 11 回 項目 地球環境問題
- 第 12 回 項目 世界経済の基本構造
- 第 13 回 項目 グローバリゼーション
- 第 14 回 項目 情報化と世界経済
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 毎回小レポートを書いてもらいます（60点）。さらに期末テストを行い（40点）、全体（100点）で評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書は使わない。 / 参考書：1回目の講義で紹介する。

開設科目	国際関係論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	大林洋五				

授業の概要 東西冷戦体制の解体と局地紛争の先鋭化 南北対立（貿易・投資・移民・資源・環境などをめぐる）民族問題（新しい問題も） 文明の衝突も これらの解決方法の模索を

授業の一般目標 国際紛争は、単に利害の対立のみでなく、しばしば 正義の対立も。異なった「正義」「価値観」の共存のためには？

授業の計画（全体） 紛争に巻き込まれたときのための、抑止力 その意義、問題 究極の解決法 「世界国家」の夢と現実 なぜ、実現しない？異なった価値観にとって、解決になるか？

成績評価方法（総合） 期末試験 80% 出席点 20%

教科書・参考書 教科書：使用しない。 / 参考書：世界地図（アトラス）、；世界史年表（簡単なものでよい）、；

連絡先・オフィスアワー FAX（083-924-9638）による質問歓迎 また、出席票への質問・意見記載をなるべく

開設科目	国際関係論(旧)	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	大林洋五				

授業の概要 東西冷戦体制の解体と局地紛争の先鋭化 南北対立(貿易、投資、移民、資源、環境などをめぐる) 民族問題(新しい問題も) 文明の衝突も これらの解決方法の模索を 前期は、新(2006年度以降入学者)授業体系の学生とともに これらを体系的に学び、後期は個別の問題について分析する。

授業の一般目標 国際紛争は、単に利害の対立のみでなく、しばしば 正義の対立も。異なった「正義」「価値観」の共存のためには？

授業の計画(全体) 紛争に巻き込まれたときのための、抑止力 その意義、問題 究極の解決法 「世界国家」の夢と現実 なぜ、実現しない? 異なった価値観にとって、解決になるか?

成績評価方法(総合) 定期試験(前期末と後期末と2回)各40%,計80% 出席点 20%

教科書・参考書 教科書: 使用しない。/ 参考書: 世界地図(アトラス),, ; 世界史年表(簡単なものでよい),,

連絡先・オフィスアワー (FAX)083-924-9638 による質問歓迎。また,出席票への質問・意見記載をなるべく。

開設科目	アメリカ経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	河野真治				

授業の概要 90年代アメリカの「ニューエコノミー」について検討する。90年代はアメリカの「一人勝ち」といわれ、好況期が戦後2番目といわれるほど長期に継続し、「ニューエコノミー」が叫ばれたが、この主張を批判し、アメリカ経済の長期衰退傾向は継続していることを論証する。同時に、アメリカ経済の制度的特徴についても、説明する。

授業の一般目標 アメリカ経済の一般的特徴を理解し、今の状況を把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ経済について一般的知識を獲得するとともに、90年代の「ニューエコノミー」論について理解する。

授業の計画(全体) 1 この授業で何を学ぶか 2 戦後アメリカ経済の衰退 3 90年代の「繁栄」と「ニューエコノミー」論 4 「ニューエコノミー」論批判 5 経常赤字論争 6 再びアメリカ経済の衰退

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業計画
- 第2回 項目 戦後アメリカ経済と衰退
- 第3回 項目 90年代の繁栄とニュー・エコノミー論
- 第4回 項目 IT革命とグローバル化
- 第5回 項目 経常収支赤字とドル
- 第6回 項目 自動車産業
- 第7回 項目 鉄鋼産業
- 第8回 項目 コンピュータ産業
- 第9回 項目 通信産業
- 第10回 項目 航空機産業
- 第11回 項目 軍需産業
- 第12回 項目 航空産業
- 第13回 項目 プッシュ政権の7年間
- 第14回 項目 アメリカ経済の衰退
- 第15回

成績評価方法(総合) 毎回小レポートを書いてもらいます(60点)。さらに期末試験を行い(40点)、全体(100点)で評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書は使わない。 / 参考書：1回目の講義で指示する。

開設科目	現代日本社会事情	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野 笙子				

授業の概要 現代日本に特徴的な社会経済的問題を新聞や雑誌等の記事を通して様々な角度から取り上げます。テーマ別に編集された切り抜き記事コピー集の読解を中心に授業を進め、他国、他地域との比較文化論的な観点からの掘り下げも行います。 / 検索キーワード 時事日本語、現代日本社会、現代日本経済

授業の一般目標 (1) 経済学部で学ぶ外国人留学生に必要な基礎的知識・社会常識を身につける。(2) 時事日本語に対する読解力を身につける。(3) 時事問題に対する分析力を養う。(4) 現代日本社会に対する理解と認識を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 時事問題の読解ができる。 2 . 取り上げられたテーマについての説明ができる。 思考・判断の観点： 1 . 時事問題の背景や問題点などについて自分の意見が言える。 関心・意欲の観点： 1 . 現代社会で起きている様々な問題に関心を持つ。 態度の観点： 1 . 時事問題について問題意識を持って考えることができる。 技能・表現の観点： 1 . 時事問題についての論述が日本語でできる。

授業の計画(全体) 選ばれたテーマを主要記事の読解を中心に1~2回で学ぶ。一緒に収められている関連記事も取り上げながら全体的な解説を行い、内容確認の後、話し合いや意見発表・交換等を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと自己紹介 内容 講義の概要・講義に求めるもの 授業外指示 予習
- 第 2 回 項目 グローバル文化社会と日本(1) 内容 異文化理解と外国人問題 授業外指示 予習
- 第 3 回 項目 グローバル文化社会と日本(2) 内容 異文化理解と外国人問題 授業外指示 予習
- 第 4 回 項目 若者の自立と雇用問題 内容 フリーターとニート 授業外指示 予習
- 第 5 回 項目 サービス残業 内容 過労社会の実態 授業外指示 予習
- 第 6 回 項目 日本型雇用慣行と成果主義 内容 過渡期の日本型雇用慣行 授業外指示 予習
- 第 7 回 項目 経済学と環境問題 内容 経済発展と環境問題 授業外指示 予習
- 第 8 回 項目 セーフガード 内容 緊急輸入制限措置と自由貿易 授業外指示 予習
- 第 9 回 項目 コンビニ社会 内容 変貌する消費社会 授業外指示 予習
- 第 10 回 項目 IT 社会 内容 IT の功罪 授業外指示 予習
- 第 11 回 項目 肖像権と著作権 内容 権利の侵害と保護 授業外指示 予習
- 第 12 回 項目 個人情報保護問題 内容 情報保護とメディア規制 授業外指示 予習
- 第 13 回 項目 裁判員制度 内容 司法制度改革 授業外指示 予習
- 第 14 回 項目 男女共同参画社会 内容 女性の社会進出の実態 授業外指示 3分間スピーチの準備
- 第 15 回 項目 現代日本の諸相 内容 スピーチと討論

成績評価方法(総合) 毎回、質問票などにより読解記事の内容に関する質疑応答を行って理解度をチェックする。その後の話し合いや意見交換への参加度も重視される。出席率は勿論重要であり、特別な理由がない限り、7割以下の学生には単位を与えない。最後に、自分の関心の高いテーマについて、800字~1200字程度のレポートを作成し指定期日までに提出する。レポートを提出しない場合も単位は与えられない。

メッセージ 留学生の皆さんが楽しく有意義で実り多い学生生活を送れるよう、多方面から支援・協力していきたいと思っています。気軽にC103室(留学生指導室)をお訪ねください。

連絡先・オフィスアワー k-shoko@yamaguchi-u.ac.jp 電話(933)5562 研究室:経済学部C103室 オフィスアワー:木曜日14時30分~16時

開設科目	国際協力論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	今津武				

授業の概要 21世紀はグローバル化が進む中で、「格差」と「環境」が世界の重要な課題になってきています。この課題と緊密に関連する貧困、食料、エネルギー、環境悪化、感染症、地域紛争の拡大といった地球規模の課題（Global Issues）の解決には、それぞれの国の努力だけではなく、全ての国が相互に協力しながら、取り組まなければならないと考えられます。こうした世界の中での日本の立場を正確に把握しておくことが、今後の日本の進路にとってきわめて重要かつ有用だと考えられます。こうした時に世界の現状を情報量の多い工業先進国を標準モデルとして理解し議論する傾向が見られます。しかし、世界人口67億人の80%は開発途上国にすむと推定されており、その意味では開発途上国への理解、そうした国々と先進諸国の関係のあり方を正確に知っておくが、今後の世界のゆくえを考えるためには不可欠であると思われます。本授業ではこうした世界の状況を展望し、今後日本が国際社会においてどのような貢献をしてゆくべきなのかを、政府開発援助（ODA）を中心に概観してゆきたいと思います。 / 検索キーワード 国際協力、政府開発援助（ODA）、国際協力機構（JICA）

授業の一般目標 世界人口の約80%がすむ開発途上国の現状を理解し、そうした国々の貧困を初めとする深刻な課題に対し、先進諸国がどのように協力してゆくべきか、「何故、開発途上国への支援が必要なのか？」を考え、「開発途上国支援」が日本をはじめとする先進諸国を含めた地球社会のあるべき姿や進むべき道を模索する上で、大きな示唆を与えるものであることを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：貧困を中心とする世界の開発途上国の課題とそうした課題への日本を含む先進諸国の支援の必要性につき説明できる。 思考・判断の観点：開発途上国の課題やそのことが日本を含む先進国のあり方にどのように影響を与えるかといった点を踏まえ、21世紀の世界の方向性を自らの考えとして説明する。 関心・意欲の観点：日常生活における国際社会との関わりに関心を持つ。 態度の観点：自らも参加できる国際協力活動に関心を持つ。

授業の計画（全体） (1) 開発途上国の貧困や食糧不足といった問題を考えるために必要な基礎知識を、歴史的背景、近年の国際関係を含み講義する。(2) 開発途上国の課題に対する先進諸国の取り組みを、包括的に講義する。(3) 可能な限り現場での経験や事例を含んだ講義とする。そのためJICA中国国際センターの協力授業とし、援助事業に携わるJICA職員、専門家、青年海外協力隊員として途上国に派遣された経験のある方々を講師とする授業を5回計画する。(3) 開発途上国の問題と日本の国際社会における役割との関係をより多くの人々に理解していただくため、学外への「開放授業」とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 本講座の目標と実施方法・スケジュール説明、講義内容への希望聴取。途上国との関わりの中で考えたこと（35年間の途上国支援業務を省みて）
- 第2回 項目 途上国援助の歴史と最近の潮流 内容 東西冷戦や南北問題を踏まえ、今途上国援助がどのような状況にあるかを説明。
- 第3回 項目 グローバル・イシューとMDGs 内容 21世紀に入りグローバル化が加速してきたが、そうした中で国際社会は地球社会に向けてどのような取り組みをしているかを説明。
- 第4回 項目 日本の政府開発援助（ODA）の歴史と政策 内容 第2次世界大戦後の日本の復興は欧米諸国の支援で実現した。そうした経験を持つ日本のODAの歴史と政策を、他の援助国を比較しつつ説明。
- 第5回 項目 ODAの実施体制と予算 内容 日本のODAの仕組みとその予算などについて、世界と比較して説明。
- 第6回 項目 資金協力の実施と課題/テスト1 内容 ODAの中から無償資金協力、有償資金協力（借款）について説明。第5週までの講義内容についてその理解度を測るための小テストを実施。
- 第7回 項目 国際協力機構（JICA）の歴史と役割 内容 日本の技術協力と無償資金協力を担うJICAについての説明。（JICA職員を予定）

- 第 8 回 項目 技術協力の内容と課題 内容 技術協力の仕組みと現在までの成果、今後の課題を説明。(JICA 職員を予定)
- 第 9 回 項目 J I C A 国内事業とパートナー・シップ 内容 JICA が地方自治体、NGO、大学などどのように連携して事業を進めているかの説明。(JICA 職員を予定)
- 第 10 回 項目 国際協力の現場からの報告 内容 技術協力専門家経験者等からの現地活動報告。
- 第 11 回 項目 青年海外協力隊の活動 内容 青年海外協力隊経験者からの活動報告。
- 第 12 回 項目 途上国援助の将来的意義 内容 途上国支援が日本をはじめとする先進諸国を含めた地球社会にとってどのような意味を持つのかを説明。
- 第 13 回 項目 授業全体を等しての質疑/小テスト 2 内容 授業全体を通しての受講者の疑問に答える。JICA 関係者からの講義のについてその理解度を測るための小テストを実施。
- 第 14 回 項目 学生からの発表 (1) 内容 12 週までに提出を求めたレポートに基づき、学生からこの授業で学んだ点の発表。
- 第 15 回 項目 学生からの発表 (2) 内容 12 週までに提出を求めたレポートに基づき、学生からこの授業で学んだ点の発表。

成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で小テストを 2 回実施する。 (2) 日本の国際貢献に関する 2000 字程度のレポートを作成し、第 12 回授業時に提出する。 (3) 出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教官の作成するレジメを使用する。 / 参考書：グローバル 8 つの物語 国際協力の足跡を追って、青木公他、国際開発ジャーナル社、1999 年； 転機の海外援助、緒方貞子編、NHK 出版、2005 年； 途上国ニッポンの歩み 江戸から平成までの経済発展、大野健一、有斐閣、2005 年； 国際協力用語集 (第 3 版)、国際開発ジャーナル社、2004 年； 地球市民をめざして、栗木千恵子、中央公論新社、2001 年； 世界の貧困 1 日 1 ドルで暮らす人々、ジェレミー・シーブルック、青土社、2006 年； 貧困の終焉 2025 年までに世界を変える、ジェフリー・サックス、早川書房、2006 年； 開発経済学入門 なぜ貧困はなくなるのか、ムシュケ・エスワラン、アショク・コトワル、日本評論社、2000 年； 授業の進捗にあわせて、参考となる図書について逐次紹介する。

メッセージ 開発途上国のことや日本の政府開発援助 (ODA) については、「よく理解できない」との声が聞かれます。本講義では国際協力やボランティア事業に携わった方々の現場からの報告を取り入れました。担当教員も 40 年近く途上国と関係する仕事をしてきましたので、分かり易く途上国の問題を考えるヒントを提供します。受講者がそれぞれの立場で途上国の課題や日本の役割についての意見交換を活発に行える授業にしたいと考えています。

連絡先・オフィスアワー E-mail: imazu@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済学部 C 棟 2 階 (C-218) オフィスアワー: 木曜日 午後 1 時 30 分 ~ 4 時 30 分

開設科目	国際地域統合論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 現在、経済のグローバル化が叫ばれるなか、世界中で自由貿易協定、地域協定の締結が進められています。それは、従来、多角主義を通商政策の基本としてきた日本も例外ではありません。この講義では、なぜいま自由貿易協定、地域協定がなのか、そして日本の通商政策はこの点でどのように変容しているのかについて検討を行います。 / 検索キーワード WTO、自由貿易協定、地域協定、東アジア共同体

授業の一般目標 現在の世界経済の政治経済を見るうえで、自由貿易協定、地域協定の締結の動きは欠かすことのできない題材です。この講義では、こうした論点を詳細に検討することを通じて、現在のグローバル経済の力学関係を理解することを目標とするものです。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済の基礎的な構造について理解する。 思考・判断の観点：日本の通商政策を展望する力を養う。 技能・表現の観点：レポート課題を通じて、大学生としての文章作法を身につける。

授業の計画（全体） 講義は、板書と口述をもとに行い、必要に応じてプリントを配布する。まずは、地域統合の現状、既存の理論から開始し、欧州、米州、日本と東アジアの順に具体的な地域統合の実態について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로 内容 講義全体の説明
- 第 2 回 項目 世界の地域統合の現状 (1) 内容 グローバル化と地域化
- 第 3 回 項目 世界の地域統合の現状 (2) 内容 なぜ地域統合が増殖するのか
- 第 4 回 項目 経済統合の理論 (1) 内容 国際経済学の議論
- 第 5 回 項目 経済統合の理論 (2) 内容 国際政治経済学の議論
- 第 6 回 項目 欧州の地域統合 (1) 内容 欧州統合の理念
- 第 7 回 項目 欧州の地域統合 (2) 内容 欧州経済圏の実態
- 第 8 回 項目 欧州の地域統合 (3) 内容 欧州と中東欧諸国
- 第 9 回 項目 米州の地域統合 (1) 内容 北米自由貿易地域
- 第 10 回 項目 米州の地域統合 (2) 内容 米国の通商政策と米州自由貿易地域構想
- 第 11 回 項目 日本と東アジアの地域統合 (1) 内容 日本の通商政策と東アジア
- 第 12 回 項目 日本と東アジアの地域統合 (2) 内容 日本の自由貿易協定戦略
- 第 13 回 項目 日本と東アジアの地域統合 (3) 内容 東アジアの自由貿易協定
- 第 14 回 項目 日本と東アジアの地域統合 (4) 内容 東アジア共同体を巡る議論
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 講義内容の理解度を測るために、最大 3 回の授業外レポートを課し、それに期末試験を加味して全体の評価とする。評価の基準は、講義内容の理解におかれるが、発展的な内容については加算する。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。 / 参考書：必要に応じて随時指示する。

開設科目	経済発展論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	今津 武				

授業の概要 第2次世界大戦後、世界経済全体は戦後復興を急速に果たし、大きく発展を遂げた。しかし、植民地から新たに独立した国々、いわゆる開発途上国の経済発展は遅々として進んでいない。この結果、先進国と途上国の格差は拡大し、世界の「貧困」問題は深刻さを増し、多くの地域紛争の原因になるとさえ指摘されている。こうした「格差」を生じてきた背景を第2次大戦後の世界経済の仕組み、そうした格差解消への世界的取り組み、途上国の経済発展を阻害している要因について理解を深める。 / 検索キーワード 経済発展、格差、開発、グローバル化

授業の一般目標 第2次世界大戦後の世界経済の発展過程において、国・地域により大きな経済格差が生じてきた。そうした格差がどうして生じたのかを理解するため、大戦後に独立したアジア・アフリカ諸国の開発・発展を阻害してきた要因について学び、そうした阻害要因を取り除いて行くための国際連携の現状を理解する。なお、こうした内容を教員からの一方向の授業形式でなく、学生の参加（授業に関する意見質問の提出等）により議論を深める方式を取り入れ、学生が自らの考えをまとめ、書き、発表する能力の向上につなげる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済の発展の歴史とその理論、特に国や地域間に生じている経済格差の現状とその原因と考えられる課題について理解する。 思考・判断の観点：経済発展の格差について自分なりの考え方をまとめ説明できる。また、こうした格差が今後の世界に与える影響について考える。 関心・意欲の観点：世界経済の出来事や課題について関心を持つ。

授業の計画（全体） 教員からの一方的講義でなく、学生が参加することにより授業内容の理解を深めるため、授業の内容についての意見・感想、質問を、出席確認用紙に記入し毎回提出する。次回授業ではその意見、質問等に対する補足説明を含め次のテーマに進んで行く方式とする。なお、授業内容の基礎的理解度を確認するため、授業内で2回の小テストを実施し、また12回目授業時に、主として後半授業部分に関する意見を2000字程度のレポートにまとめ、提出することを求める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 授業の目標・内容、授業の進め方、授業日程、成績評価方法説明
- 第2回 項目 プレトンウッズ体制 内容 第2次大戦直後の世界経済の枠組み形成
- 第3回 項目 植民地主義からの脱却 内容 植民地からの独立の経済的側面
- 第4回 項目 経済格差 内容 世界における経済格差の現状
- 第5回 項目 貧困削減への取り組み 内容 貧困の意味と世界の格差是正（貧困削減）への取り組み
- 第6回 項目 日本の国際協力(1) 内容 貧困削減、格差是正に対する日本の取り組み（援助実施機関経験者による授業を予定）
- 第7回 項目 日本の国際協力(2) 内容 貧困削減、格差是正に対する日本の取り組み（援助実施機関経験者による授業を予定）
- 第8回 項目 経済発展に関連する要因(1) 内容 経済発展と人口 / 小テスト1
- 第9回 項目 経済発展に関連する要因(2) 内容 経済発展と食糧問題
- 第10回 項目 経済発展に関連する要因(3) 内容 経済発展と産業構造
- 第11回 項目 経済発展に関連する要因(4) 内容 経済発展と貿易
- 第12回 項目 経済発展に関連する要因(5) 内容 経済発展と資源 / 2000字程度のレポート提出
- 第13回 項目 経済発展に関連する要因(6) 内容 経済発展と政府 / 小テスト2
- 第14回 項目 学生からの発表(1) 内容 27週目までに提出を求めたレポートに基づき、学生からこの授業で学んだ点の発表
- 第15回 項目 学生からの発表(2) 内容 27週目までに提出を求めたレポートに基づき、学生からこの授業で学んだ点の発表

成績評価方法(総合) 1.小テストを2回実施する。2.経済開発に関する課題についてのレポート(2000字程度)を作成し、第27回授業時まで提出する。3.以上の評価に授業への参加度を加味して総合的に評価する。4.特別の理由なく出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: 教員の作成するレジメを使用する。/ 参考書: 経済発展論入門, 秋山 裕, 東洋経済新報社, 1999年; アジアに学ぶ 国際経済学, 小浜 裕久ほか, 有斐閣, 2001年; 国際開発論 ミレニアム開発目標による貧困削減, 斎藤 文彦, 日本評論社, 2005年; 途上国のグローバリゼーション 自立的発展は可能か, 大野 健一, 東洋経済新報社, 2000年; 現代アフリカと開発経済学 市場経済の荒波のなかで, 峯 陽一, 日本評論社, 1999年; 授業の進捗に合わせて、参考となる資料について逐次紹介する予定。

メッセージ 21世紀の課題の一つは「格差」だといわれています。経済発展の歴史を概観しながら、その「格差」について世界規模で議論してみませんか。とにかくどんどん授業に参加する積極性を求めます。

連絡先・オフィスアワー E-mail: imazu@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済学部C棟2階(C-218)

開設科目	経済発展論(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	今津 武				

授業の概要 人類は生きるために自らが必要とする食糧や衣料を作り始めた。そしてより安定した「生存」のために、余剰品を蓄える様になり、その余剰品をそれを必要とする人に対価を得つつ分け与えるようになる。しかし、生産と消費の拡大、活動(交易)の地理的拡大が著しく進み始めたのは18世紀以降といわれている。本授業の前半では、このイギリスの産業革命以降に生まれてくる近代的経済システムの流れを概観し、経済発展に関する主要な理論を紹介する。授業の後半は「経済発展論(新課程)」と合同とし、特に第2次世界大戦後の先進工業国と開発途上国における経済格差拡大について、考えられる主要な要因について学ぶことにする。(後半部分は「国際発展論(新課程)」のシラバスも参照して下さい。/検索キーワード 経済発展、格差、開発、グローバル化

授業の一般目標 前半では経済発展に関する主要な理論を学びつつ、経済発展の意味を考える。後半においては、第2次世界大戦後に独立したアジア・アフリカ諸国の開発・発展を阻害してきた要因について学び、そうした阻害要因を取り除いて行くための国際連携の現状を理解する。なお、こうした内容を教員からの一方向の授業形式でなく、学生の参加(課題についてまとめ、発表する等)により議論を深める方式を取り入れ、学生が自らの考えをまとめ、書き、発表する能力の向上につなげる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 世界経済の発展の歴史とその理論、特に国や地域の間が生じている経済格差の現状とその原因と考えられる課題について理解する。 思考・判断の観点: 経済発展の格差について自分なりの考え方をまとめ説明できる。また、こうした格差が今後の世界に与える影響について考える。 関心・意欲の観点: 世界経済の出来事や課題について関心を持つ。 技能・表現の観点: 自分の調べたこと、考えたことを他の人に分かりやすいレジメとしてまとめ、その内容を簡潔に説明できる。

授業の計画(全体) 前半は少人数クラスが想定されるため、演習に近い方式で授業を進める。すなわち授業テーマにつき教員が配付資料に基づき基本的な説明を行い、その内容につき学生が次回までに自らの考えをレジメにまとめ提出するとともに、その内容をクラスで発表する。後半では、授業の内容についての意見・感想、質問を、出席確認用紙に記入し毎回提出する。次回授業ではそこで提出された意見、質問等に対する補足説明を含め次のテーマに進んで行く方式とする。なお、授業内容の基礎的理解度を確認するため、授業内で2回の小テストを実施し、また27回目授業時に、主として後半授業部分に関する意見を2000字程度のレポートにまとめ、提出することを求める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス(前期分) 内容 授業の目標・内容、授業の進め方、授業日程、成績評価方法説明
- 第2回 項目 経済発展論概説(1) 内容 経済発展の意味、経済発展論についての解説
- 第3回 項目 経済発展論概説(2) 内容 経済発展の歴史/質疑
- 第4回 項目 学生による発表(1) 内容 経済発展の意味についての学生の発表
- 第5回 項目 経済発展指標(1) 内容 経済発展を計る指標について(主として経済開発指標)
- 第6回 項目 経済発展指標(2) 内容 経済発展を計る指標について(主として社会開発指標)/質疑
- 第7回 項目 学生による発表(2) 内容 経済開発指標についての学生の発表
- 第8回 項目 経済発展理論(1) 内容 経済発展理論紹介(新古典派以前)
- 第9回 項目 経済発展理論(2) 内容 経済発展理論紹介(新古典派以降)/質疑
- 第10回 項目 学生による発表(3) 内容 経済発展理論についての学生発表
- 第11回 項目 日本の経済発展(1) 内容 日本の経済発展の歴史(第2次大戦以前)
- 第12回 項目 日本の経済発展(2) 内容 日本の経済発展の歴史(第2次大戦以降)/質疑
- 第13回 項目 学生による発表(4) 内容 日本の経済発展に関する学生の発表
- 第14回 項目 授業総括 内容 前半授業の総括
- 第15回 項目 予備日

- 第 16 回 項目 ガイダンス(前期分) 内容 授業の目標・内容、授業の進め方、授業日程、成績評価方法説明
- 第 17 回 項目 プレトンウッズ体制 内容 第 2 次大戦直後の世界経済の枠組み形成
- 第 18 回 項目 植民地主義からの脱却 内容 植民地からの独立の経済的側面
- 第 19 回 項目 経済格差 内容 世界における経済格差の現状
- 第 20 回 項目 貧困削減への取り組み 内容 貧困の意味と世界の格差是正(貧困削減)への取り組み
- 第 21 回 項目 日本の国際協力(1) 内容 貧困削減、格差是正に対する日本の取り組み(援助実施機関経験者による授業を予定)
- 第 22 回 項目 日本の国際協力(2) 内容 貧困削減、格差是正に対する日本の取り組み(援助実施機関経験者による授業を予定)
- 第 23 回 項目 経済発展に関連する要因(1) 内容 経済発展と人口/小テスト 1
- 第 24 回 項目 経済発展に関連する要因(2) 内容 経済発展と食糧問題
- 第 25 回 項目 経済発展に関連する要因(3) 内容 経済発展と産業構造
- 第 26 回 項目 経済発展に関連する要因(4) 内容 経済発展と貿易
- 第 27 回 項目 経済発展に関連する要因(5) 内容 経済発展と資源/2000 字程度のレポート提出
- 第 28 回 項目 経済発展に関連する要因(6) 内容 経済発展と政府/小テスト 2
- 第 29 回 項目 学生からの発表(1) 内容 27 週目までに提出を求めたレポートに基づき、学生からこの授業で学んだ点の発表
- 第 30 回 項目 学生からの発表(2) 内容 27 週目までに提出を求めたレポートに基づき、学生からこの授業で学んだ点の発表

成績評価方法(総合) 1. 授業内容に基づく発表を求める。(発表要約の作成を含む) 2. 小テストを 2 回実施する。 3. 経済開発に関する課題についてのレポート(2000 字程度)を作成し、第 27 回授業時までに提出する。 4. 以上の評価に授業への参加度を加味して総合的に評価する 5. 特別の理由なく出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: 教員の作成するレジメを使用する。/ 参考書: 経済発展論入門, 秋山 裕, 東洋経済新報社, 1999 年; アジアに学ぶ 国際経済学, 小浜 裕久ほか, 有斐閣, 2001 年; 国際開発論 ミレニアム開発目標による貧困削減, 斎藤 文彦, 日本評論社, 2005 年; 途上国のグローバリゼーション 自立的発展は可能か, 大野 健一, 東洋経済新報社, 2000 年; 現代アフリカと開発経済学 市場経済の荒波のなかで, 峯 陽一, 日本評論社, 1999 年; 授業の進捗に合わせて、参考となる資料について逐次紹介する予定。

メッセージ 21 世紀の課題の一つは「格差」だといわれています。経済発展の歴史を概観しながら、その「格差」について世界規模で議論してみませんか。とにかくどんどん授業に参加する積極性を求めます。

連絡先・オフィスアワー E-mail: imazu@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済学部 C 棟 2 階(C-218)

開設科目	東アジア経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 東アジアは、歴史上まれに見る急成長をとげ、世界の工場といわれるまでになっている。この経済成長の過程には、日本経済と日本企業が重要な役割を果たしてきた。この講義では、東アジア地域の経済構造を、主に生産、貿易、投資、企業活動の観点から、可能な限り統計的な数値を用いて分析し、日本と東アジア経済の関係についての理解を深めることを目的としている。

授業の一般目標 東アジア経済は、どのように発展してきたのか、またそれは日本経済や日本企業とどのような関係にあるのかを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 東アジア経済についての基本的な特徴を知り、日本と東アジアの経済的な結びつきを理解する。 思考・判断の観点： 地域経済の分析に必要な統計数値とその読み方について学ぶ。

授業の計画（全体） 講義は、口述筆記形式で板書を多様する。また理解を深めるために、統計データや図表を付したプリントを配布する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로 内容 講義全体の説明
- 第 2 回 項目 東アジアの経済成長の特徴 内容 輸出志向工業化
- 第 3 回 項目 東アジアの経済発展パターン (1) 内容 雁行形態論
- 第 4 回 項目 東アジアの経済発展パターン (2) 内容 雁行形態論
- 第 5 回 項目 東アジアの経済発展パターン (3) 内容 雁行形態論
- 第 6 回 項目 東アジア価値連鎖論 (1) 内容 新国際分業とグローバル価値連鎖
- 第 7 回 項目 東アジア価値連鎖論 (2) 内容 繊維産業
- 第 8 回 項目 東アジア価値連鎖論 (3) 内容 IT 関連財産業
- 第 9 回 項目 東アジア価値連鎖論 (4) 内容 自動車産業
- 第 10 回 項目 東アジアにおける日系多国籍企業
- 第 11 回 項目 東アジアにおける日系多国籍企業
- 第 12 回 項目 東アジアにおける国家の役割
- 第 13 回 項目 中国経済と日本 (1)
- 第 14 回 項目 中国経済と日本 (2)
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業内容を理解しているかどうか、それを論理的な文章で表現できているかどうかで評価を行う。例年の試験で多く見受けられるのは、板書したことを羅列する答案である。しかし、板書するものは、要約的なものにすぎないので、それを丸暗記して書き移すだけでは十分ではない。板書した内容を自ら文章で論じる力が試験合格の最低基準である。

教科書・参考書 教科書： 特に指定しない。 / 参考書： 授業中に必要に応じて指示する。

開設科目	韓国経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 1. 第二次世界大戦後の世界資本主義体制の構造変化の中で、東アジア地域では、韓国、台湾を始めとして「東アジアの奇跡」と呼ばれる高度成長を遂げた。本講義では、1960年代後半以降の韓国経済の発展のメカニズムを、国内的条件、国際的条件の両側面から歴史的に見ていく。とくに、開発政策を通じて強力な国家が果たした役割と、その結果、韓国経済・社会の構造がいかに変わったかについて注目したい。2. 1997年の東アジア経済危機後の就業体制及び社会保障体制の変化を韓国と日本の比較を通してみる。この際、ジェンダーの視角を交えて考察する。/ 検索キーワード 韓国経済、組立型工業化、就業体制、社会保障体制、ジェンダーの視角、経済危機

授業の一般目標 1. 韓国の経済発展メカニズムについて考える。2. 日韓の就業体制と社会保障体制の変化を歴史的、構造的に捉える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に理解する。2. 日韓の就業体制の特徴と共通点を歴史的・構造的に理解する。3. 日韓の社会保障体制の特徴と共通点を歴史的・構造的に理解する。思考・判断の観点：1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に説明できる。2. 日韓の就業体制の特徴と共通点を体系立てて説明できる。3. 日韓の社会保障体制の特徴と共通点を体系立てて説明できる。関心・意欲の観点：1. 経済だけでなく、日常的に韓国の政治、文化、歴史や社会について関心を持つ。2. 歴史的に、同じ東アジア文化圏にある日本と韓国を比較分析する視点を持つ。態度の観点：1. 本講義に対して質問や自分の意見を提示するなど、講義に積極的に参加する。技能・表現の観点：1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に自分の言葉で叙述できる。2. 日韓の就業体制の特徴と共通点を体系立てて論理的に自分の言葉で叙述できる。3. 日韓の社会保障体制の特徴と共通点を体系立てて論理的に自分の言葉で叙述できる。

授業の計画(全体) 1. 韓国経済を見る視角 2. 韓国経済の発展メカニズムに対する分析 3. 「IMF 経済危機」と韓国の就業体制と「失われた10年」以降の日本の就業体制の比較 4. 「IMF 経済危機」以降の韓国の社会保障体制と「失われた10年」以降の日本の社会保障体制比較

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 韓国経済を見る視角 内容 韓国の経済発展を様々な立場の論者がどのように見てきたのかを紹介する。その中で本講義の視角を定めていく。
- 第2回 項目 韓国の農地改革と農村開発 内容 韓国の経済発展の始発点で、韓国の農地改革が農村開発及び経済発展にどのような役割を果たしたのかを見る。
- 第3回 項目 1950年代の韓国の工業化 内容 高度経済成長の前段階の1950年代の工業化を通して、発展の前提条件がどのように形成されたかを見る。
- 第4回 項目 開発体制の成立と「組立型工業化」(1) 内容 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第5回 項目 開発体制の成立と「組立型工業化」(2) 内容 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第6回 項目 農村開発とセマウル運動(1) 内容 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件は、70年代のセマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させられた。その展開過程を跡づける。
- 第7回 項目 農村開発とセマウル運動(2) 内容 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件は、70年代のセマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させられた。その展開過程を跡づける。
- 第8回 項目 「韓国型」重化学工業化(1) 内容 韓国の高度経済成長は、重化学工業化によって主導された。このような急速な重化学工業化がなぜ可能であったのか? 「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。

- 第 9 回 項目「韓国型」重化学工業化(2) 内容 韓国の高度経済成長は、重化学工業化によって主導された。このような急速な重化学工業化がなぜ可能であったのか?「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。
- 第 10 回 項目 1970 年代の韓国の都市化と労働市場 内容 1970 年代の韓国の高度経済成長を支えたのは、農村から都市へ大量に流入した「低賃金」労働力であった。韓国の「低賃金体制」の実態を「都市下層」という概念を用いて論じる。
- 第 11 回 項目 労働者大闘争と韓国の労働市場の構造変化 内容 韓国労働運動史上の画期をなした 1987 年の「労働者大闘争」以前と以降の労働市場構造の変化を考察する。
- 第 12 回 項目「IMF 経済危機」と経済構造改革(1) 内容 1997 年の「IMF 経済危機」を契機に展開された経済構造改革について、主に金融改革と財閥改革を中心に見ていく。
- 第 13 回 項目「IMF 経済危機」と経済構造改革(2) 内容 1997 年の「IMF 経済危機」を契機に展開された経済構造改革について、主に金融改革と財閥改革を中心に見ていく。
- 第 14 回 項目 1990 年代以降の日韓「就業体制」の比較分析 内容 1990 年代以降、経済のグローバル化が進展し、日韓ともに労働市場が急速に柔軟化した。この過程で、人々の「働き方」を規定する「就業体制」は、日韓両国でどのように変化したのか、とくにジェンダーの視角から考察したい。
- 第 15 回 項目 1990 年代以降の日韓の「社会保障体制」の比較分析 内容 1990 年代以降、日韓両国で労働市場が急速に柔軟化し、労働力の非正規化が進んだ。これと同時に新貧困の登場と「社会的排除」が社会問題化する。これに対し、日韓両国では、いかなる「社会保障体制」を構築したのか、ジェンダーの視角から考察する。

成績評価方法(総合) 1. 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に判断する。 2. 出席を重視する。 3. 試験 60%、レポート 10%、授業への参加度 10%、出席 20%。

教科書・参考書 参考書：韓国の経済, 隅谷三喜男, 岩波書店, 1976 年; 韓国の工業化 - 発展の構図 -, 服部民夫, アジア経済研究所, 1987 年; NIES - 世界システムと開発 -, 平川均, 同文館, 1992 年; 韓国・先進国経済論, 深川由紀子, 日本経済新聞社, 1997 年; 東アジアの福祉戦略, 大沢真理編, ミネルヴァ書房, 2004 年; 経済危機後の韓国: 成熟に向けての経済・社会的課題, 奥田聡編著, アジア経済研究所, 2007 年

メッセージ 韓国社会経済の発展のダイナミクスの源を、政治経済的な側面だけでなく、歴史や文化、あるいは人々の生活の実態の中から探ってみたいと思います。

連絡先・オフィスアワー e-mail:ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	中国経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	李 海峰				

授業の概要 1970年代末から20数年間にわたり、中国は改革開放路線を押し進める一方、経済成長を維持してきた。かつて同じ計画経済システムを採用した旧ソ連諸国や東欧諸国に比べて、中国の経済状況が比較的良好的なパフォーマンスを示し得たのは、ひとえに漸進的な改革路線と対外開放路線のおかげだと言っても過言ではない。しかし、改革開放までの約30年間わたる計画経済時代の投資蓄積がなければ、中国の経済成長がこれほどまでに長期に継続できたとも思えない。本講義では、新中国建国後の社会主義計画経済時代の経済発展を振り返り、ここ20年の中国の改革開放路線の展開を軸に、社会主義市場経済体制の確立に向けての歩みと、経済成長のダイナミズムを検証し、21世紀の中国の課題と展望について考える。

授業の一般目標 中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期の関係を理解し、国際経済における中国経済の位置付けや中国経済の今後の見通しについて、自分の意見が言える。

授業の計画(全体) 一、歴史と現在 1、工業化の進展 2、社会主義化と計画経済 3、改革開放と市場化 二、発展と課題 1、農村経済の発展と三農問題 2、国有企業改革 3、地域政策と地域格差 4、財政体制と中央地方の関係 5、失業、貧困および所得格差 6、人口と社会保障 三、世界の中の中国 1、貿易大国の実像 2、中国の対外投資 3、兩岸三地 香港、台湾と中国大陸 4、北東アジアと中国 四、中国経済の行方

成績評価方法(総合) 出席、課題レポート、期末試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：中国経済論, 加藤弘之, 上原一慶, ミネルヴァ書房, 2004年

開設科目	中国経済論(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	李海峰				

授業の概要 1970年代末から20数年間にわたり、中国は改革開放路線を押し進める一方、経済成長を維持してきた。かつて同じ計画経済システムを採用した旧ソ連諸国や東欧諸国に比べて、中国の経済状況が比較的良好的なパフォーマンスを示し得たのは、ひとえに漸進的な改革路線と対外開放路線のおかげだと言っても過言ではない。しかし、改革開放までの約30年間わたる計画経済時代の投資蓄積がなければ、中国の経済成長がこれほどまでに長期に継続できたとも思えない。本講義では、新中国建国後の社会主義計画経済時代の経済発展を振り返り、ここ20年の中国の改革開放路線の展開を軸に、社会主義市場経済体制の確立に向けての歩みと、経済成長のダイナミズムを検証し、21世紀の中国の課題と展望について考える。 / 検索キーワード 中国経済、東アジア社会

授業の一般目標 中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期との関係を理解し、国際経済における中国経済の位置付けや中国経済の今後の見通しについて、自分の意見が言える。

授業の計画(全体) 一、歴史と現在 1、工業化の進展 2、社会主義化と計画経済 3、改革開放と市場化 二、発展と課題 1、農村経済の発展と三農問題 2、国有企業改革 3、地域政策と地域格差 4、財政体制と中央地方の関係 5、失業、貧困および所得格差 6、人口と社会保障 三、世界の中の中国 1、貿易大国の実像 2、中国の対外投資 3、兩岸三地 香港、台湾と中国大陸 4、北東アジアと中国 四、中国経済の行方

成績評価方法(総合) 出席、課題レポート、期末試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：中国経済論, 加藤弘之・上原一慶, ミネルヴァ書房, 2004年

メッセージ よくノートをとって、必ず整理しておくように。また、メディア等における中国関係の情報にも関心を持つように。

開設科目	中国経済事情	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	陳建平				

授業の概要 中国経済は1980年から先進国の市場経済の導入、いわゆる「改革・開放」政策が実施されて以来、25年間のGDPの平均成長率は9.5%で、世界およびアジア経済において無視できない存在となっている。「世界の工場」とされていた中国はもはや「世界の市場」となりつつある。この講義では中国経済の最新事情を紹介する。

授業の一般目標 中国のホットな話題ををピックアップし、最近の中国経済事情と共に、人々の関心や社会的な出来事の分析を通じて、中国の実情への理解を深める。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 中国の国土と人口構造
- 第2回 項目 「改革・開放」政策の実施と経済高度成長
- 第3回 項目 国内の経済格差
- 第4回 項目 市場開放
- 第5回 項目 外資の参入
- 第6回 項目 技術導入と外資企業の直接投資
- 第7回 項目 産業構造の変化
- 第8回 項目 国有企業の改革と社会問題
- 第9回 項目 農村の近代化と農村市場
- 第10回 項目 金融システムの改革
- 第11回 項目 華人経済ネットワークと中国経済
- 第12回 項目 日中経済関係と日本企業
- 第13回 項目 西部開発と持続可能な経済成長
- 第14回 項目 中国市場の変化と世界経済
- 第15回 項目 中国市場の展望と日本企業の今後の課題

成績評価方法（総合） 出席とレポートを総合して評価する。

教科書・参考書 参考書：参考書、資料などは講義の際に随時配布、指示する

經濟法学科

開設科目	法学 Ia	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 私達は国家や社会の一員として生活している。一人一人の人間は自由でなければならないが、社会生活への責任も果たさなければならない。法はこのような人間社会の調整役を行ない、一定のルールを定めて円滑な社会生活を可能にしている。

授業の一般目標 本講義は、「法とは何か」といったことから始めて、社会政策や個人の生活がどのような法的枠組みの下に営まれているのかについて概観し、現代社会における法のあり方を大まかにつかんでもらうための講義である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 法の仕組み 1 内容 法とは何か
- 第 3 回 項目 法の仕組み 2 内容 法の発展
- 第 4 回 項目 法の仕組み 3 内容 法と裁判
- 第 5 回 項目 法の仕組み 4 内容 裁判の基準
- 第 6 回 項目 法の仕組み 5 内容 法の解釈
- 第 7 回 項目 市民と法 1 内容 犯罪と刑罰
- 第 8 回 項目 市民と法 2 内容 家族と法
- 第 9 回 項目 市民と法 3 内容 契約の自由
- 第 10 回 項目 市民と法 4 内容 財産
- 第 11 回 項目 市民と法 5 内容 損害賠償
- 第 12 回 項目 市民と法 6 内容 生存と環境保護
- 第 13 回 項目 市民と法 7 内容 労働者の権利
- 第 14 回 項目 市民と法 8 内容 生活の保障
- 第 15 回 項目 市民と法 9 内容 経済生活と法

成績評価方法（総合） 筆記試験による

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する

開設科目	法学 Ib	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土生 英里				

授業の概要 この講義は、法律の各専門科目を学ぶために必要不可欠な法律に関する基本的な用語・概念を理解すると共に、社会においてどのような法律が存在し機能しているかを説明することにより、教養としての法律学（経済社会における法的問題に対する処理能力）の基礎を学習する。

授業の一般目標 法学の基本的な考え方、概念、実定法の体系等について理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：法律学の基礎的知識の習得。 思考・判断の観点：法的な問題処理能力の涵養。 関心・意欲の観点：社会に生起する法的問題を的確に把握する。 態度の観点：日常生活の中の法律行為が認識できる。 技能・表現の観点：法学の世界に特有の専門用語のうち、基本的なものを理解する。

授業の計画（全体） 1．はじめに 2．法とは何か 3．法の発展 4．法の分類 5．国家と法 6．日常生活と法 7．犯罪と法 8．財産関係と法-1 9．財産関係と法-2 10．家族と法 11．経済活動と法-1 12．経済活動と法-2 13．裁判制度と法 14．国際問題と法 15．試験

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 法学を学ぶ目的 法学の全体像
- 第 2 回 項目 法とは何か
- 第 3 回 項目 法の発展
- 第 4 回 項目 法の分類
- 第 5 回 項目 国家と法 (1) 憲法 (2) 行政法
- 第 6 回 項目 日常生活と法
- 第 7 回 項目 犯罪と法 (1) 刑法 (2) 構成要件 (3) 刑事手続き
- 第 8 回 項目 財産関係と法-1 (1) 取引の主体 (2) 取引の客体
- 第 9 回 項目 財産関係と法-2 (1) 契約 (2) 不法行為
- 第 10 回 項目 家族と法 民法（親族・相続）
- 第 11 回 項目 経済活動と法-1 (1) 商法 (2) 経済法
- 第 12 回 項目 経済活動と法-2 (1) 社会法 (2) 労働法の体系
- 第 13 回 項目 裁判制度と法
- 第 14 回 項目 国際問題と法 (1) 国際法の必要性 (2) 国際法上の権利義務 (3) 国際法と国内法 (4) 国際法の発達
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末試験（短答式）による。各回の講義内容から必ず一問出題する。8 回以上欠席した者については期末試験の受験資格を認めない（受験しても不合格となる）。

教科書・参考書 教科書：現代法学入門（第 4 版）、伊藤正巳他編、有斐閣、2005 年；適宜プリントを配布する / 参考書：「図解による法律用語辞典」自由国民社 2006 年

メッセージ 法律は人が生まれてから死ぬまで、生活に密着して存在しています。日常生活の中で意識されない法の存在を、講義を通して再認識するよう、頑張ってください。

連絡先・オフィスアワー e.habu@yamaguchi-u.ac.jp 経済学部 A 棟 410 号室

開設科目	法学 Ic	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 この講義は、法律の各専門科目を学ぶために必要不可欠な法律に関する基本的な用語・概念を理解すると共に、社会においてどのような法律が存在し機能しているかを説明することにより、教養としての法律学（経済社会における法的問題に対する処理能力）の基礎を学習する。

授業の一般目標 法学の基本的な考え方、概念、実定法の体系等について理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：法律学の基礎的知識の習得。 思考・判断の観点：法的な問題処理能力の涵養。 関心・意欲の観点：社会に生起する法的問題を的確に把握する。 態度の観点：日常生活の中での法律行為が認識できる。 技能・表現の観点：法学の世界に特有の専門用語のうち、基本的なものを理解する。

授業の計画（全体） 1．はじめに 2．法とは何か 3．法の発展 4．法の分類 5．国家と法 6．日常生活と法 7．犯罪と法 8．財産関係と法-1 9．財産関係と法-2 10．家族と法 11．経済活動と法-1 12．経済活動と法-2 13．裁判制度と法 14．国際問題と法 15．試験

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 法学を学ぶ目的 法学の全体像
- 第 2 回 項目 法とは何か
- 第 3 回 項目 法の発展
- 第 4 回 項目 法の分類
- 第 5 回 項目 国家と法 (1) 憲法 (2) 行政法
- 第 6 回 項目 日常生活と法
- 第 7 回 項目 犯罪と法 (1) 刑法 (2) 構成要件 (3) 刑事手続き
- 第 8 回 項目 財産関係と法-1 (1) 取引の主体 (2) 取引の客体
- 第 9 回 項目 財産関係と法-2 (1) 契約 (2) 不法行為
- 第 10 回 項目 家族と法 民法（親族・相続）
- 第 11 回 項目 経済活動と法-1 (1) 商法 (2) 経済法
- 第 12 回 項目 経済活動と法-2 (1) 社会法 (2) 労働法の体系
- 第 13 回 項目 裁判制度と法
- 第 14 回 項目 国際問題と法 (1) 国際法の必要性 (2) 国際法上の権利義務 (3) 国際法と国内法 (4) 国際法の発達
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末筆記試験による。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する

メッセージ 法律は人が生まれてから死ぬまで、生活に密着して存在しています。日常生活の中で意識されない法の存在を、講義を通して再認識するよう、頑張ってください。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A 棟 408 号室

開設科目	法学 IIa	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 この授業は経済学部の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則が中心となるが、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことがらも扱う。

授業の一般目標 民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法についてごく初歩的なことについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 民法の位置づけを理解する。法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてごく初歩的な知識を身につける。 **思考・判断の観点：** 事実に法を当てはめて答えを導き出す能力を身につける。 **関心・意欲の観点：** きちんと予習・復習をする習慣を身につける。 **態度の観点：** 私語などにより授業を妨害しない。

授業の計画（全体） 学習する項目は以下の通り。公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法、法源（制定法、慣習、条理、判例）、民法の基本原則（個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則）とその修正、私権行使についての原則（公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止）、権利能力（自然人、法人）、意思能力、行為能力、意思表示と法律行為、任意規定と強行規定、無効と取消の区別、無効原因と取消原因についての概観、代理、無権代理と表見代理、条件と期限、時効、債権とは何か、債務不履行、不法行為。教科書に従って講義を行ない、レジュメは配らない。

成績評価方法（総合） 出席と期末試験による。試験は基本的な内容を中心とするため、試験の持込は認めない。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて（雑談を除く）とする。また、3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。遅刻・早退は欠席とみなす。また風邪や家庭の事情等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：未定。最初の講義で紹介する。 / 参考書：適宜指示する。

開設科目	法学 IIb	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	三間地 光宏				

授業の概要 この授業は経済学部の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則が中心となるが、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことがらも扱う。 / 検索キーワード 法学, 民法, 民法総則

授業の一般目標 民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：民法の位置づけを理解する。法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてのごく初歩的な知識を身につける。 思考・判断の観点：事実に法を当てはめて答えを導き出す能力を身につける。 関心・意欲の観点：きちんと予習・復習をする習慣を身につける。 態度の観点：私語などにより授業を妨害しない。

授業の計画(全体) 学習する項目は以下の通り。公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法、法源(制定法、慣習、条理、判例)、民法の基本原則(個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則)とその修正、私権行使についての原則(公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止)、権利能力(自然人、法人)、意思能力、行為能力、意思表示と法律行為、任意規定と強行規定、無効と取消の区別、無効原因と取消原因についての概観、代理、無権代理と表見代理、条件と期限、時効、債権とは何か、債務不履行、不法行為

成績評価方法(総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：未定。 / 参考書：民法1総則・物権総論(第3版), 内田貴, 東京大学出版会, 2005年; スタートライン債権法(第4版), 池田真朗, 日本評論社, 2005年

メッセージ 4回以上欠席した者については期末試験の受験を認めないことがある(受験しても不合格とする)。また、私語などによって他の受講生の受講を妨害した者についても期末試験の受験を認めないことがある。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは未定。

開設科目	法学 IIc	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有田謙司				

授業の概要 この授業は経済学部の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則を中心となるが、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことがらも取り扱う。

授業の一般目標 民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法のごく初歩的なことがらについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 民法の位置づけを理解する。基本的な法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてごく初歩的な知識を身につける。 **思考・判断の観点：** 事実に法を当てはめて答えを導き出す能力を身につける。 **関心・意欲の観点：** きちんと予習・復習する習慣を身につける。 **態度の観点：** 受講に専念できるようになる（私語厳禁。携帯電話・メールの利用禁止）

授業の計画（全体） 学習する項目は以下の通り。公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法、法源（制定法、慣習、条理、判例）、民法の基本原則（個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則）とその修正、私権行使についての原則（公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止）、権利能力（自然人、法人）、意思能力、行為能力、意思表示と法律行為、任意規定と強行規定、無効と取消の区別、無効原因と取消原因についての概観、代理、無権代理と表見代理、条件と期限、時効、債権とは何か、債務不履行、不法行為

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス、公法と私法、一般法と特別法
- 第 2 回 項目 法源（制定法、慣習、条理、判例）、民法の基本原則（個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則）とその修正
- 第 3 回 項目 私権行使についての原則（公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止）
- 第 4 回 項目 権利能力（自然人、法人）
- 第 5 回 項目 意思能力、行為能力
- 第 6 回 項目 意思表示と法律行為
- 第 7 回 項目 任意規定と強行規定
- 第 8 回 項目 無効原因と取消原因についての概観
- 第 9 回 項目 代理、無権代理と表見代理
- 第 10 回 項目 条件と期限、時効
- 第 11 回 項目 債権とは何か
- 第 12 回 項目 債務不履行
- 第 13 回 項目 不法行為（その 1）
- 第 14 回 項目 不法行為（その 2）
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 試験を主とし、出席及び受講態度を加味して評価する。

教科書・参考書 教科書：開講時に連絡、あるいは開講時までに掲示する / 参考書：六法必携。他の参考文献は適宜講義時に紹介する。

メッセージ 数ある法律の中で最重要なものの一つである民法総則が中心となりますが、講義時間が限られています。受講者の積極的な予・復習が望まれます。

開設科目	憲法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	梶原健佑				

授業の概要 本講義では憲法学のうち、総論と統治機構論を扱う。憲法総論とは憲法とはいかなる法であるか、近代立憲主義思想とは何か等を扱い、統治機構論は国会・内閣・裁判所および地方公共団体の活動を枠づけるルールを学ぶ領域である。近年の改革動向をもふまえ実態に即して検討する。 / 検索キーワード 憲法、立憲主義、権力分立、議院内閣制、司法審査

授業の一般目標 立憲主義・権力分立・議院内閣制・司法審査制等の基礎的概念の意味を理解し、「自由」と「民主」が究極的なところでは緊張関係に立つことを知る。政治・社会のニュースを憲法的に捉え直す視座を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：憲法の基本的概念の意味を、歴史的な観点や比較法の観点から理解する。 思考・判断の観点：知識を具体的事例に応用し分析することができる。 技能・表現の観点：内なる知識・思索を、他人に分かり易くアウトプットすることができる。

授業の計画（全体） 日本国憲法の条文解釈に終始することなく、総論・統治機構論の主要論点を扱う。具体的な内容は【週単位】の記載を参照すれば、おおよそ理解されるであろう。ただし、必ずしもこの計画どおりのペースで進むとは限らない。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法学の基礎・憲法史
- 第 3 回 項目 立憲主義・憲法保障
- 第 4 回 項目 国民主権・憲法改正
- 第 5 回 項目 権力分立・議院内閣制
- 第 6 回 項目 国民代表
- 第 7 回 項目 国会・内閣 (1)
- 第 8 回 項目 国会・内閣 (2)
- 第 9 回 項目 国会・内閣 (3)
- 第 10 回 項目 裁判所 (1)
- 第 11 回 項目 裁判所 (2)
- 第 12 回 項目 裁判所 (3)
- 第 13 回 項目 地方自治
- 第 14 回 項目 象徴天皇制・平和主義
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末試験および（予告なしに行う）中間小テストの成績を合算して評定する。試験の形式等は初回講義時にアナウンスする。なお、受講態度を減点要素とすることもありうるので注意されたい。

教科書・参考書 教科書：憲法〔第 4 版〕、芦部信喜（高橋和之補訂）、岩波書店、2007 年；六法は必携。なお、必要に応じてレジュメ等を配布することがある。 / 参考書：憲法判例百選 II〔第 5 版〕、高橋和之ほか編、有斐閣、2007 年；憲法 1 国制クラシック〔第 2 版〕、阪本昌成、有信堂、2004 年

メッセージ 日常の政治・社会のニュースに関心のある学生の履修を望みます。

開設科目	憲法 II	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	梶原健佑				

授業の概要 本講義では憲法学のうち、人権論を扱う。憲法第 3 章の規定をもとに、様々な事例を紹介しつつ、判例と学説の評価を軸にして講義する。公権力との関係で、私たちは、何をどこまで正当な主張として展開できるのが学習する。 / 検索キーワード 憲法、基本的人権、人権、基本権、公共の福祉、自由、平等

授業の一般目標 憲法に規定された人権（基本権）の法力とその限界を理解することが重要な目標である。社会一般にいう「人権問題」の相当部分が憲法問題ではないことを知る（この意味は講義で詳しく説明する）

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「人権」の法力とその限界につき、判例・学説のいうところを理解する。 思考・判断の観点：通説・判例を批判的に検討することができる。知識を体系的に整理し、具体的事例に応用することができる。 技能・表現の観点：内なる知識・思索を、他人に分かり易くアウトプットすることができる。

授業の計画（全体） 人権論の主要論点を扱う。日本の判例・学説に即して【週単位】記載の順に講義する予定である。ただし、必ずしもこのペースを堅持できるとは限らない。論点や判例は非常に多いので、講義外での予習・復習が必要となる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 人権論の基礎
- 第 3 回 項目 人権の享有主体
- 第 4 回 項目 公共の福祉・審査基準論
- 第 5 回 項目 思想・良心の自由
- 第 6 回 項目 信教の自由・政教分離 (1)
- 第 7 回 項目 信教の自由・政教分離 (2)
- 第 8 回 項目 表現の自由 (1)
- 第 9 回 項目 表現の自由 (2)
- 第 10 回 項目 職業の自由・財産権
- 第 11 回 項目 社会権
- 第 12 回 項目 幸福追求権
- 第 13 回 項目 平等原則
- 第 14 回 項目 私人間における人権保障
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末試験および（予告なしに行う）中間小テストの成績を合算して評定する。試験の形式等は初回講義時にアナウンスする。なお、受講態度を減点要素として考慮することもありうるので注意されたい。

教科書・参考書 教科書：憲法〔第 4 版〕, 芦部信喜（高橋和之補訂）, 岩波書店, 2007 年；憲法判例百選 I〔第 5 版〕, 高橋和之ほか編, 有斐閣, 2007 年；六法は必携。なお、必要に応じてレジュメ等を配布することがある。 / 参考書：憲法 2 基本権クラシック〔第 3 版〕【未刊】, 阪本昌成, 有信堂, 2008 年；憲法判例百選 II〔第 5 版〕, 高橋和之ほか編, 有斐閣, 2007 年

メッセージ 憲法 I を履修済み（単位取得の有無は問わない）の学生の履修が望ましい。

開設科目	民法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 契約法の基礎を講義する。債権各論中の契約総論・各論の学習が中心となるが、法律行為（民法総則）や債務不履行（債権総論）にもふれる。

授業の一般目標 契約法の基礎の修得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 契約法に関する基礎的な知識を修得する。

成績評価方法（総合） 期末試験による。なお私語などにより他の受講生の学習を妨げる者については期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書： 未定。

開設科目	民法 Ib	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	三間地 光宏				

授業の概要 この授業は民法Ⅰの続編であり、契約法についての応用編ないし発展編として位置づけられる。

授業の一般目標 契約法についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 契約法についての判例・学説を理解する。 思考・判断の観点： 事例を検討する能力を身につける。

成績評価方法 (総合) 期末試験の成績による。

教科書・参考書 教科書： 未定。

連絡先・オフィスアワー 連絡用メールアドレスは1回目に配付するプリントに記載。オフィスアワーは未定。

開設科目	民法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	油納健一				

授業の概要 物権法の基本を講義する。

授業の一般目標 学生諸君が物権法の規定と各問題についての判例・通説を理解すること、知識だけでなく法的に考える能力を身につけることの2点である。

授業の計画(全体) 1.はじめに 2.物権とは? 3.物権的請求権 4.不動産登記制度 5.物権変動
(1)物権変動の時期など (2)法律行為による物権変動 (3)取消による物権変動 (4)無効による物権変動・解除による物権変動 (5)相続・遺産分割による物権変動 (6)取得時効による物権変動 (7)公売などによる物権変動 (8)第三者の範囲 (9)即時取得

成績評価方法(総合) 出席と期末試験による。 3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。遅刻・早退は欠席とみなす。また病気や家庭の事情等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。 なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。 学期末試験は、事例論述式の問題を中心にし、講義に出席しない者には合格できない内容(友達から借りたノートを見て勉強しても合格できない内容)にする。 試験の持込は認めない。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて(雑談を除く)とする。 就職活動等で講義に出席できない者のみ、レポート提出によって平常点を与えようと考えている。ただし、レポートの量は2万字以上で質は上級レベルのものでないと受けつけない。

教科書・参考書 教科書：最初の講義で紹介する。 / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp 在室中は急用がある場合を除きいつでも相談に応じる。

開設科目	民法 III	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	油納健一				

授業の概要 債権総論・担保物権の基本を講義する。

授業の一般目標 学生諸君が債権総論・担保物権の規定と各問題についての判例・通説を理解すること、知識だけでなく法的に考える能力を身につけることの2点である。

授業の計画(全体) 1. 債権の分類 2. 相殺 3. 責任財産の保全 4. 債権譲渡 5. 多数当事者の債務関係 6. 保証 7. 抵当権 8. 質権

成績評価方法(総合) 出席と期末試験による。 3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。遅刻・早退は欠席とみなす。また病気や家庭の事情等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。 なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。 学期末試験は、事例論述式の問題を中心にし、講義に出席しない者には合格できない内容(友達から借りたノートを見て勉強しても合格できない内容)にする。 試験の持込は認めない。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて(雑談を除く)とする。 就職活動等で講義に出席できない者(4回生以上)のみ、レポート提出によって平常点を与えようと考えている。ただし、レポートの量は2万字以上で質は上級レベルのものでないと受けつけない。

教科書・参考書 教科書：最初の講義で提示する。 / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp 在室中は急用がある場合を除きいつでも相談に応じる。

開設科目	民法 IV	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 不法行為法を学習する。

授業の一般目標 不法行為法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：不法行為法について基礎的なことを理解する。 態度の観点：私語などによって他の受講者の学習を妨げないこと。

授業の計画（全体） 不法行為法を中心に学習するが、時間があれば事務管理・不当利得についても説明する。

成績評価方法（総合） 期末試験による。なお、私語などによって他の受講者の学習を妨げる者は期末試験の受験を認めない。

教科書・参考書 教科書：未定。開講時に指示する。

開設科目	民法 V	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藪本知二				

授業の概要 家族法では、市民社会の基礎法である民法の第 4 編親族・第 5 編相続および家事事件の紛争解決手続に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。講義では、法解釈が中心となるが、できる限り法社会学的観点や比較法的観点もとり入れる。また、法の抽象的・理論的な知識が具体的な問題解決にどのようにつながるのかを理解するために、また法的思考様式になれ親しむために、随時、問題を提起し、それに対する解答を求める。

授業の一般目標 親族法および相続法ならびに家事事件の紛争解決手続に関する基礎的な知識を習得すると共に、家事事件の解決の法的過程を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 家族法とは何かを説明することができる。 2 . 親族法および相続法ならびに家事事件の紛争解決手続に関する概要および基礎概念を説明することができる。 思考・判断の観点： 1 . 具体的な説例に対して法解釈により結論を導き出すことができる。また、法律的に説明することができる。 関心・意欲の観点： 1 . 現代社会における家族法の課題を見出し、考えることができる。 態度の観点： 1 . 学説および判例を読み込み自分のあたまで考えることができる。

授業の計画 (全体) 家族法の基礎原理および構造を説明した上で、親族法、相続法の順で概説する。また、家事事件の紛争解決手続については、親族法および相続法の概説の中で必要に応じて概説する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 家族法序説 内容 家族法 (親族法) の基本原則および基本構造。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 2 回 項目 親族法序説 内容 親族の意義。親族関係の変動と身分行為。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 3 回 項目 夫婦法 (1) 内容 婚姻関係の成立。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 4 回 項目 夫婦法 (2) 内容 婚姻の効力。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 5 回 項目 夫婦法 (3) 内容 配偶者間の財産関係。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 6 回 項目 夫婦法 (4) 内容 婚姻関係の取消と解消。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 7 回 項目 夫婦法 (5) 内容 離婚の効果。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 8 回 項目 親子法 (1) 内容 実親子関係。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 9 回 項目 親子法 (2) 内容 養親子関係。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 10 回 項目 親子法 (3) 内容 親権と子どもの権利 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 11 回 項目 狭義の親族法 内容 後見法と扶養法。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 12 回 項目 相続法序説 内容 相続法の基本原則と構造。相続の本質。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 13 回 項目 法定相続法 (1) 内容 推定相続人と相続人の確定。相続分。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 14 回 項目 法定相続法 (2) 内容 限定承認。遺産分割。相続人の不存在。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。
- 第 15 回 項目 遺言相続法 内容 遺言。遺留分。 授業外指示 参考書等を用いて該当箇所を予習すること。

成績評価方法 (総合) 期末試験を重視するが、授業中での小テストや質問に対する応答をも評価の対象とする。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いず、プリントを配布する。 / 参考書：民法 補訂版, 内田 貴, 東京大学出版会, 2004年； 家族法第2版, 二宮周平, 新世社, 2005年

開設科目	刑法総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論はどのような内容を持つかを理解して貰う。刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑罰論の順に考察していく。

授業の一般目標 刑法総論の内容を考察することにより、刑法総論の学問的体系を理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：刑法総論の内容について理解して貰う。刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。 思考・判断の観点：法的思考という観点から、刑法総論の具体的な事案を考察し、刑法理論が具体的な事案の解決にどのように適用されているかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑罰論の順に考察していく。具体的な内容については最初の授業時間に講義要項を配布する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 刑法の意義 内容 刑法の性質・機能
- 第 2 回 項目 刑法理論 内容 刑法解釈学・近代の刑法理論
- 第 3 回 項目 日本刑法の沿革 内容 明治初期の刑法・旧刑法・現行刑法
- 第 4 回 項目 罪刑法定主義 内容 意義・沿革・思想的根拠・内容
- 第 5 回 項目 刑法の適用範囲 内容 刑法の場所的、時間的、人的適用範囲
- 第 6 回 項目 犯罪論 内容 犯罪の概念・犯罪の成立要件
- 第 7 回 項目 行為論 内容 行為の概念・機能
- 第 8 回 項目 構成要件 内容 構成要件の概念・内容
- 第 9 回 項目 犯罪の分類 内容 構成要件の観点からの分類・法益の侵害と侵害の危険からの分類・法益侵害と構成要件の結果の発生との関係からの分類
- 第 10 回 項目 構成要件該当行為 内容 実行行為・不作為犯
- 第 11 回 項目 因果関係 内容 因果関係の理論・判例
- 第 12 回 項目 違法性 内容 違法性の概念・客観的違法論・行為無価値論と結果無価値論
- 第 13 回 項目 違法阻却事由 内容 法令又は正当の業務による行為・正当防衛・緊急避難
- 第 14 回 項目 責任 内容 責任の概念・責任の本質・責任の能力
- 第 15 回 項目 故意、錯誤、過失 内容 故意の要件、構成要件の錯誤、違法性の錯誤、過失の意義

成績評価方法（総合） 学期末試験とミニテスト、出席状況を総合して行う。

教科書・参考書 教科書：演習ノート刑法総論，齊藤誠二編，法学書院，2005年；刑法総論，安里全勝，成文堂，2008年

開設科目	刑法各論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法各論の内容を理解して貰う。刑法は犯罪と刑罰を規定する法律であるが、刑法各論の授業は具体的な犯罪の内容を考察することになる。最初の授業の時に講義要項を配布し、それにしたがって授業を行う。

授業の一般目標 具体的な犯罪の考察において不可欠となる保護法益、行為の主体、行為の客体等を考察していく。具体的には判例を考察し、刑法理論がどのように適用されていくかを見ることにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：刑法各論の内容を理解して貰う。犯罪は具体的な罪名を持つ。そこで、それらの犯罪に刑法理論がどのように適用されていくかを理解して貰う。思考・判断の観点：法的思考の観点から、刑法理論が具体的事案にどのように適用されていくかを理解して貰う。

授業の計画（全体） 個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の順に考察することにする。具体的には、それぞれ重要な問題について考察していく。最初の授業において講義要項を配布し、それにしたがって授業を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生命に対する罪 内容 生命のプロセス・刑法による保護
- 第 2 回 項目 殺人罪 内容 総論・短銃殺人罪・尊属殺人罪の削除・自殺関与罪、同意殺人罪
- 第 3 回 項目 墮胎罪 内容 墮胎罪の類型・墮胎の概念・胎児性致死傷
- 第 4 回 項目 遺棄 内容 客体・遺棄の概念・単純遺棄罪・保護責任者遺棄罪・遺棄致死傷罪
- 第 5 回 項目 暴行罪 内容 総論・暴行の意義
- 第 6 回 項目 傷害罪 内容 傷害の意義・傷害概念の相対性・暴行と傷害の関係・傷害致死罪
- 第 7 回 項目 危険運転致死傷罪 内容 結果的加重犯・行為・他罪との関係
- 第 8 回 項目 凶器準備致死傷罪 内容 保護法益・罪質・保護法益論の帰結
- 第 9 回 項目 過失傷害罪・過失致死罪 内容 重過失致死傷罪・業務上過失致死傷罪
- 第 10 回 項目 脅迫罪・強要罪 内容 脅迫罪・強要罪・人質強要罪
- 第 11 回 項目 逮捕・監禁罪 内容 保護法益・逮捕、監禁罪・逮捕、監禁致死傷罪
- 第 12 回 項目 略取・誘拐罪 内容 未成年誘拐罪・営利目的等拐取罪・身の代金目的拐取罪
- 第 13 回 項目 性的自由に対する罪 内容 強制わいせつ罪・強姦罪
- 第 14 回 項目 住居侵入罪 内容 保護法益・客体・住居侵入罪・不退去罪
- 第 15 回 項目 秘密に関する罪 内容 名誉毀損罪・事実の証明・真实性の誤信・侮辱罪

成績評価方法（総合） 学期末試験とミニテスト、授業への出席状況を総合して行う。

教科書・参考書 教科書：刑法各論第2版，林幹人，東京大学出版，2007年 / 参考書：演習ノート刑法各論，岡野光男編，法学書院，2008年

開設科目	商法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉川信將				

授業の概要 この授業では、商法の基礎的部分を構成する「商法総則」並びに商法典から独立して単独法となった会社法のうち、「会社の設立」及び「持分会社」について解説する。

授業の一般目標 商法総則の位置付けとその基本的意義、会社の設立に関する基礎知識、持分会社の種類と特徴について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 商法総則の位置づけを理解するとともに、その意義を正しく理解する。 会社の設立に関する法規制を理解する。 持分会社の種類と特徴について理解する。 態度の観点： 事前に当日の講義範囲につき、教科書に目を通してから講義に臨む姿勢を身につける。

授業の計画（全体） 前半で商法総則を、後半では会社の設立と持分会社について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 商法の意義、商法総則・商行為法の位置づけ
- 第 3 回 項目 商業登記
- 第 4 回 項目 商号
- 第 5 回 項目 営業譲渡・事業譲渡
- 第 6 回 項目 商業帳簿
- 第 7 回 項目 商業使用人・代理商
- 第 8 回 項目 持分会社 (1)
- 第 9 回 項目 持分会社 (2)
- 第 10 回 項目 持分会社 (3)
- 第 11 回 項目 設立 (1)
- 第 12 回 項目 設立 (2)
- 第 13 回 項目 設立 (3)
- 第 14 回 項目 予備日
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 筆記試験により理解度を判定し、出席状況・受講態度を加味して最終的な評価を決定する。

教科書・参考書 教科書：教科書については開講時に連絡または開講時までには掲示します。六法（新会社法が掲載されているもの）必携 新会社法制定時に、商法総則等も改正を受けています。 / 参考書：参考書等は随時紹介するとともに、必要な資料は随時配布します。

メッセージ 今までの履修科目と今後予定している履修科目（特に、民法・商法の各科目）との関連とバランスを考えて履修科目を選択することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー C棟224研究室（新年度のオフィスアワーについては開講時に案内します）

開設科目	商法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村 美紀子				

授業の概要 本年度からは、わたくしたちの社会生活と密着した存在である会社企業について、その組織と活動を規制する会社法の内容を商法 I、商法 II および商法 III で取り扱うこととします。本講義では、会社の中心をなす株式会社のとくに大規模公開会社について、その設立、運営、基礎の変更、再建・再生、解散・精算について平易に概説します。/ 検索キーワード 会社法・商法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 受講生が会社法制度の仕組みについて理解し、判例を通じて法解釈学のエッセンスにも接することを目標とします。受講生の理解度に合わせた進度を設定し、双方向の授業を目指すつもりです。

授業の計画(全体) 教科書を中心にレジュメ、参考資料等を使用し講義を進めます。場合によっては視聴覚教材等も利用するつもりです。コメントシートを活用し、当日の内容のまとめ問題を解答してもらいます。その際、質問、感想、要望等を受け付け、併せて出欠の管理をします。その翌週には、解答のなかから模範となるものを選び提示することによって、答案作成を学びます。なお、以下の授業計画は講義の全体の流れを示しており、受講生の学習の進度に合わせて講義実施週の変更もあり得ます。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション～会社の概念・形態
- 第 2 回 項目 株式会社の設立・株式の概念
- 第 3 回 項目 株式会社の機関(1) 分化と相互関係
- 第 4 回 項目 株式会社の機関(2) 株主総会(1)
- 第 5 回 項目 株式会社の機関(3) 株主総会(2)
- 第 6 回 項目 株式会社の機関(4) 取締役会、代表取締役
- 第 7 回 項目 株式会社の機関(5) 監査役、監査役会
- 第 8 回 項目 株式会社の機関(6) 委員会設置会社
- 第 9 回 項目 株式会社の機関(7) 役員等の義務と責任(1)
- 第 10 回 項目 株式会社の機関(8) 役員等の義務と責任(2)
- 第 11 回 項目 会社の基礎の変更(1)
- 第 12 回 項目 会社の基礎の変更(2)
- 第 13 回 項目 会社の再建・更生
- 第 14 回 項目 予備日
- 第 15 回 項目 解散・清算

成績評価方法(総合) 定期試験の評価割合は 70 % (講義回数の 70 % 以上の出席者に期末試験受験を認める) , コメントシート (= まとめ問題の解答および出席) の評価割合は 30 % (ボーナス加算あり) 。

教科書・参考書 教科書：テキストブック会社法、末永敏和 [編著] , 中央経済社, 2006 年 / 参考書：会社法判例百選、江頭＝岩原＝神作＝藤田 [編] , 有斐閣, 2006 年

メッセージ 受講生は法学 II を履修済みであることが望ましく、商法 I を履修済みであることが理想的です。2008 年六法必携です。出席回数は自己管理で把握してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C 棟 209 , オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

開設科目	商法 III	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中村美紀子				

授業の概要 本講義は2部構成になっています。第1部では、有価証券の一種である手形および小切手を規制する手形法および小切手法を取り扱います。その中でも日本で重要な地位を占める約束手形を中心に据えます。手形および小切手は企業取引の決済手段であり企業活動に重要な制度ですが、近年、これらを巡る大きな紛争も目立たなくなってきたと言われていています。その重要性の減少があるのかもしれませんが、しかしながら、依然として手形や小切手は取引界で発行されていますし、その基礎知識の修得は企業実務では避けて通れないことでしょう。第1部では、技術的な性格から複雑な法律関係が発生する手形および小切手について、その法制度の仕組みおよび実際の働きについて概説します。第2部では、同じく有価証券の一種である株式、新株予約権証券、社債券について、会社法の同分野を取り扱います。それらの法制度の意義および実際の働きについて平易に概説します。 / 検索キーワード 有価証券法・手形法・小切手法・会社法

授業の一般目標 受講生が有価証券法制度の仕組みおよび実際の働きについて理解し、手形・小切手・株式・新株予約権・社債をめぐる経済的状況を把握し、法解釈学のエッセンスにも接することを目標とします。受講生の理解度に合わせた進度を設定し、双方向の授業を目指すつもりです。

授業の計画（全体） 教科書を中心にレジュメ、参考資料等を使用し講義を進めます。場合によっては視聴覚教材等も利用するつもりです。コメントシートを活用し、当日の内容のまとめ問題を解答してもらいます。その際、質問、感想、要望等を受け付け、併せて出欠の管理をします。その翌週には、解答のなかから模範となるものを選び提示することによって、答案作成を学びます。なお、以下の授業計画は講義の全体の流れを示しており、受講生の学習の進度に合わせて講義実施週の変更もあり得ます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション～有価証券概論、手形・小切手の法律関係の概要
- 第2回 項目 手形行為および小切手行為、約束手形の記載事項、白地手形
- 第3回 項目 約束手形の振出の意義および性質、振出人の署名
- 第4回 項目 約束手形の裏書の意義、方式および効力
- 第5回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全(1) 振出・裏書と民法総則
- 第6回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全(2) 振出・裏書と会社法
- 第7回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全(3) 振出・裏書と善意取得・手形行為独立の原則
- 第8回 項目 株券 株式の意義、流通(1)
- 第9回 項目 株券 株式の意義、流通(2)
- 第10回 項目 新株予約権証券(1) 新株予約権
- 第11回 項目 新株予約権証券(2) 新株予約権
- 第12回 項目 社債券(1) 社債
- 第13回 項目 社債券(2) 社債
- 第14回 項目 予備日
- 第15回 項目 試験

成績評価方法（総合） 定期試験の評価割合は70%（講義回数の70%以上の出席者に期末試験受験を認める）、コメントシート（＝まとめ問題の解答および出席）の評価割合は30%（ボーナス加算あり）。

教科書・参考書 教科書：手形法・小切手法 基礎と展開 [第2版]、末永敏和、中央経済社、2007年；テキストブック会社法、末永敏和、中央経済社、2006年 / 参考書：手形小切手判例百選 [第6版]、落合＝神田 [編]、有斐閣、2004年

メッセージ 2008年六法必携です。出席回数は自己管理で把握してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室C棟209, オフィスアワー火曜日 10:20 11:50

開設科目	商法 IV	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川 信將				

授業の概要 各種商取引について基本概念や実際にどのように運用されているのかについて、できるだけ平易かつ具体的事例を用いて解説する。

授業の一般目標 各種の商取引について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：どのような商取引が存在し、どのような規制がされているのかについて基本的事項を理解する。 態度の観点：積極的かつ主体的に授業に参加する。

授業の計画（全体） 教科書又はレジュメで基本的事項につき解説を加えながら、実際の運用例や紛争例などを紹介していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 商行為総則
- 第 2 回 項目 企業取引の補助者
- 第 3 回 項目 消費者契約
- 第 4 回 項目 商事売買 (1)
- 第 5 回 項目 商事売買 (2)
- 第 6 回 項目 消費者売買 (1)
- 第 7 回 項目 消費者売買 (2)
- 第 8 回 項目 運送取引
- 第 9 回 項目 倉庫取引
- 第 10 回 項目 場屋取引
- 第 11 回 項目 金融取引
- 第 12 回 項目 証券取引
- 第 13 回 項目 保険取引
- 第 14 回 項目 予備日
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 理解度を確認するための筆記試験を主とし、出席状況・態度等を加味して総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：開講時までに掲示するか、開講時に指示します。 / 参考書：商取引法第四版、江頭憲治郎、弘文堂、2005 年；商法（総則・商行為）判例百選第四版、江頭・山下編、有斐閣、2002 年

メッセージ 商取引といっても多岐にわたり、かつ、IT・通信分野を初めとして次々と新しいタイプの商取引が生まれています。本講義がそういった商取引についても理解の一助となることを期待します。

連絡先・オフィスアワー C 棟 2 2 4 研究室 オフィスアワーは開講時までに掲示します。

開設科目	経済法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平野充好				

授業の概要 この経済法の講義では経済憲法といわれている独占禁止法について概説する。独占禁止法は市場における独占的行為等を規制する法である。言い換えれば、市場における競争を制限する行為を規制するのである。この競争制限行為に、カルテル、談合、私的独占行為、不公正取引行為、あるいは合併等の行為がある。これらの競争秩序に反する行為を規制するのが独禁法であるが、これらの行為の違法性の度合いに応じ、規制の仕方が、刑事罰、行政的な排除措置、課徴金、損害賠償または差し止め等多様であるのが独禁法の特徴である。本講義では、市場規制法である独禁法の個々の規制のあり方について講義する。 / 検索キーワード 不当な取引制限、不公正な取引方法

授業の一般目標 経済憲法といわれている独占禁止法の法構造、経済社会における機能等を考える。とりわけ多様で幅広い競争制限行為が独禁法上どのように規制されているかを学びつつ、一方では経済に関する私法でもある民法、商法、会社法との関連、他方では経済規制の側面をもつ独禁法が行政法や消費者法とどのように関連するかを意識しつつ、法が経済社会とどのように関わり合っているかを理解することを目標にする。

授業の計画（全体） まず、経済法の基本的な考え方、独占禁止法の考え方を学び、その後で、個別競争制限行為とその法的効果を検討する。その都度、他の諸法規との関連を考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 契約は自由ではないのか、何故カルテルはいけないのか。
- 第 2 回 項目 独禁法は競争法か消費者保護法か。
- 第 3 回 項目 私的独占行為をしてはいけないという。私的独占行為とはどういうことを学ぶ。
- 第 4 回 項目 カルテル禁止を独禁法は不当な取引制限禁止という。不当な取引制限とはどういうことが学ぶ。
- 第 5 回 項目 何故入札談合はなくなるのか。
- 第 6 回 項目 私的独占・不当な取引制限をするとどういった制裁を受けるか（1）。
- 第 7 回 項目 私的独占・不当な取引制限をするとどういった制裁を受けるか（2）。
- 第 8 回 項目 何故不当廉売はいけないのか。不公正な取引方法とはどういうことか。
- 第 9 回 項目 再販売価格を指定することは何故いけないのか。
- 第 10 回 項目 商品販売にあたり不当表示がなされる場合の規制、何故そんな規制を独禁法でするのか。
- 第 11 回 項目 独禁法は優越的地位を濫用して取引をすることを禁じている。
- 第 12 回 項目 合併規制について考える。
- 第 13 回 項目 持株会社規制緩和と株式保有制限
- 第 14 回 項目 企業努力により、競争相手が敗退した結果、独占状態になった。それもいけないのか。
- 第 15 回 項目 独禁法を学ぶことが楽しくなりましたか。

成績評価方法（総合） 定期試験 50%、小テスト 50%。

教科書・参考書 教科書：独占禁止法，金井貴嗣，青林書院，2006年 / 参考書：独禁法審決・判例百選，厚谷襄児・綿貫俊文，有斐閣，2002年

メッセージ 六法必携

開設科目	知的財産権法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	永野周志				

授業の概要 知的財産権は、特許権、著作権、営業秘密に係る権利、商標権等の各権利からなる。本授業は、経済学（特に、いわゆる「情報の経済理論」）と法律学との双方の観点から、(a) これらの知的財産権が経済活動に必要とされる理由と (b) 各知的財産権の具体的内容につき、体系的に説明する。 / 検索キーワード 知的財産権、知的財産、外部経済、「ただ乗り」の禁止、創作性がある情報と創作性がない情報、発明、著作物、営業秘密、競争禁止義務、営業標識、商標、職務発明、職務著作

授業の一般目標 学習者は、特許権や著作権等の各知的財産権の仕組み（知的財産権によって保護される情報の範囲、知的財産権が成立するために必要な条件、知的財産権によって規制される行為、知的財産権による規制がもたらす結果）を正確に理解すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：全ての法律制度がそうであるように、知的財産権制度も、例えば、「発明」とか「著作物」（著作権によって保護される情報の範囲についての概念）、「新規性」とか「進歩性」あるいは「思想又は感情の創作的表現」（知的財産権が成立するために必要な条件についての概念）等の様々な概念を構成要素として、各構成要素が相互に関係づけられている社会的システムである。学習者は、本授業を通じて、(a) 知的財産権制度を各概念から構成されているシステムであることと当該各概念の内容を正確に説明することと、(b) 当該各概念の相互関係を関係づけることできる。 思考・判断の観点：知的財産権制度は、「資源の効率的配分」を価値判断の基準とした場合における情報の経済活動における役割・機能についての経済学の評価に基づき、情報の生産や経済活動が好ましく行われるための条件（技術開発が促進されたり、内容が豊かな著作物が創作されるための条件）を確保・整備するためのものとして制度設計されており、また、そのように制度設計されなければならない。学習者は、本授業を通じて、以上のとおりの制度設計の前提条件を出発点として、設計されるべき制度の内容（法律学においては、合理的な法解釈の結論）を導きだす論理的な思考を行うことができる。 関心・意欲の観点：知的財産権制度は、法律、経済、経営及び技術という社会科学分野と自然科学分野とが総合された領域の問題である。知的財産権制度を理解することにより、学習者は、トータルな観点から社会全体のありかた（公正な競争、企業の成長、技術開発等のありかた）について関心をもつことができる。

授業の計画（全体）（集中講義であるため、日付は記載しない。） 回数 授業項目・内容等 第1回

【項目】知的財産権制度の概要 【内容】知的財産と知的財産権との関係、及び知的財産権制度の体系について説明す 第2回 【項目】知的財産権制度の存在理由 【内容】明治はじめにおきた「ガラ紡」事件を素材として、知的財産権（特に特許権）が制度化される必要性につき、「情報の経済理論」に基づき説明する。 第3回 【項目】特許権制が成立するために必要な条件 【内容】発明に特許権が成立するために必要な条件（新規性要件や進歩性要件等）の特許要件（特許法29条）について解説する。 第4回 【項目】特許権、実用新案権及び意匠権が成立する手続 【内容】特許出願手続を規制する法論理に基づき、特許権出願手続及び審判手続の内容を説明する。 第5回 【項目】特許権により保護される発明の範囲（特許発明の技術的範囲） 【内容】特許権侵害成否の判断基準である特許発明の技術的範囲の考え方（クレーム解釈）とその外延である「均等」（ボールスプライン事件最高裁判決）について説明する。 第6回 【項目】特許発明に成立する権利関係 【内容】所有権の共有関係及び民法所定の地上権と賃借権の内容と対比して、特許権についての専用実施権（特許法77条）と通常実施権（同法78条）及び特許権の共有（特許法79条）の特徴を解説する。 第7回 【項目】職務発明（特許法35条） 【内容】近年大きな「相当の対価」が巨額化して問題となっている職務発明制度について、その制度の内容とその問題点について解説する。 第8回 【項目】著作権制度の仕組み 【内容】(a) 財産権としての著作権（狭義の著作権）、(b) 著作者人格権及び (c) 著作隣接権の3権利から構成されている著作権（広義の著作権）の体系とその内容を説明する。 第9回 【項目】「著作物」と「複製」 【内容】「すいか写真」事件判決（東京高判平成13年6月21日）等の裁判例を素材として著作権の中心的な概念である「著作物」と「複製」（翻案を含む。）概念を説明し、著作権侵害についての考え方を解説する。 第10回 【項目】著作権をめぐる現代

的的問題 【内容】インターネット等の新しい情報伝達手段の登場に伴って生じている著作権侵害裁判の事例をとりあげ、著作権をめぐる現代的課題を解説する。第11回 【項目】営業秘密保護制度の内容 【内容】存在する態様が秘密である情報を「営業秘密」として保護する不正競争防止法所定の営業秘密保護制度の内容とその特徴を説明する。第12回 【項目】営業秘密と競業避止義務

【内容】知的財産権法と労働法とが交錯する法律問題が発生する会社を退職した役職員が行う競業行為につき、競業行為を禁止することができる限界につき、知的財産権法と労働法のそれぞれの観点からみた場合の問題を説明する。第13回 【項目】営業標識保護制度の存在理由 【内容】「情報の経済理論」の観点から、商標等の営業標識が商標権等によって保護されるべき理由について説明する。

第14回 【項目】商標権制度の仕組み 【内容】商標権の成立要件、商標の類似判断のしかた、及び商標権の効力について説明する。第15回 【項目】商標法と不正競争防止法 【内容】商標権による営業標識の保護と、不正競争防止法所定の「周知商品表示等混同行為」や「著名商品表示等

冒用行為」からの保護との相互の関係について説明し、営業標識保護制度の体系とその特徴を解説する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 知的財産権総論(1)
- 第2回 項目 知的財産権総論(2)
- 第3回 項目 特許権(1)
- 第4回 項目 特許権(2)
- 第5回 項目 特許権(3)
- 第6回 項目 特許権(4)
- 第7回 項目 特許権(5)
- 第8回 項目 著作権(1)
- 第9回 項目 著作権(2)
- 第10回 項目 著作権(3)
- 第11回 項目 営業秘密(1)
- 第12回 項目 営業秘密(2)
- 第13回 項目 商標権(1)
- 第14回 項目 商標権(2)
- 第15回 項目 商標権(3)

成績評価方法(総合) 試験を1回、実施する。成績の評価は、試験による評価のみとし、試験による評価100%を、(a)知識・理解の観点からの評価に70%、(b)思考・判断の観点からの評価に20%、(c)関心・意欲の観点からの評価に10%に配分して、評価を行う。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：プリントを配付する。なお、2008年春に出版社「ぎょうせい」より著者「永野周志」として「営業秘密と競業避止義務」(仮題)を刊行する予定である。刊行された場合には、それを教科書として使用する。/参考書：職務発明の理論と実務、永野周志、ぎょうせい、2004年；特許権侵害判断認定基準、永野周志、ぎょうせい、2006年；よくわかる地域ブランド、永野周志、ぎょうせい、2006年

メッセージ 授業では、知的財産権についての多数の裁判例を取り扱うので、最高裁判所「知的財産権裁判例集」にアクセスして内容を熟読してもらいたい。

開設科目	社会法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 日本型雇用慣行が変容しつつあるといわれるわが国においては、年功的処遇が崩れ、成績・成果主義の処遇が拡大しつつある。終身雇用慣行や、人事、福利厚生のある方も大きく変容しつつある。本講義は、そうしたわが国における雇用関係の変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。 / 検索キーワード 労働契約、労働基準法、非典型雇用、雇用保障、労働争訟

授業の一般目標 本講義は、わが国における雇用関係に変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。

授業の計画（全体） 労働法とは、労働契約、労働契約の締結と終了、就業規則、賃金・一時金・退職金、労働時間・休暇、人事異動、経営再編と労働契約の変動、就業規律と懲戒、雇用保障政策、安全衛生・災害補償、均等待遇・雇用における平等、非典型雇用、年少労働者・女性労働者、職業生活と家庭生活の両立、労働争訟・紛争処理

成績評価方法（総合） 定期試験と授業時間内に行う小テストの成績による。小テストは2回行うが、いつ行うか分からないので、予習と復習をきちんとしておくこと。

教科書・参考書 教科書：労働法エッセンシャル第4版、清正寛・菊池高志編、有斐閣、2005年 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 教科書および六法を必ず持参すること。六法は、できるだけ労働法令の多く収録されたものにする。

連絡先・オフィスアワー 講義内容に関する質問は、適宜受ける。ただし、事前に連絡してくること。
noboru@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 使用者（会社）を労働組合との集团的労使関係の法的問題を具体的事例をあげながら説明し、日本の労使関係の法的ルールを理解する。

授業の計画（全体）日本の労働法の概要、労使関係とは何か、憲法と労働組合法、労働組合法と法、団体交渉、労働協約、争議行為、不当労働行為、裁判所と労働委員会、個別労働関係紛争と集团的労働関係、労働者像の変化と労働組合、日本の労使紛争解決方法と裁判

教科書・参考書 教科書：労働法エッセンシャル第4版、清正寛・菊池高志編、有斐閣、2005年

開設科目	民事訴訟法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上田和義				

授業の概要 民法・商法その他私法は、社会生活や事業を営む上での事実上の行為規範となっていますが、最終的には、裁判規範として民事裁判でその内容が実現されます。つまり、実体法が理解できていたとしても、裁判の手続きや仕組みが分かっていなければ、実体法も本当に理解できたことになりません。そこで、本講義では、民事訴訟法の全体的な構造と、社会的に多く利用される実体法の適用を中心に、実際の訴訟などで直面するであろう問題を取り上げていきます。

授業の一般目標 一般社会生活や事業を営む上で必要な民事訴訟制度の全体構造と、訴訟提起時に直面するであろう問題点を理解することを目標とします。

授業の計画(全体) 本講義は週1回、後期に行います。1 講義項目 民事訴訟の意義/裁判所・当事者/訴えの提起/訴訟要件/訴訟の審理/証拠調べ・証明/訴訟の終了/複数請求訴訟/多数当事者/上訴・再審 2 講義方法 テキスト・参考文献を参照しながら、口述により行います。また、実務的な資料をできるだけ配布します。3 履修上の注意 六法を必ず持参して下さい。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 概説
- 第2回 項目 訴状モデル・管轄
- 第3回 項目 紛争類型・訴訟物
- 第4回 項目 訴訟要件
- 第5回 項目 口頭弁論
- 第6回 項目 弁論主義
- 第7回 項目 自由心証主義・証明責任
- 第8回 項目 証拠
- 第9回 項目 判決
- 第10回 項目 複数請求訴訟
- 第11回 項目 多数当事者訴訟
- 第12回 項目 上訴他
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) 試験100%

教科書・参考書 教科書：民事訴訟法〔第5版〕, 上原敏夫他, 有斐閣, 2006年 / 参考書：ケーススタディ 新民事訴訟法, 小林秀之, 日本評論社, 1998年; 《履修上の注意》六法を必ず持参して下さい。

開設科目	行政法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 現代社会において重要な役割を果たしている、行政とその法に関して考察する。複雑かつダイナミックな現代の社会においての行政、行政法、行政法の基本原則、法治主義、行政組織法、行政作用法について考えていくものである。

授業の一般目標 行政とその法をめぐる制度や理論の基礎的なことを理解し身につけるとともに、さらに具体的な問題などに対しても応用できるようにしていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 行政法の基本原則 1 内容 行政と行政法
- 第 3 回 項目 行政法の基本原則 2 内容 法律による行政
- 第 4 回 項目 行政組織法 1 内容 行政主体：国の行政機関
- 第 5 回 項目 行政組織法 2 内容 地方公共団体
- 第 6 回 項目 行政組織法 3 内容 公務員
- 第 7 回 項目 行政作用法 1 内容 行政立法
- 第 8 回 項目 行政作用法 2 内容 行政行為
- 第 9 回 項目 行政作用法 3 内容 行政行為の効力
- 第 10 回 項目 行政作用法 4 内容 行政手続、行政公開
- 第 11 回 項目 行政作用法 5 内容 行政契約、行政指導
- 第 12 回 項目 行政作用法 6 内容 行政計画
- 第 13 回 項目 行政作用法 7 内容 行政の義務履行確保
- 第 14 回 項目 行政作用法 8 内容 行政罰
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 筆記試験等による。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。 / 参考書：開講時に指示する。

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問のある人は講義の後やその他研究室に来てください。(A 408 室)

開設科目	行政法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 現代福祉国家は、我々の日常生活の隅々にまで行政が関係してくるが、そうした行政の働きの過程で我々の権利や利益が違法に侵害されたとしたら、どうすべきであろうか。それが行政救済法の問題である。その意味で行政救済法は、行政の総仕上げという意味をもつ。この講義では、まず、行政、行政法といった基礎概念を再確認したうえで、具体例を素材にしながら行政救済の問題を考えていきたい。

授業の一般目標 具体的な事例を行政法の立場から分析し、行政争訟及び国家補償の問題となった場合にどういう解決が可能かを、説明できるようになることを目標とする。

授業の計画（全体） 行政、行政法といった基礎概念を再確認したうえで、具体例を素材にしながら行政救済の問題を考えていきたい。

成績評価方法（総合） 出席状況と期末テストの成績による。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。 / 参考書：開講時に指示

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室にきてください。（研究室：経済学部 A 棟 408 号室）

開設科目	税法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 税法総論の入門講座です。税の意義役割や使い道から始め、消費税、所得税法等を題材に、租税法（実体法、手続法等）の基本の体系的な理解をめざします。民法、簿記を学習済みか、平行した学習が不可欠です

授業の一般目標 社会人として将来にも役立つ税法の基本の理解

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 税金と税法の基本を理解する。

授業の計画（全体） 税金と税法とはなにか、消費税法、租税法の体系、国税通則法、所得税法等の順序で、基本的な事項の学習を進めます。

成績評価方法（総合） 出席・授業内レポート 60 %、期末レポート 40 %で評価する。

教科書・参考書 教科書： 税務大学の教本（税務大学 HP よりダウンロード可能）に基づくレジюме等を使用します。

メッセージ ほとんどの人が一生を通じて税金と関係があり、税金と税法の基本を理解していることはこれからの社会人にとって一つの武器になります。

連絡先・オフィスアワー （TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）

開設科目	税法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 税法 I を受講済みであることを前提にして、法人税法を中心に、申告納税制度をさらに掘り下げて考察するとともに、最近の税法の課題や、企業課税の問題について概説します。

授業の一般目標 申告納税制度のさらなる理解と税法的な思考の枠組みを修得し、税法を通じてリーガルマインドを育てる。

授業の計画（全体） 税務大講本（税務大 HP からダウンロード可能）、新聞記事、レジュメ、図解資料などをプリント配布し、授業を進める。

成績評価方法（総合） 出席・授業内レポート 60%、期末レポート 40% で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する

メッセージ 企業課税を中心とした税法の学習を通じて、法的思考の枠組みやリーガルマインドの修得を旨としましょう。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）

開設科目	政治学 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 本講義では、政治学の基本的な問題について、さまざまな観点から考察する。物事の善悪を問う規範的な視点、事象に即してその分析を試みる実証的な視点を織り交ぜながら、政治学（国際関係を含む）のメイン・トピックスについて、複合的なアプローチを試みる。政治学は本来総合的な学問であるから、取り上げる問題に応じて、広く他の学問領域にも言及する。／検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 第一に、さまざまな出来事の中で、それをとくに「政治的」にしている要因は何なのか、すなわち、政治学とは何を扱う学問であるのかを明らかにし、そこに現れるいろいろな概念（キーワード）の意味を理解した上で、それを現実の政治現象に適用できる能力を養う。最終的には、さまざまな政治概念の由来、変容、意義をふまえて、みずからの政治的アイデンティティを問えるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：政治学の基本問題や概念を幅広く理解できる。 思考・判断の観点：さまざまな概念の論理的な関係を述べることができる。 関心・意欲の観点：政治現象についての関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：規範的な視点から現実の政治現象について判断を下せる。

授業の計画（全体） まず、政治学は何を対象とする学問なのかを明らかにした上で、古代から現代にいたるまで、その変遷をたどってゆく。中盤からは主として20世紀以降の政治理論に焦点を合わせ、受講者が現代の政治現象に広く応答できるように心がける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目【項目】オリエンテーション 内容【内容】担当教員の紹介、政治とは何か、さまざまなアプローチについて 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目【項目】政治とは何か（1） 内容【内容】古代アテナイ、ローマにおける政治 政治的自由と共和主義
- 第 3 回 項目【項目】政治とは何か（2） 内容【内容】中世キリスト教世界における政治 「神の国」とキリスト教国家
- 第 4 回 項目【項目】政治とは何か（3） 内容【内容】近代政治学の誕生 ルネサンスと社会契約説
- 第 5 回 項目【項目】政治とは何か（4） 内容【内容】現代政治理論 リベラリズムと共和主義
- 第 6 回 項目【項目】20世紀の政治学（1） 内容【内容】政治科学の勃興 その時代・哲学的背景を含む
- 第 7 回 項目【項目】20世紀の政治学（2） 内容【内容】政治科学の発展 さまざまな理論展開の紹介
- 第 8 回 項目【項目】20世紀の政治学（3） 内容【内容】規範理論の再生 J・ロールズの正義論を中心に
- 第 9 回 項目【項目】20世紀の政治学（4） 内容【内容】今日の規範的政治学 ロールズ以降の展開を追う
- 第 10 回 項目【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（1） 内容【内容】さまざまなリベラリズム批判
- 第 11 回 項目【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（2） 内容【内容】ポストモダンへの転回
- 第 12 回 項目【項目】国際関係論（1） 内容【内容】国際政治の萌芽 政治史的な考察
- 第 13 回 項目【項目】国際関係論（2） 内容【内容】さまざまな思想と理論 その政策への影響

第 14 回 項目【項目】政治学 全般についての 総括 内容【内容】これま での講義内容の レビューとま
とめ

第 15 回 項目【項目】前期末 試験 内容【内容】論述筆 記試験

成績評価方法 (総合) 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 自分自身の頭で考えることを心がけてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	政治学 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 本講義では、現代の規範的政治理論について、その最前線の論争を解説する。 / 検索キーワード 正義、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 現代の規範的政治理論において何が問題とされているのかについて、明確な理解を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代政治理論の基本問題や概念を幅広く理解できる。 思考・判断の観点： さまざまな概念の論理的な関係を述べることができる。 関心・意欲の観点： 政治現象についての関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点： 規範的な視点から現実の政治現象について判断を下せる。

授業の計画（全体） ジョン・ロールズの『正義の理論』（1971年）が引き起こした一連の論争について、様々な視点から分析する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目【項目】オリエンテーション 内容【内容】担当教員の紹介、現代の政治理論の論争状況について 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目【項目】ジョン・ロールズ（1） 内容【内容】ロールズ正義論の内容を知る
- 第 3 回 項目【項目】ジョン・ロールズ（2） 内容【内容】同上
- 第 4 回 項目【項目】ジョン・ロールズ（3） 内容【内容】同上
- 第 5 回 項目【項目】ジョン・ロールズ（4） 内容【内容】同上
- 第 6 回 項目【項目】コミュニタリアニズム（1） 内容【内容】コミュニタリアンの批判を知る
- 第 7 回 項目【項目】コミュニタリアニズム（2） 内容【内容】同上
- 第 8 回 項目【項目】コミュニタリアニズム（3） 内容【内容】同上
- 第 9 回 項目【項目】ポストモダニズム（1） 内容【内容】ポストモダンの政治理論を知る
- 第 10 回 項目【項目】ポストモダニズム（2） 内容【内容】同上
- 第 11 回 項目【項目】ポストモダニズム（3） 内容【内容】同上
- 第 12 回 項目【項目】国際社会での正義（1） 内容【内容】リベラリズムと国際社会を知る
- 第 13 回 項目【項目】国際社会での正義（2） 内容【内容】同上
- 第 14 回 項目【項目】現代の規範的政治理論全般についての総括 内容【内容】これまでの講義内容のレビューとまとめ
- 第 15 回 項目【項目】後期末試験 内容【内容】論述筆記試験

成績評価方法（総合） 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 自分自身の頭で考えることを心がけてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室： 経済学部 3 階、オフィスアワー： 授業終了後

観光政策学科

開設科目	観光概論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 観光は今日、誰でも容易にできる楽しい旅行形態のひとつである。「観光は平和へのパスポートである。」とのスローガンを掲げたWTO（WORLD TOURISM ORGANIZATION）であるが、近年の世界事情はテロや紛争などが頻発し、安心して国外観光に出かけられる背景は少ない。国際平和のイメージは遠のいている感がある。本講義はまず、このような現代の社会世相と観光現象との関係を説きながら、観光とは何か、から始まり、観光史として観光がどのような変遷を経て今日に至ったかを、旅の風俗史として捉えてみる。また、地場産業や地域イベントを含めた地域観光のあり方、観光資源と開発問題、交通機関、ホテルやサービス施設の機能評価、観光サービスと観光をする者の満足度など、観光一般にわたって多くの事例を取り込んで講義する。

授業の一般目標 本講義は、観光をする者（観光の需要者）と、観光の場や施設、サービスなどを提供する者（観光の供給者）の両者の立場から観光を概観していく。観光をする者が「当観光に何を求め、どのような満足を得たか。」という問題と、観光を提供する者が「どのように運営（事業経営・収益性）をしたら成り立つか。」という課題は、実は一体的に結びつくべきテーマである。また一方で、(1) 観光行政のあり方、(2) 観光を取り巻く間接的なマーケティング、(3) 観光資源の開発と保護、(4) 観光地周辺住民の観光者受容意識、など、観光の行動科学、観光社会学、政策的研究などを視野に入れた学際的観光に必要な観光の基礎的な概念、専門用語、分析手法を理解させたい。また、特にわが国観光の動向や課題について、今後の観光・サービス構想という視点からも語れるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 観光の基本概念を説明でき、観光分野の基本的な専門・関連分野を識別、応用できる力をつける。また、わが国の観光の歴史と現状に関心を寄せ、観光の是非問題がわかるようになる。思考・判断の観点： 現実の大衆観光を、観光する者の立場と観光事業者の立場、そして、間接的、第三者の立場からその特性を分析し、それらの関係を総合的に捉えることができるようになる。関心・意欲の観点： 観光をリードする観光・サービス産業やそれを受容する観光者の観光活動・経済活動に対する関心を高める。

授業の計画（全体） 基本的には講義を主として授業を行うが、講義そのものをプリントしたり、ネットで流すサービスなどは考えていない。学習の手助けに、内容によっては簡単な資料を準備したい。ノートにメモを取ることによって、講義への集中力、理解力の向上を狙いとする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 観光とは何か（1） 内容 観光の基礎概念、観光の主役と目的
- 第 2 回 項目 観光とは何か（2） 内容 観光の価値的条件、観光の評価
- 第 3 回 項目 観光の歴史（初期） 内容 古代の旅史、生活から得る移動の喜びと苦難
- 第 4 回 項目 観光の歴史（中期） 内容 日本の旅史と世界旅史の特性（関所と奴隷）
- 第 5 回 項目 観光の歴史（後期） 内容 旅から観光と旅行へ、価値観の多様化
- 第 6 回 項目 観光の行動科学 内容 観光への誘発動因、観光の功罪
- 第 7 回 項目 国内観光の特性 内容 国民観光志向、観光文化と地理、祭イベント
- 第 8 回 項目 観光資源と開発 内容 環境保護と健全開発、公害・破壊・俗化問題
- 第 9 回 項目 地域観光 内容 地場産業と地域振興、地域交通機関の課題
- 第 10 回 項目 観光・サービス産業 内容 サービスの概念、遊興娯楽・宿泊・交通・他
- 第 11 回 項目 観光とレクリエーション 内容 観光行政の限界と課題健康づくりの観光
- 第 12 回 項目 国際観光の条件 内容 平和・低廉・利便性、観光の原点と起業開発
- 第 13 回 項目 観光倫理と法規関係 内容 観光のマナー＆モラル、観光犯罪の特殊性
- 第 14 回 項目 観光の将来と課題 内容 芸術、産業、福祉、スポーツ、宇宙の各観光
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 期末定期試験を100%とする。また、出席回数(授業態度などを含む)のうち、欠席3分の1以上は欠格条件とし、受験できない。 注1.出席の取り扱いについては、出席カードで出席を確認する。欠席率が3分の1以上の学生については期末試験の受験資格がない。出席カードは授業途中に配布、回収する。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えない。 注2.試験についての方法や要領は、講義の中で告知する。 注3.以上の点について変更があれば、授業時間中に公表するので注意のこと。

教科書・参考書 参考書:「新ツーリズム学原論」,ツーリズム学会,東信堂,2006年;「観光学」,長谷政弘,同文館,1997年

開設科目	観光経済学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 観光経済学は、経済学の諸理論をベースにしながらも、経済学の周辺領域の学問も織りまぜながら、観光活動に見られる経済的に特有な諸々の現象や矛盾を分析し研究し、観光経済の発展を「観光公害」などの理由から否定するのではなく、その発展のための条件やその法則性を探ろうとする応用経済学である。本講義では、観光経済の細胞とも言える観光商品を分析した後で、観光商品の需給関係、観光商品の価格、観光収入とその分配と、ミクロからマクロまでの観光経済の領域全般についての原理を説明する。

授業の一般目標 観光経済の研究、具体的には (1) 観光経済の性質や特徴に関するマクロ経済的研究、(2) 観光の需給および観光マーケティングに関するミクロ経済的研究、(3) 観光産業の投資や収益性に関する事業化研究(フィージビリティ・スタディー: feasibility study)、(4) 観光行政や観光資源開発に関する政策的研究などを行なう上での基本的な知識・理解を教授し、思考・判断、関心・意欲を育む。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 観光経済の基本概念を説明でき、その基本的な専門用語を識別できる。 思考・判断の観点: 観光経済を、主にミクロ経済学、マクロ経済学、および政治経済学などに基いて分析し、観光経済を多面的にかつ重層的に捉えることができるようになる。 関心・意欲の観点: 大衆観光をリードする観光産業や観光を指導する政府の経済活動、観光による地域経済の振興、ひいては国民経済の発展に対する関心を高める。

授業の計画(全体) 講義ノートをもとに授業をする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 観光経済学の意義 内容 観光と経済学
- 第 2 回 項目 観光商品 (1) 内容 観光商品の概念と本質
- 第 3 回 項目 観光商品 (2) 内容 観光商品の特徴
- 第 4 回 項目 観光商品の需要 (1) 内容 観光需要の意義と影響要因
- 第 5 回 項目 観光商品の需要 (2) 内容 観光需要の法則と弾力性
- 第 6 回 項目 観光商品の供給 内容 観光供給の概念と価格弾力性
- 第 7 回 項目 観光商品の需給関係 内容 需給均衡の理論と現実
- 第 8 回 項目 観光価格 (1) 内容 観光価格の概要、決定メカニズム、設定目標
- 第 9 回 項目 観光価格 (2) 内容 観光価格の具体的設定法
- 第 10 回 項目 観光価格 (3) 内容 観光価格の設定目標
- 第 11 回 項目 観光価格 (4) 内容 観光価格戦略
- 第 12 回 項目 観光収入とその分配 (1) 内容 観光収入の概念と観光の経済波及効果 - 観光乗数理論
- 第 13 回 項目 観光収入とその分配 (2) 内容 観光収入の域外流出 - 漏出と課題
- 第 14 回 項目 予備 内容 予備
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 期末試験=100%、欠席率3分の1以上 = 欠格条件。注1 . 出席の取り扱いについて。出席カードで出席を確認する。欠席率が3分の1以上の学生については期末試験の受験資格がない。出席カードは授業途中に配布し、回収する。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えない。

教科書・参考書 教科書: 観光経済学の原理と応用〔第二版〕, 河村誠治, 九州大学出版会, 2008年; 本教科書は、観光概論、観光産業総論、観光経済学、観光経済政策総論の4科目をカバーするものです。 / 参考書: その都度適宜示す。

開設科目	観光経済政策総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河村誠治・池田清・藤原弘登・松山生馬				

授業の概要 経済学は大きく言って理論、政策、歴史からなるとされるが、観光経済政策は、本来、観光概論で出てくる歴史的視点、観光経済学で重点の置かれる原理的視点をもとに、観光経済の持続可能な発展について政策面から述べられるものである。それは、物的・価値的な再生産の角度だけでなく、環境か開発かという二項対立でもない「持続可能な観光開発」の角度からも検討されるべきものである。本講義では、1997年制定の外客誘致法から2007年スタートの観光立国推進基本法までの経緯を追うなかで、観光経済政策の功罪を問う。

授業の一般目標 (1) 観光経済政策を経済政策の一環としてとらえる。(2) 世界遺産条約などから観光資源の開発と保護に関心を抱くようにする。(3) 観光法規・観光政策と現実の観光振興を結び付けて考えるようにする

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光政策の多様性を知る。思考・判断の観点：観光政策が経済的側面と公益的側面からなっていることを理解する。関心・意欲の観点：観光政策とくに観光経済政策の側面に関心を抱くようにする。

授業の計画(全体) 講義ノートをもとに授業を進めていくが、11回～13回までの4回は具体的現実を把握するために、国土交通省中国運輸局から2人のゲストスピーカーによる講義となる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 予備的考察 内容 観光の意義と役割
- 第2回 項目 観光と政策
- 第3回 項目 観光と経済政策
- 第4回 項目 観光経済政策の背景 内容 産業空洞化と観光振興、全国総合開発計画と観光振興
- 第5回 項目 観光開発の意義 内容 観光資源開発と観光開発
- 第6回 項目 持続可能な観光開発 内容 観光開発の原則
- 第7回 項目 世界遺産条約と現状 内容 世界遺産条約
- 第8回 項目 中間試験
- 第9回 項目 わが国の観光政策 内容 観光立国推進基本法と観光立国推進基本
- 第10回 項目 わが国の観光政策 内容 観光立国推進基本法と観光立国推進基本
- 第11回 項目 地域づくりと観光振興 内容 観光圏整備促進事業と観光旅行の推進のための環境整備
- 第12回 項目 外客誘致政策(1) 内容 外客誘致の現状と効果
- 第13回 項目 外客誘致政策(2) 内容 外客誘致政策の実践効果
- 第14回 項目 観光経済政策の功罪 内容 総括
- 第15回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 出席回数(20%)、レポート(20%)、試験(60%)

教科書・参考書 教科書：観光経済学の原理と応用〔第二版〕、河村誠治、九州大学出版会、2008年

開設科目	観光サテライト・アカウンティング実務	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	塩谷英生				

授業の概要 UNWTO（国連世界観光機関）を中心に普及が促進されている観光経済統計の国際基準 T S A（観光サテライトアカウント）について、その概念と編纂についての基礎的知識を紹介し、実際の作業の進め方と留意点についての説明を行う。 / 検索キーワード 観光統計、旅行市場、T S A

授業の一般目標 T S A の概念を理解するとともに、観光統計・経済統計に関わる体系的で広範な知識を習得し、統計データの読解力の向上、及びその取扱い方法について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 統計データについての体系的な知識を得る。 2 . 統計データの取扱いの留意点を知る 思考・判断の観点： 1 . 統計データや図表を読み、観光経済のあらましを読み解く力を付ける。 関心・意欲の観点： 1 . 観光統計とその背景にある観光市場の変化についての関心を高める。 態度の観点： 1 . 観光産業の地域経済における貢献度を踏まえた上で、観光のあり方について考えることができる。 技能・表現の観点： 1 . 観光統計を元に図表や指標を作成し自分の考え方を伝える技法に習熟する。 2 . 観光統計に接した時に対象の定義の把握や推計値の癖を見抜く姿勢を持つ。

授業の計画（全体） 授業では、最初に T S A の枠組みについて説明した後、各論として旅行及び旅行消費の定義・分類の現況や、国内旅行統計、海外旅行統計、訪日外国人統計、山口県や萩市を含む地域統計等について図表等を用いながら概観する。また、既存の観光統計を用いて、そこから読み取れることと、読み取ったことを説明するための図表作成を各自が実習として行う。その上で、T S A 編纂の実際について、T S A の基本表 1 ～表 1 0 に沿って解説を加える。最後に、T S A から読み取れることについて、国際比較や産業間比較を交えつつ概説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 講義の趣旨の説明。わが国における観光産業のあらましの説明。国際基準 Tourism Satellite Account 普及迄の経緯（世界・日本）
- 第 2 回 項目 T S A における定義 内容 旅行の定義、旅行消費の定義、観光産業の範囲の説明
- 第 3 回 項目 T S A の設計図 内容 サテライトアカウントの概念と T S A 編纂の全体像の説明
- 第 4 回 項目 統計からみた国内旅行市場 内容 主要な国内旅行統計についての説明と市場の解説
- 第 5 回 項目 統計からみた地域観光市場 内容 山口県や萩市を中心に地域観光統計の説明と市場の解説
- 第 6 回 項目 国内旅行統計実習 1 内容 国内旅行や地域観光統計について各自プレゼンテーション資料を作成
- 第 7 回 項目 国内旅行統計実習 2 内容 プレゼンテーション
- 第 8 回 項目 統計からみた海外旅行市場 内容 主要な海外旅行統計についての説明と市場の解説
- 第 9 回 項目 統計からみた訪日外国人市場 内容 主要な訪日外国人旅行統計についての説明と市場の解説
- 第 10 回 項目 国際観光統計実習 1 内容 海外旅行や訪日外国人旅行統計について各自がプレゼンテーション資料を作成
- 第 11 回 項目 国際観光統計実習 2 内容 プレゼンテーション
- 第 12 回 項目 T S A 編纂の実際 内容 T S A 編纂の手順と留意点の解説
- 第 13 回 項目 T S A と産業連関分析 内容 T S A における産業連関表の役割と産業連関表の読み方の説明
- 第 14 回 項目 T S A の今後 内容 わが国における T S A の課題、これからの T S A の方向性（地域 T S A や環境を組み込んだ T S A など）の紹介
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 参考書： Tourism Satellite Account: Recommended Methodological Framework, EC・OECD・WTO・UN, United Nations publication, 2001 年； 我が国の旅行観光産業の経済効果に関する調査研究，国土交通省，国土交通省，2006 年； (1) の骨子については、UNWTO のサイトで入手可

能。 http://www.unwto.org/statistics/tsa/references/tsa_references.htm # (2) については国交省のサイトよりダウンロード可 <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanko/pdf/houkokusho6.pdf>

メッセージ 経済学や観光統計について若干の予備知識のある方が望ましいと思います。なお、授業の計画については多少の変更があり得ます。

備考 集中授業

開設科目	観光産業総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	河村誠治・岡田一敏				

授業の概要 観光産業総論では、「観光概論」に立ち戻り、観光における観光産業の意義・役割を示すとともに、その全般的な特徴を説明したあとで観光産業を構成する旅行業、旅客輸送業、ホテル・旅館業、ホテル・レストラン業、旅客輸送業、テーマパークなど、それぞれの事業内容などを取り上げる。そして最後に観光産業界の現状と課題について、現実に旅行業界で久しく活躍されてこられた方に、ゲストスピーカーとして業界研究という講義を5回行う。 / 検索キーワード 観光産業

授業の一般目標 観光客の視点からだけの観光の理解ではなく、大衆観光をリードしてきた観光産業の視点から観光の理解を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光産業および観光産業主要6業種の概要。 思考・判断の観点：効率と効果の違いを個別産業に当ては理解できる。 関心・意欲の観点：観光商品だけでなく、大衆観光をリードする観光産業の経営・労働面に興味を抱く。

授業の計画(全体) 講義ノートをもとに講義内容を作成し、板書とパワーポイントを織り交ぜ講義を進める。授業計画としてはまず最初の2-3回分を観光産業およびサービス業の概要をまとめ、続く6-7回分を観光産業の6業種の内容、そして残り5回分を観光産業界の業界研究の講義とする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 観光における観光産業の位置づけ 内容 観光と観光産業
- 第2回 項目 観光産業の概要 内容 観光産業の特徴と役割
- 第3回 項目 旅客運輸業-道路、鉄道 内容 陸上輸送の現状と課題
- 第4回 項目 航空旅客輸送業 内容 航空旅客輸送業の現状と課題
- 第5回 項目 旅客水運業 内容 旅客水運業の現状と課題
- 第6回 項目 宿泊業の歴史ホテル業 内容 宿泊業の歴史
- 第7回 項目 ホテル・レストラン業
- 第8回 項目 観光産業と旅行業
- 第9回 項目 旅行業(1) 内容 旅行業界の現状
- 第10回 項目 旅行業(2) 内容 旅行会社の組織と仕事
- 第11回 項目 旅行業(3) 内容 旅行商品(国内・海外)
- 第12回 項目 旅行業(4) 内容 旅行関連産業
- 第13回 項目 旅行業(5) 内容 旅行業のこれから
- 第14回 項目 娯楽レジャー産業 内容 テーマパーク
- 第15回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 期末試験:100%、欠格条件:3分の1以上の欠席。

教科書・参考書 教科書：観光経済学の原理と応用, 河村誠治, 九州大学出版会, 2008年

開設科目	交通産業論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 日本で発展してきた現代の交通機関やそれをもちいて実現される交通には、日本独自の交通文化をみることができます。この講義では、駕籠や人力車からリニアモーターカー、究極の乗り物としての遊園地のジェットコースターやフリーフォールまで、私たちが現在利用することができるいろいろな乗り物を紹介し、それらの乗り物によって実現される交通を通じて日本の文化や日本の交通文化について考えます。

授業の一般目標 交通機関と、それをもちいて実現される交通を通して日本の文化や交通文化（乗り物文化）を考える素養を養い、観光と交通文化についての理解を深める。

授業の計画（全体） 講義の概要は以下の通りです。ガイダンス 序章 旅客輸送の歴史と文化（駕籠、人力車、輪タク、牛車、馬車鉄道）第1章 新幹線と世界の高速度鉄道（日本の新幹線、欧州の高速度鉄道、アジアの高速度鉄道）第2章 飛行機と航空文化（B747、二階建て A380、日本製 YS-11、ジャイロコプター）第3章 高速船と観光船（水中翼船、水上バス、遊覧船、レストラン船）第4章 JRと私鉄の優等列車（新幹線の車両、JRの在来特急列車、私鉄の優等列車）第5章 都市型鉄道と新交通システム（地下鉄、新交通システム、LRTとLRV）第6章 路面電車と観光列車（路面電車、観光鉄道と観光列車、夜行列車と食堂車）第7章 モノレールと鋼索鉄道（モノレール、ケーブルカー、ロープウェイ）第8章 新しい公共交通システムとバス（トロリーバス、2階建て、接続バス、観光バス）第9章 環境に優しい乗用車とバス（環境に優しい乗用車・バス、海外の乗用車とバス）第10章 究極の乗り物と遊具（ローラーコースター、フォール、観覧車）第11章 歩行者と移動支援（動く歩道、エスカレータ、エレベータ）第12章 斜面移動とバリアフリー（階段昇降機、斜行エレベータ、スロープカー）

成績評価方法（総合） 出席30点、試験70点で評価します。

教科書・参考書 教科書：交通と乗り物文化，安原敬裕他編著，成山堂書店，2008年

開設科目	広告宣伝論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 この授業では、マスメディアの広告が持つさまざまな側面を包括的に分析する。

授業の一般目標 マスメディアの広告の特徴と機能を受信者として、そして送信者として理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 広告市場と広告の機能を理解する。 思考・判断の観点： 広告の有効性について判断する。 関心・意欲の観点： 積極的に広告を分析できる。

授業の計画（全体） 広告市場と広告媒体を歴史的、組織的、機能的に分析して、最後に受講生が自分で観光関連の広告を作成する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コミュニケーションと広告宣伝入門
- 第 2 回 項目 マスメディアと広告宣伝入門
- 第 3 回 項目 広告発達史 I
- 第 4 回 項目 広告発達史 II
- 第 5 回 項目 広告効果論
- 第 6 回 項目 広告市場の特徴 I
- 第 7 回 項目 広告市場の特徴 II
- 第 8 回 項目 広告市場の特徴 III
- 第 9 回 項目 広告制作現場 I
- 第 10 回 項目 広告制作現場 II
- 第 11 回 項目 事例分析 I
- 第 12 回 項目 事例分析 II
- 第 13 回 項目 プレゼンテーション I
- 第 14 回 項目 プレゼンテーション II
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法（総合） 出席（欠格条件）、広告企画の作成（50%）とグループ・プレゼンテーション（50%）

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光と環境	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 観光資源は、自然環境を基盤とした自然資本、長い歴史を含む文化によって人間が作りだした文化資本、近年の社会的ニーズによって作りだされた民間資本などがあり、様々な形成過程や特徴がある。これら資本に対する経済学理論による捉え方を講義する。さらに自然環境および環境問題の保全政策や環境評価、観光資源となる文化資本の価値を理解する内容を提示した上で、日本国内および海外の観光資源として環境政策や環境への取り組みを利用した事例を紹介する。また、観光と環境に関する世界遺産等の映像によって、様々な観光資源を見る機会を増やす予定である。講義は講義ノートのプリントと資料によってすすめる。

授業の一般目標 観光資源の属する様々な資本を理解し、経済学の外部性の観点で環境を捉えること、さらに環境政策の観光への適用を学ぶことにより、観光資源を多様な側面で理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：外部性を理解し、環境問題を説明できる。また、文化資源や自然環境資源を理解する。環境政策の観光への適用事例を説明できる。思考・判断の観点：環境問題の解決策や観光政策で必要とされる要素について自分の意見を述べるができる。関心・意欲の観点：日常生活の環境問題や環境政策、さらに現在の観光の状況、環境政策に関心をもつ。

授業の計画（全体） 経済活動と資源および資本の定義と役割を解説した上で、外部性の考え方を示す。次に文化資本と環境について個々に解説した上で、環境資源としての考え方やコンセプトを示し、近年のエコツーリズムなどの事例を紹介する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済活動と資源
- 第 2 回 項目 資本の定義と役割
- 第 3 回 項目 外部性の考え方（1）
- 第 4 回 項目 外部性の考え方（2）
- 第 5 回 項目 環境と経済の持続可能性
- 第 6 回 項目 環境政策の考え方（1）
- 第 7 回 項目 環境政策の考え方（2）
- 第 8 回 項目 環境再生における新たな発展
- 第 9 回 項目 エコツーリズム
- 第 10 回 項目 観光デザインの要素 新しい観光のコンセプト
- 第 11 回 項目 環境評価方法
- 第 12 回 項目 観光の便益と費用
- 第 13 回 項目 文化資本と持続可能性 文化遺産の経済的側面
- 第 14 回 項目 文化的な財・サービスの経済的評価
- 第 15 回 項目 観光資源の考え方

成績評価方法（総合）(1) 期末試験またはレポート試験 = 30 % (2) 出席率 = 40 % (3) その他の学習状況 = 30 % 以上の三つの指標に沿って総合的に評価をする。

教科書・参考書 参考書：『国際観光とエコツーリズム』、小方昌勝、文理閣、2000年；『自然保護とサステイナブル・ツーリズム』、小林英俊監訳、平凡社、2005年；『環境経済学』、植田和弘、岩波書店、1996年
メッセージ 積極的な講義の参加を期待しています。尚、講義に出席せずに、試験およびレポートの提出は、講義で理解したことを評価することができません。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光コミュニケーション	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 この科目の基本は「コミュニケーション」です。それに「観光」が冠されています。この授業では、コミュニケーションの基本と実践を学習して、それが、観光に関するコミュニケーションであることを学びます。「観光」は物見遊山で見聞を広めたり日常から脱却して非日常を経験するなかで自己回復を図ることを考えがちですが、これは「観光する＝訪れる」側の論理です。楽しく思い出深く、土地の人情まで触れることができれば満点でしょう。しかし、「観光させる＝受け容れる」側の論理を考えなければなりません。そこには学科の理念にあるとおり、“自国文化(＝地元文化)と異文化理解、まちづくり、景観や環境、観光産業(ホスピタリティ)”など、考えたら際限なく、言語コミュニケーションを支えとして人と文化が出会うことが基本になります。/検索キーワード 観光、コミュニケーション、プレゼンテーション

授業の一般目標 ・キャッチボールにたとえられる“コミュニケーション”することは何か、その基本と基礎を学び、それを実践へ向ける。 ・この“コミュニケーション”に観光を加えたとき、コミュニケーションの形態はどうなるか、それを学び実践へ向ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語に関する諸相を理解し、実践態勢へ向ける 地域文化に関する知識の収集をして理解する 思考・判断の観点：異文化(外国文化とは限らない)の人間と、ある設定された状況のもとで、どのようなコミュニケーション運営をしたらよいかの判断力をつける 関心・意欲の観点：自分にはないもの、自分が知らないものへの高い関心を持つ 自分にあるもの、自分が知っているものへの愛着と尊敬を持つ 態度の観点：関心、愛着、尊敬の次元をさらに高める そのために、調査や探求を日常から心がける 技能・表現の観点：要領を得た、まとまりのある言語表現ができるようになる その他の観点：人間、土地にまつわる諸相を好きになる

授業の計画(全体) 授業ではまず、コミュニケーションについて学びます。コミュニケーションは伝えようとする相手を相手に伝えることです。相手には理解あるいは何らかの反応が生まれるようになることです。これに観光をかぶせて、観光地の発掘、発掘した観光地の歴史文化、観光企画、現地における観光産業(ホテル、土産店など) 観光ガイドに必要なコミュニケーションをプレゼンテーションによって進めます。この科目の授業は初めて行われます。受講者のやりたいこと、やらなければならないことをリサーチしながら、上記の項目を取り入れながら、人に伝えるだけの話の種を持つような授業を考えています。したがって、週配当は未定とします。さまざまな形のコミュニケーションそのものの実践をします。その際、受講者にはパワーポイントを用いてもらいます。また、4 - 5月には、マスコミュニケーションの外国人教授(韓国外国語大学校)との英語でのジョイント授業を行いながら、観光にはマスコミュニケーションへのアプローチも重要であることを学んでもらいます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 1 内容 コミュニケーションについて
- 第 2 回 項目 イントロダクション 2 内容 コミュニケーションについて
- 第 3 回 項目 イントロダクション 3 内容 コミュニケーションについて 今後の授業について
- 第 4 回 項目 プレゼンテーションに向けて 1 内容 プレゼンテーションの仕方 ハンドアウトの書き方
- 第 5 回 項目 プレゼンテーションに向けて 2 内容 同上
- 第 6 回 項目 プレゼンテーション 1 内容 テーマ別
- 第 7 回 項目 プレゼンテーション 2 内容 テーマ別
- 第 8 回 項目 プレゼンテーション 3 内容 テーマ別
- 第 9 回 項目 プレゼンテーション 4 内容 テーマ別
- 第 10 回 項目 プレゼンテーション 5 内容 テーマ別
- 第 11 回 項目 プレゼンテーション 6 内容 テーマ別
- 第 12 回 項目 プレゼンテーション 7 内容 テーマ別

第 13 回 項目 プレゼンテーション 8 内容 テーマ別

第 14 回 項目 まとめ

第 15 回 項目 予備

成績評価方法 (総合) ・出席を重視する。欠席を 3 回以上すると不合格になる。以下の 4 点を最も重視して評価する。 ・プレゼンテーションのためのフィールドワークの報告書 (レポート) ・プレゼンテーションのための必要な形式のハンドアウト ・プレゼンテーション (パワーポイント使用) ・プレゼンテーションに対するアセスメント

教科書・参考書 教科書: 当面、用いる予定はないが、必要となったときはそのとき知らせる。 / 参考書: コミュニケーション力, 斎藤孝, 岩波新書, 2004 年

メッセージ 想像力をぎりぎりまで働かせてください。そして、それをどのように形にして表現するかを考えてください。また、言葉に大きな興味を持ってください。これらが億劫な人は初めからこの授業は履修しないでください。

連絡先・オフィスアワー mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	異文化コミュニケーション論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信・武本 ティモシー				

授業の概要 この授業は、二名の教員により、主としてコミュニケーション理論と異文化表象について講義・演習を行う。武本担当の授業の狙いは、他文化との言語的や非言語的コミュニケーション方式の違いや、その結果生じてくるコミュニケーションの問題について考えることである。30分以内の講義の後、他の学生と組んで日本語や英語で話しあうことによって、示されている文化差の実感を図る。ロールプレイングのような実験によって、異文化体験をさせる。インターネットを通して、オンライン実験や異文化人と交流する。鴨川担当分は、旅行記やエッセイ等、異文化との接触を描いた文章や映像を受容し、そこから異文化理解に関する問題を考察する。

授業の一般目標 武本担当授業の目標： 1) 対人コミュニケーションにおける文化の差をより意識する。 2) 日本文化や他文化の世界観の違いを意識する。 3) 日本人のアイデンティティーやコミュニケーションの特徴を意識する。 鴨川担当授業の目標： 異文化理解やその障害の例を知ること。また、妨げの要因を自分なりに特定し、障害を抑える術を考案することを通して、この主題についての理解を深めること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 異文化コミュニケーションの諸理論についての知識 (武本担当分)
技能・表現の観点： 文化の違いや異文化コミュニケーション問題について英語で話せる能力 (武本担当分)

授業の計画 (全体) 武本担当分 1. 文化とコミュニケーションの定義 2. 非言語的コミュニケーション (表情) 3. 文化と空間とコミュニケーション 4. 異文化コミュニケーション壁：差別 5. 道徳の違いとコミュニケーション 6. 文化と時間とコミュニケーション 鴨川担当分 7週で、異文化理解/誤解の事例を幾つか見ていき、それぞれについて受講者自身の意見形成の演習を行う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回

- 第 10 回 項目 文化の定義 内容 文化がどのように定義されているか、または文化の影響がいかに深いかについて考察する。 授業外指示 100字ほどの章レポートか復習テスト
- 第 11 回 項目 コミュニケーションの定義と非言語コミュニケーション 内容 コミュニケーションについての定義 (4つほど) とコミュニケーションの定義から見た日言語コミュニケーション (特にジェスチャー) 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 自己表現の媒体 内容 どのような媒体で自分の意志を伝えようとするのかは文化によって違います。 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 時間観 内容 時間の概念や時間に価値観 授業外指示 "
- 第 14 回 項目 空間観 内容 空間とは何か。それが重要なのか 授業外指示 "
- 第 15 回 項目 差別とコミュニケーション 内容 異文化コミュニケーションの最大の妨げとなる潜在的差別・偏見の存在を自覚する 授業外指示 試験の準備

成績評価方法 (総合) 武本担当授業では、学期末試験 50%、カード得点評価法による平常点 50% 鴨川担当授業では、発表等での授業参加状況・課題の提出状況 (1/2)、レポート (1/2) で評価する。授業全体では、上記の評価を総合して成績を出す。

メッセージ 「異文化コミュニケーション論」は実習的な科目でもあるので、出席は重要。(武本)

連絡先・オフィスアワー 武本：コースHPは yufoe.com から。いつでもチャットルーム chattoru-mu.com や timothy@nihonbunka.com まで 鴨川：研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報メディア論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 この授業の目的は、国際的にメディアの市場とメディア自体の特徴を分析することである。 / 検索キーワード メディア、マスメディア、新聞、テレビ、ラジオ

授業の一般目標 受講者のメディア・リテラシー・レベルを高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：マス・メディアの仕組みを理解する。 思考・判断の観点：それぞれのマスメディアの特徴と可能性について判断が出来る。 関心・意欲の観点：もっと積極的にマス・メディアの「素顔」を調べる。 態度の観点：日ごろ、マス・メディアの情報行動を疑問視する。

授業の計画(全体) 理論的分析と実例に基づいて、新聞、放送、インターネットの歴史的発展や現在の特徴と可能性を明らかにする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コミュニケーション学入門 内容 コミュニケーションの仕組みと「メディア」の関係。
- 第 2 回 項目 メディア研究入門 内容 メディア研究の分野とその特徴、研究テーマ、方法論。
- 第 3 回 項目 新聞の歴史的発展 - ドイツ 内容 ドイツの新聞の歴史的発展とその中に見るジャーナリズムの基本的発想の解説。
- 第 4 回 項目 新聞の歴史的発展 - 日本 内容 日本の新聞の歴史的発展とその中に見るジャーナリズムの基本的発想の解説。
- 第 5 回 項目 新聞市場の特徴 I 内容 部数データを中心に現在の日本の新聞市場の特徴の解説。
- 第 6 回 項目 新聞市場の特徴 II 内容 欧米と日本の新聞市場の比較。
- 第 7 回 項目 送メディアの歴史的発展 - 米国 内容 米国の放送の歴史的発展とその中に見るメディア・ソフトの解説。
- 第 8 回 項目 放送メディアの歴史的発展 - 日本 内容 日本の放送の歴史的発展とその中に見るメディア・ソフトの解説。
- 第 9 回 項目 放送市場の特徴 I 内容 放送ビジネスの現状の解説と国際比較。
- 第 10 回 項目 放送市場の特徴 II 内容 多チャンネル化とソフトの関係の解説。
- 第 11 回 項目 テレビ番組に見る社会変化 内容 社会変化 主にアメリカの代表的なテレビ番組の分析。
- 第 12 回 項目 マスメディアとしてのマルチメディア I 内容 マルチメディア I マルチメディアの発展と現状に関する解説。
- 第 13 回 項目 マスメディアとしてのマルチメディア II 内容 マスメディアとしてのインターネットの分析。
- 第 14 回 項目 マスメディアの将来像 内容 メディアは同変わっていくか、そしてどのメディアが生き残るかを検討。
- 第 15 回 項目 総括・試験 内容 授業で学んだことをどう生かせるかを考える。期末試験を実施。

成績評価方法(総合) 小テストを講義期間中に 5 回実施(計 50%)。期末試験を最後の授業内に実施(50%)。

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	文化心理学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 文化が心理に対して及ぼす影響の大きさは、次第に理解されつつある。あなたは、自分が「上手」だといわれると頑張るか、それとも「下手」だといわれるともっと頑張るか。ホラー映画に出てくる《怖い人》は女性か男性か？これらの問いはどれも文化差があることが最近の研究によって証明されている。 / 検索キーワード 文化・心理学・社会心理学・人の心・びっくり・実験・調査

授業の一般目標 この授業の目的は、文化と心理の関わりを学習することである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化心理学の研究 思考・判断の観点：文化心理学の方法論 関心・意欲の観点：文化心理学が示す文化差に興味を示すか、その差を否定することに興味を示すか 態度の観点：結局的に聞き、オンライン討論に参加し、

授業の計画（全体） 文化心理の定義から始まり方法論を取り入れ文化心理の重要性をアピールしてから、体系的な研究・実験を紹介し、これらがどのように今までの社会心理学や教育・経営・経済の理論にまで影響を与えるかについて考察を加え、観光業務における異文化の理解のための道具として文化心理学を位置付ける。

成績評価方法（総合） 授業の参加・小レポートと試験を評価の対象にします。

教科書・参考書 参考書：自己と感情, 北山忍, 共立出版, 1997年；木を見る西洋人 森を見る東洋人, R・E・ニスベット, ダイヤモンド社, 2004年；文化心理学, 柏木恵子他編, 東京大学, 1997年；心でっかちな日本人 集団主義文化という幻想, 山岸俊男, 日本経済新聞社, 2002年；社会心理学：アジア的視点から, 山口勸, 放送大学教育振興会, 1998年；読まなくても合格できますが、読めば理解が深くなり試験が簡単になります。

メッセージ いつでも質問してください。

連絡先・オフィスアワー コースホームページは YUFOE.com から入れます。メール tim@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光プロトコール	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 観光産業はホスピタリティー産業であり、その根本にあるのは "おもてなし" のところ。そしてそれを "かたち" にするのが、プロトコール(国際儀礼の基本)です。この授業では、プロトコールの理論と実際を学び、観光産業でそれがどのように活かされているのかを学びます。同時にそれは将来、国際社会に出て活躍する学生のマナーやエチケットにもつながります。 / 検索キーワード プロトコール、ホスピタリティー、国際儀礼

授業の一般目標 観光産業におけるプロトコールの必要性を理解し、国旗の取り扱い、席次、右方上位、序列(Rank conscious)などの基本原則を様々な状況において実践できるようになることを目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 観光産業の基本である「接客」の基本にはホスピタリティーの基本原則があることを理解する。 態度の観点: ルールを理解し、洗練されたマナーを身につける。

授業の計画(全体) 私がプロデューサーとして制作したビデオ教材を適時使用しながらわかりやすい授業を心がけます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 全体の概要説明
- 第 2 回 項目 プロトコールとホスピタリティー産業 内容 観光事業におけるプロトコールの位置づけ
- 第 3 回 項目 各論(1) 国旗に関するルール 内容 国旗掲揚に関わる基本
- 第 4 回 項目 各論(2) 席次、序列とレディーファーストに関するルール 内容 各種の状況に応じたレディーファーストとテーブルプラン
- 第 5 回 項目 各論(3) レセプションのルール 内容 その特徴と意義
- 第 6 回 項目 各論(4) パーティーの主催者 内容 主催者と出席者双方の立場から
- 第 7 回 項目 各論(5) 着席のディナー 内容 テーブルマナーの実際
- 第 8 回 項目 各論(6) 乾杯とスピーチ 内容 乾杯のスピーチをやってみよう!
- 第 9 回 項目 各論(7) 服装 内容 Dress code とは
- 第 10 回 項目 各論(8) 自己紹介と名刺交換 内容 状況に応じた名刺の扱いと紹介のルール
- 第 11 回 項目 各論(9) 上位席について 内容 状況に応じた上位席の見極め
- 第 12 回 項目 各論(10) 異文化間の諸問題 内容 タブーとボディランゲージ
- 第 13 回 項目 ホスピタリティー産業とプロトコール 内容 おもてなしを形にするには。ホテルとレストランの実際
- 第 14 回 項目 敬語その他のビジネスマナー 内容 一般社会人としてのマナーについて
- 第 15 回 項目 総括 内容 これまでのまとめと質問

成績評価方法(総合) 知識としての評価(期末テスト)はもちろんのこと、身につけているかどうかの実践面(授業の中)でも評価する。

教科書・参考書 教科書: 必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書: 国際儀礼に関する12章, 外務省情報文化局, 世界の動き社, 1984年; 国際ビジネスのためのプロトコール, 寺西千代子, 有斐閣, 1985年; ビジネス・エチケット入門, 日本能率協会編, 日本能率協会, 1993年; 必要に応じてプリントを配布します。

メッセージ 今やすべての局面で "国際化" は不可欠な要素となっています。個人の間でもプロトコールの原則を活用しよう!

連絡先・オフィスアワー kogatake@jupiter.ocn.ne.jp

開設科目	リーディング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 英国の作家 Roald Dahl の ”Charlie and the Chocolate Factory” を読む。最近映画化されたこの小説は、子供が読むことを想定しているため、平易でありながらも多彩な文章表現が用いられており、英語学習に最適である。授業では、（ Puffin Books 版 155 ページの ）物語全体を半期で読んでいき、英語読解力の向上を目指す。

授業の一般目標 理解しやすい物語を読んでいくことで、使われている様々な英語表現を習得する。また文章の性質に応じて、速読 / 精読の英語読解力を向上させる。

授業の計画（全体）教科書として使用予定の Puffin Books 版全 155 ページを 13 週で読んでいく。毎回担当者を決めて、速読による内容把握だけで済ませる箇所についてはそのあらすじの紹介を、精読する箇所については語句の説明と日本語訳を、担当者に発表してもらおう。全体の進度や毎回の授業のすすめ方については、初回の授業時に説明する。

成績評価方法（総合）授業参加点（出席・発表点）+ 小テスト + 定期試験の合計で評価する。

教科書・参考書 教科書： Charlie and the Chocolate Factory, Roald Dahl, Puffin Books, 1998 年

開設科目	ライティング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 この授業では、自分の思いや考え等まとまった内容を英語で表現するために、ただ単文を完成させるだけでなく、複数の文を集めて段落を、また段落を集めて文章を作成する術を学習・演習する。

授業の一般目標 文の繋げ方、段落の構成、論の展開等を学び、まとまった内容を英語で表現できるようになる。

授業の計画（全体） 使用するテキストに従い、1 週 1 チャプターの進度で学習する。各章の内容は以下の通り。1. Connecting Sentences, 2. Using Words to Connect Ideas, 3. Parallel Constructions, 4. Using Modifiers, 5. Parts of Paragraphs, 6. Types of Organization, 7. Topic Sentences, 8. Pre-Writing Steps, 9. Emphasis, 10. Figures of Speech, 11. Making Your Writing More Concrete, 12. Writing about Time. 各回の授業の進め方の詳細は、初回の授業で説明する。尚、授業の性質上、毎回予習や課題を課すこととなるので、受講者は必ずやってくること。

成績評価方法（総合） 授業参加度 + 課題提出状況 + 学期末課題、で評価する。それぞれの点数配分は授業内で提示する。

教科書・参考書 教科書：The ABCs of Writing Strategies, S. Kathleen Kitao, 英宝社, 2005 年

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	リスニング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	正宗 聡				

授業の概要 講師の用意した教材をもとに、毎回、演習を行う。

授業の一般目標 英語リスニング能力の向上。リスニング訓練法の習得。リスニング習慣の形成。語彙の増強。

授業の計画（全体） ポイントを10個掲げた上で、それらを理解し、また身につける。

成績評価方法（総合） 授業への参加度＋定期試験の合計で評価する。

教科書・参考書 教科書：毎回コピーを配布します。

開設科目	文法（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 多くの人が文法を意識するのは、長くて複雑な英文に出会ったとき、または自分で英語の文を作るときだと思われる。この授業では、動詞の様々な使い方を中心に、主な文法事項の確認と整理を行う。そして、問題練習を通して、英文読解と英文作成のための基礎となる英文法知識の定着を目指す。

授業の一般目標 英文法における基本的な事項を理解し、基礎的な英語力の向上を目指す。 複雑な英文の意味を正しく理解するため、そして自分の考えを適切な英文で表すために必要な文法知識を身に付ける。

授業の計画（全体） 授業で取り上げる予定の主項目は以下の通り。 動詞の基礎、受動態、準動詞、時制と仮定法、助動詞、接続詞、関係詞 尚、週単位の計画については授業内で提示する。

成績評価方法（総合） 授業参加度 + 課題提出状況 + 小テスト + 学期末試験、で評価する。それぞれの点数配分は授業内で提示する。

教科書・参考書 教科書： 教材は授業時にプリントで配布する。

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	会話（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 留学を目指している学生や観光学科の学生にお薦めするこの授業は、共通教育のイングリッシュスピーキングに似ていてより進んだレベルの英語コミュニケーション・コースです。授業内ではひたすら英語で話し聞き、授業の外では教科書を読んでおいてもらったり、単語を覚えてもらったり、自分自身についての短いレポートを書いてもらいます。テーマは山口大学での生活です。履修の条件には、同じ教科書を使っていないことです。/ 検索キーワード 英語コミュニケーション・発信・技能・英語脳・習得・流暢性

授業の一般目標 この授業の目標は、発信型の英語コミュニケーション能力を身に付けることです。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分自身の性格・嗜好や山口での生活を説明できるための簡単な文法表現を理解すること 自分自身の性格・嗜好や山口での生活を説明できるための簡単な英単語を覚えること 態度の観点：自分がわからないことをはっきり「分からない」という表現する潔い態度 間違った英語でも自己表現すること 技能・表現の観点：簡単な構造や単語でも、即座に英文を作り発話すること 自分自身や自分の生活について文章を書くこと

授業の計画（全体） 教科書は山口大学での学生生活について書かれています。できるだけ学生が興味をもっている話題を選びました。最初のは4つのテキストを読み、ペアになって相手のテキストについての質問とさらに突っ込んで質問します。次に相手自身についての二つのアンケートを使って質問します。自分自身について話している場合は、本当のことを言う必要はまったくありません。重要なのは正しい表現をするのではなく、はったりをきかし、ウソを言い、間違えろ！英語をたくさん話すことです。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 English is Baseball & Real Classroom English 内容 授業の規則と授業の英語：突っ込みの質問の訊き方・理想的な授業 授業外指示 教科書を読んでおくこと・単語を覚えてくること 授業記録 担当教員の体力限り授業内容についてのレポート（100～200語）
- 第 2 回 項目 How to use a PC and yueigocom 内容 パソコンと講座HPの使い方：インターネットの使い方・英語の勉強方法 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 3 回 項目 Student Recipes 内容 学生のレシピ：料理・食べ物 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 4 回 項目 Part-time Jobs 内容 山口でのアルバイト：学生のアルバイト・職業当て子ゲーム 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 5 回 項目 Student Health 内容 学生の健康：自分の健康・お医者さんごっこ 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 6 回 項目 Yamaguchi Festivals 内容 山口のお祭り：自分の祭り・先週末の行動 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 7 回 項目 Student Apartments 内容 山口での学生アパート：自分の部屋・自分の部屋の配置 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 8 回 項目 Your Yamaguchi 内容 山口のお奨め：自分の山口のお奨め・自分の故郷 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 9 回 項目 Japanese Culture 内容 日本の文化：日本の慣習 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 10 回 項目 Courses and Credits 内容 授業と単位：自分にとっての単位・週間スケジュール 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 11 回 項目 Yamaguchi Nature 内容 山口の自然：自分と山口の自然・環境保全 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 12 回 項目 Cell Phones and Cars 内容 携帯電話と車：いと悪い携帯電話・車とドライブについて 授業外指示 " 授業記録 "

第 13 回 項目 Music and Movies 内容 音楽と映画：音楽について・映画について 授業外指示 " 授業記録 "

第 14 回 項目 Getting a Job 内容 就職活動：理想的な仕事・自分の未来 授業外指示 " 授業記録 "

第 15 回 項目 Your Taste in Guys and Girls 内容 異性の趣味:学生の異性の趣味(空想な話でも結構です・男女の違い 授業外指示 " 授業記録 "

成績評価方法(総合) 授業中に発言する学生に得点カードを渡し話し聞き能力を授業参加を、オンラインテストで教科書の復習を、短い文章を書いてもらい文章能力を測って4つの技能を評価の対象とします。

教科書・参考書 教科書: English Speaking (第1版・紺色・カラー写真), Timothy Takemoto, Timothy Takemoto; この教科書を使った授業はアランキリストの英会話クラスを履修してください。これは浅い紫色の「English for Students」という教科書ではありません。

メッセージ 英語はスポーツのようなものだと思います。ファイト!

連絡先・オフィスアワー 授業時間以外にいつでもよいです。不在ならば timothy@nihonbunka.com (携帯にも転送されます) で呼び出してください。また、オンラインチャットルームである chattorru-mu.com を尋ねてください。ホームページは Yufoe.com から入ります。

開設科目	ビジネス英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。/
 検索キーワード ビジネス英語、国際ビジネス、e-mail

授業の一般目標 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネス文書を正しく理解し、書けるようになること。 思考・判断の観点： ビジネス文書の背後（ビジネス環境、社内事情など）を正しく理解する。 関心・意欲の観点： 国際ビジネスへの関心を高める。 態度の観点： 国際理解力を高める。 技能・表現の観点： 英語発想に基づく英語の文書作成能力をつける。

授業の計画（全体） 教科書のビジネスシーンの進行に沿って、特に「読む」「書く」スキルを重点的に学ぶ。また、適宜タイムリーな記事をプリントで読み最新のビジネス情報を学ぶ。

成績評価方法（総合） 発想力および表現力の両面でスキルが着床しているかどうかの評価のポイントとなる。

教科書・参考書 教科書：“ Business as Usual ”(成美堂) / 参考書： Japan Times などの英字紙企業の英語版 Home page

メッセージ グローバル・マインドをもって世界を見よう！

連絡先・オフィスアワー kogatake@jupiter.ocn.ne.jp

開設科目	ビジネス英語会話	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 グローバル化時代に活躍するビジネス・パーソンが、将来のビジネス・シーンにおいて求められるコミュニケーション能力を養成するために会話に主力を置いたトレーニングをおこなう。 / 検索キーワード コミュニケーション能力、国際ビジネス、プレゼンテーション

授業の一般目標 日本企業の国際関連部門で働く、外資系企業を目指す、海外駐在ををしたい、などといった将来の夢を実現するためには異文化理解力、コミュニケーション能力、国際マナー、グローバルな発想などが求められる。授業では、グループ毎に設立した仮想企業をベースにそれぞれの役職を決め、事業内容に応じたテレフォン・カンパセ - ション、プレゼンテーションなどをおこない、リアルな会話能力を取得することを目標とする。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：ビジネス社会で使用される語彙、会社の組織や基本的な行動に対して理解する。 **思考・判断の観点**：英語的な発話を日本語発想との違いについて理解できる。自己紹介ができる。 **関心・意欲の観点**：実際に使われる英語会話を学習することにより英語に対する関心を高め、興味を刺激する。 **態度の観点**：大きな声で明瞭に話すというトレーニングを通じて、コミュニケーション能力の高度化を目指す。日本人同士で英語を話すことに慣れるようになる。 **技能・表現の観点**：必要なことを臆せず英語にして話せる習慣を形成する。 **その他の観点**：日常的に英語に触れる習慣を身につける。

授業の計画（全体） 授業では、毎回 chain practice により相互の会話をおこなうことからスタートする。次に5名のグループにより仮想企業を設立し、self-introduction, corporate presentation, product representation, telephone conversation, business negotiation などを行なう。

教科書・参考書 教科書：適宜 print を配布する。 / 参考書：Japan Times, , Japan Times ; Wall Street Journal, , Dow Jones ; Japan Times, Wall Street Journal などのビジネス関連記事をできるだけ読むように。

メッセージ 毎回の授業が成績評価の土俵であることを認識していただきたい。

連絡先・オフィスアワー kogatake@jupiter.ocn.ne.jp

開設科目	ビジネス・ライティング	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Alan Christ				

授業の概要 Writing in English and other forms of English within a business context will be emphasized.

授業の一般目標 By placing themselves in hypothetical business situations, students will be able to write using E-mail in English appropriate to various office situations.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: The forms and conventions of business correspondence, primarily by Email will be studied. **態度の観点:** The more that students are willing to stretch their knowledge of English and unburden themselves of the fear of making mistakes, the better their English will progress.

技能・表現の観点: Personal expression in differing business situations will be maximized.

授業の計画 (全体) Each week different types of business correspondence will be covered and students will submit weekly their weekly homework via E-mail.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introducing business E-Mail 内容 Class introduction 授業外指示 About Yourself 授業記録 (class overview)
- 第 2 回 項目 Letter of Application 内容 Email at Work: chapters 1 and 2 授業外指示 Cover Letter 授業記録 (visitors and liaising))
- 第 3 回 項目 Requesting Information 内容 Email at Work: chapter 3 授業外指示 Letter of Inquiry 授業記録 (filing for injunctions)
- 第 4 回 項目 Requesting Information cont. 内容 Email at Work: chapter 3 授業外指示 Second Letter of Inquiry 授業記録 (introductions)
- 第 5 回 項目 In house correspondances 内容 Email at Work: chapter 4 授業外指示 Short Memo 授業記録 (personal profiles)
- 第 6 回 項目 In house correspondances cont. 内容 Email at Work: chapter 4 授業外指示 Long memo 授業記録 (company overview)
- 第 7 回 項目 Negotiating 内容 Email at Work: chapter 5 授業外指示 Counter Offer 授業記録 (telephoning)
- 第 8 回 項目 Giving information 内容 Email at Work: chapter 6 授業外指示 Sales Letter 授業記録 (product detail)
- 第 9 回 項目 Giving Information cont. 内容 Email at Work: chapter 6 授業外指示 Second Sales Letter 授業記録 (organizing an event)
- 第 10 回 項目 Expressing dissatisfaction 内容 Email at Work: chapter 7 授業外指示 Complaint Letter 授業記録 (checking progress)
- 第 11 回 項目 Dissatisfied Customers 内容 Email at Work: chapter 8 授業外指示 Apology Letter 授業記録 (dealing with complaints)
- 第 12 回 項目 Delinquent Accounts 内容 Email at Work: chapter 9 授業外指示 Collection Letter 授業記録 (solving a problem)
- 第 13 回 項目 Sales letters and responses 内容 Email at Work: chapter 10 授業外指示 Answering a Letter of Inquiry 授業記録 (making predictions)
- 第 14 回 項目 Written letter forum 内容 handout 授業記録 (arrangements)
- 第 15 回 項目 Comprehensive Review

成績評価方法 (総合) Grades will be based on the following: Weekly Homework 40 % Final Test 40 % Class Participation 20 %

教科書・参考書 教科書 : Email at Work, Schmeer, MacMillan ; Quick Work, ,

開設科目	現代経済英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 担当講師は経済学の専門ではないもの、いくらかでも経済に関係した本を読み進めることを通じて、授業のタイトルにふさわしい授業を展開したい。したがって、経済そのものについて書かれた英文を材料にするのではなく、経済を取り巻く文化的な、思想的な状況について書かれた英文を読み、その方面の知識を深めることを目標にし、また同時に英語で書かれた文章の読解力も少しでもアップさせることがねらいである。 / 検索キーワード なし

授業の一般目標 現在の時代状況について、ポストモダニズムというキーワードから学んでいく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 今後、経済学を専門的に勉強する際にも（わずかにせよ）役立つ知識の習得。 思考・判断の観点： 英語で書かれたやや難しめの文を読解できるようになること。特に、文と文の間に省かれた内容を捉えることができるようになること。 態度の観点： 積極的に授業、課題に取り組むこと。

授業の計画（全体） 毎回、共通して、1 ページ分を取り扱う。必ず予習をしてきてください。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 演習 1（以下、最後の回まで同様に演習を続ける。）
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 授業態度 + 定期試験

教科書・参考書 教科書： なし（毎回、プリントを配布します） / 参考書： なし

メッセージ やや難解な文章を扱いますが、ゆっくり読み進めていきましょう。辞書は必ずもってきてください。必須の作業道具です。

連絡先・オフィスアワー 未定

開設科目	時事英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 時事英語に対する知識と能力を高め、あわせて国際的視野を広げる。 / 検索キーワード 時事英語、時事問題、国際問題、メディア

授業の一般目標 英字新聞、英文雑誌などからタイムリーな記事を選び、政治・経済・社会など種々のニュース記事の構造、特性、語彙などを学習することにより、時事問題への関心と理解を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：見出しの文法、用語などを学び、英字紙誌を正確に読めるようになる。 思考・判断の観点：英語発想の特徴をつかむ。 関心・意欲の観点：時事問題、国際問題などに対する関心を高める。 態度の観点：英字紙に教材として親しむことにより日本語新聞を読む習慣を身につけたい。 技能・表現の観点：独特な記事表現を理解できるようにする。

授業の計画（全体） 政治、社会、ビジネスなどの各種記事を読む。英語としての解釈にとどまらず、それぞれの時事問題の内容について理解するために、記事を要約できるようにトレーニングする。また、授業ではグループ毎に分かれてテーマに関して意見交換を行なう。

成績評価方法（総合） 英文記事を正しく理解し、内容を確実に自分のものにできているかどうかの評価のポイントになる。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：日本語新聞をよく読み、時事問題の基本を理解しておくこと。

メッセージ 新聞を日常的に読む習慣をつけること。

連絡先・オフィスアワー kogatake@jupiter.ocn.ne.jp

開設科目	原書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	正宗聡				

授業の概要 前期の原書講読と同様、英語で書かれた専門書（映像論）を読む。

授業の一般目標 写真など、映像についての基礎的な知識を習得するとともに、専門書の英語を読む作業の訓練を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：映像についての基礎知識ならびに専門書の英語のスタイルに慣れる。

授業の計画（全体） 毎回、割り当てた担当者に使用本の特定の部分を要約してもらおう。もちろん、該当場面については実際の作品を見る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イン트로ダクション

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） レポート + 授業への参加度

教科書・参考書 教科書： 毎回コピー配布する。 / 参考書： なし

メッセージ 英語で書かれた本を読むことだけでなく、実際に何本か映画作品を観て頂きますので、そのつもりでいてください。

連絡先・オフィスアワー 未定

開設科目	観光英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎充保・鴨川啓信・武本ティモシー				

授業の概要 この授業では、観光に関連する様々な英語の運用法を学習する。特に観光旅行のための情報収集、観光スポットの宣伝、観光客の受け入れの3つの状況を設定し、それぞれ局面で必要とされる英語表現や用法を学ぶ。具体的には、1) 英語で提示されている既存の観光地の情報に実際に触れ、その表現上の特徴を検証する。2) 特定の土地(今年度は「山口」)の歴史や自然から、より身近な事物まで観光地としての魅力を(再)発見し、それを宣伝する演習を行う。3) 観光客を迎えて、観光地の案内やホテル等での対応にふさわしい英語を学習・訓練する。

授業の一般目標 特定の土地の観光資源を開発・宣伝し、観光客の受け入れ・案内を英語で行うことができるようになるのが、最終的な目標である。そのために、1) 英語による情報収集力の向上、2) 対象を適切に説明できる英語力の訓練、3) 観光客に「歓待の心(hospitality)」を伝える英語、好感を与える英語の修得を目指す。

授業の計画(全体) この授業は開講初年度であるため、クラスの状況や学生の要望等により、以下の計画が変更されることもある。1) 観光地の情報収集と表現法の学習、2) 観光地の魅力の(再)認識と宣伝の実習、3) 客を迎えるのにふさわしい英語の運用実習、を4・5回ずつ行う。(上記の3つの内容は、それぞれ別の教員が担当する。)

成績評価方法(総合) 発表等の授業参加状況・授業中の態度による評価(1/3)、宿題・自習課題(WBT形式で提示されることもある)での評価(1/3)、小テストやレポートでの評価(1/3)、を合わせて成績を出す。尚、この授業全体を通して4回以上の欠席をした者には単位を出すことはできない。

連絡先・オフィスアワー 宮崎 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp 武本 e-mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp 鴨川 e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	TOEIC 400	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山根和明				

授業の概要 経済学部は TOEIC400 点が卒業要件となっている。従って現時点で 400 点に満たない学生は全員受講することを義務づけたい。そのうち何回か受ければ 400 取れるだろうと考えるのは甘い。年が過ぎるほど使わない英語能力は落ちる一方なので、下がって来る確率の方が高い。この授業でノウハウを学んですっきりボーダーを突破しよう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導(発音矯正をする)プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特徴である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる!

授業の計画(全体) 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第1週～第2週: TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第3週～第4週: TOEIC part5,6,7 演習、解説 第5週～第6週: TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第7週～第8週: 各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第9週～第10週: 前週まで学んだものの復習 第11週～第12週、13週: 模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ(応用)による指導 4 英語の歌のプリント(ビートルズ初期の作品中心など配布)ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 2 実施

成績評価方法(総合) 日常点重視。期末テスト(50%)

教科書・参考書 教科書: 手作りプリント主体/ 参考書: TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年; 基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊)を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第1歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない!」自分に勝つ! 毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった!」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 6 0 0	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Alan Christ				

授業の概要 The purpose of this class is to boost the test scores of students through the study of TOEFL which will be the focus of the class. Material specific to TEOFL, but also relevant to TOEIC will be studied, especially vocabulary and listening content. The class will be taught only in English. / **検索キーワード** Educational Testing Services, overseas study, university admission requirements

授業の一般目標 Students will be able to build their vocabulary and listening skills which are relevant to TOEFL and TOEIC tests.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : Students will be able to explain terms in easy to understand English. **関心・意欲の観点** : Students will be able to communicate with others in English. **態度の観点** : Students will learn how to work in groups of students and not be shy about expressing themselves.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Words in Context and Roots 授業外指示 Chapters 1 and 6
- 第 2 回 項目 cont. 授業外指示 Chapters 1 and 6
- 第 3 回 項目 cont. 授業外指示 Chapters 1 and 6
- 第 4 回 項目 Living Things (vocab) 授業外指示 Chapter 2
- 第 5 回 項目 Time and Space 授業外指示 Chapter 3
- 第 6 回 項目 Everyday and Specific Vocabulary 授業外指示 Chapter 4
- 第 7 回 項目 Thoughts and Communication 授業外指示 Chapter 5
- 第 8 回 項目 Feelings and Sensations 授業外指示 Chapter 7
- 第 9 回 項目 Idioms and Confusing Words; Prefixes 授業外指示 Chapters 8 and 9
- 第 10 回 項目 Confusing Words and Prefixes 授業外指示 Capers 8 and 9
- 第 11 回 項目 Places and Movement 授業外指示 Chapter 10
- 第 12 回 項目 Size 授業外指示 Chapter 11
- 第 13 回 項目 Suffixes 授業外指示 Chapter 12
- 第 14 回 項目 Phrasal Verbs 授業外指示 Chapter 14
- 第 15 回 項目 Comprehensive Review

成績評価方法 (総合) Class participation 40 % Homework 20 % Periodic Quizzes 20 % Final Exam 20 % Students who are absent for 5 class peiods will automatically fail.

教科書・参考書 教科書 : The TOEFL Test Assistant, M. Broukal, Heinle and Heinle, 1995 年

開設科目	TOEIC 600	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山根和明				

授業の概要 TOEIC500 点以上が受講要件。受講日、時間の関係で受講できない 400 ~ 500 レベルの学生の受講も可能。十分役立つこと保証。600 点は一流企業の必須要件だ。がんばろう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週 ~ 第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週 ~ 第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週 ~ 第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週 ~ 第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週 ~ 第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週 ~ 第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント + テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 2 実施

成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体 / 参考書：TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年；基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	ビジネスドイツ語 I	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 この授業はドイツ語の基礎勉強ではなく、基本的な文法と語彙をすでに習得した、ドイツ語能力をさらに伸ばしたい学生のための、ドイツ語中級レベルの授業である。授業では主にマスメディア（新聞、雑誌、インターネット）を使って、ドイツ語でドイツのビジネス・ニュースを読む。

授業の一般目標 ドイツ語でビジネス・ニュースを読むことによって、専門用語の知識を増やす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ドイツ語のビジネス用語、ビジネス関連の文書を理解する。 **思考・判断の観点：** ドイツ語のビジネス関連の文書を要約できる。 **関心・意欲の観点：** ドイツの経済に興味を持つ。

授業の計画（全体） 1）集中講義の前に配布される資料を読んで、解説・分析する。 2）集中講義中に配布される資料を読んで、解説・分析する。

成績評価方法（総合） 1）集中講義の前に配布される資料の要約（50％）。 2）集中講義中に配布される資料の要約（50％）。

教科書・参考書 教科書：Wirtschaftsdeutsch für Anfänger, Macaire, Nicolas, Klett, 2002年

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	韓国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李文相				

授業の概要 まず、ハングルの仕組みを理解し、読み書きの練習をしながら基本文型を身につける。視聴覚機材を活用し、韓国語の読み・書き・ヒアリングの早期達成を目指す。

授業の一般目標 韓国語の固有文字であるハングルを正確に発音し、読み書きの力を養う。また、韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ韓国人の考え方や文化について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表音文字ハングルの成立要件と音韻規則を理解すること 思考・判断の観点：韓国語と日本語の類似点及び相違点を知ること 関心・意欲の観点：韓国文化に関心がもてること 態度の観点：出席および積極的な授業参加が必要 技能・表現の観点：ハングルが書け、読みができること

授業の計画(全体) 1. ハングルを理解する 2. 読み書きの反復練習 3. 映像と歌による韓国文化の理解 4. 音韻規則の理解 5. やさしい文型での作文

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業全体の進め方、参考文献等の案内
- 第 2 回 項目 ハングルの成立と概念 内容 ハングルの仕組みと基本母音(1)
- 第 3 回 項目 韓国語の発音 内容 発音練習と基本母音(2)
- 第 4 回 項目 韓国を知る 内容 映像による異文化体験、基本子音(1)
- 第 5 回 項目 韓国文化 内容 歌で学ぶ韓国語、基本子音(2)と有声音化
- 第 6 回 項目 日本語に類似した発音の練習 内容 激音と濃音
- 第 7 回 項目 複合母音 内容 名前のハングル表記、基本母音と基本子音の再確認
- 第 8 回 項目 音韻規則(1) 内容 パッチム(1)、漢数字(1)
- 第 9 回 項目 音韻規則(2) 内容 パッチム(2)、漢数字(2)
- 第 10 回 項目 助詞(1) 内容 「名詞+です/か」文型とよく用いられる助詞(1)
- 第 11 回 項目 用言の現在丁寧形 内容 動詞と形容詞の「です/ます」文型と助詞(2)
- 第 12 回 項目 助詞(2) 内容 「名詞+ではありません/か」文型と指示代名詞
- 第 13 回 項目 否定形 内容 用言の否定文と固有数字
- 第 14 回 項目 前期授業の総括 内容 質問に応じ、やさしい文型の練習をする
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 授業時に行う小テストおよびレポート 60%、期末試験 40%

教科書・参考書 教科書：サランヘヨ！ハングル - 初級から中級へー, 李文相 共著, 白帝社, 2007年 / 参考書：『ハングル読本 基礎から読解まで - 』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ; 随時プリントを配布

メッセージ 連携した授業を行うので関連科目「韓国語会話 I」を合わせて受講することが望ましい。韓国語と韓国文化に触れるチャンスをつかみましょう。

開設科目	韓国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	李文相				

授業の概要 ・前期で習った韓国語の読み書きを再確認し、やさしい文型へと進む。 ・視聴覚機材を活用し、スピーチ・ヒアリングを養う。 ・基本文法を使い、作文の練習をする。

授業の一般目標 韓国固有の文字であるハングルを正確に発音し、読む力を養う。 韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ、韓国人の考え方や韓国文化について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎文法を理解し、簡単な韓国語の文章が書けること 思考・判断の観点：韓国語と日本語の類似点および相違点を理解すること 関心・意欲の観点：韓国文化を理解しようとし、ハングルでレポート・小テストを提出すること 態度の観点：出席および積極的な授業参加が必要 技能・表現の観点：ハングルが書け、正確な発音で読めること

授業の計画(全体) 1. 会話体の文型に慣れる 2. 過去形 3. 尊敬語 4. 連体形 5. 伝聞・引用

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期学習の確認と後期授業ガイダンス 内容 やさしい構文の輪読
- 第 2 回 項目 「～ヘヨ」体会話文(1) 内容 「～ヘヨ」体会話文と漢数字・固有数字の応用
- 第 3 回 項目 「～ヘヨ」体会話文(2) 内容 好き嫌いを尋ねる、数詞の学習
- 第 4 回 項目 過去形および変則活用 内容 基本文型を用いた短文練習
- 第 5 回 項目 「-ゲッ-」会話文 内容 意思・推量を表す会話文
- 第 6 回 項目 尊敬語(1) 内容 尊敬語の概念を理解し、尊敬語を覚える
- 第 7 回 項目 尊敬語(2) 内容 尊敬語の言い替え形を覚える
- 第 8 回 項目 短文練習 内容 やさしい文型を用いた短文練習
- 第 9 回 項目 用言の連体形(1) 内容 短文練習
- 第 10 回 項目 用言の連体形(2) 内容 短文練習
- 第 11 回 項目 用言の連体形(3) 内容 色や形などを表すことばを中心に
- 第 12 回 項目 ヒアリング 内容 映像による異文化体験と発音練習
- 第 13 回 項目 伝聞・引用形 内容 直接話法と間接話法の使い方
- 第 14 回 項目 後期授業の総括 内容 手紙・はがきを書き、質問に応じる。
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 期末試験 50%、授業時の小テスト 25%、宿題など提出物 25%

教科書・参考書 教科書：『サランヘヨ ハングル - 初級から中級へ - 』, 李文相(共著), 白帝社, 2007年 / 参考書：『ハングル読本 基礎から読解まで - 』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ,

メッセージ 連携的に授業を行うので関連科目「韓国語会話 II」を合わせて受講することが望ましい。韓国語と韓国文化に触れてみましょう。

開設科目	韓国語会話 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李 文相				

授業の概要 まず、自己紹介からはじめ、日常生活に役立つやさしい韓国語が使えるようにする。授業では現在ソウルで使われている標準語会話を学び、ビデオ等の映像を活用して韓国の日常生活や風習なども理解できるようにする。

授業の一般目標 韓国語で自己紹介ができ、日常生活に役立つやさしい韓国語会話ができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：よく使われる語彙を覚えてすぐに使えること 思考・判断の観点：日韓両国の風習や文化の違いを言葉で感ずること 関心・意欲の観点：韓国語や韓国人の考え方について興味をもつこと 態度の観点：出席・復習を怠らないこと 技能・表現の観点：自己紹介ができ、よく使われる単語で韓国語会話ができること

授業の計画(全体) 1. 自己紹介と挨拶言葉ができる 2. 韓国の文化を理解する 3. ハングルで読み書きができる 4. ネイティブの韓国人の発音とヒアリングに慣れる 5. 韓国語会話に親しむ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業全体の進め方、参考文献の案内
- 第 2 回 項目 自己紹介 内容 自己紹介の仕方、ハンゲルの仕組みと基本母音(1)の発音
- 第 3 回 項目 自己紹介と挨拶ことば 内容 挨拶・謝礼・謝罪の仕方、基本母音(2)の発音
- 第 4 回 項目 映像による異文化体験 内容 映像で韓国文化を理解する、基本子音(1)の発音
- 第 5 回 項目 ネイティブの韓国人と話す(1) 内容 はじめて会ったときの会話(1)、基本子音(2)の発音
- 第 6 回 項目 ネイティブの韓国人と話す(2) 内容 はじめて会ったときの会話(2)、激音と濃音の発音
- 第 7 回 項目 ネイティブの韓国人と話す(3) 内容 仕事や家族について尋ね合う、複合母音の発音と名前のハングル表記
- 第 8 回 項目 歌で学ぶ韓国語 内容 歌詞の意味を知り歌を覚える、パッチム(1)
- 第 9 回 項目 誕生日を尋ねる 内容 漢数字を覚え年月日を尋ねる、音韻規則(1)
- 第 10 回 項目 食事の時の会話 内容 食事の時の会話とマナー、パッチム(2)、音韻規則(2)
- 第 11 回 項目 韓国文化の紹介 内容 映像により韓国文化を紹介、パッチムに慣れる
- 第 12 回 項目 時刻の表現 内容 固有数字を覚える、漢数字を使って時刻を言う
- 第 13 回 項目 疑問詞 内容 5W1Hの表現に慣れる、否定形の練習、ヒアリングの練習
- 第 14 回 項目 前期授業の総括 内容 ヒアリングや発音の留意点、質問に応じる
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 期末テスト 40%、宿題・授業参加の積極性 60%

教科書・参考書 教科書：『サランヘヨ！ハングルー初級から中級へー』, 李文相(共著), 白帝社, 2007年 / 参考書：『ハングル読本-基礎から読解まで-』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ; ; プリントを配布

メッセージ 連携して授業を行うので関連科目である「韓国語1」を合わせて受講することが望ましい。韓国語を話せるようになりましょう。

開設科目	韓国語会話 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	李 文相				

授業の概要 いろんな出会いを想定し、楽しい雰囲気の中で韓国語が自然にしゃべれるような授業にしたい。ビデオなどの視聴覚機材を活用し、年中行事や韓国の習慣、歌など韓国文化に慣れ親しみながら授業を進める。

授業の一般目標 韓国語で日常の簡単な会話ができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：語彙を増やし、すぐに使えること 思考・判断の観点：日韓両国の風習や文化の違いを理解できること 関心・意欲の観点：韓国語や韓国人の考え方について理解しようとする事 態度の観点：出席・復習を怠らないこと 技能・表現の観点：日常生活や旅行に役立つ韓国語会話ができること

授業の計画(全体) 1. 自己紹介・挨拶ことばに慣れる 2. 韓国の文化や日常生活に触れる 3. ハングルで読み書きができる 4. ネイティブの韓国人と話すチャンスをつくる 5. 視聴覚機器を活用し、韓国語会話に慣れ親しむ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期授業の確認と後期授業ガイダンス 内容 自己紹介・挨拶言葉の実践
- 第 2 回 項目 「～ヘヨ」体会話文 内容 日常生活を話題に、数詞(1)を覚える
- 第 3 回 項目 「～ヘヨ」体会話文 内容 一日の日課を尋ね合う、数詞(2)を覚える
- 第 4 回 項目 過去形での会話 内容 夏季休暇のことを話題に、変則活用の練習
- 第 5 回 項目 ネイティブの韓国人と会話 内容 趣味や家族関係を中心に、意思・推量の「ゲッ」会話文に慣れる
- 第 6 回 項目 過去形の応用 内容 夏期休暇を話題に、「～ヘヨ」体会話文と過去形の応用
- 第 7 回 項目 尊敬語(1) 内容 尊敬語の概念の違いを認識し、実践
- 第 8 回 項目 尊敬語(2) 内容 バスや地下鉄でのお年上や目上に対する尊敬語の使い方
- 第 9 回 項目 連体形の会話(1) 内容 薬局や病院での会話
- 第 10 回 項目 連体形の会話(2) 内容 勉強やサークル活動などを話題に
- 第 11 回 項目 連体形の会話(3) 内容 映像を用いてヒアリング練習
- 第 12 回 項目 郵便局での会話 内容 「～ねばなりませんか」「～しましょうか」の会話文
- 第 13 回 項目 航空機内での表現 内容 原因・理由「～のために」、「～なので」会話文を中心に
- 第 14 回 項目 短いスピーチ 内容 授業の仕上げとして実践
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 期末テスト 40%、宿題 20%、授業参加の積極性および発音・ヒアリング力 40%

教科書・参考書 教科書：『サランヘヨ！ハングル - 初級から中級へー』, 李文相(共著), 白帝社, 2007年 / 参考書：『ハングル読本-基礎から読解まで-』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ; ; プリントを配布

メッセージ 連携して授業を行なうので関連科目である「韓国語 II」を合わせて受講することが望ましい。韓国語をしゃべり、韓国文化に触れてみませんか。

開設科目	ビジネス中国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永富健史				

授業の概要 1. 中国ビジネスで想定される典型的な場面を中心に中国語会話のトレーニングを行う。2. ビジネス関連文書の読解を行う。3. 中国ビジネスマナーなどにも触れる。・受講者は共通教育中国語を履修した者を対象とする。・「ビジネス中国語 I、II」は学習内容が通年の構成になっているので、「ビジネス中国語 I」、「ビジネス中国語 II」を併せて受講することを基本とする。/ 検索キーワード 中国語、ビジネス

授業の一般目標 1. 中国ビジネスの現場で役に立つ中国語コミュニケーション能力を身につける。2. 各種ビジネス文書を中国ビジネスと関連させながら理解できる。3. 中国ビジネスの習慣やマナーに対する理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ビジネス中国語の構文と専門用語を理解できる。 思考・判断の観点：ビジネス中国語に特有の表現に慣れる。 関心・意欲の観点：中国語コミュニケーションに関心を持つ。 態度の観点：中国語トレーニングに積極的に参加する。 技能・表現の観点：場面に適切な中国語で話せるようになる。

授業の計画(全体) 1. ビジネス中国語の会話練習を行い、実際に使える会話力を身につける。(発音訓練も含む。)受講生には会話練習に積極的に参加してもらいたい。2. ビジネスレターなどの読解によってビジネス中国語の構文に慣れ、中国ビジネスへの理解を深める。比較的短い文章をたくさん読んで、さまざまな表現に慣れるようにする。3. 日中異文化コミュニケーションの観点からも日本語との表現の違いを考えていきたい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、成績評価の方法等。授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 空港での出迎え 内容 挨拶、自己紹介など、ビジネス連絡文書の作成
- 第 3 回 項目 ホテルにチェックイン 内容 ホテルでのチェックイン、支払い方法の確認、両替など
- 第 4 回 項目 日程の打合せ 内容 日程の打合せ、日程表の作成
- 第 5 回 項目 会社を訪問する 内容 商談のアポイント、会社訪問、商談
- 第 6 回 項目 工場見学 内容 工場見学、工場の概況説明
- 第 7 回 項目 引き合いとオファー (1) 内容 商談の進め方、貿易用語
- 第 8 回 項目 引き合いとオファー (2) 内容 商談の進め方、貿易用語
- 第 9 回 項目 セールス (1) 内容 輸出商談、製品の売り込み
- 第 10 回 項目 セールス (2) 内容 輸出商談、製品の売り込み
- 第 11 回 項目 商品の買い付け 内容 買い付け交渉
- 第 12 回 項目 納期の交渉 内容 タイムリーな納期を求める
- 第 13 回 項目 輸送方式と保険 内容 輸送と保険の確認、< BR > 輸送・保険の関連用語
- 第 14 回 項目 中国ビジネスマナー 内容 中国ビジネスにおけるマナー と注意点
- 第 15 回 項目 試験 内容 前期末試験を行います。

成績評価方法(総合) 定期試験、授業への参加度、出席による総合評価

教科書・参考書 教科書：ビジネス中国語トレーニング - 会話と文書 -, 石威監修、待場裕子等著, 白水社, 2006 年; 受講生は各自で購入すること。(文栄堂山口大学前店にて販売) その他、プリントを随時配布する。/ 参考書：中日日中貿易用語辞典, 藤本恒等著, 東方書店, 2006 年; 中国語新語ビジネス用語辞典, 塚本慶一編集主幹, 大修館書店, 2006 年

開設科目	ビジネス中国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	永富健史				

授業の概要 1. 中国ビジネスで想定される典型的な場面を中心に中国語会話のトレーニングを行う。さらに最新の中国ビジネス事情に即した場面も加える。2. ビジネス関連文書の読解を行い、同時に作成方法も学ぶ。3. ビジネス中国語の表現力向上について考えていく。・受講者は共通教育中国語を履修した者を対象とする。・「ビジネス中国語 I、II」は学習内容が通年の構成になっているので、「ビジネス中国語 I」、「ビジネス中国語 II」を併せて受講することを基本とする。 / 検索キーワード 中国語、ビジネス

授業の一般目標 1. 中国ビジネスの現場で役に立つ中国語コミュニケーション能力を身につける。2. 各種ビジネス文書を中国ビジネスと関連させながら理解できる。3. 中国ビジネスの習慣やマナーに対する理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネス中国語の構文と専門用語を理解できる。 思考・判断の観点： ビジネス中国語に特有の表現に慣れる。 関心・意欲の観点： 中国語コミュニケーションに関心を持つ。 態度の観点： 中国語トレーニングに積極的に参加する。 技能・表現の観点： 場面に適切な中国語で話せるようになる。

授業の計画（全体） 1. ビジネス中国語の会話練習を行い、実際に使える会話力を身につける。（発音訓練も含む。）受講生には会話練習に積極的に参加してもらいたい。2. ビジネスレター、契約書、時事文などの読解によってビジネス中国語の構文に慣れ、中国ビジネスへの理解を深める。比較的短い文章をたくさん読んで、さまざまな表現に慣れるようにする。3. 日中異文化コミュニケーションの観点からも日本語との表現の違いを考えていきたい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 支払い方式 内容 信用状決済など支払い方式をめぐる商談
- 第 2 回 項目 契約の調印 内容 様々な契約方式
- 第 3 回 項目 商品検査とクレーム 内容 クレーム処理の商談
- 第 4 回 項目 対中投資 (1) 内容 新しい形態の商談：外資導入、OEM 生産、逆見本市、M & A など
- 第 5 回 項目 対中投資 (2) 内容 新しい形態の商談：外資導入、OEM 生産、逆見本市、M & A など
- 第 6 回 項目 対中投資 (3) 内容 新しい形態の商談：外資導入、OEM 生産、逆見本市、M & A など
- 第 7 回 項目 パーティーにおけるスピーチ (1) 内容 宴会でのスピーチ、会話、マナーについて学ぶ
- 第 8 回 項目 パーティーにおけるスピーチ (2) 内容 宴会でのスピーチ、会話、マナーについて学ぶ
- 第 9 回 項目 ビジネス文書の読解と作成 (1) 内容 契約書、協議書、業務連絡など各種文書
- 第 10 回 項目 ビジネス文書の読解と作成 (2) 内容 契約書、協議書、業務連絡など各種文書
- 第 11 回 項目 時事中国語講読 (1) 内容 中国ビジネスの理解と情報収集には欠かせない時事文を読んでいく
- 第 12 回 項目 時事中国語講読 (2) 内容 中国ビジネスの理解と情報収集には欠かせない時事文を読んでいく
- 第 13 回 項目 ビジネス中国語の表現力 (1) 内容 場面ごとの表現力向上について考える
- 第 14 回 項目 ビジネス中国語の表現力 (2) 内容 場面ごとの表現力向上について考える
- 第 15 回 項目 試験 内容 後期末試験を行います

成績評価方法（総合） 定期試験、授業への参加度、出席による総合評価

教科書・参考書 教科書： ビジネス中国語トレーニング - 会話と文書 -, 石威監修、待場裕子等著, 白水社, 2006 年; 受講生は各自で購入すること。(文栄堂山口大学前店にて販売) その他、プリントを随時配布。 / 参考書： 中日日中貿易用語辞典, 藤本恒等著, 東方書店, 2006 年; 中国語新語ビジネス用語辞典, 塚本慶一編集主幹, 大修館書店, 2006 年

開設科目	時事中国語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	齊藤匡史				

授業の一般目標 中国語メディアから発信される情報をつかむ基礎的な語学能力を養成するとともに、その内容から社会的文化的背景を理解し、基本的な中国情報を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な語法、語彙を理解し、メディア情報独特の表現・文型を習得する。 思考・判断の観点： 問題意識をもって情報を分析する。 関心・意欲の観点： 中国、日本、世界の情勢に積極的に関心を寄せる。 態度の観点： 授業に積極的に参加し、与えられた課題をこなす。

授業の計画（全体） まず基本情報の理解と文例による文型表現、語法の理解を進める。さらに最新情報を比較的まとまった文章から学び、読解力、内容理解を向上させ、問題意識をもって情報を分析する態度を養成する。

成績評価方法（総合） 授業参加態度と語学力・理解力の進歩度、定期試験の成績により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。

メッセージ 中国を取り巻く情勢は、いまや日本に大きな影響を及ぼすようになった。ぜひこの授業から中国を見る視点を培って欲しい。

連絡先・オフィスアワー 商品資料館 2 階研究室 saito@yamaguchi-u.ac.jp 時間に空きがあれば随時

開設科目	時事中国語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	齊藤匡史				

授業の一般目標 中国語メディアから発信される情報をつかむ基礎的な語学能力を養成するとともに、その内容から社会的文化的背景を理解し、基本的な中国情報を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な語法、語彙を理解し、メディア情報独特の表現・文型を習得する。 思考・判断の観点：問題意識をもって情報を分析する。 関心・意欲の観点：中国、日本、世界の情勢に積極的に関心を寄せる。 態度の観点：授業に積極的に参加し、与えられた課題をこなす。

授業の計画（全体） まず基本情報の理解と文例による文型表現、語法の理解を進める。さらに最新情報を比較的まとまった文章から学び、読解力、内容理解を向上させ、問題意識をもって情報を分析する態度を養成する。

成績評価方法（総合） 授業参加態度と語学力・理解力の進歩度、定期試験の成績により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

メッセージ 中国を取り巻く情勢は、いまや日本に大きな影響を及ぼすようになった。ぜひこの授業から中国を見る視点を培って欲しい。

連絡先・オフィスアワー 商品資料館 2 階研究室 saito@yamaguchi-u.ac.jp 時間に空きがあれば随時

開設科目	中国語(口語 I)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

開設科目	中国語(口語 II)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田梅				

開設科目	中国語(閲読I)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	袁麗暉				

授業の概要 テキストを使って、比較的長めの中国語文章の読解することにより、なるべく多くの単語と文型に触れ、中国語の文章の感覚をつかみ、辞書を用いながら中国語の文章の解読をできることをめざす。

授業の一般目標 テキストを使って、中国語の基本文型、文法と文章の読解の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストに出ている重要語句と文法事項を理解する。 思考・判断の観点：中国語文章の感覚をつかむ 関心・意欲の観点：中国の文化、習慣、物の考え方について関心を持ち、中国に対する理解を深める。 態度の観点：中国語トレーニングに積極的に参加する。 技能・表現の観点：辞書を用いて中国語の文書を読解することができ、書き言葉と話し言葉を適切に使える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、成績評価の方法等。 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 第 1 課 内容 地理環境：重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第 3 回 項目 第 1 課 内容 地理環境：日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第 4 回 項目 第 2 課 内容 人口大国：重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第 5 回 項目 第 2 課 内容 人口大国：日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第 6 回 項目 第 3 課 内容 漢語：重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第 7 回 項目 第 3 課 内容 漢語：日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第 8 回 項目 閲読文 内容 中国的茶
- 第 9 回 項目 第 4 課 内容 中国菜：重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第 10 回 項目 第 4 課 内容 中国菜：日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第 11 回 項目 第 5 課 内容 黄河：重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第 12 回 項目 第 5 課 内容 黄河：日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第 13 回 項目 第 6 課 内容 人口最多的の姓氏：重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第 14 回 項目 第 6 課 内容 人口最多的の姓氏：日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験、受講者の発表、授業への参加度、出席による総合評価

教科書・参考書 教科書：読解中国語 - やさしい中国語でよむ現代中国 - , 横川伸、王亜新著, 白帝社, 2007年; プリント配布 / 参考書：中国語辞書(電子辞書の使用は望ましくない)

連絡先・オフィスアワー 商品資料館 1F ylhenrei@yamaguchi-u.ac.jp 随時

開設科目	中国語(閲読II)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	袁麗暉				

授業の概要 中国語(閲読I)の続き科目、文章読解能力をさらに向上させ、中国理解を進める。

授業の一般目標 テキストを使って、中国語の基本文型、文法と文章の読解の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストに出ている重要語句と文法事項を理解する。 思考・判断の観点：中国語文章の感覚をつかむ 関心・意欲の観点：中国の文化、習慣、物の考え方について関心を持ち、中国に対する理解を深める 態度の観点：中国語トレーニングに積極的に参加する。 技能・表現の観点：辞書を用いて中国語の文書を読解することができ、書き言葉と話し言葉を適切に使える。

授業の計画(全体) ・まとまった文章を読みこなす力を養成する。 ・中国の社会、文化について理解を深める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 第7課 内容 大城市的年輕夫婦：重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第2回 項目 第7課 内容 大城市的年輕夫婦：日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第3回 項目 第8課 内容 重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第4回 項目 第8課 内容 日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第5回 項目 第9課 内容 重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第6回 項目 第9課 内容 日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第7回 項目 第10課 内容 重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第8回 項目 第10課 内容 日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第9回 項目 閲読課文
- 第10回 項目 第11課 内容 重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第11回 項目 第11課 内容 日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第12回 項目 第12課 内容 重要語句、文法、関連表現の勉強
- 第13回 項目 第12課 内容 日本語訳、練習問題、テキストの朗読
- 第14回 項目 閲読課文
- 第15回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験、受講者の発表、授業への参加度、出席による総合評価

教科書・参考書 教科書：読解中国語 - やさしい中国語でよむ現代中国 - , 横川伸、王亜新、白帝社、2007年；プリント配布 / 参考書：中国語辞書(電子辞書の使用は望ましくない)

連絡先・オフィスアワー 商品資料館 1F 研究室、ylhenrei@yamaguchi-u.ac.jp 随時

開設科目	中国語 (聴力 I)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	梁 蕾				

授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。人とコミュニケーションをするとき、相手の話したことを聞き取れないと何を返事すればいいか全く見当もつけない。この聴写 I は、その大事な聞き取り能力を高めるトレーニングを中心に授業を進める。 / 検索キーワード コミュニケーション 中国語

授業の一般目標 共通教育で習得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。

授業の計画 (全体) 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。プリントやビデオなどを適当に使う。

成績評価方法 (総合) 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価。

教科書・参考書 教科書：一回目の授業ガイダンス時に指示。

メッセージ 共通教育の中国語初級 1・2・a/b を修得したものに限る。コミュニケーション中国語 3 科目の I・II は、通年履修が望ましい。

開設科目	中国語 (聴力 II)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	梁 蕾				

授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。前期に引き続き、より実用的な教材を使い、より高度な聞き分け能力を身につけるためのトレーニングを行う。言葉の文化的な背景についても適当説明する。

授業の一般目標 共通教育で修得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。

授業の計画 (全体) 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。プリントやビデオなどを適当に使う。

成績評価方法 (総合) 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価。

教科書・参考書 教科書：初回授業で指示する。

メッセージ 共通教育の中国語初級 1・2・を修得したものに限る。コミュニケーション中国語 3 科目の I・II は通年、履修が望ましい。

開設科目	中国語 (作文)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

開設科目	プロジェクト演習	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	齊藤匡史、宮崎充保、朝水宗彦、マルク・レール				

授業の概要 学生各自が、何らかのプロジェクトを企画し、それを実行し、そしてレポートにまとめ、最後に報告会で複数教員の審査をパスしたのち2単位が修得できるという、観光政策学科の学生に限定したものです。ただそうは言っても、安全性、費用負担、持続可能性そして教育的効果も考えなくてはなりませんので、観光政策学科が、事前に、できるだけ多くの演習(実習)先を指定します。現在、観光政策学科はプロジェクト演習の主たるメニューとして、マス・ツーリズム実務研修、オルタナティブ・ツーリズム研修、観光コミュニケーション基礎研修の3つのテーマを考え、皆さんにはその中から一つ、各自の関心の最も高い項目・演習先を選択してもらうことにしています。現在準備段階にあり、4月以降できるだけ早い時期に説明会を開催します。お楽しみに。

授業の一般目標 観光についての企画力を、社会との接点(実践)において培うとともに、それレポートにまとめ人前で発表できる能力、すなわちプレゼンテーション能力をつける。

メッセージ 学外での活動を伴うので、実習先に迷惑のかからぬよう、事前に提示されるルールを遵守すること、それにもまして事故などにあわないように。学外の学生の教育活動に関する保険(制度)のもとで、観光政策学科の了解を得てからプロジェクト演習を始めてください。

学部共通科目

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	浜島清史				

授業の概要 テキストは、米国の労働状況は変化したか変化しないかを巡る比較的難解な英語文献を読むことにより、大学生に求められる読解力を養う。もう一冊、アマルティア・センの文献を名訳付きでやり、翻訳の真髄に触れてもらいたい。グループ学習も取り入れたい。その他、英字新聞を題材にしたCD付きのテキストを用いて、可能な限り英字新聞を読めるレベルに近づいていってもらいたい。さらに、NHKのBS放送のABC English News(5分もの)を毎回、視聴してもらい、英語ニュースを可能な限り聞き取れるようになってもらいたい。/ 検索キーワード Labour(これは英語表記、米語では Labor)、Social Policy(日本語では労働政策を含むが、英語ではむしろ社会福祉のことをいう)、News(現場を知ろう!)

授業の一般目標 先ず大学生レベルに求められる専門的な文献を英語で読解できるように近づくことを目的とする。英字新聞のCDを聴いての読解や英語ニュースのリスニングは、多少できなくても構わないが、真剣な態度は求める。英語ニュース(5分間)でいえば、毎回の dictation(口述の書き取り)を必ずこなす姿勢を求める。

授業の計画(全体) テキストは、米国の労働状況は変化したか変化しないかを巡る比較的難解な英語文献を読むことにより、大学生に求められる読解力を養う。もう一冊、アマルティア・センの文献を名訳付きでやり、翻訳の真髄に触れてもらいたい。グループ学習も取り入れる。その他、英字新聞を題材にしたCD付きのテキストを用いて、可能な限り英字新聞を読めるレベルに近づいていってもらいたい。さらに、NHKのBS放送のABC English News(5分もの)をほぼ毎回、視聴してもらい、英語ニュースを可能な限り聞き取れるようになってもらいたい。

成績評価方法(総合) 授業への出席を必要条件とする。英文読解に関しては、ある程度の達成度を期待する。既習のところを中心だから、きちんとやっていたら単位を取り損なうことはないだろう。上述のように、リスニングは多少できなくても構わないが、真剣な態度を求める。繰り返すが、英語ニュース(5分間)でいえば、毎回の dictation(口述の書き取り)を必ずこなす姿勢を求める。また、各自の英文読解の自習と発表、課題の提出、およびグループ討議への参加度合を加味して総合的に成績評価をおこなう。

教科書・参考書 教科書：開講後、上述の文献を指示する。

メッセージ 専門書の英文読解、英字新聞、英語ニュースととにかく英語を満喫しましょう。ちなみに、担当者は2006年度には、イギリス、ドイツ、スウェーデン、デンマーク、台湾、シンガポールとっており、2007年度はフランスとイタリアへ行く予定です(いずれも調査ですが...)。外国旅行が好きな人も行きたい人も是非どうぞ。

連絡先・オフィスアワー A 2 2 3

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 公法学に関する文献を読む

授業の一般目標 公法学に関する文献を読みながら、その内容に関して公法の特徴を理解するとともに、社会科学に関する英語の読解力を増進することを目指す。

授業の計画(全体) 英文の書籍の輪読を行う。さらに必要があれば何かの文章について読みレポートを提出してもらう。

成績評価方法(総合) 授業中の担当部分の発表、その他、レポート、期末テスト、出席状況などを総合評価する。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。

メッセージ 辞書は必ず持参すること。

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 世界大手自動車メーカーの経営戦略を学ぶことを重視する。ヨーロッパ自動車産業を事例として、英文テキスト（下記教材）を利用するにすぎない。重視するのは、グローバル自動車メーカーの経営戦略を理解することである。同書は、ヨーロッパ自動車産業の構造変化についての最新動向を取り上げ、日本を含むアジア自動車産業との比較で、その実態をパラダイム転換として分析した研究書である。本書では、日独の自動車産業研究の第一人者がヨーロッパでの自動車産業の動向、とくに企業レベルではGMグループ（GM社、オーベル社）、VWグループ（VW社、Audi社、Skoda社、Seat社）、Toyotaグループ、Nissan-Renaultグループ、Ford-Mazdaグループの動向を取り上げており、世界自動車産業研究の最先端で同産業の現問題について議論をしている。受講する学生諸君にも、現代のグローバル企業（プレーヤー）がどのような戦略的行動を取っているか、インターネット公開の企業サイトを利用して、一緒に日本語・英語情報を集めて、楽しい企業理解の場としたい。単に英文を読むだけの授業とはしない。むしろ、英語はビジネスマンの道具と位置づけて、グローバル企業の経営戦略を理解することを重視したい。/ 検索キーワード 自動車産業、自動車メーカー、経営戦略、トヨタのプレミアム（レクサス）戦略、日産のアライアンス戦略、VWグループの「マルチブランド戦略」、GM・オーベル・グループの戦略、東欧自動車産業、中国・アジア自動車産業、インド自動車産業

授業の一般目標 世界自動車産業の分野を事例として、現代グローバル企業の戦略的行動を楽しく理解することを目標とする。単に英文理解力を高めるだけでなく、企業の戦略的行動を楽しく理解すること、さらに他の企業情報を利用して、関係情報（日本語情報を含む）を収集し、議論（日本語）を行うことを重視する。受講者には、英文理解力だけでなく、日本語で内容を理解し、それをめぐって討論（日本語）ができる能力を獲得する。授業全体としては、グローバル事業を展開する世界大手自動車企業の経営戦略を理解することを重視する。自動車産業、グローバル企業、グローバル経営戦略に関心のある受講者を歓迎する。とくに将来、海外進出している日本企業や、外国企業で働きたい受講生を歓迎する。受講者と相談して、日本企業各社（希望があれば、外国企業も含めて）の英文・日本語文インターネットサイトを利用し、企業の活動を理解することを一般目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自動車産業とグローバル自動車メーカーの戦略的行動の理解を通じて、経営学専門知識を習得すること。英文専門書は、単なる教材に過ぎない。思考・判断の観点：経営学専門知識を学ぶ。関心・意欲の観点：自動車産業を事例に、グローバル企業の戦略的行動を理解し、経営学専門知識を習得する。自動車メーカーに関心があること。態度の観点：討論を中心に授業を進めるので、グローバル企業の経営戦略をめぐる討論に強い関心をもっていること。技能・表現の観点：パワーポイント利用してスライドを作成し、問題提起を行い、討論を行う。それらを通じて、企業に入って実践的に役立つことができるようなプレゼンテーション能力を身に着ける。

授業の計画（全体）（1）授業は、毎回、討論を中心に、進める。報告者を決めて、パワーポイントを使ってスライドを利用した問題提起を行って頂き、それをめぐって、討論を行う。（2）報告者の順番は、参加者数に応じて、適切な負担となるように配慮して、楽しい討論ができるように、受講者と話し合っ、授業計画を作成し、授業を運営する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業計画の話し合い
- 第 2 回 項目 討論 1
- 第 3 回 項目 討論 2
- 第 4 回 項目 討論 3
- 第 5 回 項目 討論 4
- 第 6 回 項目 討論 5
- 第 7 回 項目 討論 6

- 第 8 回 項目 討論 7
- 第 9 回 項目 討論 8
- 第 10 回 項目 討論 9
- 第 11 回 項目 討論 1 0
- 第 12 回 項目 討論 1 1
- 第 13 回 項目 討論 1 2
- 第 14 回 項目 討論 1 3
- 第 15 回 項目 成果話し合い

成績評価方法 (総合) 成績は授業への参加の積極性の結果であるので、次の点をもって、最優秀評価とする。(1)テキストを十分に理解して出席するだけでなく、日本語経営知識をしっかりと学ぶこと。(2)報告者は、パワーポイント・スライドを作成し、討論準備を用意する(参加人数が少ない場合、受講者と相談の上で、方針を決める)。(3)英文理解力を踏まえて、経営学知識のレベルを評価する。

教科書・参考書 教科書：利用教材：The Changing Structure of the Automotive Industry and the Post-Lean Paradigm in Europe: Comparisons with Asian Business Practices, edited by Sumiaki Furukawa and Gert Schmidt, Fukuoka:Kyushu University Press, February 2008 を教材とする。

メッセージ 現代グローバル自動車メーカーの戦略的行動を楽しく調べよう：日本の大手自動車メーカーは、今後、生き残れるのか？ ヨーロッパの大手自動車メーカーと日本メーカーとの間には、経営戦略で、違いがあるのか。

連絡先・オフィスアワー 事前アポで、常時、連絡可能。

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 この授業では、東アジアと欧米諸国の比較文化に関する英語文献を一緒に読む。 / 検索キーワード 東アジア文化論、欧米文化論。

授業の一般目標 英語でかかれたエッセイを正確に読解できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の単語の意味や英文の構造を正確に理解する。 思考・判断の観点：英文の意味を正確に理解することができる。 関心・意欲の観点：日本、韓国などの東アジア社会と欧米社会における文化的差異について関心を持つ。 態度の観点：授業に積極的に取り組み、毎回の予習復習を怠らない。 技能・表現の観点：英文の正確な翻訳ができる

授業の計画（全体） 毎回、東アジアと欧米諸国の比較文化に関する英語文献を一緒に読み、正確な訳を付した後、内容について討論する。

成績評価方法（総合） 出席（欠格条件）、英語文献の翻訳と発表（欠格条件）、レポート（50%）、試験（50%）

メッセージ 皆で読む英語文献、それに関する参考文献については、授業の際に提示し、発表の仕方等を指示する。

連絡先・オフィスアワー ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

演習

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 公共経済論に根ざす財政理論を学びつつ、わが国の財政とこれを取りまく公共部門の諸問題を学ぶゼミナールである。

授業の一般目標 財政学の基礎理論を理科し、現実の財政現象に幅広く通ずる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 公共財政が果たすべき役割、政策手段とその働き、市場の働きとその限界 技能・表現の観点： 簡易な数学的処理、グラフによる表現

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 混合経済における公共部門 内容 政府の経済的役割 政府とは何か、誰なのか
- 第 2 回 項目 混合経済における公共部門 内容 公共経済学的な考え方 経済学者間での意見の不一致
- 第 3 回 項目 市場の効率性 内容 競争市場のみえざる手 厚生経済学とパレート効率性
- 第 4 回 項目 市場の効率性 内容 経済効率性の分析
- 第 5 回 項目 市場の失敗 内容 所有権と契約の実施 市場の失敗と政府の役割
- 第 6 回 項目 市場の失敗 内容 所得再分配とメリット財 政府の役割についての二つの分析方法
- 第 7 回 項目 効率と公平 内容 効率と分配のトレードオフ 社会選択の分析
- 第 8 回 項目 効率と公平 内容 社会選択の実際 社会選択の三つのアプローチ
- 第 9 回 項目 効率と公平 内容 不平等を測る他の尺度
- 第 10 回 項目 公共財と公的に供給される私的財 内容 公共財 公的に供給される私的財
- 第 11 回 項目 公共財と公的に供給される私的財 内容 公共財のための効率性の条件 公共財としての効率
的政府
- 第 12 回 項目 公共選択 内容 資源配分の公的メカニズム 公共財水準を決定する代替的機構
- 第 13 回 項目 公共選択 内容 政治学と経済学
- 第 14 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 自然独占：私的財の公的生産 公共部門と民間部門での効率性の
比較
- 第 15 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 公共部門での非効率性の原因 法人化
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

教科書・参考書 教科書： 公共経済学 第 2 版, J. E. スティグリッツ, 東洋経済新報社, 2003 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	植村高久				

授業の概要 テーマ：現代日本の経済と社会 ゼミの目標は、この現代の日本の社会経済の特質を学び、多面的な関心を持てるようにすることである。1) 大学生生活に主体的に取り組んでゆける「テーマ」(何でも良い)を各自が見つけ、それに全力投入できるようにして、アクティブな大学生生活を送るよう支援する。2) 学習の面では、関心のあるテーマを自分で選び、継続して観察しつづけるようになることが重要である。/ 検索キーワード 日本経済、グローバル化、雇用不安、少子高齢化

授業の一般目標 日本経済だけでなく、現在の日本で生起している諸問題に対し、積極的に関心を持ち、問題を理解し、解決策を模索することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(知識・理解の水準) 日本経済新聞を読める。新書本レベルの経済書が読める。経済・社会の様々な問題について一般的な了解ができる。思考・判断の観点：経済学的な思考法、社会科学の思考法を駆使できる。関心・意欲の観点：様々な事件や問題を自ら積極的に理解・解明しようとする。一つのテーマを継続的に追跡できる。態度の観点：自力で考える習慣が身に付く。

授業の計画(全体) 1) 1年間を通して資料(新聞等)を素材にした基礎知識の習得に努める。2) 前期は「テーマ報告」(テーマ自由)を中心とする。後期は「テーマプレゼンテーション」に移行する。3) 後期は、グループ分けを行い、6冊の新書本を分担してグループで報告を行ってもらう。

成績評価方法(総合) ゼミへの参加度と報告の内容による。

教科書・参考書 教科書：別途指示する。

メッセージ 1) モットーは「能力は求めないが、努力は求める」である。最初は難しいが、そのうち面白みが分かってくる。そこまで「努力」できる人を求める。2) 自分でテーマを持って大学時代を過ごしたい人(まだテーマが見つからない人も含めて)向けである。3) 相談等には出来る限り応じるから、気軽に研究室に来て欲しい。

連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail;uemura@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワーは掲示してあるが、常時来室可。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 毎週読書レポートを提出し、およそ 1 月に 1 回の割合で発表する。

授業の一般目標 研究テーマは、個人の自由です。各自のテーマを深く追求するとともに、幅広い知識を持った T 型スペシャリストを目指します。具体的には、以下の能力を身につけることを目標とします。

1. 幅広い教養を身に付けること。
2. 問題解決能力、分析能力を高めること。
3. 企画力・創造力を高めること。
4. プレゼンテーション能力を高めること。
5. コミュニケーション能力を高めること。
6. データ処理能力、事務処理能力を高めること。
7. 判断力を高めること。

授業の計画 (全体) パワーポイントを用いて、プレゼンテーションを行う。

教科書・参考書 教科書：7つの習慣, スティーブン・R・コヴィー, キング・ベアー出版, 1996 年

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 金融論とは、みなさんの身の回りにある「お金」について経済学の目を通じて論じていく学問です。「お金」に興味のない人はいないと思いますが、それを論じていくためには様々な知識を身に付けていく必要があります。さらに、身に付けた知識を活かすには、人前でプレゼンテーションをし、それをもとに意見交換および議論することも必要になってきます。それらをトータルで学習することがこの演習 I の目的になります。 / 検索キーワード 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

授業の一般目標 1 , 新聞がしっかり読めるようになる。新聞は、現在の社会・経済に関するあらゆる情報がつまっています。新聞は単なる TV ガイドではないということをまず理解しましょう。 2 , 人前でプレゼンテーションするための技術を身に付ける。人前で話すことだけでも大変ですが、理解してもらうのはもっと大変です。 3 . 相手の意見を聞いて、自分の意見を発する。議論のための基本です。相手の意見を理解し、自分の意見を理解してもらうことがどれだけ重要であるかを理解しましょう。

授業の計画 (全体) I 経済学の理論的フレームワークの習得 (理論) (1) マクロ経済学の基礎 (2) ミクロ経済学の基礎 (3) 金融論の基礎 II 時事トピックへの関心を高める (実際) (1) 理論と実際の融合 (2) 論理的な思考 III プレゼンテーション能力の向上 (実践) (1) 毎週の報告 (2) 議論 (ディベート) への積極的な参加 (3) ゼミナール対抗討論大会への参加

成績評価方法 (総合) 演習中のパフォーマンス、アピール、ディベート能力などを評価します。

教科書・参考書 教科書：未定 (金融論の入門書) 最初の時間に、数冊候補を上げ、その中から決定する予定

メッセージ ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://thyodo.eco.to>) を参照してください。ゼミの主役は学生諸君です。しっかり学んで、自らの付加価値を高めるべく、一緒にがんばりましょう。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	木部和昭				

授業の概要 近代日本経済史研究 ~ 明治・大正・昭和期の日本経済の分析 ~ 本演習では、明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を旨とする。内容としては特に、各人の身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析してもらおう。主な対象としては、身近な地域の経済を歴史的に分析する事を考えているが、各人の興味関心に応じて、必ずしもこれに限定するわけではない。最終的には、資料を用いて具体的な分析を行い、教科書に出てくる経済史とは異なった新たな歴史像を自ら発見してもらいたい。大学で勉強する歴史は高校までの日本史・世界史と異なり、単に知識を暗記するだけの学問ではない。自らが歴史を解明し、分析するという点に興味を持つ学生の受講を歓迎する。 / 検索キーワード 日本経済史、日本史、近代史

授業の一般目標 (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を旨とする。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。

授業の計画 (全体) (1) 2 年生の前半は下記のテキストの輪読を通じて、近代日本経済史の基礎知識、論点を学習する。(2) 2 年生の後半は、「人物・企業から見た日本経済史」というテーマの下、近代日本の経済発展の担い手となった企業やそれを創設した企業家について、調査・報告を行ってもらおう。(3) 日本経済史の実証的研究に必要な不可欠なものに、資料の調査・分析がある。本演習では、上記と平行して、戦前期の資料講読を行い、調査・分析の基本的な手法を習得する。戦前の文献・法令・新聞などは、現在とは全く異なる文語・旧字体で書かれているが、慣れれば同じ日本語なのでそんなに難しくはない。なるべく多くの原史料に触れる機会を得るため、山口県文書館などの資料保存機関へ調査に出かける場合もある。(4) 夏休みには、卒業論文への前段階として、レポートを課す。これは、自分の研究課題についての模索の第一歩となる。後半には、このレポートをもとにした報告も行ってもらおう。

成績評価方法 (総合) 順番に担当してもらった報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外は、報告内容をまとめたノート提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45 %、授業内小レポート 15 %、夏休みレポート 30 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。

教科書・参考書 教科書：『近代日本経済史要覧 (第 2 版)』、安藤良雄 編、東京大学出版会、1979 年；『概説近代日本経済史 (第 2 版)』、三和良一、東京大学出版会、2002 年 / 参考書：テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

メッセージ ・ 3 年後の卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。 ・ きちんと出席しないと単位が出ないで注意。 ・ 自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野村淳一				

授業の概要 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを理想としています。演習 I ではブランシャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。3 年次にはマクロ経済学を応用して日本経済の問題について分析し、全国ゼミナール討論大会に参加しますので、2 年次にはその予行演習も兼ねて学内討論大会に参加します。

授業の一般目標 ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 標準的なマクロ経済理論を理解できている。基本的な統計学の手法を修得している。 **思考・判断の観点:** 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 **関心・意欲の観点:** 現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 **態度の観点:** 事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 **技能・表現の観点:** 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) 演習 I ではブランシャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。3 年次にはマクロ経済学を応用して日本経済の問題について分析し、全国ゼミナール討論大会に参加します。2 年生は全国大会へは参加しませんが、学内の討論大会に参加してもらいます。これには、(1) 経済学の応用された論文を理解する、(2) 論理的に議論する、(3) 次年度のための予行演習、という目的があります。2 年生では、経済理論に基づく論文作成は出来ませんので、適切な参考文献の主張を消化し、自分達で統計データを確認する作業が中心となります。卒業論文のテーマについては、こうした活動を通して自由に選んでもらいます。早く決まれば個別に指導を始めますが、基本的には卒業後の進路も踏まえて 3 年次の 10 月頃には具体的にイメージを固めて下さい。パソコンの知識は必須です。各自でパソコンを購入することを強く推奨します。卒業論文作成前に、経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学入門、経済統計学、計量経済学の単位を取得することを期待します。一見非常に多くを学習するようですが、これらは互いに関連しており、ステップを省略しなければ、基本的な範囲の内容については、無理なく修得することが可能です。希望者には、サブゼミとして経済数学や経済学の輪読をしています(パソコンは個別に指導します)。初歩から積み上げていきますので、気軽な気持ちで臨んで下さい。

成績評価方法(総合) 授業における態度(発表、質問等)と参加意欲により判定する(評価割合 100%)

教科書・参考書 教科書: 『マクロ経済学』(上)(下), ブランシャール, 東洋経済, 1999 年

メッセージ 就職活動では、大学で何を学んだかを問われます。野村ゼミでは、討論大会への参加と卒業論文作成を通じた勉強を重視しています。したがって、費用は多少かかりますが、毎年夏期休暇中に行うゼミ合宿と 3 年次の全国大会への参加を義務づけています。これらはゼミ生同士の協力なしでは成り立ちませんので、協調性を持った学生の助けを必要としています。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山田正雄				

授業の概要 経済分析の方法を学ぶ。

授業の一般目標 経済分析の方法を身につける。

授業の計画 (全体) 経済を分析する方法として、2 年次にはファイナンス理論を学びます。Excel を使って次のような内容を学ぶ予定です。・現在価値・正味現在価値・内部収益率・ポートフォリオによる分散投資・CAPM・MM 理論・株価の決定理論・デリバティブ・二項モデル・ブラック=ショールズ・モデル

成績評価方法 (総合) 参加姿勢、報告、出席によって評価します。

教科書・参考書 教科書： 道具としてのファイナンス, 石野雄一, 日本実業出版社, 2005 年

メッセージ Excel がインストールされたノートパソコンを用意してください。(台数に限りはありますが、学務係で借りることもできます。)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 前期・後期ともにディスカッション能力・ディベート能力・プレゼンテーション能力を高めるための作業を行う。自身の関心事を、以下にして他者に伝えられるか？何が問題で、どうすべきか提案する力をつける。

授業の一般目標 誰が聞いても、見てもわかりやすい発表、資料作成が出来るようにすること。社会的な問題、時事的な問題に対して、経済学の論理を適用できるようにすること。また社会的な問題、時事的な問題を自分自身の問題として想像できるようにすること。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点：わかりやすい、相手の立場に立った発表となっている点。技能・表現の観点：わかりやすい日本語論文・資料を書けること。

授業の計画 (全体) 3 から 4 人のグループに分け、テキストを利用した発表、質疑応答、ディベートを繰り返す。資料作成、発表技術を出来るだけ高められる指導する。後期のスケジュールは、前期末に資料を配布し、説明をする。

成績評価方法 (総合) 資料作成、発表技術、ディベートの参加具合、報告内容を評価対象とする。

教科書・参考書 教科書：入手すべきテキスト、参考文献は演習所属学生に対して別途紹介する。

メッセージ 1 年後にはある程度の発表、討論参加、経済学的な知識、文章、資料作成に対する自信がついているはずです。

連絡先・オフィスアワー 何かご質問・ご意見がありましたら nakama73@yamaguchi-u.ac.jp までどうぞ。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	濱島清史				

授業の概要 社会政策論 (特に少子高齢化、格差問題、年金・介護問題) を中心に進めていく。またそれと関連するように、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。ただし、2 年生うちは余り就職対策をするというよりも、まずは社会問題などで問題意識を育み、一般目標に記すような基本的事項をマスターしていつてもらいたい。 / 検索キーワード 社会政策論、コミュニケーション能力 (プレゼンテーション・ディスカッション・ディベート)、キャリア形成 (産業・企業・職業研究)、主体性・協調性・社会貢献。

授業の一般目標 第一に、ゼミでの研究を通して充実した学生生活を送ること。即ち、何らかの困難に遭遇した時に、それを克服するストーリーを語れるようにすること。第二に、社会に出てから有益な知識と思考力を養うこと。第三に、将来的にキャリア・ビジョンを描けるような下地を形成すること。以上を一般的な目標とする。より具体的には、社会政策論の基礎知識を習得し、加えて自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養する。さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。なお、労働経済論と社会政策論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義科目によって補強しなければならないからである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 教養を広め、専門知識を深めること。新聞やテレビ・ドキュメンタリーなども日常的にみること。 **思考・判断の観点：** 論理的思考能力を養うこと。変化に応じて、的確に判断を下せるようになること。 **総じて、課題・問題を発見し、原因を分析し、改善できるようにすること。** **関心・意欲の観点：** 自ら主体的に関心のある社会問題、ついで産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。 **態度の観点：** 人間の記憶力は曖昧である。単に聴いているのではなく、糧となると思われるところはメモを取る。さらに、積極的に自己アピールをしてもらいたい。ゼミで活発に討論して、自己主張してもらいたい。また各自、それぞれの担当領域でリーダーシップを発揮してもらいたい。 **技能・表現の観点：** プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。 **その他の観点：** 昨今から労働者の権利意識を涵養するような方向性を打ち出したい。景気も回復してきており、単に就職するだけでなく、労働者としての権利も主張していけるような人材を育ててきたからである。また社会貢献や人道的観点も養いたい。そうでないと、個人的な狭い利害関係でしか、考えられないような人間になってしまうからである。将来、社会に出てから、大きく活躍するためにも、社会に貢献するという大望が必要である。具体的には、第三世界の貧困問題などに関するボランティア活動などへの参画である。(勿論、強制はしない。)

授業の計画 (全体) 前期からゼミナル大会にかけては、社会政策論 (特に少子高齢化あるいは格差問題) に関してテキストを輪読形式で進めていく。また今年から特にディスカッション、ディベート、プレゼンを重視し、レッスンしていきたい。秋のゼミナル大会は一つの山場なので必ず出席してもらおう。後期は各自の関心のあるキャリア形成に関して研究を進めていきたい。その成果をレポートとして、春休み明け、夏休み明けにそれぞれ提出してもらおう。

成績評価方法 (総合) 主にレポートとレジュメ・発表による。プレゼン、討論能力も期待するが、成績評価よりも各自の努力に委ねるべきだろう。講義形式とゼミとは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。

教科書・参考書 教科書：適宜、指示する。 / 参考書：適宜、指示する。

メッセージ 何はともあれ、明るく楽しくやってみよう。

連絡先・オフィスアワー tel : 083 - 933 - 5521

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中田範夫				

授業の概要 中田と米谷の二人で授業を運営していきます。財務会計分野と管理会計分野の演習です。企業会計は財務会計分野と管理会計分野に区分できます。前者は商法や商法計算規則に基づいた処理をすることによって財務諸表を作成します。損益計算書、貸借対照表、およびキャッシュフロー計算書を財務諸表と言います。これに対して、管理会計は経営管理者が各種の意思決定と業績評価のために利用するための情報作成を任務とします。企業の業務計画に基づいて予算を編成したり、新規の設備投資を海外に行うなどの意思決定ならびに各セグメントや個人の会社への貢献を評価し報酬に反映させたりします。管理会計分野は主に中田が指導します。次に財務会計分野について説明します。会計は経験の蒸留であるといわれるように、現在の会計制度は実務的な慣習を基盤に作られています。しかし、会計学や簿記の授業では会計制度の背景まで深く掘り下げることができないため「どうしてこういう制度になったのだろう」とか「なぜ複数の会計処理が認められているのだろう」という疑問が生じます。こうした疑問をゼミのメンバーと議論しながら、解決していきます。財務会計分野は主に米谷が指導します。

授業の一般目標 管理会計、原価計算についての知識を習得することを目標とする。これらの技法の多くは欧米で開発されたものであるから、原書に遡及して研究することが重要である。したがって、英文文献による勉強も行う(以上、中田)。自分が理解できていないところは何処なのかを発見し、それに対して論理的に答えを導く思考力を養います(以上、米谷)。

授業の計画(全体) 授業はテキストを決めて、学生に順番に報告してもらい。報告する学生がレジュメを準備することは当然であるが、それ以外の学生も事前に報告者に対して質問を提出することを義務とする(以上、中田)。疑問点を出してもらい、それをグループ単位で解決してもらいます(以上、米谷)。

成績評価方法(総合) 授業への出席、報告、各種ゼミ行事への参加度などを総合的に見て判断する(以上、中田)。出席、報告、授業への貢献から総合的に評価する(以上、米谷)。

教科書・参考書 教科書：後日決める。

連絡先・オフィスアワー 研究室：電話番号 9 3 3 - 5 5 5 6 オフィスアワー：後日指示する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古川澄明				

授業の概要 ゼミ 2 年生：前期、中小企業診断士資格取得勉強に取り組む。後期、有資格者を含めて、同資格知識をベースにして、企業調査・研究を開始する。目標は、4 年生卒業論文研究として企業のケーススタディをまとめることである。研究分野としては、酒造業界と、フグ・ビジネス業界を取り上げる。研究内容・方法 (1) フグ・ビジネスの調査 3 年生の先輩が下関唐戸魚市場 (株) や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方は、次のようなテーマ設定はいかがでしょうか： (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査 (今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の 3 割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化 - 輸入フグの増大化傾向、(c) フグ・ビジネスの国際化とアジア - 香港、上海のフグ料理店、(d) 養殖フグの急増と産地間競争 - 相場リーダーとしての下関の挑戦、(e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態 - フグを食べているのか？ (f) 食生活の変化とフグ・ビジネス - 養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か。(2) 山口の酒蔵の調査、3 年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみた方は、例えば、次のようなテーマ設定はどうでしょうか： (a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる (現在、五橋、男山、和可娘の 3 社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞くゼミ運営方法： 3 年生までは、チームで調査研究。4 年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1 冊の本 (作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問することを厭わない人はよい成果を生み出せるでしょう。調査研究の成果は、報告集にまとめます。 / 検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

授業の一般目標 (1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。最終的目標：企業社会や公務員社会に入った役立つ能力を身につけること、すなわち何ら何の課題を分析し、取りまとめてプレゼンテーションできる能力、報告書をまとめる能力、自分の知識・認識のレベルと限界を知り、そのような実力を高めるべきかを認識する能力、PC を自在に取り扱える能力、流行な人間関係を構築する能力、指揮統率の能力などを養うことにあります。積極的に自分を育てましょう。自分の器を大きくしましょう。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。その基礎知識習得として、中小企業診断士資格受験にチャレンジする。 思考・判断の観点：独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。 関心・意欲の観点：ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。 態度の観点：研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。礼儀と節度を守り、指揮統率能力を身につけることを課題とする。礼節を重んじ、ゼミ生としての品位と相互尊敬には、立場や性別に関係なく、お互いに厳格でありたいものです。 技能・表現の観点：PC の利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプロケラムを利用することを勧める。インターネットの活用、メールを利用した添付ファイル情報の交換などは、日常的に行うので、4 年生までには、習熟することになる。また情報収集・整理能力、情報を一つの方向で報告書にまとめる能力を養う。 その他の観点：ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるというのが、ゼミの原則である。

授業の計画（全体） 大きくは、前期と後期にわけて、2年生は研究のための基礎勉強を行う。とくにケーススタディを行いながら、実践的に経営学の知識を学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営学基礎学習
- 第 2 回 項目 経営学基礎学習
- 第 3 回 項目 経営学基礎学習
- 第 4 回 項目 経営学基礎学習
- 第 5 回 項目 経営学基礎学習
- 第 6 回 項目 経営学基礎学習
- 第 7 回 項目 経営学基礎学習
- 第 8 回 項目 経営学基礎学習
- 第 9 回 項目 経営学基礎学習
- 第 10 回 項目 経営学基礎学習
- 第 11 回 項目 経営学基礎学習
- 第 12 回 項目 経営学基礎学習
- 第 13 回 項目 経営学基礎学習
- 第 14 回 項目 経営学基礎学習
- 第 15 回 項目 経営学基礎学習
- 第 16 回 項目 企業事例研究
- 第 17 回 項目 企業事例研究
- 第 18 回 項目 企業事例研究
- 第 19 回 項目 企業事例研究
- 第 20 回 項目 企業事例研究
- 第 21 回 項目 企業事例研究
- 第 22 回 項目 企業事例研究
- 第 23 回 項目 企業事例研究
- 第 24 回 項目 企業事例研究
- 第 25 回 項目 企業事例研究
- 第 26 回 項目 企業事例研究
- 第 27 回 項目 企業事例研究
- 第 28 回 項目 企業事例研究
- 第 29 回 項目 企業事例研究
- 第 30 回 項目 企業事例研究

成績評価方法（総合） 総合的に評価する。全員が最高評価を得られるように指導を行うので、結果として、最高評価となるように、参加者の努力に期待する。

教科書・参考書 教科書： 必要に応じて、あらゆる経営学書を利用する。 / 参考書： 必要に応じて、あらゆる経営学書を利用する。

メッセージ 古川ゼミは、人材育成の場と位置づけている。企画・立案能力，文書能力，報告書をまとめる能力，プレゼンテーション能力，コンピュータ活用能力などを養うことを目標として，2年生の段階から自分たちで自主的に共同研究テーマと取り組む。それらの能力は，大学卒業後に民間企業や公務員に就職すれば当然にも求められる能力である。企業研究では，これまでに習得した，あるいは習得しつつある経営学や会計学の知識を投入することになり，必要ならば自主的に経営学の知識を学ぶことが重要である。3年間を費やして，独創的な卒論をまとめ，ハードカバー書に製本し，大学4年間の総決算とする。またゼミ独自のアルバムを編集しているので，楽しいゼミを全員参加で作らしましょう。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に、面会可能。日常的に、メールで相互連絡を行うので、メールアドレスを変更したら、必ず、連絡してください。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有村貞則				

授業の概要 この演習では、企業経営の実態を把握する上で有益な経営分析、とくに財務分析手法を学習し、それをもとに代表的な日本企業や欧米のグローバル企業の経営状態を比較検討します。

授業の一般目標 1. 財務諸表データを用いた経営分析手法の習得。 2. これらの手法を用いて実際の企業の業績を分析。 3. 分析結果、およびその他の情報をもとに企業間の優劣を判断。

授業の計画 (全体) 指定テキストの各章ごとに進める。

成績評価方法 (総合) 出席点と毎回の授業で行う復習小テスト。

教科書・参考書 教科書：経営分析入門, 森田松太郎, 日本経済新聞社, 2002 年

連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山下訓				

授業の概要 職業会計人コースの税務専攻 2 年生を対象とした演習です。自ら疑問点を探し、自ら解決していく方法を学びます。

授業の一般目標 職業会計人コースの実習により、多くのことを学ぶこととなりますが、多くの疑問を積み残したまま、実習は進行していきます。この演習形式の授業では、何が疑問点かを探し、その背景にどのような考えがあるのかを探し、調べて発表していきます。分からない所が何処であるかを発見すれば、実は半分以上問題は解決しています。ものを問うときに、既に答え方が決まっているからです。是非、自ら問題を設定し、解決し、発表する訓練をしましょう。

成績評価方法 (総合) 出席と発表によって評価する。

メッセージ 経済学部生としての当然求められる行動を求めます。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp tomotake@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5 5 1 8、5 5 3 2

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 1. 授業の概要 商品学の基礎 2. 授業計画 (講義項目、講義方法、スケジュール等) 前期は、テキストを利用して、経営学科のゼミとしてこれだけは最低限、理解しておいて欲しい事例と理論を勉強する。これらの勉強は、次の点に注意しながら行っていく。(1) レジユメの書き方 文章を通じて、自分の考えや言いたいことを相手に伝えることを学ぶ。(2) 報告 (プレゼンテーション) および議論 口頭での対話を通じて、相手の考えや言いたいこと (文章、対話の両方を通じて) を正しく理解しようとするというスタンスを学ぶ。また、自分の考えや言いたいことを相手に伝えることを学ぶ。(3) 報告書作成 ゼミでの議論を通じて、学んだことと学べなかったこと (残された課題) とを明確にすることを学ぶ。報告担当者は、事前にレジユメを準備して (1)、ゼミで報告 (プレゼンテーション) する (2)。報告の次の週に、ゼミでの議論のまとめとして報告書を提出し (3)、復習を行う。後期は、みんなの身近にある商品の生い立ちや歴史等について学ぶ。実際に商品をひとつ選んで、調査・研究を行う。テキストを用いて、調査・研究の方法、論文の書き方についても学ぶ。参考書は、紙コップ、ラーメン、ファーストフード、大八車、ユニットバス、紙袋、ロボット、シャープペンシル、ブランコ、カラー映画、パソコン等々の日用品約 90 点の生い立ちや歴史を、一つにつき 2~3 ページにまとめてある。

授業の一般目標 経営学科のゼミ生として必要な基本的ツールを理解する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業を起こす 内容 スカイマークエアラインズ社の設立
- 第 2 回 項目 私企業の形態 内容 わが国電気通信産業の曙に見る
- 第 3 回 項目 現代企業の発生 内容 ロックフェラーとスタンダード・オイル
- 第 4 回 項目 環境・戦略・組織 内容 フォードと GM
- 第 5 回 項目 新しい事業の創造 内容 ヤマト運輸の宅配便事業
- 第 6 回 項目 いかに競争するか 内容 マクドナルドとモスバーガー
- 第 7 回 項目 事業の再構成と資源配分 内容 東芝の選択経営
- 第 8 回 項目 M & A と外部資源の利用 内容 ソニーのコロンビア映画会社買収
- 第 9 回 項目 日本的経営とは何だったのか 内容 高度成長期の日立製作所
- 第 10 回 項目 企業の知識体系 内容 シャープの製品開発マネジメント
- 第 11 回 項目 市場に対応するネットワーク型組織 内容 製販一体化をめざす花王の組織変革
- 第 12 回 項目 企業のカルチャーを変える 内容 アサヒビール組織活性化
- 第 13 回 項目 会社は誰のものか 内容 ピケンズ対小糸製作所問題から
- 第 14 回 項目 ビジネスの倫理性 内容 不正表示牛乳の代償
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 前期に関しては、担当箇所のレジユメ、報告 (プレゼンテーション)、報告書、等による。後期に関しては、レジユメ、報告 (プレゼンテーション)、レポート、等による。また、出席は、欠格条件である。

教科書・参考書 教科書：ケースに学ぶ経営学，東北大学経営学グループ，有斐閣，1998 年；大学生のためのレポート・論文術，小笠原喜康，講談社，2002 年 / 参考書：20 世紀をつくった日用品 ゼム・クリップからプレハブまで，柏木博，晶文社，1998 年

メッセージ この演習 I は、2 年生を対象としています。募集人数は 12 名です。積極的にゼミ活動を盛り上げていてくれる人を希望します。3 年間、よろしくお願ひします。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C220

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 経営情報に関わる基礎知識を身につけます。経営情報論のテキストを輪読します。経営にかかわる意思決定について擬似体験するビジネスゲームも授業に取り入れる予定です。また、経営に関する意思決定方法のひとつとして線形計画法を理解することも目標になります。 / 検索キーワード 経営情報、ビジネスゲーム、シミュレーションと PDCA サイクル

授業の一般目標 経営情報論の学習では社会と情報システムの関係について、歴史的に分析するとともに、現状を把握し、将来への展望を築く能力を身につけてもらいたいと考えています。また、発表によって、自分の考察の成果を効果的にプレゼンテーションできるようになってください。ビジネスゲームでは、PDCA サイクル (Plan Do Check Act) を繰り返すことによって、経営改善の余地があるかないか、あるとすれば、どこをどうすればよいか、を考える経験を積みます。パーソナル・コンピュータを用いた実習では、ビジネスゲームの経験などから問題を発見し、問題構造を理解したうえで、数式化することを通して、パーソナル・コンピュータに装備されている一般的なソフトウェアを経営問題に利用することができることを目指します。また、計算結果の意味するところを正しく理解し、さらなる考察を進められるようになってください。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営情報論によって「経営」と「情報システム」の関係を正しく把握する。すべての経営問題が数式化することはできないが、問題の一側面でも数式で表現することができる。そのことについての基礎的な知識を身につける。問題をコンピュータ上に展開して解を得ることができる。得られた解の検討から経営の改善点を見つけることができる。経営の改善を実現するための方策と、それが実現した場合の利益についてシミュレーションなどを実行して見通しを立てることができる。思考・判断の観点：経営情報に関する歴史を学び、現状を理解し、将来、自分達が生きていく社会での経営情報システムについて、イメージ形成ができるようになってください。(そのイメージは個人によって異なるものになるはずです) また、パーソナル・コンピュータを用いた実習からは、同じような現象でも問題の定義の方法によって違った解が導出される現象に対して、問題をさまざまな面から見直す意義について考えてみてください。どのような問題に、どのようにアプローチするのが最善か、を、判断できるようになりましょう。関心・意欲の観点：“経営情報”の発展の度合いとその利用のされ方が現在の社会でどのような役割を果たしているかに関心を持つこと。経営に関する問題の“数量的側面”に関心をもっていること。数字や数式に、ある程度の自信があれば十分です。考える時間とともに、パーソナル・コンピュータの操作など、手を動かすことも多い授業です。元気が必要です。態度の観点：礼儀正しい態度を望みます。技能・表現の観点：自分の考察を発表する、ということは、他人に知らせるといった効果の他に、自分自身がより深く理解する、とか、考えが整理されるといった効果もあります。大学2年生の時点では、むしろ後者の効果の方が大きいでしょう。プレゼンテーションの良否は、経験量が大きく関係しています。積極的に発表の機会を利用しましょう。その他の観点：一緒に学ぶ他の学生と存分に交流してください。

授業の計画 (全体) 経営情報についての輪読では4～5ページの資料を作成して20分程度の発表を予定しています。基本的に1回の授業で1人が発表することを想定し、全員が発表したあとはグループ発表を予定しています。ビジネスゲームはゲームを楽しむとともに、パーソナル・コンピュータを使用した経営意思決定の材料を得ます。また、自分の計算結果をゲームに適用することを体験します。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方と発表の順番の決定。経営情報論の系譜について。ビジネスゲームと Excel について
- 第 2 回 項目 輪読発表とビジネスゲーム体験 内容 組織と管理の理論について (発表) と質疑応答。レストランゲーム
- 第 3 回 項目 発表とビジネスゲーム体験 内容 意思決定論について。レストランゲーム

- 第 4 回 項目 発表とビジネスゲーム 内容 組織とデータ処理について。レストランゲーム
- 第 5 回 項目 発表とビジネスゲーム 内容 M I S の提唱について。レストランゲーム
- 第 6 回 項目 発表とビジネスゲーム 内容 経営計画論について。レストランゲーム
- 第 7 回 項目 発表と Excel による経営分析 内容 知識システムについて。レストランゲームの損益分岐点分析
- 第 8 回 項目 発表とビジネスゲーム 内容 経営情報システムの発展段階説について。分析結果をゲームの戦力に生かす
- 第 9 回 項目 発表とビジネスゲーム 内容 意思決定支援システムについて。レストランゲーム
- 第 10 回 項目 発表とビジネスゲーム 内容 競争優位について。レストランゲームの総括
- 第 11 回 項目 発表とビジネスゲーム 内容 ニュースメディアについて。ベーカリーゲーム準備
- 第 12 回 項目 発表とビジネスゲーム 内容 戦略的情報システムについて。ベーカリーゲーム
- 第 13 回 項目 グループ発表の準備とビジネスゲーム 内容 グループ発表の準備。ベーカリーゲーム
- 第 14 回 項目 グループ発表とビジネスゲーム 内容 システム開発技法の変革についてグループ発表と質疑応答。ベーカリーゲーム
- 第 15 回 項目 グループ発表とビジネスゲーム 内容 マルチメディア論について(グループ)。ベーカリーゲーム
- 第 16 回 項目 グループ発表とビジネスゲーム 内容 e コマースについて(グループ)。ベーカリーゲーム
- 第 17 回 項目 グループ発表とビジネスゲーム 内容 グループウェアとユビキタスコンピューティングについて(グループ)。ベーカリーゲーム
- 第 18 回 項目 経営情報論についてのまとめ 内容 ベーカリーゲーム
- 第 19 回 項目 経営情報論についてのまとめ 内容 ベーカリーゲームの総括
- 第 20 回 項目 ビジネスゲームについて 内容 教員による解説とディスカッション
- 第 21 回 項目 経営意思決定への線形計画法の適用 内容 線形計画法について
- 第 22 回 項目 一般的な線形計画法 内容 パーソナル・コンピュータ上に線形計画法を展開する
- 第 23 回 項目 線形計画法 内容 パーソナル・コンピュータを使用して解を得る
- 第 24 回 項目 線形計画法の投資問題への適用 内容 ネットワークの数式化
- 第 25 回 項目 線形計画法の投資問題への適用 内容 ネットワーク問題の解法
- 第 26 回 項目 線形計画法の投資問題への適用 内容 ネットワーク問題の解法
- 第 27 回 項目 線形計画法の投資問題への適用 内容 ネットワーク問題の解法
- 第 28 回 項目 まとめ
- 第 29 回 項目 予備日
- 第 30 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 発表の内容、授業中の積極性、洞察力、勤勉さ(欠席や遅刻はしないように!)、協調性、パーソナル・コンピュータを経営意思決定に利用する能力などを評価します。

教科書・参考書 教科書: 経営情報論ガイダンス(第2版), 佐原寛二, 中央経済社, 2006年 / 参考書: 授業時間内で適宜紹介します。

メッセージ 文献を読む、考える、手を使う(計算する、図を描く、グラフにする、など)、発表する、そして、他の学生の意見をきく、討論する、と、全面的な能力を使います。授業の進捗状況によって取り扱う題材が変化するので、欠席すると流れについていけなくなります。パーソナル・コンピュータを使えることがのぞましい。

連絡先・オフィスアワー shibuya@yamaguchi-u.ac.jp C棟2階に研究室があります。在室中なら、いつでも入ってきてかまいません。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	内田 恭彦				

授業の概要 経営のグローバル化の必要性が叫ばれています。しかし日本の景気回復と共に日本型経営の良さも世界で再認識されはじめています。ところがこの日本型経営における人と組織のマネジメントが企業経営に対しいかなる機能を有しているのか明らかになっていないことが多々あります。例えば、なぜ非合理的といわれる終身雇用を頑なに守っているトヨタやキヤノンに世界的な競争力があるのか？なぜスペシャリスト制度があまり発達していない日本企業に技術力が蓄積されているのか？などです。このような疑問の生じるところには必ずそのことを説明できるメカニズムが存在しているはずで、そこで私達の実際の目と耳、そして知識と洞察力を最大限活用し、まだ解明されていないこのような日本企業の人と組織のマネジメントの制度的叡智を少しでも明らかにしていくことを本演習の目的とします。多くの本を読み、議論し、そして実際に企業の現場を調査し、何度も検討を重ねて私たちオリジナルの考えを創出していきます。

授業の一般目標 ゼミにおいては日本企業の経営問題に関して、文献を通じ知識を広め、議論し、自ら考え、現場に実際に赴いて調べ、自分の考えを纏め上げていくことができるようになることを最大の目標としています。その上で、一人ひとりがリーダーシップを発揮し、全員で楽しくかつ生産的なゼミ活動ができるよう働きかけていけるようになることも重要な目標としています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経営における人と組織の問題についての知識を習得する 思考・判断の観点： 今日の企業における人と組織の問題に対し、自らの考えを持ち、きちんと述べられるようになる 関心・意欲の観点： 今日の企業経営および社会と企業の関係について広く関心を広げ、自分なりの意見を持つことができるようになる ゼミ運営に関し、主体的にリーダーシップを発揮できるようになる 態度の観点： 他の人の考えや意見ではなく、自ら調べ、確認し、考え、自分の意見や考えを持つと努力する 技能・表現の観点： 聞く人の立場にたったプレゼンテーションができる

授業の計画 (全体) 2年次の前期は経営学および人的資源管理に関する基礎的知識の習得のため、本を輪読します。またグループ分けし、研究テーマの模索を行います。後期はまず、研究方法論を学習し、実証研究論文なども読みます。その上でグループ毎に設定したテーマの実証調査を行っていきます。従って2年次の後期・後半は調査の中間報告と全員でのディスカッションとなります。研究成果は報告集としてまとめます。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 1、2 章を読んでくる
- 第 2 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 学ぶ』 3,4,5 章を読んでくる
- 第 3 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 6,7,8 章を読んでくる
- 第 4 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 9,10,11 章を読んでくる
- 第 5 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 12,13,14 章を読んでくる
- 第 6 回 項目 経営学の基礎 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『はじめて経営学を学ぶ』 15,16,17 章を読んでくる
- 第 7 回 項目 日本型経営について考える 1 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『日本型資本主義と市場主義の衝突』 1,2 章を読んでくる
- 第 8 回 項目 日本型経営について考える 2 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『日本型資本主義と市場主義の衝突』 3,4 章を読んでくる

- 第 9 回 項目 日本型経営について考える 3 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『日本型資本主義と市場主義の衝突』5,6,7 章を読んでくる
- 第 10 回 項目 日本型経営について考える 4 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『日本型資本主義と市場主義の衝突』8,9,10,11 章を読んでくる
- 第 11 回 項目 日本型経営について考える 5 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『雇用の未来』序章,1,2 章を読んでくる
- 第 12 回 項目 日本型経営について考える 6 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『雇用の未来』3,4 章を読んでくる
- 第 13 回 項目 日本型経営について考える 7 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『雇用の未来』5,6,7 章を読んでくる
- 第 14 回 項目 日本型経営について考える 8 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 『企業変革の人材マネジメント』人材ポートフォリオマネジメントの章他(後ほど指示します)を読んでくる
- 第 15 回 項目 日本型経営について考える 9 内容 輪読とディスカッション 授業外指示 事前に指定する論文 2 本を事前に読んでくる
- 第 16 回 項目 企業研究 1 内容 中間報告と検討
- 第 17 回 項目 企業研究 2 内容 中間報告と検討
- 第 18 回 項目 企業研究 3 内容 中間報告と検討
- 第 19 回 項目 企業研究 4 内容 中間報告と検討
- 第 20 回 項目 企業研究 5 内容 中間報告と検討
- 第 21 回 項目 企業研究 6 内容 中間報告と検討
- 第 22 回 項目 企業研究 7 内容 中間報告と検討
- 第 23 回 項目 企業研究 8 内容 中間報告と検討
- 第 24 回 項目 企業研究 9 内容 中間報告と検討
- 第 25 回 項目 企業研究 10 内容 中間報告と検討
- 第 26 回 項目 企業研究 11 内容 中間報告と検討
- 第 27 回 項目 企業研究 12 内容 中間報告と検討
- 第 28 回 項目 企業研究 13 内容 中間報告と検討
- 第 29 回 項目 企業研究 14 内容 中間報告と検討
- 第 30 回 項目 企業研究 15 内容 報告

成績評価方法 (総合) ゼミでの報告、討論、参加度合いなどを総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書： はじめて経営学を学ぶ, 田尾雅夫, ナカニシヤ出版, 2005 年; 企業変革の人材マネジメント (仮題), 若林直樹・松山一紀, ナカニシヤ出版, 2007 年; 日本型資本主義と市場主義の衝突, ロナルド・ドーア, 東洋経済新報社, 2001 年; 雇用の未来, ピーター・キャベリ, 日本経済新聞社, 2001 年; その他適宜指示します

メッセージ 積極的なゼミ活動への参加が求められます。単に本などから知識を得るだけでなく、現場に行き様々なデータを集め、深く洞察し、本質を見抜くことが強く求められます。

連絡先・オフィスアワー y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤田智丈				

授業の概要 抽象的な会計学を覚えるのではなく、実際に会計という手段・知識が世の中でどのように用いられているのかを学習します。

授業の一般目標 職業会計人コースの授業では大量の知識を覚える必要がありますが、結局のところ暗記をするだけでは使える知識にはなりません。この演習を通して、覚えた断片だらけの知識を繋げ、実際のビジネスにおいて会計がどのように使われているのかを考えることができるようになることを目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 会計に関する基本的な知識を身につけ、用語を適切に使えるようになる。また、会計に関する報道を理解できるようになる。 思考・判断の観点： 会計に関する知識を現実の事例にあてはめて分析し、問題点や改善策を考えることができるようになる。 態度の観点： 人の意見を聞き、考え、議論できるようになる。 技能・表現の観点： 自分の考えていることや感じていることを適切に伝えられるプレゼンをできるようになる。

授業の計画 (全体) 会計に関する基本知識を整理しながら、事例の分析をおこなっていく。

成績評価方法 (総合) 発表の内容と議論への参加を総合評価する。出席は欠格条件とする。

教科書・参考書 教科書： ケースブック コストマネジメント, 加登 豊, 新世社, 2001 年 / 参考書： 管理会計・入門 [新版], 浅田 孝幸, 有斐閣, 2005 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	米谷健司				

授業の概要 中田と米谷の二人で授業を運営していきます。財務会計分野と管理会計分野の演習です。企業会計は財務会計分野と管理会計分野に区分できます。前者は商法や商法計算規則に基づいた処理をすることによって財務諸表を作成します。損益計算書、貸借対照表、およびキャッシュフロー計算書を財務諸表と言います。これに対して、管理会計は経営管理者が各種の意思決定と業績評価のために利用するための情報作成を任務とします。企業の業務計画に基づいて予算を編成したり、新規の設備投資を海外に行うなどの意思決定ならびに各セグメントや個人の会社への貢献を評価し報酬に反映させたりします。管理会計分野は主に中田が指導します。次に財務会計分野について説明します。会計は経験の蒸留であるといわれるように、現在の会計制度は実務的な慣習を基盤に作られています。しかし、会計学や簿記の授業では会計制度の背景まで深く掘り下げることができないため「どうしてこういう制度になったのだろう」とか「なぜ複数の会計処理が認められているのだろう」という疑問が生じます。こうした疑問をゼミのメンバーと議論しながら、解決していきます。財務会計分野は主に米谷が指導します。

授業の一般目標 管理会計、原価計算についての知識を習得することを目標とする。これらの技法の多くは欧米で開発されたものであるから、原書に遡及して研究することが重要である。したがって、英文文献による勉強も行う(以上、中田)。自分が理解できていないところは何処なのかを発見し、それに対して論理的に答えを導く思考力を養います(以上、米谷)。

授業の計画(全体) 授業はテキストを決めて、学生に順番に報告してもらおう。報告する学生がレジメを準備することは当然であるが、それ以外の学生も事前に報告者に対して質問を提出することを義務とする(以上、中田)。疑問点を出してもらい、それをグループ単位で解決してもらいます(以上、米谷)。

成績評価方法(総合) 授業への出席、報告、各種ゼミ行事への参加度などを総合的に見て判断する(以上、中田)。出席、報告、授業への貢献から総合的に評価する(以上、米谷)。

教科書・参考書 参考書：後日決める。

連絡先・オフィスアワー 研究室：電話番号 9 3 3 - 5 5 5 6 オフィスアワー：後日指示する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 国際関係論をテーマに研究をします。 国際関係を政治的あるいは経済的アプローチによって研究します。 国際関係の領域は広く、例えば外交や国際連合、戦争・紛争や安全保障、経済摩擦、海洋政策、国際観光など、現在の国際情勢のすべてが研究テーマになります。

授業の一般目標 国際関係に関する基礎知識の習得と、日本の外交政策の現状について理解します。

授業の計画 (全体) 国際関係に関する理論研究や実証研究などを行います。 前期には下記の書物を輪読し、日本の外交に関する基礎知識の習得と、国際情勢について学びます。後期には、各自の興味のあるテーマを一つ選び、それについての文献調査や資料収集を行い、その成果を報告します。 また、国際関係というテーマは非常に多くの領域を含みますので、グループ研究として数人が共同で同一テーマに取り組み、役割分担を行って研究することも可能です。

成績評価方法 (総合) 成績評価は、出席 (30 点)、報告 (70 点) によって行います。

教科書・参考書 教科書： 外務省編『外交青書』平成 19 年版, 外務省, 独立行政法人国立印刷局

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	尹春志				

授業の概要 この演習では、日本及び世界、特にアジアをとりまく様々な社会・経済問題について取り上げます。今年度の演習 I で取り上げたテーマは、東アジアの自由貿易協定、中国経済、インド経済、知的財産権の国際的枠組み、食糧問題等です。特定の課題について、自分達で調べ、まとめ、発表するグループ学習を重視します。そのなかで、プレゼンテーションの仕方やレジュメの作り方なども随時学んでもらいます。

授業の一般目標 東アジアをめぐる政治・経済について知識と分析の視角をみにつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：東アジアの政治・経済に関する基礎知識を身につける 思考・判断の観点：固定観念の批判的に再考する視点を養う 技能・表現の観点：レジュメ作成、プレゼンテーションの技法を身につける

授業の計画 (全体) 前期には、具体的なテーマと、それについて調べるべき課題を提示し、数名で構成されるグループで調べ、発表し、討論するという形態で授業を行います。また、基本的に自主参加ですが、前期の研究テーマに則して、他大学とのディベート大会 (夏合宿) も開催し、その成果を発揮してもらいます。後期は、まず特定のテキストを輪読し、それにもとづいて、自分達で研究課題をみつけることからはじめ、前期同様に授業を行います。できれば後期末には、自ら設定したテーマで、グループ研究レポートが書けるまでになることを目指したいと思います。

成績評価方法 (総合) 出席と討論への参加、課題に対する取り組みを評価の基準とする

教科書・参考書 教科書：追って指示します / 参考書：適宜指示します

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	平中 貫一				

授業の概要 民法学の基礎として主に民法総則を学ぶ。 / 検索キーワード 民法

授業の一般目標 民法学の基礎の修得

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 社会科学、法、行政法などの諸問題についてみんなで考えて深めていく事を目的とする。どのような内容、領域にするか、どのようなテキスト、参考書を使うかなどについては最初に協議して決める。また進めるペース、スケジュールについても同様である。

授業の一般目標 社会と法、公行政と法などについて関心を持ちさらにそれらについて学び深めていく、そして可能ならば自分の進路においても関連を持てるように留意できるようにすること。

授業の計画 (全体) 学習する分野や領域を特定し、半期ずつ位に区切ってテーマを設定し、テキストや文献を中心に学習する。その分野や領域、テーマについてははじめに討議して決める。

成績評価方法 (総合) 演習時の報告、討議、出席状況、レポートなどにより総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：開講時に議論して決める。 / 参考書：開講時に議論して決める。

メッセージ 積極的な参加を期待する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤田 正				

授業の概要 少人数のゼミの長所を生かして、法人税法、所得税法、国税通則法等の基本的な知識の確実な習得を目指すとともに、特に前期は、大学生生活全体を視野に入れて、コミュニケーションの学習も取り入れます。

授業の一般目標 税法の基本を理解し、演習 II での判例学習の基礎を作ること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税法の基本的な枠組みと用語を理解している。思考・判断の観点：税や税法的な思考を理解し、その観点からの意見が言える。関心・意欲の観点：経済活動に関心を持ち、税とのかかわりを理解できる。態度の観点：人の話を相手の立場に立って聞ける。積極的に発言し、質問できる。技能・表現の観点：論理的で説得力のある意見が言える。文章を推敲でき、わかりやすい文章表現ができる。

授業の計画 (全体) 税金についての理解からはじめます。税務大学の講本 (税務大学の HP からダウンロードできる) を利用し、前期は法人税法の基本的な理解を目指します。できるだけ、判例や具体的事例の紹介、ディスカッションを取り入れたいと考えています。これにより、演習 II で、判例やケーススタディに広く、深く取り組める基礎力を養成します。後期における税法 I の単位取得を強く勧めます。演習 II では、民法の基礎知識が必要となることが多くありますので、民法の学習も大切にしてください。

成績評価方法 (総合) ゼミへの参加状況、発言、理解度、期末レポート等を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：必要に応じプリント資料を配布

メッセージ 難しそうな税法も、自分の身の周りのことにたとえたり、当てはめたりして考えてみると、分かりやすくなります。できるだけ簡単なモデルで自分で考えてみることで、そのような学習方法に慣れることは、すべての学習に通じる大事なことです。

連絡先・オフィスアワー (TEL) 083-933-5580 (メール) sawadat@yamaguchi-u.ac.jp (オフィスアワー)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	油納健一				

授業の概要 * 最高裁判決を素材に“ 民法実務 ”を学習する。

授業の一般目標 (1) 民法の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。(2) 民法学習を通して、問題発見能力・問題分析能力・私見創造能力・プレゼンテーション能力・ディベート能力など、社会人として必要な能力を身につける。以上の(1)・(2)で説明した能力は、法科大学院(司法試験)・司法書士試験・公務員試験受験を志す者はもちろんのこと、民間企業を志す者にとっても必要不可欠な能力であることはいうまでもない。

授業の計画(全体) ゼミで民法の基礎理論のみを学習しても、現実社会ではあまり役に立たないであろう。そこで、当ゼミでは実務重視の視点から民法を学習しようと思う。ただし、全く理論を無視する訳ではない。基礎理論(基礎)を理解することができて初めて、現実問題(応用)に対応することが可能となるからである。具体的には、つぎのような方法でゼミを進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を教員が選んだ後、ゼミ生は二人一組となって、当該判決の事実と判決内容を報告し、報告に基づきながら、全員がその事件で争点となっている問題点を把握する。(2) つぎに、報告者はこの問題を解決するために必要な民法典の条文や従来判例・学説について一般的な教科書等を参照しながら報告し、全員が理解できるよう丁寧に学習する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、当該判決やその判例評釈等を検討しながら考える。以上の(1)・(2)・(3)の中では、ゼミ生間での議論を要求する。もし全く発言しない者には、レポートなどを課す場合がある。また、教官からの質問もある。2 年生の間は、簡単な事件を選び、基礎理論を確認しながらできるだけ丁寧に学習したい。

成績評価方法(総合) 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3 回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他のゼミ生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

教科書・参考書 教科書： 適宜指示する。

メッセージ 以上で説明した内容をこのゼミで学習するためには、「十分な努力」が必要である。それゆえ、あまり勉強する意欲のない者は、当ゼミに入らないことをお勧めする。意欲のある者のみ歓迎したい。

連絡先・オフィスアワー 在室中は、いつでも相談に応じます。何かありましたら、ご連絡下さい。メールアドレス yuno@yamaguchi-u.ac.jp ホームページアドレス <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/yuno/>

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中村 美紀子				

授業の概要 本演習では、会社法テキスト・判例の講読を行います。あらかじめ割り当てられた分担箇所について、報告者の報告にもとづき質疑応答を行います。/ 検索キーワード 会社法, 株式会社, 企業法, 企業組織法

授業の一般目標 会社法の基本的事項および基本的な判例を理解し、会社法について自らのテーマをもつことを主眼としつつ、レジュメ作成、プレゼンテーションの能力を養うことも目指します。

授業の計画 (全体) 演習開始時に履修者と相談して決めたいと思います。

成績評価方法 (総合) レジュメ作成およびプレゼンの工夫、ルール遵守、ゼミへの貢献度等を総合的に勘案します。

教科書・参考書 教科書: テキストブック会社法, 末永敏和 [編著], 中央経済社, 2006 年 / 参考書: 会社法判例百選, 江頭憲治郎他 [編], 有斐閣, 2006 年; 必携: 2008 年版六法

メッセージ 欠席が避けられない場合は事前に直接連絡することをルールとします。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C 棟 209, オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	吉川 信將				

授業の概要 新会社法に対して自信が持てるように一年かけて基本書を通読する。

授業の一般目標 新会社法の全体構造及び基本的知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：会社法の全体構造及び基本的知識を理解する。 思考・判断の観点：事例に即して考える思考法を身につける。 関心・意欲の観点：前もって教科書に目を通し、関連する事例についてもリサーチする姿勢を身につける。 態度の観点：他人の意見に耳を傾け、それを自分の考えを磨き上げる一助にしようとする積極的態度を身につける。

授業の計画 (全体) 会社法の基本書通読を基本とし、数回に 1 回の割合で時事問題や会社法で争点となっている事項を具体的に検討する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 会社法総則
- 第 3 回 項目 持分会社
- 第 4 回 項目 株式会社の意義・特質、株式会社の設立 (1)
- 第 5 回 項目 株式会社の設立 (2)
- 第 6 回 項目 株式 (1)
- 第 7 回 項目 株式 (2)
- 第 8 回 項目 株式 (3)
- 第 9 回 項目 新株発行
- 第 10 回 項目 新株予約権
- 第 11 回 項目 株主総会 (1)
- 第 12 回 項目 株主総会 (2)
- 第 13 回 項目 株主総会 (3)
- 第 14 回 項目 役員総説
- 第 15 回 項目 取締役・取締役会・代表取締役
- 第 16 回 項目 会計参与・監査役・監査役会
- 第 17 回 項目 会計監査人、委員会設置会社
- 第 18 回 項目 役員の責任
- 第 19 回 項目 会計帳簿
- 第 20 回 項目 資本金、剰余金
- 第 21 回 項目 定款
- 第 22 回 項目 事業譲渡等
- 第 23 回 項目 会社の清算・解散
- 第 24 回 項目 社債 (1)
- 第 25 回 項目 社債 (2)
- 第 26 回 項目 組織変更、合併
- 第 27 回 項目 会社分割
- 第 28 回 項目 株式交換・株式移転
- 第 29 回 項目 予備日
- 第 30 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 演習へ臨む姿勢 (事前の予習状況) 演習時における報告・発表、発言状況及び演習への出席状況によって総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：開講時に受講者と相談のうえ決定する。/ 参考書：参考書は適宜紹介します。
必要と思われる資料は演習時に適宜配布します。

メッセージ 現在の大学の通常の授業では、一通り基本書に目を通すことは時間的に難しい。それが当該科目を履修したにもかかわらず自信がもてない原因であったり、隣接科目の理解を妨げたりする原因となっていないだろうか。この演習では時間をかけてその作業をやり遂げたいと考えている。新会社法をものにしたいという意欲のある学生だけ参加していただきたい。

連絡先・オフィスアワー C棟224研究室(新年度のオフィスアワーは開講時に案内します)

- 第 26 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 27 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 28 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 29 回 項目 演習 内容 テーマ別課題検討
- 第 30 回 項目 補講・レポート指導

成績評価方法 (総合) 講義への発言・参加および課題報告

教科書・参考書 教科書：「企業法と国際社会」, 龍田 節, 有斐閣アルマ, 1999 年; 参考書：参考資料等を適宜配布 / 参考書：「世界貿易機関を設立するマラケシュ協定-WTO」, 外務省経済局監修, 日本国際問題研究所, 1997 年

メッセージ 講義時間内において積極的な発言を重視します。将来の就職の場において、法がどのように経済活動を律しているかを意識しながら思考し、発言をしてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F (A410) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：平日随時

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 観光は明確な領域を指定できない場合がある。それだけにさまざまな領域に関心を持つ必要がある。「何を、どのように考え、どのように表現するか」の練習をします。それには、読書が一番です。週に 1 冊、何のテーマの本でも構わないので、読んで、そのことについてプレゼンテーションを行う。 / 検索キーワード 読書、議論、幅広い教養

授業の一般目標 ・自分に関心のあることを見出す。 ・それをどのように展開・発展させるかを考える。 ・以上のことを筋道を立てて言語表現できるようになる。 ・以上のことを他人が行う場合、それに関心を持つ。 ・関心の観点から議論をする 問題意識の共有や一緒に解決しようという態度を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 広い教養としての理解力と知識欲から何を読んで何を理解したか、それを何かの場合に応用できるか。 思考・判断の観点： 問題意識の涵養。 関心・意欲の観点： 読む本を探して読む。 態度の観点： 本を読む習慣を形成する。 技能・表現の観点： 読んだ本について語る・まとめる。

授業の計画 (全体) ひたすら読書をして、その読書をもとに演習では話題を盛り上げる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 プレゼンテーションと議論
- 第 3 回 項目 以下、同上
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 読書の証、プレゼンテーション、出席

メッセージ 読んで読んで読みまくる

連絡先・オフィスアワー メール : mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 この演習のテーマは「観光とメディア」である。受講生は、メディアの理論、メディア市場の複雑な仕組みなどを分析し、観光とメディアの関係について調査する。 / 検索キーワード マスメディア、新聞、放送、インターネット、メディア・リテラシー

授業の一般目標 外国と日本のマスメディアを比較・分析することによって、特に観光とメディアの関係を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: メディアの特徴を理解する。 **思考・判断の観点:** メディアの有効な利用について判断する。 **関心・意欲の観点:** メディアをもっと積極的に利用する。

授業の計画 (全体) この演習での主な講義項目は、広告ビジネスの視野を含めた「メディア理論」と「メディア市場の分析」である。受講生はグループワークでいろいろなメディア現象を調査しながら、卒業論文に向かって、これから深めたい研究分野を見つけて、その基礎知識を取得する。授業では主に、グループワークで調査した結果を発表し、議論する。

成績評価方法 (総合) 出席 (欠格条件) グループ発表 (50%) とレポート (50%)

メッセージ 授業でマスメディアの国際比較 (主に英語圏) を行うので、高いレベルの英語理解力 (読み取り能力と聞き取り能力) が求められる。メディアやメディア市場の仕組みに関心を持って、英語または第二外国語のドイツ語をいかしたい学生を大歓迎する。

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河村誠治				

授業の概要 世界とりわけわが国を含む東アジアにおける、地域経済や各種産業の動向などを視野に入れた、単なる遊び（需要者サイドの本能的ニーズやウォンツ）の領域を超えたところの、観光経済研究。

授業の一般目標 目標 1：今後各自が積極的に取り組める「テーマ」を見つける。目標 2：自立（自分で考え行動）的に、多くを読み、多くを書き、簡明に話す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光経済の原理 思考・判断の観点：観光経済の応用 関心・意欲の観点：世界の社会経済と観光のかかわり 態度の観点：出席、発言、報告 技能・表現の観点：考えを手短にまとめる。書いて、各種媒体を用いて表し、話す。

授業の計画（全体）(1) 受講者の全体的状況を見、最終的に決定。(2) 可能ならば、前期は自由なテーマ報告、後期はプレゼンテーション。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 観光経済に関して
- 第 3 回 項目
- 第 4 回 項目
- 第 5 回 項目
- 第 6 回 項目
- 第 7 回 項目
- 第 8 回 項目
- 第 9 回 項目
- 第 10 回 項目
- 第 11 回 項目
- 第 12 回 項目
- 第 13 回 項目 研究課題を絞る
- 第 14 回 項目
- 第 15 回 項目

成績評価方法（総合）【全体】出席時間・学習時間（熱心さ）+ 報告内容:50 % + 50 %

教科書・参考書 教科書：観光経済学の原理と応用, 河村誠治, 九州大学出版会, 2008 年 / 参考書：学生の関心有るテーマにそって指示する

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	篠原淳				

授業の概要 本演習では、企業会計分野について学ぶ。会計フレームワーク、財務諸表の構造を理解し、会計がなぜ必要とされるかについて検討していく。 / 検索キーワード 企業会計、会計原則、会計基準

授業の一般目標 企業会計に関する全般的な知識の習得と会計情報と利害関係者の意思決定支援機能に焦点をあてて各課題を検討していく。

授業の計画 (全体) テキストにあわせて進めていく。

成績評価方法 (総合) 授業への出席、報告、ゼミ行事への参加等を総合的に評価する

教科書・参考書 教科書：後日決定する。 / 参考書：必要があればその都度指示。

メッセージ 積極的に参加してください。

連絡先・オフィスアワー a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 「演習 I」と「演習 II」とを履修することで民法全体をしっかりと理解できるようにする。学習の順序など詳細については受講者と相談のうえで決めたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：民法の基礎知識を身に付ける。 思考・判断の観点：法的思考を身につける。 関心・意欲の観点：毎回のテーマについて予習・復習をする。わからないことについては積極的に質問する。 態度の観点：毎回のテーマについて予習・復習をする。積極的に発言する。 技能・表現の観点：報告・質疑応答を適切に行う。

授業の計画 (全体) 演習 1 (および演習 2 の前半) ではテキストを中心に民法全体を学習する。学習の順序については受講生と相談して決める。

成績評価方法 (総合) 平常点による。

教科書・参考書 教科書：未定。 / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは未定。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 この授業では、主に具体的問題(判例)の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、授業への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 具体的には、行政関係の判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる判例は、参加者が教官と相談の上、決定する(特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する)。報告には次の内容を含めるものとする。(1) 事実の概要 (2) 判決の要旨 (3) 簡単な評釈(学説、私見など) 授業の進め方や使用教材などの詳細は初回に説明するが、いずれにせよ、ただ聴くのではなく、レジメ作成という作業を負担する(受講人数にもよるが、1人1回程度を目標としている)。しかし、負担は、自分の力を伸ばす絶好の機会でもある。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。 / 参考書：開講時に指示する。

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。(経済学部 A 棟 408 室)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	塚田 広人				

授業の概要 演習の研究対象は、(1) 現実の経済状況、経済政策を知る (景気、労働問題、社会保障・福祉の問題、戦争の問題など) (2) 考えるための基礎である古典に親しむ (スミス、マルクス、ケインズ) (3) 卒業論文を書くの三つとする。演習 I では (1) と (2) を中心とする。 / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性 福祉国家

授業の一般目標 日本の経済社会の進路を考える力を身につける。

授業の計画 (全体) 上記課題を毎週行う。(1) はグループによる発表、(2) は輪読形式 (ゼミの時間に少しずつ、教員からの説明を加えながら順番に読み進める方法) をとる予定である。夏には合宿を行う。

成績評価方法 (総合) 出席、レポート、討論への参加、を総合する。

メッセージ 楽しく、しっかり、学びましょう。

連絡先・オフィスアワー 933 - 5558 ht@yamaguchi-u.ac.jp A 棟 424 号室 水曜日 1 時半 - 3 時 (在室時はそれ以外でも可)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 経済および社会の問題に対して、関心を持ち、自分なりの意見が言えるようになる。

授業の一般目標 1 , 経済や社会のさまざまな問題に対して興味をもってもらうと同時に、問題点の整理の仕方、発表の仕方なども学習していきます。 2 , グループ学習を通じて、自分なりの、ものの見方・考え方を身につけてもらいたいと思っています。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 私たちが日頃考えていることや興味を持っていること、逆に納得がいかないことって、実は立派な「学問」につながっていたりする。せっかく大学生をやっているんだから、自分と学問とのつながりについて、じっくり考える機会があってもいいんじゃない？ 私がもっとも重視するのは、この「内発的な問題意識」です。演習 I の進め方は、4 年次までの長期計画のもとに組み立てられています。まず 2 年次 (演習 I) には、できるだけ多くの社会問題の存在にふれ、何故それが社会問題として取り上げられているのか、という背景についての理解を深めます (社会学的思考の習得)。3 年次 (演習 II) には、KJ 法を活用してゼミ員全体による「問題意識の地図」を描いた後、個々人の問題意識を文献・資料研究によって各自が追求し、ゼミでの報告・議論をおこないます。そして、4 年次には「自分なりの卒論」をまとめ上げます。こうしてできた卒論は大学時代、あるいは今までの人生の集大成になることでしょう。

本ゼミに求められる姿勢は、ゼミ内で「自分をさらけ出す勇氣」と「自分がゼミを創っていくという当事者意識」です。最後に、参考までに私の研究領域をキーワードで述べると、高齢社会・社会政策・ケア論・地域福祉・労働と家族的責任との両立 (ワークライフバランス)・ジェンダー・福祉国家論・NPO・アイデンティティなどです。

授業の一般目標 1. 「学問」と「自分の生活」との結びつきを意識化すること。(社会学的思考の習得) 2. レジューメ作成・文献資料検索・レポート作成・議論の方法を習得すること。(学習技術の習得) 3. 日常生活のなかにある「自分なりのこだわり」を明確化すること。(研究テーマの探求)

授業の計画 (全体) 上記の目標 1・2 を達成するため、前期・後期を通じて、できるだけ多くの文献を読み合わせます。方法としては、毎回、決められた文献についてのグループによるレジューメ作成と報告をしてもらい、その後、報告内容についてゼミ全員での議論をおこないます。また、期末には、上記目標 3 についてのレポート提出を予定しています。

成績評価方法 (総合) 1. 授業内討論への参画度合 (出席は欠格条件) 2. グループ課題の遂行 3. レポート評価を総合的に判断します。

教科書・参考書 教科書：授業のはじめに数冊の文献を提示し、ゼミ員の希望を優先し決定します。

メッセージ 私からは研究テーマを与えませんので、自分で追求したいテーマを探すという困難に挑む積極的態度が不可欠です。活発で率直な意見交換ができるような、楽しい雰囲気のできるゼミでありたいと思っています。

連絡先・オフィスアワー E-mail: nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火・水曜日 10:00-11:00

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	齋藤 英智				

授業の概要 地域経済、観光経済の基礎的な理論を理解するとともに、社会経済の実態も考慮しながら、地域経済の活性化策について考える。 / 検索キーワード 地域経済、観光経済

授業の一般目標 報告、意見交換などを通じて自分の意見を的確に相手に伝え、また受け答えができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域経済、観光経済に関する基礎的な知識を修得する。 思考・判断の観点： 社会経済現象をさまざまな角度から考察できる力を養う。 関心・意欲の観点： 積極的に発言し、自らの意見を的確に述べることができる。 態度の観点： 無遅刻無欠席を原則として積極的に参加する。 技能・表現の観点： スピーチ、報告を通じてプレゼンテーションの方法を向上させる。

授業の計画 (全体) 授業はスピーチと輪読で構成し、担当者の報告によって進める。毎回の授業において、全員が1回は報告、質問、感想などを発言し、活発な意見交換が行えるようにする。【3分間スピーチ】毎回の担当者を決め、自分の興味を持った経済事象、新聞記事などについて3分間で報告する。聞く人が理解できるように話し方を工夫するとともに、自分の考えを的確に伝えられるように練習する。また、スピーチに対して質問時間を設け意見交換する。【輪読】経済学(地域経済、観光経済)に関連する基礎的文献を輪読する。担当者は報告資料(レジュメ、パワーポイントなど)を作成し報告する。報告後、全員が参加して報告内容について議論する。また、プレゼンテーションの方法など多面的な角度からも意見交換する。【その他】・授業では、就職活動や卒業論文も視野に入れて、各自で改善すべき点、関心のある点を常に意識するようにこころがける。・授業はもちろんのこと、様々な行事にも積極的に参加し、ゼミ生同士の理解と親睦を深める。・社会経済の実態に対する理解を深めるために、実地調査等も行うこともある。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 ・自己紹介(各自) ・講義の概要説明 ・各種決定事項
- 第 2 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 3 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 4 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 5 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 6 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 7 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 8 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 9 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 10 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 11 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 12 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 13 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 14 回 項目 報告・意見交換 内容 ・3分間スピーチ ・報告(輪読) ・意見交換
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 報告(50%)、参加姿勢・発言内容など(50%)により総合的に評価する。なお、出席は欠格条件とする。

教科書・参考書 教科書：教科書は最初の授業内で数冊提示し、そのなかから全員で決定する。 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 遅刻、無断欠席は厳禁である。特に報告担当者は、授業の進捗を妨げるので注意すること。やむを得ず授業を遅刻、欠席する場合は連絡を義務づける。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	李海峰				

授業の概要 中国経済と日本および他のアジア諸国経済との関連を中心に分析し、将来を展望する。 / 検索キーワード 中国社会経済と日本、東アジア社会経済、国際化、

授業の一般目標 中国の社会経済と国際化の実態分析を通して、中国と日本および他の東アジア諸国との経済、ビジネスにおける競争・協力関係を検討し、国際的に活躍できる人材の育成をめざす。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 計画経済から市場経済への転換
- 第 2 回 項目 中国経済の発展と東アジアの社会経済
- 第 3 回 項目 中国と ASEAN
- 第 4 回 項目 中国と香港・台湾
- 第 5 回 項目 中国の情報技術産業の育成
- 第 6 回 項目 中国の自動車産業
- 第 7 回 項目 社会主義市場経済と国有企業の改革
- 第 8 回 項目 中国の金融システムの変革と現状
- 第 9 回 項目 中国の株式市場
- 第 10 回 項目 世界市場環境と中国
- 第 11 回 項目 欧米、日本企業の中国への進出、競争
- 第 12 回 項目 消費生活から見た中国の社会経済変化
- 第 13 回 項目 地域的、階層的格差の拡大
- 第 14 回 項目 開発と環境汚染
- 第 15 回 項目 社会経済についての調査を考える

教科書・参考書 教科書：第一回目の演習の際に指示する / 参考書：第一回目の演習の際に指示する

メッセージ 充実しておもしろい知的な道を探求しましょう、

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	齊藤匡史				

授業の概要 現代中国理解の基本事項の把握と情報収集力の育成

授業の計画 (全体) 発展著しい現在の中国社会がどのように形成されてきたか、史的検証を通じ理解を深め、今後の展望について考える。・映像教材で現代史の概略を理解し、その中で疑問や興味を持った事象について調べ、報告してもらい、討論を行う。・現在の中国社会に生じている諸問題を調べて、複数者に報告してもらい、今後の展望を考える。

教科書・参考書 参考書：参考文献については、適宜紹介する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 この演習では、物語、旅行記、映像等に表象された旅を扱い、その文化的側面について考察する。古今東西、旅は文学、絵画、映画等の主題となってきた。授業では、それらの具体的な作品を取り上げ、旅の普遍的性質 / 地域・時代による性質、旅人の精神、旅の表象方法等を分析・検討していき、文化としての旅の理解を深める。

授業の一般目標 旅の文化的側面に関する理解を深める。

授業の計画 (全体) 旅の文化的側面を研究した論文を読み、旅について学び、分析の方法論を身に付けていく。その一方で、受講者は旅を扱った個別の作品を実際に分析し論じて、議論・論述の訓練を行う。(扱う作品については、受講者の希望を考慮する。) 授業のすすめ方の詳細は、演習に参加する学生数にもよるので、初回の授業時に説明する。

成績評価方法 (総合) 演習への参加度、課題の提出状況、期末レポートの成績に基づいて評価する。

教科書・参考書 教科書：主な教材はプリントにて配布する。 / 参考書：参考文献等については、授業中に示す。

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	成富敬				

授業の概要 「情報技術の新しい応用可能性」というテーマ、あるいは、各自が興味を持つテーマについて、関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなう。

授業の一般目標 各自が興味を持つテーマについて、基礎的な知識を習得するとともに、関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなう。文献紹介や発表をとおして、文献を調査し、文献を批判的に読むことで問題点を発見する能力を養い、さらに問題点を解決し、得た成果をまとめ、人に理解してもらう能力を身につけることが目標です。

成績評価方法 (総合) 受講状況, 提出物, 発表状況などをもとに評価します。

メッセージ 発表中心の授業であり、発表の順番はかなり頻繁にまわって来ます。したがって、一回の発表が終わったら、次の発表の準備を始める必要があるでしょう。発表を重ねるなかから自分の研究テーマを見つけ、そのテーマについて深く掘り下げることが大切です。どこまで掘り下げられるかはみなさん次第です。いろいろなことを知っている“頭のいい人”よりは、粘り強く考えられる“頭の強い人”を目指しましょう。現在考えられている情報技術の応用に“問題はないのか”、問題があるとすれば“そのための解決策は何か”、あるいは“新しい応用は考えられないか”について、じっくり考えてください。また、演習の場で人の発表を聞き、発表のポイントを理解し、さらに疑問点を見つけて、発表者に分かるように質問を組み立てる姿勢も大切です。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 本演習では、まず、マーケティングに関する基本的文献を輪読して、基礎概念、専門用語、理論を一素習得する。その後、これらをベースに、ケース・スタディー、グループ・プロジェクト研究の報告、討論を行う予定である。本演習を通して、マーケティングの理解を深め、企業が市場で直面する様々な問題に対する分析能力を養ってもらいたい。

授業の一般目標 1. マーケティングに関する基礎的知識、研究方法を修得する。 2. マーケティング現象を引き起こす要因間の因果関係を分析できる能力を養う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN
- 第 2 回 項目 マーケティングの概要 (1)
- 第 3 回 項目 マーケティングの概要 (2)
- 第 4 回 項目 マーケティングの概要 (3)
- 第 5 回 項目 マーケティングの概要 (4)
- 第 6 回 項目 マーケティングの概要 (5)
- 第 7 回 項目 製品政策
- 第 8 回 項目 流通チャネル政策
- 第 9 回 項目 販売促進政策
- 第 10 回 項目 価格政策
- 第 11 回 項目 消費行動 (1)
- 第 12 回 項目 消費行動 (2)
- 第 13 回 項目 市場調査 (1)
- 第 14 回 項目 市場調査 (2)
- 第 15 回 項目 双方向マーケティング

教科書・参考書 教科書：消費行動, 武居 奈緒子, 晃洋書房, 2000 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	羽生正宗				

演習

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	植村高久				

授業の概要 I. テーマ 現代日本経済の歴史的考察 1.1980 年から 2006 年までの日本経済の現状を経済、産業、消費生活の面から分担して研究し、実状を把握することに努める。2. 各自が興味を持つ個別テーマを決めて、意識的に研究を進めていくことを中心にする。/ 検索キーワード 現代日本経済論、グローバル化、少子高齢化、雇用不安

授業の一般目標 現在の日本経済の状況について、概略説明できる。日本経済の問題点とその原因について、説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本経済の現状とさまざまな問題・解決法を簡潔に述べるができる。思考・判断の観点：様々な社会的選択肢の結果と意味を理解し、自己責任で選択肢を選ぶことができる。関心・意欲の観点：日本経済の特定の焦点的課題や特徴のうち 1 つまたは複数について、様々な主張や論点を積極的に理解しようとする。態度の観点：様々な問題を自力で理解し、自分の言葉で説明しようとする積極性を身につけること。

授業の計画 (全体) 1. 日経新聞を継続的に購読し、その中から継続的に 1 テーマを追跡して報告する「日経新聞を読む」を 1 年間行う。2. 前期は大きなテーマを扱うグループ学習を行い、輪番で報告してもらう。3. 後期は就職準備期にあたるので、進路等に関して各人の考えを述べてもらう「3 分間スピーチ」を行い、意見を交換する。

教科書・参考書 教科書：授業内で指示する。

メッセージ テーマを持って大学生活を送ることが、中心的な課題です。それに向けて、精一杯頑張ること。

連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp 随時来室可です。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 演習 I に引き続き、公務員試験の問題を通してミクロ経済学の理解を深め、数式処理システム Mathematica を使いミクロ経済学、マクロ経済学を理解する。

授業の一般目標 演習 I に引き続き、公務員試験の問題を通してミクロ経済学の理解を深め、数式処理システム Mathematica を使いミクロ経済学、マクロ経済学を理解する。また、プレゼンテーションの訓練と他人のプレゼンテーションの評価のトレーニングも重要な目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. ミクロ経済学，マクロ経済学の基本的事項を説明できる。 2. 公務員試験の問題に応用ができる。 3. Mathematica の基本的機能を説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 経済現象を数理的にとらえることができる。 2. プレゼンテーション能力の向上を志す。 3. 他人のプレゼンテーションを評価できる。 態度の観点： 1. ゼミに積極的に参加する。

授業の計画 (全体) 通常の授業とは異なり、各人が順番でレポーターとなって話が進む。レポーターのときは、まず前回の復習をし、全体的な話の概略を説明し、次にテキストの個々の内容の説明をしながら全員でパソコンへの入力を行なう。テキストにはない自分で試したもの (テキストの例を少し変えたものなど) があると非常によい。全員がうまく入力できているかよく確認すること。発表の最後にまとめを行い質問または評価を受ける。レポーターでない人は、レポーターの指示に従い作業をし、最後に質問またはレポーターの評価をする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 2 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 3 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 4 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 5 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 6 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 7 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 8 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 9 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 10 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 11 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 12 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 13 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 14 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 15 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 16 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 17 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 18 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 19 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 20 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 21 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 22 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 23 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 24 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 25 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 26 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表

- 第 27 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 28 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 29 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表
- 第 30 回 項目 発表 内容 担当箇所の発表

成績評価方法 (総合) 自分のプレゼンテーション 60～80 % , 出席 20～40 % , 他人のプレゼンテーションに対する評価 10 %。

教科書・参考書 教科書： 出た DATA 問経済学, 東京アカデミー編, 七賢出版, 2003 年 ; はじめよう経済学のための Mathematica, 浅利一郎他, 日本評論社, 1997 年

メッセージ 遅刻欠席をしないように。これは特に気をつけること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp , 電話:933-5595 , 研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 演習 II では、演習 I で身に付けた基礎的なプレゼンテーションの技術とディベートの技術をさらに発展させ、実践的な技術を身に付けることを目標とします。そのために、プロジェクトの企画・運営にも取り組んでもらおうと考えていますので、積極的にチャレンジしてください。 / 検索キーワード 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

授業の一般目標 1 . 新聞を読んで今後の経済動向が語れるようになる。 2 . 就職活動がスムーズに行えるよう、職業 (プロ) 意識を高めていく。 3 . ビジネスおよび組織運営について実践的な技術を身に付ける。

授業の計画 (全体) I 経済学の理論的フレームワークの習得 (理論) (1) 国際金融論 (2) 金融制度論 (3) 金融政策論 II 時事トピックへの関心を高める (実際) (1) 理論と実際の融合 (2) 論理的な思考 III プレゼンテーション能力の向上 (実践) (1) 毎週の報告 (2) 議論 (ディベート) への積極的な参加 (3) ゼミナール対抗討論大会への参加

教科書・参考書 教科書: 未定 (金融論の入門書) 最初の時間に、数冊候補を上げ、その中から決定する予定

メッセージ ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://thyodo.eco.to>) を参照にしてください。学生生活において最も「伸び」が期待できるのがこの時期です。一緒にがんばりましょう。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	木部和昭				

授業の概要 演習 I に引き続き、近代日本経済史を学ぶ。具体的には「企業・人物から見た日本経済史」、「地域経済の歴史」を中心に扱う。また、史料の講読および分析も並行して進める。こうした取り組みの中から、次年度の卒業論文作成に向けて、自分なりの課題を見出していく。 / 検索キーワード 日本経済史、日本史、近代史

授業の一般目標 (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。(4) 卒業論文に向けた自分なりの課題を見出す。

授業の計画 (全体) (1) 前期は、昨年度の夏休みレポート「企業・人物から見た日本経済史」の報告を中心に進める。また、歴史史料・統計などを用いたデータ処理の実習を行う。(2) 新聞や行政文書などの近代文書を中心に、史料講読を行う。(3) 今年も夏休みには課題を出す。テーマは「地域経済の歴史」で、各自の身近な地域を取り上げ、その経済・産業などの歴史を掘り起こしてもらう。(4) 後期は、「地域経済の歴史」に関する各自のレポート報告を中心に進める。(5) 4 年生に向けて自分の取り組むべき課題を模索する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「企業・人物から見た日本経済史」の報告 (前期)
- 第 2 回 項目 『工場通覧』によるデータベースの作成と分析 (前期)
- 第 3 回 項目 近代文書を中心とした史料講読 (前期)
- 第 4 回 項目 夏休みの課題: レポート「地域経済の歴史」(夏期休業中)
- 第 5 回 項目 「地域経済の歴史」に関するレポート報告 (後期)
- 第 6 回 項目 卒業論文テーマの絞り込み (後期)
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 順番に担当してもらう報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外は、報告内容をまとめたノートを提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45 %、授業内小レポート 15 %、夏休みレポート 30 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。

教科書・参考書 教科書: 演習 I で使用したテキストを今後も使用する。それ以外は適宜プリントで配布する。 / 参考書: テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

メッセージ ・3 年の終わりには、就職活動等が忙しくなる。その前に、卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。 ・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。 ・自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野村淳一				

授業の概要 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを必要とします。演習 II では、引き続きブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。並行して、卒表論文のテーマを選んだ人については、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらいます。また、全国ゼミナール対抗討論大会へ参加するために、日本経済や経済統計に関する論文を作成し、論文作成に必要な知識を包括的に修得します。討論大会では、自分の主張をいかに効果的に発表するかを考えます。上記のような作業を通して、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終えます。

授業の一般目標 ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 標準的なマクロ経済理論を理解できている。 基本的な統計学の手法を修得している。 自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。 思考・判断の観点： 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 関心・意欲の観点： 現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 態度の観点： 事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 技能・表現の観点： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) 演習 II では、引き続きブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強する。教科書の下巻からは、より複雑で包括的なモデルが展開されており、経済学の思考方法修得のための良い訓練となると考えられる。また、こうしたモデルを用いることによって、現実の経済問題への理解がより深まり、その解決策について考察することが可能となる。演習 II では、知識として得られた経済モデルを現実の経済問題へ適用し、その解決策について議論を深める。その際、出来るだけ現実の経済データに基づいた客観的で定量的な分析を心がける。また、演習 I の終わりに選んだテーマについて、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらい、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終える。

成績評価方法(総合) 授業における態度(発表、質問等)と参加意欲により判定する(評価割合 100%)

教科書・参考書 教科書：『マクロ経済学』(上)(下), ブランチャール, 東洋経済, 1999 年

メッセージ 数学を用いた厳密な論理構成は慣れないうちはかえって分かり難いという印象を持つと思いますが、前提条件や仮定を明示し、分析の限界を明らかにしながら論理を展開するという技能は、あらゆる分野で有効なものだと思います。自分の関心のあるテーマの先行研究を参考に、まずは慣れることから始めましょう。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山田正雄				

授業の概要 経済分析の方法を学ぶ。

授業の一般目標 経済分析の方法を身につける。

授業の計画 (全体) 経済を分析する方法として、3 年次にはマクロ経済学を学ぶ予定です。ゼミ生の報告と討論により、マクロ経済学の理解を深めていきます。

成績評価方法 (総合) 参加姿勢、報告、出席によって評価します。

教科書・参考書 教科書：マクロ経済学・入門 第3版, 福田慎一、照山博司, 有斐閣, 2005 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	濱島清史				

授業の概要 キャリア形成 (人材育成) ならびに社会政策論 (特に格差問題や少子高齢化問題) を中心に進めていく。またそれと関連するように、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。これは 3 年生から就職対策をするというよりも、キャリア形成論や産業・企業・職能 (職業) 研究は本格的にやろうとすれば数年は要し、そして就職活動においても、それ以上に社会に出てから有益だからである。学問研究と就職活動との相乗効果を狙う。なお、労働経済論と社会政策論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義科目によって補強しなければならないからである。 / 検索キーワード キャリア形成、人材開発、社会政策論、労働経済論。

授業の一般目標 第一に、ゼミでの研究を通して充実した学生生活を送ること。即ち、何らかの困難に遭遇した時に、それを克服するストーリーを語れるようにすること。第二に、将来のキャリア・ビジョンを描けるようにすること。第三に、社会に出てから有益な知識と思考力を養うこと。以上を一般的な目標とする。より具体的には、キャリア形成ならびに社会政策論の基礎知識を習得し、自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養し、さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。昨年は比較的よく努力したので、今年はさらにリーダーシップを発揮して、アンケート調査や訪問インタビューを行なってもらいたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎的な知識をまだもっと身につけなければならないが、今年はさらに関連文献を読破していき、専門知識を培ってってもらいたい。思考・判断の観点：レポートによる論理的思考能力をさらに向上させ、とりわけプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションによるより実践的なコミュニケーション能力の醸成を重視したい。関心・意欲の観点：自ら主体的に関心のある産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。素地はできている。さらにアンケート調査や訪問インタビューなどで飛躍的に発展してってもらいたい。態度の観点：人間の記憶力は曖昧である。単に聴いているのではなく、糧となると思われるところはメモを取ること。さらに、積極的に自己アピールをしてもらいたい。ゼミで活発に討論して、自己主張してもらいたい。今年はゼミ内でグループ別ディスカッションも取り入れるつもりなので、活発な議論を期待したい。また 3 年生はゼミ全体の執行部として、役割分担して、各々の担当領域でリーダーシップを発揮してもらいたい。技能・表現の観点：プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。就職対策のグループ面接、個人面接などの練習も、後期からは取り入れていきたい (最初は、ゼミでどのようなことをしてきたか、卒論のテーマは何かといったことから始める予定である)。その他の観点：昨今から労働者の権利意識を涵養するような方向性を打ち出したい。景気も回復してきており、単に就職するだけでなく、労働者としての権利も主張していけるような人材を育ててくたってきたからである。また社会貢献や人道的観点も養いたい。そうでないと、個人的な狭い利害関係でしか、考えられないような人間になってしまうからである。将来、社会に出てから、大きく活躍するためにも、社会に貢献するという大望が必要である。具体的には、第三世界の貧困問題などに関するボランティア活動などへの参画である。(勿論、強制はしない。)

授業の計画 (全体) 昨年、前期は橋木俊詔の『格差社会』の文献を用い、後期は大沢真知子の『ワークライフバランス』等を用いて輪読形式で授業を進めていく一方、新聞の時事問題を毎回やった。秋季のゼミナール大会では、男女格差のテーマで論文を作成し、議論を行ってきた。今年はその成果を踏まえて、まず前期は各自の関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して研究を進めていき、同時に社会政策関連の問題を極めていきたい。さらに、新聞ダイジェストのグループ発表を行なってディスカッションを行ないたい。秋のゼミナール大会全国大会を前半のヤマとし、それ以降は各自の関心に沿って論文集

に編集することを目標としたい。その過程で、アンケート調査や訪問インタビューを是非やっていって
もらいたい。後期からは就職対策のグループ面接、個人面接などの練習も取り入れていきたい

成績評価方法 (総合) 主にレポートとレジюме・発表による。なおプレゼン、討論能力も期待するが、こ
ちらは成績評価するよりも各自の努力に委ねるべきだろう。

教科書・参考書 教科書：適宜、指示する。 / 参考書：適宜、指示する。

メッセージ 現場第一主義 後輩、先輩とも連携し、リーダーシップを発揮していこう。

連絡先・オフィスアワー : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古賀大介				

授業の概要 1. アメリカの主要企業の発展とその特徴について勉強する 2. 日本の主要産業・企業の過去・現在・未来について分析を行う

授業の一般目標 歴史的視点から、経済的事象を深く考えることのできる人間を育てる

授業の計画 (全体) 前期は、アメリカの主要産業・企業史について学ぶ。後期は、主要産業セクターの歴史と今後の動向を予測する。前期・後期ともグループ (班) に分かれ、毎回報告してもらう。

メッセージ しっかりついてきてください。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古川澄明				

授業の概要 研究内容・方法 (1) フグ・ビジネスの調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が下関唐戸魚市場(株)や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方 (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査(今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の3割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化 - 輸入フグの増大化傾向 (c) フグ・ビジネスの国際化とアジア - 香港、上海のフグ料理店 (d) 養殖フグの急増と産地間競争 - 相場リーダーとしての下関の挑戦 (e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態 - フグを食べているのか? (f) 食生活の変化とフグ・ビジネス - 養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か (2) 山口の酒蔵の調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみたい方。 (a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる(現在、五橋、男山、和可娘の3社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞く ゼミ運営方法: 3年生までは、チームで調査研究。4年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1冊の本(作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問すること(fieldwork)を厭わない人。調査研究の成果は、報告集にまとめる。/ 検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

授業の一般目標 演習テーマ: 経済のグローバル化とローカル・ビジネスの挑戦 演習の目標: ローカルビジネスの調査研究と取り組むことで、調査研究に必要な経済学や経営学の知識を自主的に積極的に学び、また同時に、そうした知識を調査研究に応用する。そうした調査研究活動を通じて、実践的に、経営学の知識を身に付けることにある。(1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。思考・判断の観点: 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。関心・意欲の観点: ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。態度の観点: 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。技能・表現の観点: PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。その他の観点: ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるといのが、ゼミの原則である。

授業の計画(全体) 前期: 上記テーマに関する業界について、広く基礎知識を得る。同時に、業界を捉える経営学の基礎知識を学ぶ。後期: 現実のビジネスの世界に足を運び、インタビューを実施し、業界の方々から実際の経営の実状を学び、それを経営学の知識習得にフィードバックさせる。積極的に経営学的知識を身に付けるために、報告書を作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 企業事例研究
- 第2回 項目 企業事例研究

- 第 3 回 項目 企業事例研究
- 第 4 回 項目 企業事例研究
- 第 5 回 項目 企業事例研究
- 第 6 回 項目 企業事例研究
- 第 7 回 項目 企業事例研究
- 第 8 回 項目 企業事例研究
- 第 9 回 項目 企業事例研究
- 第 10 回 項目 企業事例研究
- 第 11 回 項目 企業事例研究
- 第 12 回 項目 企業事例研究
- 第 13 回 項目 企業事例研究
- 第 14 回 項目 企業事例研究
- 第 15 回 項目 企業事例研究
- 第 16 回 項目 企業事例研究
- 第 17 回 項目 企業事例研究
- 第 18 回 項目 企業事例研究
- 第 19 回 項目 企業事例研究
- 第 20 回 項目 企業事例研究
- 第 21 回 項目 企業事例研究
- 第 22 回 項目 企業事例研究
- 第 23 回 項目 企業事例研究
- 第 24 回 項目 企業事例研究
- 第 25 回 項目 企業事例研究
- 第 26 回 項目 企業事例研究
- 第 27 回 項目 企業事例研究
- 第 28 回 項目 企業事例研究
- 第 29 回 項目 企業事例研究
- 第 30 回 項目 企業事例研究

教科書・参考書 教科書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。 / 参考書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。

メッセージ ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に面会可能。常に、メールで相互連絡を行う。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 演習 II の受講対象者、3 年生で、経営学の基礎知識を理解している。そこで、個別問題について、発展的に学習し、各自の分担報告と意見交換を重視し、個別問題についての深い理解を目指したい。授業の目標は、専門的な視点で議論ができるようにすることである。演習 II は、専門教育の中間レベルと上級レベルの学習を目標にしている。 / 検索キーワード 最近の個別経営問題について、関心を持つこと

授業の一般目標 演習 II の前期は、国際経営の理論を取上げる。演習 II の後期では、社内分社制、ナレッジ管理、組織ネットワークを取り上げる。基本資料を用意し、各自に報告を義務付け、意見交換を求める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：個別問題について、基本的理解と論点をプレゼンテーションできる。思考・判断の観点：個別問題について、アイデアを提案できる。態度の観点：演習 II は、全出席を前提とし、意見を表明できる。

授業の計画 (全体) 経営学の個別問題を取上げ、問題の正当な理解の仕方と議論の展開を身に付けるように、指導する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国際経営の展開 内容 バーノン基礎理論の理解
- 第 2 回 項目 国際経営の問題 内容 バーノン基礎理論の理解
- 第 3 回 項目 国際経営の展開 内容 ダニング基礎理論の理解
- 第 4 回 項目 国際経営の問題 内容 ダニング基礎理論の理解
- 第 5 回 項目 国際経営の展開 内容 ポーター基礎理論の理解
- 第 6 回 項目 国際経営の展開 内容 ポーター基礎理論の理解
- 第 7 回 項目 国際経営の展開 内容 ポーター基礎理論の理解
- 第 8 回 項目 国際経営の問題 内容 ポーター基礎理論の理解
- 第 9 回 項目 日本の国際経営の展開 内容 生産活動について
- 第 10 回 項目 日本の国際経営の展開 内容 人事活動について
- 第 11 回 項目 日本の国際経営の問題 内容 販売活動について
- 第 12 回 項目 日本の国内経営の展開 内容 社内分社制について
- 第 13 回 項目 日本の国内経営の展開 内容 社内分社制について
- 第 14 回 項目 日本の国内経営の展開 内容 ナレッジ管理について
- 第 15 回 項目 日本の国内経営の問題 内容 ナレッジ管理について

成績評価方法 (総合) 演習 II は、個別問題についての、知識・理解、思考・判断、態度の 3 点を重視し、評価をする。

教科書・参考書 教科書：企業の競争優位 (高価なので非購入) , , / 参考書：その都度、紹介する。 , ,
メッセージ 出席は、100 パーセントであること。

連絡先・オフィスアワー 電話 5542、研究室長谷川、オフィスアワー水曜日

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 財務管理理論の基礎知識習得を目指す。

授業の一般目標 財務管理の基礎知識の習得および互いに協力してグループ学習できるようにすること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門基礎知識の習得 思考・判断の観点： 基礎知識の実践的応用
 関心・意欲の観点： ゼミへの積極的関与 態度の観点： ゼミへの積極的関与

授業の計画 (全体) 基礎的な教科書の輪読とグループ学習

成績評価方法 (総合) ゼミへの積極的な取り組み

教科書・参考書 教科書： 未定

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石田成則				

授業の概要 演習 1 に同じ

授業の一般目標 演習 1 に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 演習 1 に同じ 思考・判断の観点： 演習 1 に同じ 関心・意欲の
観点： 演習 1 に同じ

授業の計画 (全体) 演習 1 に同じ

成績評価方法 (総合) 演習 1 に同じ

メッセージ 欠席する際には、必ず事前にその旨を連絡すること。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤田健				

授業の概要 演習 II はマーケティング・流通研究のための方法論や各論の知識を学んだうえで、卒業論文の作成に向けた研究を開始する。前期はマーケティング・リサーチの実習を通して研究方法論や論文の書き方を学び、夏期休業期に個人研究のテーマを決定する。後期は、個人研究で設定したテーマを研究し、輪番で研究成果を報告する。

授業の一般目標 1. マーケティング・流通分野の研究手法と各論を理解する。 2. 個人研究のテーマを設定し、意欲的に研究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究関心領域の既存研究と研究方法を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 積極的に研究を行い、その成果を報告する。 2. 積極的にディスカッションに参加する。

授業の計画 (全体) 前期は、研究方法、各論の文献サーベイ、論文の書き方などを学ぶ。その上で、個人研究のテーマを設定する。後期は、個人研究を行い、輪番で研究成果を報告する。

成績評価方法 (総合) 研究報告 (30%)、ディスカッションへの参加 (30%)、最終レポート (40%)

教科書・参考書 教科書：『知的複眼思考法』、苅谷剛彦、講談社 文庫、2002 年；ゼミナール マーケティング入門、石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎、日本経済新聞社、2004 年

メッセージ ゼミでのケータイ使用、私語、睡眠、遅刻は厳禁です。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 文献調査等を精力的に行い、データの収集と分析に基づいて、その成果を報告する。

授業の一般目標 データの分析能力を高め、同時に成果の報告に際してはパワーポイント等を使用して、プレゼンテーション能力の向上を図る。

授業の計画 (全体) 各自が設定したテーマについての研究成果の報告と討議を行う。

成績評価方法 (総合) 成績評価は、出席 (30 点) 報告 (70 点) によって行います。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河野眞治				

授業の概要 多国籍企業の理論と現実について学ぶ。 / 検索キーワード 多国籍企業

授業の一般目標 最近の直接投資の新しい理論について学び、日本企業の海外子会社について調査する。

授業の計画 (全体) 学生のレポート発表を中心に行う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 ゼミの運営方法について説明する。
- 第 2 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 3 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 4 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 5 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 6 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 7 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 8 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 9 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 10 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 11 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 12 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 13 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 14 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 15 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論

成績評価方法 (総合) レポートと討論内容で評価する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳建平				

授業の概要 中国の社会主義市場経済をめぐる諸問題およびグローバル化時代の中国経済の課題について勉強する。

授業の一般目標 中国経済の到達点、世界経済におけるプレゼンスおよび将来の課題などについて、一定の識見を有する。

成績評価方法 (総合) 出席状況と発表、討論などを総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：東アジア国際分業と中国, 木村福成・丸屋豊二郎・石川幸一, ジェトロ, 2002 年 ; 日中関係の経済分析 空洞化論・中国脅威論の誤解, 伊藤元重, 東洋経済新報社, 2003 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	尹春志				

授業の概要 東アジアを中心に開発、発展にかかわる理論的な検討を行う。

授業の一般目標 2 年次に学んだ基礎知識をより理論的に昇華することを目指す

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 東アジアを中心に、最新の開発・発展をめぐる理論と実践について学ぶ。 思考・判断の観点： 与えられた事実に対して自らの知識を用いて判断する力を養う 技能・表現の観点： レジюме作成、プレゼンテーションの技法を学ぶ

授業の計画 (全体) テキストを輪読し、討論することを中心に演習を行うが、適宜、個別課題を提示し、研究発表を行う。

成績評価方法 (総合) 出席、討論の態度、課題に対する取り組みで評価する。

教科書・参考書 教科書： 追って指示する

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 参加者全員が協力して、ヨーロッパ統合にかんする 1 本の論文を書き上げる。詳しい論文テーマは、4~5 月に、演習参加者の希望を聞いて決める。

授業の一般目標 参加者全員が協力して、1 本の論文を書き上げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分が扱うテーマについての基礎知識を身につける。 思考・判断の観点：自分が扱うテーマについての基礎知識を身につけた上で、それに対して自分の意見を述べる。

授業の計画 (全体) 前期は基礎知識を身につけるための輪読が中心。後期には、実際に文章を書き、それを授業で発表する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 論文テーマの設定 内容 論文テーマの設定

第 2 回 項目 文献収集と輪読 内容 文献収集と輪読

第 3 回 項目 同上

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

第 16 回 項目 論文の執筆 内容 論文の執筆

第 17 回 項目 同上

第 18 回

第 19 回

第 20 回

第 21 回

第 22 回

第 23 回

第 24 回

第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 授業への参加 (出席と発表) によって評価する。

メッセージ 積極的に授業に参加して、発言してください。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 演習 I での課題を引き継ぎ、憲法学の理論的な課題や、現実の憲法現象について多角的に検討します。その際、できるだけ演習参加者の興味や関心に引きつけて開講したいので、一見したところ、関係なさそうな課題であってもいいですから、参加を希望する人は毎日のニュースで報じられる出来事などを参考に、検討したい課題を準備しておいてください。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論、各論の重要事項を考察していく。判例を考察しながら、刑法理論が具体的事案の解決にどのように適用されているかを見ていく。

授業の一般目標 刑法がどのような法律であるかを理解して貰う。その為に、刑法総論と各論の重要問題を考察していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法がどのような法律であるかを理解してもらおう。 思考・判断の観点： 法的思考の考察ということから、判例を考察し、刑法理論が具体的事案にどのように適用されているかを見ていく。

授業の計画 (全体) 前期は刑法総論、後期は各論の重要問題を考察していく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 未遂犯 内容 障害未遂・中止未遂
- 第 2 回 項目 共犯 内容 共犯の意義・共犯と正犯の区別
- 第 3 回 項目 共犯の処罰根拠 内容 共犯の従属性説と独立性説
- 第 4 回 項目 間接正犯 内容 間接正犯の意義・間接正犯の具体的形態
- 第 5 回 項目 共同正犯 内容 共同正犯の意義・実行共同正犯・共謀共同正犯
- 第 6 回 項目 教唆犯 内容 教唆犯の意義・教唆犯の成立要件・教唆の未遂
- 第 7 回 項目 幫助犯 内容 幫助犯の意義・幫助犯の成立要件
- 第 8 回 項目 必要的共犯 内容 必要的共犯の意義・必要的共犯も形態
- 第 9 回 項目 共犯と身分 内容 共犯と身分の関係・身分の意義
- 第 10 回 項目 共犯と錯誤 内容 正犯の客体の錯誤と共犯の錯誤・正犯の方法の錯誤と方法の錯誤
- 第 11 回 項目 共犯の中止 内容 共犯と中止犯・共犯からの離脱
- 第 12 回 項目 不作為と共犯 内容 不作為犯に対する共犯、不作為犯に対する教唆・幫助
- 第 13 回 項目 罪数 内容 罪数の問題点・犯罪の単複の確定基準に関する学説
- 第 14 回 項目 一罪、数罪 内容 数罪の意義・併合罪・単純数罪
- 第 15 回 項目 刑罰論・刑罰制度 内容 刑罰の意義・刑罰の本質・刑罰の機能

成績評価方法 (総合) レポートと出席状況を総合して成績の評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論, 安里全勝, 成文堂, 2008 年; 演習ノート刑法総論, 斉藤誠二編, 法学書院, 2005 年; 演習ノート刑法各論, 岡野光男編, 法学書院, 2003 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤田正				

授業の概要 少人数のゼミの長所を生かして、税法の判例、文献、論文などにより、掘り下げた学習を旨とします。民法の基礎知識が必要となることが多くあります。

授業の一般目標 判例学習を通じて、税法の基本的な枠組みと、税法的な考え方や論理の修得を旨とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税法の枠組み、税法的な思考を理解している 思考・判断の観点：税法的な思考の枠組みのもとで、自分の意見を構築できる 関心・意欲の観点：社会経済における税法のテーマについて、関心が持てる 態度の観点：積極的に学ぶという意欲をもつことができる 技能・表現の観点：論理的で説得的な意見が言える。分かりやすく簡潔な文章表現ができる。

授業の計画 (全体) 受講生の理解度を見ながら、判例、文献、論文、ケーススタディなどを用いて双方向のクラス運営を行う。

成績評価方法 (総合) ゼミへの出席状況、受講態度、問題意識、期末レポートなどにより総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリント配布

メッセージ 税法の学習が面白くなるかどうかは、自分の考え方と態度次第です。せっかくの大切な時間を有効に使いましょう。

連絡先・オフィスアワー (TEL) 083-933-5580 (メール) sawadat@yamaguchi-u.ac.jp (オフィスアワー)

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画 (全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法 (総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳 禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 演習 I で習得した知識を土台に、より高度な環境経済学に関わる文献を輪読し討議する能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体）ゼミ受講者を主体に、関心を持つ議題を討議した上、文献・書籍を選択し授業計画を立てる。

成績評価方法（総合）成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	武本 ティモシー				

授業の概要 文化心理学の研究をさらに深く検討し先行研究を発表してもらえながら、卒論に向かってゼミ生自身の研究プロジェクトを発足してもらうことにする。各人のテーマは、法・経済・観光などのなかから、他社会における現実問題に関わる関心のあるテーマを発見し 1)文化心理の影響を考察 2)調査・実験などの実証的研究を含む 卒論テーマを探索し話し合い、年末までに決定しましょう。 / 検索キーワード 文化・心理・研究・実証

授業の一般目標 文化心理学が提供している問題意識を養って、各自の関心テーマを見つけて卒論に向かったの下準備をし始めること 就職活動情報や就職活動技能についての情報を交換し、キャリアプランニングに取り込む 英語コミュニケーション技能を高める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化心理学の先行研究について知ること 思考・判断の観点：実証的研究の方法論の応用仕方を習得する 態度の観点：自己呈示・自己主調への恐れを克服しようとする姿勢 技能・表現の観点：ペアのみならずゼミ全員に対して発言できるようになること

授業の計画 (全体) ゼミ I で行った先行発表に加え、各自の研究発表も取り入れる。

成績評価方法 (総合) 参加 3 3 % 先行研究発表 3 3 % 独自研究発表 3 3 %

メッセージ 休み中でもいつでも連絡してください。希望がありましたらお伝えください。

連絡先・オフィスアワー timothy@nihonbunka.com

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 本授業の目的は、観光および地域経済に関する情報、データを用いて、現在直面する多様な問題や受講生が考える課題に対して、分析を行い、レポート作成までの一環した方法を学ぶことである。これによって、問題を解決のために必要な考え方・そのための能力を養うことが重要になる。そのために、演習 I で学んだ観光や地域経済に関する現状やデータ入手方法を用いて、観光および経済に対する数量分析を行える能力を養うためのコンピュータ実習を行う。各地で行われているイベントの経済波及効果の分析や観光および経済における環境問題についても逐次取り扱う。学生が興味を持つテーマにあわせて、レポート作成やプレゼンテーション技術のサポートを行う他、学生が観光を研究するために必要な体験をしていただける場の提供を検討し、進めていく予定である。

授業の一般目標 ・現実の観光、社会や経済問題について理解をし、それについての情報および関連するデータを収集することができる。 ・授業で取り扱うデータや様々な統計データの特徴や問題点を理解し、経済分析に適切に利用することができる。 ・観光や経済に関するレポートを作成する中で、レポートのテーマに合わせた統計データと分析ができる。 ・取りまとめた分析やレポートを人にわかりやすく、正確に伝えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・観光および社会や経済の問題について、経済学的な観点で理解することができる。 ・授業で取り扱った統計および計量経済学的手法を理解し、レポート作成時に活用することができる。 **思考・判断の観点：** ・現実の観光や社会、経済の問題について、経済学的な観点から理解したことを、それがどのような意味をもっているのかを思考し、判断できる。 **関心・意欲の観点：** ・観光および社会や経済の問題について、高い関心を持ち、それについて自ら情報収集する。 ・自ら情報収集をしたり、授業で取り扱った内容を用いて、レポート作成に取り組むことができる。 ・ゼミのメンバーの考え方や意見に関心をもつとともに、自らの考え方や意見も積極的に述べるができる。 **態度の観点：** ・学ぶことに積極的かつ真摯に向うことができること。 ・ゼミのメンバーの考え方等も尊重する中で、自分の考えや意見を述べるができる。 ・観光として重要なホスピタリティの精神をもって、なにごとにも対応できる。 **技能・表現の観点：** ・レポートや輪読のレジメ作成において、適切な情報およびデータを用いながら分かりやすく作成することができる。 ・レポートや輪読のレジメの発表において、聞き手の立場に立って分かりやすくプレゼンテーションをすることができる

授業の計画 (全体) 演習 II でも、以下の 4 点をゼミ活動の中で行っていく予定であるが、特に、3. 学生が関心のあるテーマに関する分析とレポート作成を中心に行う。これは、卒業論文にもつながる内容であり、演習 III の準備段階のものである。個別指導を積極的に行い、各人の能力に合わせた指導、将来の進路も視野に入れた指導を行っていく、取り組みの一つである。 1. 観光、地域経済に関する文献の輪読 (観光経済入門をはじめ、その他の観光経済および地域経済の文献を読み、その内容について報告、さらにディスカッションを行う。) 2. 計量経済手法を学ぶための実習授業 (エクセルや計量経済分析用アプリケーションを用いた計量経済分析および産業連関分析を学ぶために、コンピュータ講義室で実習する。自らがデータ分析を経験し、分析結果としてとりまとめる。) 3. 学生が関心のあるテーマに対するレポート報告 (文献の輪読および実習で学んだことを利用し、学生はレポートを作成し、講義中に発表する。レポート作成に必要な文献、コンピューター操作に対するアドバイスをするとともに、パワーポイントを利用したプレゼンテーション方法も講義中に提供する。) 4. 観光地域への訪問研修 (教員と学生が観光地域への訪問を行うことを相談した上で、最終的に本研修の有無を決めるが、可能であれば、集客に成功している観光地域や学生が興味を持っている観光地への訪問研修を行う予定である。)

成績評価方法 (総合) レジメやレポートの作成内容やそれぞれのプレゼンテーションへの取り組み、実習講義やゼミで行う観光研修をはじめとする観光を学ぶための活動への積極的かつ意欲的な参加について評価する。

教科書・参考書 教科書：産業連関分析入門, 宮沢健一, 日本経済新聞社, 2002年；入手すべきその他のテキストは演習所属学生に対して別途紹介する。 / 参考書：Excelによる産業連関分析入門, 井出眞弘, 産業能率大学出版部, 2004年；実践計量経済学入門, 山澤成康, 日本評論社, 2005年；産業連関分析入門, 藤川清史, 日本評論社, 2005年；参考書備考：その他の参考文献は演習所属学生に対して別途紹介する。

メッセージ 経済学科、観光政策学科における経済に関する数多くの授業を積極的に履修して下さい。特に関連科目の履修は演習Ⅰで学ぶ内容をより充実することにつながるため、ぜひ履修をお願いしたいと思います。また、演習Ⅱは毎週授業に参加することによって学べる内容も多いため必ず出席をして下さい。このゼミは、学生の皆さんが主役です。学生同士が協力しながら、学ぶことで刺激し合える仲間のゼミになれば、ゼミを担当する者として大変うれしく思います

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中村美紀子				

授業の概要 本演習では、会社法テキストの講読を行いつつ、基本的な判例を読んでいきます。予め割り当てられた分担箇所について、報告者の報告にもとづき質疑応答を行います。/ 検索キーワード 会社法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 会社法の基本的事項および重要な判例を理解し、会社法について自らのテーマをもつことを主眼としつつ、卒業論文および就職活動に取り組むための準備として、レジュメ作成、プレゼンテーションおよびディベートの能力を高めることも目指します

授業の計画 (全体) 演習開始時にゼミ生と相談して決めたいと思います。

成績評価方法 (総合) レジュメ作成およびプレゼンの工夫、ルール遵守、ゼミへの貢献度等を総合的に勘案します。

教科書・参考書 教科書：テキストブック会社法, 末永敏和 [編著], 中央経済社, 2006 年 / 参考書：会社法判例百選, 江頭 = 岩原 = 神作 = 藤田 [編], 有斐閣, 2006 年

メッセージ 2008 年六法必携です。欠席が避けられない場合は事前に直接連絡することをルールとします。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C 棟 2 0 9、オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 行政法に関する諸問題について考察する。(1) 昨年度末まで進んだものをさらに継続し、さらに(2) 新たに分野を協議の上設定してさらに拡張し、あるいは深めていく。いずれも協議して決めていく。 / 検索キーワード 行政 行政組織法 行政作用法 行政救済法

成績評価方法 (総合) レポートの報告、出席状況、授業外レポートなどを総合評価する。

教科書・参考書 教科書：内容の協議、決定に際し協議して決める。

メッセージ いよいよ本格的に行政法の学習を進めるときです。さらに気張っていきましょう。

連絡先・オフィスアワー 内線 5 5 8 8

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	平中貫一				

授業の概要 民法判例の学習を継続する。

授業の一般目標 民法に関する体系的知識の修得。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 民法に関する体系的知識の修得。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	油納健一				

授業の概要 演習 I の続きを行う。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	吉川 信將				

授業の概要 教科書の通読による新会社法の基礎知識の習得と事例問題研究による応用力の養成を行う。少人数による授業なので、受講者の希望を最優先して研究対象を選択していく。/ 検索キーワード 新会社法の機能

授業の一般目標 新会社法の基本的機能が理解できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：新会社法の特徴・問題点を把握する。 思考・判断の観点：具体的事例に対して新会社法をあてはめた場合の結果の妥当性につき基本的判断ができるようにする。 関心・意欲の観点：自分自身が関心のあるテーマを選択し、積極的に調査し、進んで発表・報告できるようにする。 態度の観点：他人の発言にも耳を傾け、そこから自分の考えをさらに磨き上げようとする態度を養う。

授業の計画 (全体) 前半は、会社の機関や組織変更等に関する基礎知識の習得を目指し、後半では新会社法の全範囲から事例問題を選択し、検討を加える。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 会社の機関 (1)
- 第 2 回 項目 会社の機関 (2)
- 第 3 回 項目 会社の機関 (3)
- 第 4 回 項目 会社の機関 (4)
- 第 5 回 項目 会社の機関 (5)
- 第 6 回 項目 会社の機関 (6)
- 第 7 回 項目 会社の機関 (7)
- 第 8 回 項目 会社の機関 (8)
- 第 9 回 項目 会社の機関 (9)
- 第 10 回 項目 会社の機関 (10)
- 第 11 回 項目 計算
- 第 12 回 項目 組織変更・組織再編 (1)
- 第 13 回 項目 組織変更・組織再編 (2)
- 第 14 回 項目 組織変更・組織再編 (3)
- 第 15 回 項目 予備日
- 第 16 回 項目 組織変更・組織再編 (4)
- 第 17 回 項目 組織変更・組織再編 (5)
- 第 18 回 項目 組織変更・組織再編 (6)
- 第 19 回 項目 組織変更・組織再編 (7)
- 第 20 回 項目 組織変更・組織再編 (8)
- 第 21 回 項目 事例研究 (1)
- 第 22 回 項目 事例研究 (2)
- 第 23 回 項目 事例研究 (3)
- 第 24 回 項目 事例研究 (4)
- 第 25 回 項目 事例研究 (5)
- 第 26 回 項目 事例研究 (6)
- 第 27 回 項目 事例研究 (7)
- 第 28 回 項目 事例研究 (8)
- 第 29 回 項目 事例研究 (9)
- 第 30 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 受講時の姿勢(他人の発言にも耳を傾けたうえで、積極的に自分の考えを発表できるかどうか) 報告者となったときの調査・研究状況に出席状況を加味して総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：新基本会社法 II, 三枝一雄, 中央経済社, 2006年 / 参考書：株式会社法, 江頭憲治郎, 有斐閣, 2006年；会社法第9版, 神田秀樹, 有斐閣, 2007年；別冊ジュリスト会社法判例百選, 江頭・岩原・神作・藤田編, 有斐閣, 2006年；新会社法については新しい教科書・参考書類が次々と発行されているので、有益と思える書籍・資料等はその都度紹介する。

メッセージ 基礎的事項に関する学習が終了したら、事例問題の演習を中心にしたいと思います。取り組むテーマを積極的に探し当てて欲しい。

連絡先・オフィスアワー C棟224研究室

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	土生 英里				

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 ただ現状を批判するだけのプレゼン、評論家風で他人事のようなプレゼンをすること、これが上手いプレゼンだと思いきっているプレゼンターがいます。しかし誰もそんなプレゼンを聞きたくありません。「だから何なの?」と感じるだけです。そこでこの演習では前向きな提案型プレゼンを出来るように、提案型プレゼンに必要な時事経済の知識、そしてパソコンを利用した経済分析を勉強します。

授業の一般目標 パソコンを利用した経済分析に慣れること。 時事経済の知識、パソコンによる分析の 2 本柱から、提案をとまなうプレゼンをすること。

授業の計画 (全体) 以下の 1 と 2 を隔週で実施。 1 : 時事経済に関する知識を蓄えるため、テキストを報告。その後質疑応答を受けつけ、長続きするディスカッションテーマによるディスカッションを実施。 2 : パソコンを利用した経済分析に必要な経済分析手法を教員が説明。その後、ゼミ生に実習してもらう。また宿題もやってもらう。

成績評価方法 (総合) 報告・ディスカッション参加度合い、宿題などから総合評価。

教科書・参考書 教科書 : 別途指示する。

メッセージ この演習はハードです。ディスカッションはまごまごしていたら、取り残されます。間違ってもつまずいていいから、とにかく何か話そう。パソコンによる経済分析はマスターすれば、いろんな場面 (卒論や就職後も) で使えます。

連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 1. 毎週読書レポートを提出する。 2. 各自月に 1 度、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。 3. TOEIC で 500 点以上取る。

授業の一般目標 研究テーマは、個人の自由です。各自のテーマを深く追求するとともに、幅広い知識を持った T 型スペシャリストを目指します。具体的には、以下の能力を身につけることを目標とします。

1. 幅広い教養を身に付けること。
2. 問題解決能力、分析能力を高めること。
3. 企画力・創造力を高めること。
4. プレゼンテーション能力を高めること。
5. コミュニケーション能力 (英語を含む) を高めること。
6. データ処理能力、事務処理能力を高めること。
7. 判断力を高める。

授業の計画 (全体) 1. 毎週発表者を決めて、順にプレゼンテーションを行う。 2. 半期に数回ディベートを行う。

成績評価方法 (総合) 出席と演習時間の発表、提出レポート、TOEIC のスコア等で総合的に判断する。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤井大司郎				

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 公共選択 内容 資源配分の公的メカニズム、公共財水準を決定する代替的機構
- 第 2 回 項目 公共選択 内容 政治学と経済学
- 第 3 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 自然独占：私的財の公的生産、公共部門と民間部門での効率性の比較
- 第 4 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 公共部門での非効率性の原因、法人化、生産面における政府の役割に関するコンセンサスの形成
- 第 5 回 項目 外部性と環境問題 内容 外部性の問題、外部性の私的解決策
- 第 6 回 項目 外部性と環境問題 内容 外部性の公的解決策、環境保護と政府の役割の実際
- 第 7 回 項目 租税：入門 内容 背景、どのような租税制度にも望まれる五つの特徴
- 第 8 回 項目 租税：入門 内容 租税制度を選択するための一般的フレームワーク
- 第 9 回 項目 租税の帰着 内容 競争市場における租税の帰着、完全競争ではない場合の租税の帰着
- 第 10 回 項目 租税の帰着 内容 同等な租税、租税の帰着の分析に影響を及ぼすその他の諸要因
- 第 11 回 項目 租税と経済効率 内容 消費者によって負担される税の効果、資源配分上のゆがみの数量化
- 第 12 回 項目 租税と経済効率 内容 生産者によって負担される税の効果、貯蓄に対する課税
- 第 13 回 項目 租税と経済効率 内容 労働所得に対する課税、租税が労働供給に及ぼす効果の測定
- 第 14 回 項目 最適課税 内容 最適課税の二つの誤謬、最適課税とパレート効率的な課税
- 第 15 回 項目 最適課税 内容 差別的課税、生産者に対する課税

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 1. 演習 I に引き続、国内外のメディアについて調べる。 2. 研究発表 / 検索キーワード マスメディア

授業の一般目標 演習 I に引き続き、外国と日本のマスメディアを比較・分析することによって、特に観光とメディアの関係を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. メディアの仕組みを理解する。 2. 研究発表の方法を理解する。

思考・判断の観点： 1. メディアの組織やメッセージについて判断力を深める。 2. 自分の研究を深めることについて判断する。 関心・意欲の観点： メディアに対する関心を深めて、日ごろ、もっと積極的にその実態を探る。 態度の観点： メディアをもっと効率的に利用する。

授業の計画 (全体) 毎回、ビデオ制作の打ち合わせと研究発表が行われる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究計画と研究発表について
- 第 2 回 項目 研究発表
- 第 3 回 項目 研究発表
- 第 4 回 項目 研究発表
- 第 5 回 項目 研究発表
- 第 6 回 項目 研究発表
- 第 7 回 項目 研究発表
- 第 8 回 項目 研究発表
- 第 9 回 項目 研究発表
- 第 10 回 項目 研究発表
- 第 11 回 項目 研究発表
- 第 12 回 項目 研究発表
- 第 13 回 項目 研究発表
- 第 14 回 項目 研究発表
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法 (総合) 授業参加 (50 %) と期末レポート (50 %)

メッセージ 実験的に遠隔講義を行う。

連絡先・オフィスアワー loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	宮崎充保				

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河村誠治				

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有村貞則				

授業の概要 企業の海外進出の目的・動機、参入モード、親会社と海外子会社の関係など国際経営に関する基礎理論を習得した後に、1990 年代以降に活発化している小売業の国際化について事例調査を進めていく。

授業の一般目標 1 . 国際経営の基礎理論習得。 2 . 小売業の国際化に関する事例研究とディスカッション

授業の計画 (全体) 前半はテキストの輪読を通して国際経営の基礎について学習。後半は小売業の国際化についての調査と発表。

成績評価方法 (総合) 出席、授業に望む態度、および発表

教科書・参考書 参考書： 参考資料や論文を適時配布します

連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中田範夫				

授業の概要 演習 1 に引き続き管理会計論の領域を研究する。2 年次に勉強したことを基礎とするので、少し専門的な内容を研究することになる。一般的な製造業やサービス産業では、活動基準原価計算、バランスト・スコア・カード、原価企画などが管理手法として用いられているので、それらの領域を研究することになる。また、最近のテーマとしては、環境会計や病院会計といった領域も研究領域として適切である。

授業の一般目標 4 年次に作成する卒業論文に関するテーマの基礎を作るための授業を行いたい。

授業の計画 (全体) テキストを決め順番に報告してもらおう。必ずしも全ゼミ生が統一的なテーマになる必要はなく、テーマごとに幾つかのグループに分かれて勉強しても構わない。

成績評価方法 (総合) 出席、報告、およびゼミ行事への参加度を見て、総体的に評価する。

教科書・参考書 教科書：使用するテキストは、検討中である。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：研究室；9 3 3 - 5 5 5 6 オフィスアワー：後日指示する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山下 訓				

授業の概要 この演習は企業会計及び会計学、特に財務会計の演習です。但し、企業会計及び会計学では財務会計と管理会計との垣根が低くなり、広い分野を学ばなければなりません。この演習では、先ず企業会計及び会計学の理論を、次に日本及び欧米における歴史を学び、更に日米の財務諸表の使い方を学び、それらを踏まえて企業会計の現状に対する分析を行います。演習 2 では演習 1 に引き続いて、その基礎を学びます。 会計学だけでなく、経済学でも法律学でも、どの分野でも大学の役割は、いわゆる読み書き 算盤をしっかりと教えることだと思います。企業価値計算や英文会計も学びます。

授業の一般目標 演習に積極的に参加し、会計学分野に関して、自分で調べ、発表し、議論できるようになる。

授業の計画 (全体) 担当者は 1 週間前にレジユメを作成し、全員に配布し、全員が質問を事前に考えて、演習に参加する。

成績評価方法 (総合) 演習への参加度、課題達成度。

教科書・参考書 教科書：後日、知らせる。

メッセージ 経済学部生として当然求められる行動を求めます。

連絡先・オフィスアワー yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線 5 5 1 8

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 前期は、テキストを利用して、流通・マーケティング、経営に関する著書を読む。後期に関しては、何をするかを、みんなで相談して決める。例年だと、卒業論文の準備に取り掛かっている。前期で学んだことを生かして、自分自身で見つけた卒業論文の「問い」を、他のみんなに理解できるような形のレポートにまとめていく。

授業の一般目標 「問い」を立てるとはどういうことか、を理解する。

授業の計画 (全体) 前期はテキストの輪読形式で、ゼミを進める。後期は、各人の研究発表を予定している。

成績評価方法 (総合) 前期に関しては、担当箇所のレジュメ、報告 (プレゼンテーション)、報告書、等による。後期に関しては、レジュメ、報告 (プレゼンテーション)、レポート、等による。また、出席は、欠格条件である。

教科書・参考書 教科書：ゲーム理論で勝つ経営, A・ブランデンバーガー & B・ネイルバフ, 日本経済新聞社, 2003 年

メッセージ 昨年度開講の演習 I に引き続いて勉強を進めていきます。 昨年は、大阪にて、他大学との夏合宿・合同ゼミ (研究発表大会) を行いました。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 経営情報論、ビジネスゲーム、線形計画法など演習 I で学んだ内容、および新たに演習 II ではビジネスモデルについて学ぶ予定ですが、それらのなかから最も興味深いと思われるテーマを発見し、発表やディスカッションを通して考察を深め、卒業論文作成の準備をする。

授業の一般目標 演習 I と演習 II で学んだことをもとに自分のテーマを決定し、プレゼンテーションやディスカッションの能力をはぐくむ。

授業の計画 (全体) 演習 I で学んだ経営情報論の知識を生かしてビジネスモデルについて輪読、あるいはケーススタディによって学ぶ。また、授業展開のなかで、受講者の興味に応じて他の分野を学ぶ可能性もある。この授業を履修した後に、自分のテーマ (卒論のテーマともいえる) に対してはっきりとした認識を得ていることを目標とする。自分の思考に磨きをかけるプレゼンテーションやディスカッションの技法も学ぶ。

成績評価方法 (総合) 授業貢献度、プレゼンテーションの内容、ディスカッションへの参加度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：授業開始時に必要に応じて指定します。

メッセージ 演習 I では、ひとりで学ぶ経験をしましたが、演習 II はグループで学ぶ、ということを中心にすすめます。

連絡先・オフィスアワー 渋谷の研究室は C 棟 2 階。在室中 (電気がついているとき) はいつでも入室可。あらかじめメールで連絡してくださると確実です。メールアドレスは shibuya@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	内田 恭彦				

授業の概要 前期は経営学の基本的知識について学習しながら、演習 I で調べた企業の更なる分析を行う。後期は演習 I で調べた企業の戦略、マーケティング、人的資源管理、リーダーシップなどより個別のテーマを選び、今後の在り方を検討していく。 / 検索キーワード 知的資産、競争優位、企業特殊性、調査

授業の一般目標 自らテーマを探し、実際に調べたことを自分のことばできちんと表現していくことが第 1 目標です。またチーム活動として常に積極的にに関わり、上手にチーム運営していく技量を身につけることも目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分たちが関心をもった経営学のテーマに関しての基本的知識の理解。また実際の企業ケースにその考えを当てはめ分析・検討できる程度に習熟すること。 思考・判断の観点：実際の企業について、どのように調べていけばよいかについての判断および現実の複雑な事象についてどのように解釈していけばよいかについての思考力が高まること。 関心・意欲の観点：積極的なゼミおよびチーム運営を行っていくこと。またそのためのリーダーシップの発揮。 態度の観点：実際の企業を対象に調査を行います。調査企業などへの丁寧なあいさつ、調査協力に対する感謝の気持ちなどをきちんと持つこと。 技能・表現の観点：理解したり、調べたりしたことをできるだけ相手が理解しやすいようにプレゼンテーションを行う力の向上。

授業の計画 (全体) 前期は経営学の基本的知識について学習しながら、演習 I で調べた企業の更なる分析を行う。後期は演習 I で調べた企業の戦略、マーケティング、人的資源管理、リーダーシップなどより個別のテーマを選び、今後の在り方を検討していく。

成績評価方法 (総合) 授業到達目標に示されている観点から総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：日本型経営, 内田恭彦/ヨーラン・ルース, 中央経済社, 2008 年 / 参考書：必要に応じて指示します。

メッセージ 自ら積極的に参加し、実際に経験し・調べることを重視します。新たな発見やその驚きを皆で共有し、楽しく実際の経営活動を理解していきましょう。

連絡先・オフィスアワー y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

卒業論文演習

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	塚田広人				

授業の概要 各自、卒業論文の研究をする。2年生の終わりに設定したテーマに沿って行う。3年生時に行った成果を発展させる。/ 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性(友愛性)

授業の一般目標 大学入学までと、それ以降現在まで身につけた多様な知識を使いこなし、自分の設定した問題をできるだけ深く考察する。

成績評価方法(総合) 出席点、レポートの内容・水準、の二つで評価します。(無断欠席は厳禁。)

メッセージ がんばりましょう。

連絡先・オフィスアワー E-mail ht@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5558, 研究室 A424, オフィスアワー 水: 1時半-3時。ほかの時間でも在室時はいつでも可。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	植村高久				

授業の概要 相互に問題意識を交換しながら、卒業論文を作成するためのテーマ設定を行い、次に必要な文献の継続的講読を指導する。最後に、卒論の取りまとめ方についての指導を行い、以後は個別指導を通じて、各自の卒業論文の完成度を高める努力を促す。、問題意識の焦点化と

授業の一般目標 明確なテーマを持ち、首尾一貫して、必要な参考文献や関連領域の調査・検討を含む卒業論文を完成させること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各テーマに必要な不可欠な内容や文献をフォローしていること。
 思考・判断の観点：論文として全体が首尾一貫した主張をもつこと。 関心・意欲の観点：各テーマについて、深い関心と積極的な自発的学習によって書かれていること。 技能・表現の観点：文章作法を守っていることと卒業論文としての体裁及び読みやすさに配慮した表現となっていること。

授業の計画(全体) 7月までは適宜、問題関心に従った報告を行って貰い、テーマの確定に努める。夏休み中に基本的な文献や資料を渉猟しておくことは宿題である。10～11月は、草稿段階の論文を輪読検討する。12月は基本的に個別指導に努める。

成績評価方法(総合) 卒業論文としての作品の完成度のみを評価基準とする。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 卒業論文の作成 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 大学四年間の集大成としてふさわしい卒業論文を仕上げることを目標とします。

授業の計画(全体) I. テーマの設定 (1) テーマ設定の動機 (2) テーマをとりまく背景 (3) 予想される論文の帰結の設定 II. 論文構造の設定 (1) 論文の起承転結を考える (2) 論文の軸となる部分を考える III. 論文の作成 (1) 資料収集の方法 (2) 論文執筆のためのルール確認 (3) 軸がぶれていないかどうかをチェック IV. 論文の提出 (1) 訂そのチェック (2) 校正作業 (3) 締め切りを守る

成績評価方法(総合) 論文と呼ぶにふさわしい内容かどうかを厳しくチェックします。

メッセージ 詳しくはゼミのホームページ (<http://thyodo.eco.to>) を参照してください。山口大学経済学部を卒業したと胸を張って主張できるような論文に仕上げてもらいたいと考えています。笑顔で卒業できるように一緒にがんばりましょう。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 卒業論文の作成を目指す

授業の一般目標 卒業論文の作成を目指す

授業の計画(全体) 卒業論文作成のための指導を行う。

成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度(30%)、受講者の発表(30%)、出席(40%)

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	木部和昭				

授業の概要 近代日本経済史に関わる卒業論文作成のための指導を行う。最終的には各人の設定した課題にしたがって卒業論文をまとめる。

授業の一般目標 1, 卒業論文作成のための課題を設定する(論文題目の決定)。2, 課題に関して史資料を収集・分析する。3, 自ら立てたテーマに従って卒業論文を完成させる。

授業の計画(全体) (1)「地域経済の歴史」に関する研究論文、史料の講読を行う。(2) 各自の卒業論文に関する構想報告を行い、論文題目・テーマ等を決定する。(3) 各自の卒業論文の課題に関連した論文・史料等を講読する。(4) 各人の設定した課題に基づいて、卒業論文作成に向けた個別指導を行う。(5) 卒業論文提出後、口頭試問を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の内容および口頭試問(80%)、受講者による報告(15%)、授業への取組(5%)で成績を評価する。出席の悪い学生は、卒業論文指導を受講していない訳であるから、提出しても卒業論文を受理しない。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。必要な場合は論文等を印刷して配布する。/ 参考書：各人の卒業論文のテーマにより、参考文献は多岐にわたる。これに関しては指導の過程で個別に紹介する。

メッセージ ・就職試験等で忙しくなると思われるため、早めに卒業論文に取り組んで欲しい。 ・欠席が多いと卒業論文を受理しない(=卒業できない)ので注意すること。 ・卒業論文はレポートではない。不十分な卒業論文については書き直しを要求したり、不合格とする。 ・就職試験等で休む場合は、事前連絡を忘れないこと。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	野村淳一				

授業の概要 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを必要とします。卒業論文演習では、演習IIの終わりに選んだテーマについて、(1)先行研究のサーベイ、(2)関連データの収集、(3)分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を更に深め、適宜進行状況について報告をしてもらいます。論文作成が中心になるので、執筆中に出た疑問については随時質問に来ること。

授業の一般目標 ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 標準的なマクロ経済理論を理解できている。 基本的な統計学の手法を修得している。 自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。 **思考・判断の観点**： 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 **関心・意欲の観点**： 現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 **態度の観点**： 事前の準備を十分にいき、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 **技能・表現の観点**： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) 卒業論文演習では、演習IIの終わりに選んだテーマについて、(1)先行研究のサーベイ、(2)関連データの収集、(3)分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を更に深め、適宜進行状況について報告をしてもらいます。夏休み中に合宿を行い、卒業論文の中間発表をしてもらいますので、不十分な点を自覚し、最終的な論文のイメージを固めましょう。12月までに論文を一通り仕上げ、提出前に必ず一度私のチェックを受けて下さい。必要な訂正・補足などを加え、卒業論文は完成となります。卒業論文提出後、3月前後に卒業論文報告会を行いますので、卒業論文で得られた結論、自分の主張について、効果的な発表が出来るように準備して下さい。

成績評価方法(総合) 授業における態度(発表、質問等)と参加意欲により判定する(評価割合100%)

教科書・参考書 教科書：卒業論文に関連する文献。

メッセージ 演習IIでは、論文を共同作業として書いているので自分が十分に理解していなくても論文は完成しますが、卒業論文では全てを自分で書かなくてはなりません。完成後の全体のイメージを持ち、必要な準備を行って下さい。疑問点が出た場合は、遠慮なく研究室に来ること。卒業論文は大学生生活の集大成ですので、自分の持っている能力を最大限に活かし、納得のできる論文を作成して下さい。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	濱島清史				

授業の概要 3年次までに提出したレポートならびにパワーポイントを用いたプレゼンでやった内容に基づいて、さらに各自の関心分野に基づいて、卒論を仕上げていく。卒論の基本も、これまでのレポートと同様に、各自の関心のある産業・企業・職能あるいは社会政策等について、はじめに(導入)3節ほどの構成 おわりに(結語)と論理展開すること。/検索キーワード 卒論、自己実現、卒業、就職

授業の一般目標 卒論に関して、十分なレベルの論文をものにする。卒論に関する到達目標は以下のとおりである。まず、先行研究のサーベイとして参考文献を最低50本くらいは読破していけるようになること。次に、テーマに関連する統計データから数値を入力して、数十枚のグラフを作成し、ファクト・ファインディングを行なえること。そういった文献や統計などの情報収集能力を高めること。そして、論文は自分の意見に沿って様々な論者の見解を引用していくように進めていくこと。その際、注釈を用いること。それから、ここは特に丹念に調べた、時間を費やして資料を作成したという‘売り’を作れるようにすること。最後に、主張は何なのか、一言で述べられることが望ましい。できれば、オリジナリティも求めたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教養を広め、専門知識を深めること。新聞やテレビ・ドキュメンタリーなども日常的にみる。思考・判断の観点：論理的思考能力を養うこと。変化に応じて、的確に判断を下せるようになること。総じて、課題・問題を発見し、原因を分析し、改善できるようにすること。関心・意欲の観点：主体的に自己の専門を深めながら、あらゆる分野に関心を持つこと。態度の観点：主体性、自己啓発、生涯学習。生涯学習は単に一般教養でなく、自分の仕事、専門に関連することを中軸に据えること。技能・表現の観点：プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。その他の観点：リーダーシップも発揮すること。社会的貢献を志してもらいたい。

授業の計画(全体) 卒論の指導を適宜行なっていく。基本的に、就職活動がなければ、週に一回はゼミに集って、情報交換や団欒をしてもらいたい。一般に、学生の知識や思考能力は、1年生から4年生に掛けて段階的に向上していく。4年生という重要な時期に、就職活動と卒論だけに傾注し、輪読形式の演習を行なわないのは損失ともいえる。是非、輪読形式の演習もやっていきたい。

成績評価方法(総合) 主に卒論による。卒論の発表会も評価に入りうる。

メッセージ 自己実現：なりたい自分になれるように。みんな卒業・就職できますように。満足のいく卒論が書けますように。

連絡先・オフィスアワー : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 各自の卒業論文の作成をおこなう。個別指導に加え、ゼミ員相互の報告と意見交換を踏まえながら、完成度の高い卒業論文の作成を指導していく。

授業の一般目標 ゼミ員相互の論文報告をおこないながら、互いの論文に関与しつつ、みずからの論文の完成度を高めていく。

成績評価方法(総合) 自分の卒業論文執筆への取り組み度合いを評価する、また同時に、他のゼミ員の卒業論文報告への関与度合いも重視する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	橋本寛				

授業の概要 演習 I および演習 II における意思決定のモデルについての考察をもとにして卒業論文の作成に着手する。

授業の一般目標 卒業研究を行うとともに卒業論文の完成をめざす。

授業の計画(全体) 演習 II のときのテキストの残りを読むとともに、卒業論文作成のための準備をして順次作成作業を進める。

成績評価方法(総合) 卒業論文、出席などによる。

教科書・参考書 教科書：わかりやすい意思決定論入門, 木下栄蔵, 近代科学社, 1996年

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	古川澄明				

授業の概要 2年、3年の間に研究してきたテーマを卒業論文にまとめる。論文は、テーマ、内容及び方法の独創性を問われる。科学的に説得力のある、ユニークなビジネス・モデルの提案は、高く評価される。卒業論文のテーマについて、仮説を設定し、論証することが求められる。真剣に研究論文を作成する強い意欲が必要である。単に出席だけの授業ではなく、研究の成果が求められる。/ 検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

授業の一般目標 オリジナリティのある卒業論文をしあげること。前期中に指定ボリュームの論文を自分で完成すること。それをベースにして、後期には、論文を仕上げる。オリジナリティある、経営学知識を十分に学んでその成果を反映した卒業論文を作成することが求められる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。 思考・判断の観点： 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。 関心・意欲の観点： ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。 態度の観点： 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。 技能・表現の観点： PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。 その他の観点： ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるとというのが、ゼミの原則である。

授業の計画(全体) 論文の発表を中心にして、論文作成方法、内容、方法などを指導する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業事例研究
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回

- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 全体的に評価する。とくに積極性、プレゼンテーションの善し悪し、独創性を重視する。

教科書・参考書 教科書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。 / 参考書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。

メッセージ ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に面会可能。メールを相互連絡で常に使うので、メールアドレスを変更したら、連絡してください。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	成富敬				

授業の概要 卒業論文の作成を目標に、テーマの絞り込みと研究内容についての発表をおこなう。

授業の一般目標 研究の深化と卒業論文の作成。

成績評価方法(総合) 受講状況、発表状況および成果物などをもとに評価します。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	山下訓				

授業の概要 会計学演習 II に続いて、卒業論文を作成する。(税務専攻)

授業の一般目標 会計学演習 II で設定した課題をこなしながら、卒業論文作成の訓練を行う。

成績評価方法 (総合) 出席と発表によって評価する。

メッセージ 就職活動で忙しい時期もあるでしょうが、就職活動で休む場合にはメールを事前に送ること。メリハリをつけて、勉強と両立して下さい。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して設定する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 卒業論文の完成を目指して研究報告を行う。

授業の一般目標 卒業論文を完成する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	田淵太一				

授業の概要 卒業論文を完成させるまでの,テーマ設定,資料調査,執筆,修正の各段階を個別に指導する。

授業の一般目標 4年間の大学生活の集大成である卒業論文を完成させること。

授業の計画(全体) 各人の進路決定状況に合わせて個別に指導する。

成績評価方法(総合) 卒業論文で評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	李海峰				

授業の概要 ・1年間をかけて卒業論文を作成する。 ・卒業論文の作成基本方法から論文の構成、まとめ方について指導する。 テーマ選定、参考文献資料の収集、論文の仮説、データの収集、分析、結論、今後の課題/検索キーワード 卒業論文の作成、

授業の一般目標 研究課題、参考文献資料の収集、論文の仮説、データの収集、分析、結論、今後の課題などについて指導し、優秀な卒論を書かせることを目標にしている。

教科書・参考書 参考書：参考書リストは配布します

メッセージ おもしろい知的な道を探求しましょう！

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	尹春志				

授業の概要 各自のテーマに則して卒業論文の作成上の作法を学び、卒業論文を完成させる。

授業の一般目標 卒業論文を完成させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自のテーマについて基礎的な知識をみにつける 思考・判断の
 観点：各自のテーマにそくして自分の考え方を視角を養う 関心・意欲の観点：社会・政治・経済事象
 のなかから関心もてるテーマを探す 技能・表現の観点：卒業論文も学术论文である以上、それに必
 要な作法を学ぶ

授業の計画(全体) 毎回各自の卒業論文のテーマに則した報告を行い。全体で検討しつつ、最終的には
 卒業論を完成させる。

成績評価方法(総合) 基準に見合う卒業論文の作成

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 卒業論文を執筆する。テーマは、教員と学生の話し合いの上、4月中に決定する。

授業の一般目標 卒業論文を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 選択したテーマを論じるにあたって、基礎的知識を備えている。
 思考・判断の観点： 基礎的知識を身につけた上で、自分の見解を述べることができる。

授業の計画(全体) 4月中に論文のテーマを設定し、年内に卒業論文を書き上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 テーマの設定

第 2 回 項目 テーマ決定後、資料収集、論文執筆。

第 3 回 項目 同上。以下同じ。

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) 卒業論文の内容により評価する。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 各自、論文テーマを決め、文献を収集し進捗状況を順に毎週報告する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	澤田 正				

授業の概要 卒業論文の作成を各自のプロジェクトととらえ、各自が計画-実行-チェックというプロセスを自らマネジメントするとともに、チームとしてのゼミメンバーによる協働作業を取り入れることで、「期限内にゆとりを持って質の高い論文を作成する」というゴールの達成を目指す。

授業の一般目標 大学生生活の締めくくりとして、卒業論文のテーマを見つけ、論文の構想を練り、資料を集め、執筆スケジュールを考え、文章化し、期日までに卒業論文に仕上げの一連の過程を学生が自らセルフマネジメントして目標達成すること。それによりマネジメントのセンスと能力を身につけること。

メッセージ 自ら進んで、早め早めに対応することがすべてに通じる大事なことです。

連絡先・オフィスアワー (TEL)083-933-5580 (メール)sawadat@yamaguchi-u.ac.jp (オフィスアワー)

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 卒業論文を作成する

授業の一般目標 卒業論文を作成する

授業の到達目標 / その他の観点： 法学士の称号を与えられるに相応しい卒業論文をまとめること。

授業の計画(全体) 前期にテーマを選定し、後期は途中経過の報告を行う。

成績評価方法(総合) 提出された卒業論文により評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 講義や演習などで学んできた知識の集大成として、卒業論文を作成する。

授業の一般目標 論文の書き方を学び、卒業論文を正しく作成してもらうことを一般目標とする。

授業の計画(全体) 論文の書き方の概要を学び、各自が関心を持ったテーマを卒業論文として完成させるまでの過程・注意事項などを説明しつつ、詳細については、適宜受講生と相談しながら指導する。

成績評価方法(総合) 具体的には、次の点から評価を行いたい。(1) 法律関係の基本的知識が身についているか。(2) 関心を持ったテーマに意欲的に取り組んでいるか。(3) 授業に積極的に参加しているか。(4) 自己の知識、主張を適切に表現できるか。

メッセージ より良い卒論できるように、一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室にきてください。(研究室:経済学部 A 棟 408 号室)

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力(対自然支配力)はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 演習Ⅰ・演習Ⅱで習得した知識を土台に、より高度な環境経済学に関わる文献を輪読・討議しながら、独創的な研究論文を執筆する能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画(全体) ゼミ受講者を主体に、関心を持つ議題を討議した上、文献・書籍を選択し執筆計画を立てる。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	松浦良行				

授業の概要 データ分析に基づく、企業の競争力分析を実施し、卒業論文とする。

授業の一般目標 論理の一貫性を持ち、説得力のある文章を記述する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 必要十分なデータを自分で入手できる。 思考・判断の観点： 論理的な整合性ある文章を記述できる。 関心・意欲の観点： 一年間計画的に作業を継続できるだけの仮説を構築し、それに基づく実施可能なアクションプランを策定できる。 態度の観点： 論文の完成まで着実に努力できる。

成績評価方法 (総合) 上記を総合的に判断して評価する。

連絡先・オフィスアワー matu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 演習 I 及び演習 II での研究を基礎として、そこですくいきれなかった問題や、さらに発展させた課題について、個別に、あるいは演習参加社との討論を通じて卒業論文の執筆につなげます。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 前年度までの成果を受けて、卒論を作成する。また、作成の指導をする。

授業の一般目標 卒論を完成させる。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	一ノ澤 直人				

授業の概要 卒業論文の作成支援・研究の報告・検討

授業の一般目標 ゼミ生の4年間の学習・研究の集大成として、卒業論文の作成を行う。

授業の計画(全体) ゼミ生各自の卒業論文作成の進捗状況にあわせ、検討等を行う。後期に各自の研究の報告会を可能であれば設けたい。

成績評価方法(総合) 問題意識をもってテーマを設定し、法的思考方法をいかし論理的な調査研究がなされているかを卒業論文の作成作業、報告、検討を通じて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：各自の研究テーマに応じて適宜連絡する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論、各論の重要事項を考察していく。判例を考察しながら、刑法理論が具体的事案の解決にどのように適用されているかを見ていく。

授業の一般目標 刑法がどのような法律であるかを理解して貰う。その為に、刑法総論と各論の重要問題を考察していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法がどのような法律であるかを理解して貰う。 思考・判断の観点： 法的思考の考察ということから、判例を考察し、刑法理論が具体的事案にどのように適用されているかを見ていく。

授業の計画(全体) 各自の卒業論文のテーマに従って進めていく。

成績評価方法(総合) 日頃の授業への出席点、卒業論文の内容によって評価。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論, 安里全勝, 成文堂, 2008年; 演習ノート刑法総論, 齊藤誠二編, 法学書院, 2005年; 演習ノート刑法各論, 岡野光男編, 法学書院, 2008年

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 演習 I , 演習 II で調べたことを自分でまとめて卒論とするための指導を行う。

授業の一般目標 卒論作成。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 今まで勉強したことを自分の言葉でまとめる。 関心・意欲の
 観点： 1. 自分で問題を見つけること。 態度の観点： 1. 他人の発表にも積極的に取り組むこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp , 電話:933-5595 , 研究室:C213。 オフィスア
 ワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	山田正雄				

授業の概要 卒業論文作成のための報告及び指導

授業の一般目標 卒業論文を仕上げる。

授業の計画(全体) 各自で卒業論文のテーマを決定し、報告を重ねることによって、論文をまとめていく。

成績評価方法(総合) 卒業論文の内容と報告、出席により評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	古賀大介				

授業の概要 受講者各自が関心を寄せる産業・企業の過去・現在・未来についての分析を行ってもらおう。尚、日系企業と外資系企業との比較研究であることが望ましい。

メッセージ きちんと仕上げ、卒業しましょう。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	河野真治				

授業の概要 卒業論文を書き上げるために、テーマ設定、論文の書き方、資料の収集方法、などについて指導する。

授業の一般目標 立派な卒業論文を書くこと。

授業の計画(全体) 毎回卒業論文の中間報告を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の内容で評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	陳建平				

授業の概要 卒業論文の作成とそれに関連する学習

授業の一般目標 卒業論文の完成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒業論文の作成法、卒業論文のテーマに関わる知識を有すること。

思考・判断の観点：資料の収集、整理ができ、論理的思考能力を有すること。 態度の観点：授業の出席、議論に積極的に参加すること。

授業の計画(全体) 卒業論文の完成を目標に研究や報告、討論を行う。

成績評価方法(総合) 授業態度や授業への参加度 = 40% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 60%

教科書・参考書 教科書：必要に応じて別途指定する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	今津武				

授業の概要 各自の卒論のテーマについての研究を進め、その内容を順次発表する。発表内容に対し他のゼミ生、教員からの質問に回答しつつ、研究内容に活かしてゆく。

授業の一般目標 自分が関心を持ったテーマに対し、借り物でない自分なりの考えを展開し、論文を仕上げる。勿論自分勝手な論ではなく、客観的な資料、データを利用し、他のゼミ生にも納得できる内容にしてゆく必要がある。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 経済学部で履修した授業の内容、演習1, 演習2で議論してきた内容を踏まえ、自分が選んだテーマに対する関連資料を検索し、それらを有効に活用して論文を執筆する。 **思考・判断の観点:** 学んだこと、収集・分析した資料を駆使し、そうした資料棟をなぞるだけでなく、自分なりの考えを論理的に展開し、卒論にまとめる。 **技能・表現の観点:** 論文の内容もさることながら、規則に則った論理的で分かりやすい文章を書ける。

授業の計画(全体) 毎回2~3名の学生から卒論の進捗に合わせて研究内容を発表する。同時に、事象の理解や論の展開に関する疑問や質問についても発表し、他のゼミ生、教員の助言を求める。他のゼミ生も発表内容に関する意見や質問を行い、その過程を自らの研究に活かす。

成績評価方法(総合) 授業における発表内容、それに基づく議論への参加度、最終成果品である卒論の内容を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 研究の進捗に合わせ必要な図書、文献を照会する。

メッセージ 大学生活の集大成が「卒論」です。就職活動等もあり多忙になりますが、自分の学んだ証として質の高い「論文」を残しましょう。なお、就職活動等やむを得ない理由でゼミを欠席する場合は、事前にメール等で連絡してください。

連絡先・オフィスアワー 連絡はメールで。また、在室中はいつでも研究室で相談に乗ります。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	TIMOTHY ROLAND SCOTT TAKEMOTO				

授業の概要 (文化) 心理学的な論文を書くように頑張りましょう。皆さんが心理学専攻ではないことを考慮いたします。また、皆さんが発表者の本や心理学の入門書を読んできたら問題なく卒論がかけると思います。

授業の一般目標 卒論の完成に尽きる。

メッセージ いつでも質問してください。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	齊藤匡史				

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	篠原淳				

授業の概要 大学における学習の集大成として論文をまとめるものですから、多くの文献にあたり理解した上で自分の表現で論文を書くことを中心に指導する。 / 検索キーワード 関心

授業の一般目標 文献にある内容の把握と自分の主張したい部分を明確化して理論的に文章を書く能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本書を丁寧に読んだ上で多くの論文を読んで理解することを心がける。 思考・判断の観点：理解して主張したい点をできるだけ自分の言葉で表現する。 関心・意欲の観点：論文作成を進める上でそのテーマへの興味を深めながら調査していく。 態度の観点：受動的にならないよう率先して色々なものを調べていく。

授業の計画(全体) 前半は、設定テーマを大きく設定してその中で自分の関心のある部分を抽出し、その内容を調査・報告した上で後半において論文としてまとめていく。

成績評価方法(総合) まとめる過程の報告や調査対象を含め論文を中心に評価

メッセージ 4年間の集大成です。

連絡先・オフィスアワー 在室していればいつでも可 不在のこともあるのでメールで連絡をとって訪問のこと

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	鴨川啓信				

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 卒業論文演習では、演習 I、演習 II で学んだ内容を基礎として、卒業論文作成のためのグループ指導、個人指導、プレゼンテーション、他の学生からのコメントを得る発表を含め、最終的に、各自が選んだ研究テーマで、卒業論文を完成させることです。卒業論文演習では、各自選んだテーマについて、(1) 現状分析、(2) 先行研究のサーベイ、(3) 関連データの収集、(4) 分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、そして、論文形式に取りまとめていただきます。論文作成におけるグループ指導、個人指導、中間報告、個人指導、最終報告と進めていきます。論文作成における疑問や問題点は積極的に解決するように個人指導およびグループ指導の場で質問してください。/ 検索キーワード 観光経済、地域経済、地域活性化、地域経済分析、エコノミックインパクト、計量経済学、産業連関分析

授業の一般目標 ・現実の観光、社会や経済問題について理解をし、それについての情報および関連するデータを収集することができる。 ・授業で取り扱うデータや様々な統計データの特徴や問題点を理解し、経済分析に適切に利用することができる。 ・観光や経済に関する論文を作成する中で、論文のテーマに合わせた統計データと分析ができる。 ・取りまとめた分析や論文を人にわかりやすく、正確に伝えることができる。 ・卒業論文を最後まで書き上げる能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : ・観光および社会や経済の問題について、経済学的な観点で理解することができる。 ・授業で取り扱った統計および計量経済学的手法を理解し、レポート作成時に活用することができる。 **思考・判断の観点** : ・現実の観光や社会、経済の問題について、経済学的な観点から理解したことを、それがどのような意味をもっているのかを思考し、判断できる。 **関心・意欲の観点** : ・観光および社会や経済の問題について、高い関心を持ち、それについて自ら情報収集する。 ・自ら情報収集をしたり、授業で取り扱った内容を用いて、卒業論文作成に取り組むことができる。 ・ゼミのメンバーの考え方や意見に関心をもつとともに、自らの考え方や意見も積極的に述べるができる。 **態度の観点** : ・学ぶことに積極的かつ真摯に向うことができること。 ・ゼミのメンバーの考え方や意見も尊重する中で、自分の考えや意見を述べるができる。 ・観光として重要なホスピタリティの精神をもって、なにごとにも対応できる。 **技能・表現の観点** : ・卒論や卒論のレジメ作成において、適切な情報およびデータを用いながら分かりやすく作成することができる。 ・卒論の中間発表、最終発表において、聞き手の立場に立って分かりやすくプレゼンテーションをすることができる。

授業の計画(全体) 卒業論文演習では、各自が選んだテーマについて、(1) 現状分析、(2) 先行研究のサーベイ、(3) 関連データの収集、(4) 分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、そして、論文形式に取りまとめていただきます。4月の早い段階で、テーマに関する面接、グループ指導、個人指導を行います。夏休み中または終わりに中間発表を行います。中間発表において得られた視点、問題、課題を整理し、グループ指導と個人指導を行い、12月までに論文を仕上げます。卒論提出には教員による数回の個人指導を必ず受けることが必要になります。必要な訂正・補足などを加え、卒業論文を完成していただきます。卒業論文提出後、演習 II の履修者も参加する卒業論文報告会を開きますので、そこでプレゼンテーションをしていただきます。卒業論文の執筆には多くの時間を要することを踏まえ、積極的に取り組んでください。

成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度は 50%、受講者の発表(プレゼン)・卒業論文は 50%、出席は欠格条件とします。論文の形式、分析方法など卒論の水準に到達しているかが大変重要である。卒業論文をより正確に評価するためにも、必ず教員の指導を受けてください。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

メッセージ 卒業論文演習は、学生の皆さんが主役です。学生さん個人が卒業論文へ取り組みながら、あるときは学生さん同士で協力し、学ぶことで刺激し合える仲間になっていただければ、ゼミを担当する者として大変うれしく思います

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	石田成則				

授業の概要 卒業論文の作成指導

授業の一般目標 プレゼンテーション能力の向上と卒業論文の取り纏め

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：仮説の設定とその検定手法 技能・表現の観点：プレゼンテーション能力

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 これまでに蓄積した専門知識などを最大限活用して卒業論文の作成を行います。

授業の一般目標 子、孫、おい、めいなどに自慢できるような卒業論文の完成を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：正しい知識に基づいて論文を作成しているか 技能・表現の観点：論文をわかりやすく、正しい書式に基づいて作成しているか。

成績評価方法 (総合) 論文の内容、積極的態度

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 卒業論文は、大学生生活の総決算となる集大成である。基本的に学生が問題意識をもって、積極的に研究するのであるが、教員はそれを支援することにある。 / 検索キーワード 正しい専門知識の活用、論理性、展開の可能性

授業の一般目標 卒業論文は、専門知識と論理の展開、思考力の深さ、さらに展開の可能性で評価されるが、本学部は伝統的に論文の水準が高いので、この水準を上回るように指導したい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門知識の正しい理解と活用によって、論文が展開されているか。

思考・判断の観点：研究問題について、論理的で深い思考を示しているか。 関心・意欲の観点：必読文献を十分にこなし、先達の研究を正しく理解し、自己の視点を展開しているか。

授業の計画(全体) 各学生の卒業論文のテーマに沿って発表してもらう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 2 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 3 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 4 回 項目 各学生の論卒論テーマに沿った発表
- 第 5 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 6 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 7 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 8 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 9 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 10 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 11 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 12 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 13 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 14 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 15 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表

成績評価方法(総合) 卒業論文の完成度と各自の発表態度

メッセージ 必読文献を十分に読む

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	藤田健				

授業の概要 卒業論文の完成に向けて、研究指導を行う。

授業の一般目標 1 . 卒業論文を完成させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の研究対象について知識を深める。 思考・判断の観点：問いに対して、論理的かつ説得的に答えを提示する。 技能・表現の観点：論理的で読みやすい文章を作成する。

授業の計画(全体) 基本的に毎回、卒業論文の完成に向けた研究指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文(60%) , 研究報告(20%) , ディスカッションへの参加度(20%)

教科書・参考書 教科書：大学生のためのレポート・論文術, 小笠原喜康, 講談社現代新書, 2002年 / 参考書：これから論文を書く若者のために 大改訂増補版, 酒井聡樹, 共立出版, 2006年

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 各自選定したテーマに基づいて、卒業論文の作成指導を行う。

授業の一般目標 卒業論文を作成する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	米谷 健司				

授業の概要 卒業論文の執筆方法を指導します。

授業の一般目標 卒業論文を執筆するために必要な能力の習得を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文献収集やデータ分析を学習します。 思考・判断の観点：論理的に考える力を養います。 関心・意欲の観点：独創性のある論文を執筆できるようにします。 態度の観点：1つのテーマをじっくり考える力を養います。 技能・表現の観点：自分の論文のユニークさを他の人にきちんと説明できるようにします。

成績評価方法 (総合) 演習への貢献度を中心に、総合的に判断します。

教職に関する科目等

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝沢 潤				

授業の概要 教員免許状の取得を希望する者に対して、教師をとりまく状況、教職の意義、魅力、教員の役割、職務内容、組織としての学校、教職観の変遷等について講義する。/ 検索キーワード 教師、教育職員、学校教育、教員免許状

授業の一般目標 (1) 教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解し、教員の役割、職務内容等についての基礎的な知識を習得する。(2) 自己の教師としての適性を考えさせるとともに、教職への意欲や一体感の形成を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解する。教員の役割、職務内容を説明できる。思考・判断の観点：教師をとりまく状況、教職の役割等について検討することができる。関心・意欲の観点：教職について関心をもち、その意義と役割を主体的に考えることができる。様々な観点から自己の教師としての適正を考えることができる。態度の観点：教師を巡る諸問題について、論理的、協調的な議論ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の目的・概要の説明、教師とは誰か？ 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 教師－生徒関係
- 第 3 回 項目 教科等の指導
- 第 4 回 項目 子どもの学ぶ意欲を伸ばす
- 第 5 回 項目 学級経営と教師
- 第 6 回 項目 生徒指導
- 第 7 回 項目 家庭・地域社会と学校
- 第 8 回 項目 教師の問題行動とメンタルヘルス
- 第 9 回 項目 学校の管理・運営と教師(1)
- 第 10 回 項目 学校の管理・運営と教師(2)
- 第 11 回 項目 教員の身分と服務(1)
- 第 12 回 項目 教員の身分と服務(2)
- 第 13 回 項目 教師の資質向上
- 第 14 回 項目 学校像の再構築
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを行う。(2) 期末試験の論述問題をあらかじめ提示し、解答案を作成させる。(3) 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福石賢一				

授業の概要 授業は、第1部 現代の子どもたちと学校、第2部 教育の諸概念・思想、第3部 近代公教育の成立、第4部 現代日本の教育課題、第5部 教育学と教師から構成される。主として教育の歴史を紐解きながら、人はなぜ学び、なぜ教育するのかという教育についての普遍的問いについて考えていく。 / 検索キーワード 教育の目的 学ぶ目的 教育の課題 教育学と教職

授業の一般目標 教育の思想・歴史に関する基本的な知識を習得しつつ、教育に関する様々な論点について考えていくことで学校教育の目的について深く認識し、教職への見通しを具体化させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 教育学に関する基本的な知識を習得する。 思考・判断の観点： 議論を通して、現代の教育が抱える問題について客観的・論理的に考える習慣を身に付ける。 態度の観点： 講義にはすべて出席する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちと学校 内容 現代の子どもたちと学校
- 第 3 回 項目 教育の諸概念・思想 内容 教育はいつ始まったか
- 第 4 回 項目 教育の諸概念・思想 内容 「教育」という言葉と概念
- 第 5 回 項目 教育の諸概念・思想 内容 主要な教育思想について
- 第 6 回 項目 近代公教育の成立 内容 公教育とは何か
- 第 7 回 項目 近代公教育の成立 内容 近代公教育の成立：フランス
- 第 8 回 項目 近代公教育の成立 内容 近代公教育の成立：イギリス
- 第 9 回 項目 近代公教育の成立 内容 近代公教育の成立：日本（1）
- 第 10 回 項目 近代公教育の成立 内容 近代公教育の成立：日本（2）
- 第 11 回 項目 現代日本の教育課題 内容 現代日本の教育課題（1）
- 第 12 回 項目 現代日本の教育課題 内容 現代日本の教育課題（2）
- 第 13 回 項目 教育学と教師 内容 教育学の歴史
- 第 14 回 項目 教育学と教師 内容 現代の教育学と教師
- 第 15 回 項目 テスト 内容 テスト

成績評価方法（総合） 出席点、授業態度、最終テストにより総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 講義の後。

備考 集中授業

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田 権一				

授業の概要 教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目標は倫理学で、方法は心理学で体系づけられる」としている。受講者が、将来、教育現場で教育実践効率化のために活かせるような、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指名された受講者は、その時間のテーマについて、ノートを完成させ、考察した内容（ノートレポート）を提出することになる。 / 検索キーワード 教育, 心理学, 発達, 家庭教育, 学習, 人格, 学級経営, 教育評価

授業の一般目標 (1) 受講者が、教職を目指す者として教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近な問題として理解するだけでなく、専門の立場から具体的に考えることや対応を志向する契機となることを目指す。教育や心理学関連の分野での文書表現の契機となることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 生徒の立場を把握し、教師の立場から適切な判断や支援ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識を高めることができる。 態度の観点：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：1. 身近な問題を文書表現できる。

授業の計画（全体） 教育と心理学、教育心理学研究法、被教育者としての生徒の発達、家庭教育、認知と学習、人格と防衛機制、学級経営とリーダーシップ、教育評価の種類と方法、について、順に、各テーマを1～3回に分けて、説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 教育と心理学、教育心理学の定義 授業外指示 ノートレポートの書き方
- 第 2 回 項目 教育心理学研究法
- 第 3 回 項目 被教育者について 内容 発達段階
- 第 4 回 項目 家庭教育 内容 親子関係 家庭の機能
- 第 5 回 項目 学習 内容 学習の原理、条件づけ
- 第 6 回 項目 学習 内容 VTR (学習の原理)、動機づけ
- 第 7 回 項目 学習 内容 授業理論
- 第 8 回 項目 人格 内容 生徒指導と人格理論
- 第 9 回 項目 人格 内容 適応と防衛機制、心理検査の種類
- 第 10 回 項目 人格 内容 VTR (スクールカウンセラー)
- 第 11 回 項目 学級経営 内容 集団の理解
- 第 12 回 項目 学級経営 内容 リーダーシップ
- 第 13 回 項目 教育評価 内容 評価の意味と種類
- 第 14 回 項目 教育評価 内容 指導要録
- 第 15 回 項目 討論

成績評価方法（総合） (1) 所定以上の出席状況（欠格条件）、(2) レポート課題（電子メールによる提出も可）、(3) 授業最後に実施するテスト結果。 これらを資料として評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界、藤土圭三（監修）、北大路書房、1994年 / 参考書：心理学辞典、中島義明ほか、有斐閣、1999年；適宜、補助資料を配布する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: tasaki@frontier-u.jp

備考 集中授業

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田 香奈				

授業の概要 教育法規を初めて学ぶ学生を対象に、日本の教育制度を規定する法令・規則について解説する。生涯学習の概念について概説した後、学校教育の制度、教育を受ける権利の保障、教育課程の編成、児童生徒の在学管理と懲戒、教育職員の職務、教育行政、社会教育に関する法規について説明する。 / 検索キーワード 教育法規、生涯学習、教育制度、学校教育

授業の一般目標 教育に関する基本的な法規を理解し、教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育に関する基本的な法規を理解する 思考・判断の観点：教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 シラバス、教科書第 1 章
- 第 2 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 3 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（1） 内容 教科書第 3 章
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（2） 内容 教科書第 3 章
- 第 6 回 項目 教育課程の編成と法規（1） 内容 教科書第 4 章
- 第 7 回 項目 教育課程の編成と法規（2） 内容 教科書第 4 章
- 第 8 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（1） 内容 教科書第 5 章
- 第 9 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（2） 内容 教科書第 5 章
- 第 10 回 項目 教育職員の職務と法規（1） 内容 教科書第 6 章
- 第 11 回 項目 教育職員の職務と法規（2） 内容 教科書第 6 章
- 第 12 回 項目 教育行政の推進と法規（1） 内容 教科書第 7 章
- 第 13 回 項目 教育行政の推進と法規（2） 内容 教科書第 7 章
- 第 14 回 項目 社会教育の推進と法規 内容 教科書第 8 章
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規，田代直人編，ミネルヴァ書房，2003 年 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 教科書を必ず購入すること。

連絡先・オフィスアワー 大学教育センター吉田（共通教育棟 3 階） Email: ykana@yamaguchi-u.ac.jp、
オフィスアワー：火曜日 14:00-16:00

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸光城				
<p>授業の概要 高等学校・中学校における「各教科」、「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいれて、その教育作用の全体構造を概観しつつ、授業における教育方法を具体的に説明する。 / 検索キーワード 教育方法, 授業, 教育課程</p> <p>授業の一般目標 (1) 学校における「授業」の意義・役割を理解する。 (2) 授業における指導方法の基本を具体例を通して学ぶ。 (3) 現代教育方法理論を理解する。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各指導方法がイメージできる。 思考・判断の観点: 本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。 関心・意欲の観点: 学校の授業に対する問題意識と興味関心を高めることができる。 態度の観点: 将来の授業実践を意識して大学生生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目「教育」とはな < BR > にか 内容 林竹二「授業巡 < BR > 礼」の視聴</p> <p>第2回 項目 学校教育作用の < BR > 構造 内容「教授」と「教 < BR > 育」のバランス < BR > と協同</p> <p>第3回 項目 高等学校教育課 < BR > 程の基本</p> <p>第4回 項目 授業設計の方法 内容「学習指導案」 < BR > の基本と実例</p> <p>第5回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 I 内容 一斉授業</p> <p>第6回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 II 内容 小集団指導</p> <p>第7回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 III 内容 個別指導</p> <p>第8回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 IV 内容 録画授業の視聴</p> <p>第9回 項目「総合的な学習 < BR > の時間」の意 < BR > 義、実践事例</p> <p>第10回 項目 教育機器の活用</p> <p>第11回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 I 内容 デューイの問題 < BR > 解決思考論</p> <p>第12回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 II 内容 デューイの教育 < BR > 方法論</p> <p>第13回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 III 内容 ブルーナーの教 < BR > 育方法論</p> <p>第14回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 IV 内容 ブルーナーの教 < BR > 育課程論、学習 < BR > 意欲論</p> <p>第15回 項目 試験</p> <p>成績評価方法(総合) 1. 毎回の出欠確認 2. 授業内レポート(数回) 3. 録画授業感想文 4. 最終定期試験</p> <p>教科書・参考書 教科書: なし / 参考書: 随時紹介する</p> <p>メッセージ 少なくとも受講中は、間もなく高等学校(中学校)の教師として授業するのだという姿勢で、聞き考えて欲しい。</p> <p>連絡先・オフィスアワー Tel. 090-1189-8047 (携帯)</p>					

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法改正問題を取りあげ、9.11以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。/ 検索キーワード 平和教育 国際平和 日本の役割 憲法9条 自衛隊

授業の一般目標 1. 9.11以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。 2. 独自の立場から、憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 憲法前文・9条を中心に憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和について、テーマを選び教材研究をすることができる。 思考・判断の観点： 憲法改正問題について独自の意見をまとめ、討論することができる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 憲法改正に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題
- 第 8 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 1
- 第 9 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 3
- 第 13 回 項目 中・高生の意識実態と平和教育の課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 20 ~ 40 % 受講者の発表 (プレゼンテーション) や授業内での制作作業 (作品) = 40 ~ 60 %

教科書・参考書 教科書： なし 適宜プリント配布する。 / 参考書： 当面なし

連絡先・オフィスアワー 外山英昭： E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	商業科教育法	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	小川 勤				

授業の概要 「商業科教育法」では、「商業」はどのような分野を対象とし、またそれはどのような内容を含むのかを学ぶ。さらに教科「商業」の各分野について、我が国の社会性や歴史性をも考慮するとともに、高等学校における教科「商業」教育の専門性の意味するところを踏まえながら、その内容とあわせて教師に求められる指導のあり方を学習する。また、後半には指導案や年間指導計画の作成演習を実施する。また、現在の商業教育の中で求められている「起業家精神の育成」に関する指導方法を演習する。/検索キーワード 学習指導要領、教科、科目、学科、教科「商業」、教科「商業」の各分野及び専門性 ビジネス教育 起業家精神

授業の一般目標 1. 平成 11 年 3 月告示の「高等学校学習指導要領」は、教科「商業」の目標について、前年 7 月の教育課程審議会によって示された「経済の国際化やサービス化の進展に対応する観点から、ビジネス教育の視点を明確にする」とした「商業の改善の基本方針」を踏まえ、「商業教育のねらいを、継続教育を視野に置いた専門性の基礎・基本の教育に重点を移す」とした大幅な改定を見た。そこで、生涯学習の視点を踏まえた「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」の理解とあわせて教職の使命と特殊性について考えてみる。2. 学校教育改善の動きの中で、その目指すところを的確に把握し、教育の現場にも幅広く対応できるよう配慮しながら、教科教育のあり方についての認識を深め、あわせて人格の向上への意欲を涵養する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 適切な判断を導く上で必要な基礎・基本の知識を身に付けている。思考・判断の観点：1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。2. 商業教育のイノベーションのために新たな教育方法を創造できる。関心・意欲の観点：1. 新たな未経験・未知の分野の学習に対し積極的な取り組みの姿勢がある。2. 起業家精神の育成の立場からいくつかの企業のケーススタディに積極的に取り組んでいく姿勢を持っている。態度の観点：1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。技能・表現の観点：1. 課題のまとめに際して、適切・有効な図表などの作成・挿入ができる。

授業の計画(全体) 主として、1. 学校教育と教科 2. 教科「商業」の目標の変遷に見る内容の捉え方に対する視点やその表現方法の変化と、商業科目の変遷及びその背景 3. 現行教科「商業」の目標の改善点と留意点 4. 教科教育と教育法 5. 学習指導計画と教育実践及び評価 6. 学習指導案の作成 7. 教員の使命と教職の特殊性・専門性 8. 起業家精神の養成と商業教育などの内容を取り上げて授業を進める。この他に宿題・授業外レポートとして「ビジネス基礎」、「簿記」、「情報処理」などの学習指導案を作成や年間指導計画の作成演習を実施する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 学校教育と教科 内容 (1) 教育の目的と学校教育 (2) 高等学校の目的・目標と各教科の目標 (3) 教科「商業」の目標とビジネス教育
- 第 2 回 項目 同上 内容 (4) 教科「商業」の組織 (5) 教科「商業」の各科目の目標と内容
- 第 3 回 項目 2. 教科「商業」の目標の変遷に見る内容の捉え方に対する視点やその表現方法の変化と、商業科目の変遷及びその背景 内容 (1) 戦後の復興期 (昭和 20 年代) (2) 自立期 (昭和 30 年代)
- 第 4 回 項目 同上 内容 (3) 高度成長期 (昭和 40 年代) (4) 転換期 (昭和 50 ~ 平成元年代)
- 第 5 回 項目 同上 内容 (5) 変革期 (平成 10 年代)
- 第 6 回 項目 3. 現行教科「商業」の目標の改善点と留意点 内容 (1) ビジネス教育の視点 (2) 全般的改善点と留意点
- 第 7 回 項目 4. 学習指導計画と教育実践及び評価 内容 (1) 学習指導計画の意義と種類 (2) 学習内容と指導目標の設定並びに評価の観点と留意事項

- 第 8 回 項目 5. 学習指導案の作成 内容 学習指導案の作成の説明と演習 授業外指示 各自で決めた科目の学習指導案の作成を実施
- 第 9 回 項目 同上 内容 学習指導案の作成演習 授業外指示 各自で決めた科目の学習指導案の作成を実施
- 第 10 回 項目 同上 内容 学習指導案の作成演習 授業外指示 各自で決めた科目の学習指導案の作成を実施
- 第 11 回 項目 6. 年間指導計画の作成演習 内容 年間指導計画の作成の説明・演習 授業外指示 各自で決めた科目の年間指導計画の作成を実施
- 第 12 回 項目 同上 内容 年間指導計画の作成演習 授業外指示 各自で決めた科目の年間指導計画の作成を実施
- 第 13 回 項目 同上 内容 年間指導計画の作成演習 授業外指示 各自で決めた科目の年間指導計画の作成を実施
- 第 14 回 項目 7. 商業教育の中での起業家精神養成 内容 (1) 起業家精神の養成 (2) ケーススタディ
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法 (総合) 定期試験 (学期末試験) (60%)、提出物 (宿題・授業外レポート) (30%)、授業への出席率 (10%) で評価する。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用しないが、講義のレジユメを配布する。 / 参考書：高等学校学習指導要領, 文部省, 大蔵省印刷局, 1999 年; 同解説総則編, 文部省, 東山書房, 1999 年; 同解説商業編, 文部省, 実教出版, 2000 年; 文部省検定教科書「ビジネス基礎」, 片岡寛他, 実教出版, 2002 年; 同上「高校簿記」, 同上「最新情報処理 21」, 新井清光他, 中沢興起他, 実教出版, 2002 年; プリント類は授業の中で必要に応じて随時配布する。他に、参考書としては、吉野 弘一著『商業科教育法』2002 年、実教出版

メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。最近商業教育で求められている「起業家精神」の育成方法についても授業で取り組みます。

連絡先・オフィスアワー 研究室 (本部棟 3 階) オフィスアワー 金曜日 午後 2 時 ~ 午後 4 時 メールアドレス: ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 痢濠宗 <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ogawa-t/>

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	杉山直子				

授業の概要 本授業では、学校教育で教科外活動に位置する特別活動について、その意義と実践のあり方について考察する。意義を考える中で、教育・子どもに関する現代的問題、子どもの発達と教育の関係について理解を深め、教育の機能・構造について、学ぶ。そして、その中の訓育について理解を深め、学校教育における特別活動の目標・内容・方法を考察する。 / 検索キーワード 訓育, 教科外活動, 学校行事, 生徒会活動, 学級活動

授業の一般目標 (1) 人間の発達における教育の必要性、目的、方法を理解する。 (2) 教育の機能と領域について理解する。 (3) 学校教育における特別活動の意義、方法を理解し、望ましい指導のあり方について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育、その機能、目的、方法と特別活動について説明できる。

思考・判断の観点： 1. 自己の教育体験を客観化できる。 2. 理論をもとに思考・判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 講義をもとに教育に関心を持ち、問題意識を持つことができる。 態度の観点： 1. 講義に集中し思考する態度がとれる。 2. 集団活動に参加できる。 技能・表現の観点： 1. 集団活動で、他者と自分、集団と自分を意識し行動できる。

授業の計画(全体) 第1章 人間の発達と教育 1、人間の発達と教育の関係 2、教育の構造 3、学校教育における陶冶と訓育 第2章 学校教育における「特別活動」の意義 1、学校教育における「特別活動」の変遷 2、現学習指導要領における「特別活動」 第3章 「特別活動」の指導のあり方 1、個の受容と教育的要求 2、望ましい集団のあり方 3、子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 本授業の概要と注意事項
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育(1) 内容 人間の発達と教育の関係ーヒトと人間ー 授業外指示 これまでの教育に関する授業を思い起こす。
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育(2) 内容 人間とは 授業外指示 人間らしさ、人間の独自性について、様々な領域で考えてみる。
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育(3) 内容 環境と子どもたちの発達の問題 授業外指示 現在の子どもたちの環境を知る。
- 第 5 回 項目 「話し合い」活動 内容 現代の子どもたちについて気づくことを話し合う。 授業外指示 意見を出すための情報収集
- 第 6 回 項目 教育の構造 < BR > (1) 内容 教育に関する歴史的把握と構造 授業外指示 陶冶と訓育について、具体的にイメージする。
- 第 7 回 項目 教育の構造 < BR > (2) 内容 陶冶と訓育
- 第 8 回 項目 学校教育の構造 内容 教科と教科外活動 授業外指示 学習指導要領に目を通す。
- 第 9 回 項目 学校教育における特別活動の意義(1) 内容 特別活動の歴史的変遷
- 第 10 回 項目 学校教育における特別活動の意義(2) 内容 現学習指導要領における教育課程の基準 授業外指示 「生きる力」について考えてみる。
- 第 11 回 項目 学校教育における特別活動の意義(3) 内容 現学習指導要領における特別活動の目標・内容 授業外指示 自己の特別活動としての教育体験を思い起こす。
- 第 12 回 項目 特別活動の指導のあり方(1) 内容 個の受容と教育的要求
- 第 13 回 項目 特別活動の指導のあり方(2) 内容 方法原理である望ましい集団の組織方法 授業外指示 集団遊び、討議などについて思い起こす。
- 第 14 回 項目 特別活動の指導のあり方(3) 内容 子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で、授業内レポートを数回行う。(2) 最後に試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：中学校学習指導要領, 文部科学省, ; 高等学校学習指導要領, 文部科学省, ; 上記の書物は、主に第2章で使用。第1章・第3章はプリントを配布。 / 参考書：プリントを資料として使用する。その他参考文献は、授業中に指示。

メッセージ 子どもに関する情報に関心を持って欲しい。

開設科目	生徒指導概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	黒田 耕司				

授業の概要 今日、「学級経営」や「生徒指導」に関する学校教育のあり方が厳しく問われている。この授業では、学校教育の全領域における「生徒指導」の原則と指導方法を検討し、現代の学校教育における「生徒指導」のあり方を探求する。 / 検索キーワード 生徒指導、指導、教師、子ども

授業の一般目標 1 「生徒指導」および「指導」の概念を問いなおす。 2 . 学びを通して、コミュニケーションの実践的能力を培う。 3 . 子どもとともに拓く「生徒指導」とは何かを考えていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「生徒指導」の基本理念・基本概念・基本方略を理解すること。
 思考・判断の観点：「生徒指導」について思考・判断し、自らの言葉で発言・論述できること。 関心・意欲の観点：授業中に提示される様々な課題に積極的な関心と意欲をもつこと。 態度の観点：主体的に考え、発表すべく行動表現すること。 技能・表現の観点：発言や記述や討論に参加できること。
 その他の観点：（正当な理由なく）欠席や遅刻をしないこと。また、私語や居眠りをしないこと。

授業の計画（全体） 1 「学校教育」の現状と「生徒指導」の歴史と課題 2 「生徒指導」の「内容」と「方法」と「本質」 3 「特別活動」「道徳教育」と「生徒指導」 4 「学級活動」「学校行事」「生徒会活動」「進路指導」と「生徒指導」 5 「問題行動」の指導と「体罰」「懲戒」 6 「生命の教育」とこれからの「生徒指導」

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代の教育における諸問題 内容 学校教育の現状と未来の教育 授業外指示 概要のまとめ
- 第 2 回 項目 生徒指導の歴史と伝統 内容 わが国の伝統としての生徒指導 授業外指示 概要のまとめ
- 第 3 回 項目 生徒指導の本質 内容 指導の本質 授業外指示 概要のまとめ
- 第 4 回 項目 生徒指導の内容と方法 内容 生徒指導の内容と方法の具体 授業外指示 概要のまとめ
- 第 5 回 項目 特別活動と生徒指導 内容 特別活動と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 6 回 項目 道徳教育と生徒指導 内容 道徳教育と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 7 回 項目 学級活動と生徒指導 内容 学級活動と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 8 回 項目 学校行事・生徒会活動と生徒指導 内容 学校行事・生徒会活動と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 9 回 項目 進路指導と生徒指導 内容 進路指導と生徒指導の関連と内容 授業外指示 概要のまとめ
- 第 10 回 項目 生徒指導の諸問題（1）「禁煙」の指導 内容 生徒指導の典型的な事例の検討（1） 授業外指示 概要のまとめ
- 第 11 回 項目 生徒指導の諸問題（2）「遅刻・私語・居眠り」の指導 内容 生徒指導の典型的な事例の検討（2） 授業外指示 概要のまとめ
- 第 12 回 項目 生徒指導の諸問題（3）「掃除」の指導 内容 生徒指導の典型的な事例の検討（3） 授業外指示 概要のまとめ
- 第 13 回 項目 生徒指導の諸問題（4）「体罰」と「懲戒」 内容 生徒指導の典型的な事例の検討（4） 授業外指示 概要のまとめ
- 第 14 回 項目 生徒指導の諸問題（5）「生命」の教育 内容 生徒指導の典型的な事例の検討（5） 授業外指示 概要のまとめ
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめ 授業外指示 概要のまとめ

成績評価方法（総合）(1) 講義中に小論課題の問題を課す。(2) 最後に試験を実施する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位は与えない。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：適宜プリントを配布する。

メッセージ 授業に「出席」することと「参加」することとは異なる。ただ授業に「出席」しているというのではなく、積極的な身体的応答と意志をもって授業に「参加」し、共同的に学んでいくことを強く期待している。

連絡先・オフィスアワー 授業の前後に相談を受け付ける。

備考 集中授業

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 現在の学校は、不登校、いじめ、校内暴力など、さまざまな問題に直面している。その学校に生きる子どもたちに教師やスクールカウンセラーがいかに寄り添えば、彼らの心が育っていくかについて提言し、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。/ 検索キーワード 子どもに対する「支え」と「引き上げ」

授業の一般目標 学校にうまく適応できなかったり、進路選択に迷っている子どもたちに対し、教師としてあるいはスクールカウンセラーとして、どのようにサポートしていけばよいだろうか。学生自身の指針が描けるような講義にしたい。さらにそれぞれの子どもは、もっている問題も、置かれている状況も違うので、個々のケースに対応しうるような教育相談のセンスを養いたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どものもつ問題には、いろいろな見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題を、いかに克服していくかが鍵となる。そのためには、子どもを「支え」かつ「引き上げる」のせめぎ合いの葛藤の中で、解決策を、教師自らが苦しみながら生みしていくことが大切である。さらに基本的な心理療法の知識についても修得したい。 思考・判断の観点：個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。 関心・意欲の観点：評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った見方ができるようになりたい。 態度の観点：今までの見方をあえて変えてみるような勇気を求めたい。

授業の計画（全体）子どもの個性の伸張と、社会の成員としての資格をいかに融合させていくかが、結局子どもの成長を促していく。それをサポートする教師にはどのような姿勢が求められるか、また支援していくかを詳しく解説していく。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちの特徴 - 問題となっていること -
- 第 3 回 項目 適応障害の診断と基準
- 第 4 回 項目 教育相談における「支え」と「引き上げ」およびそのせめぎ合い -
- 第 5 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 小学校編 -
- 第 6 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 中学校編 -
- 第 7 回 項目 現代の子どもにおける「キレル」ということ
- 第 8 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 高等学校編 -
- 第 9 回 項目 子育てにおける「抱える」ということ
- 第 10 回 項目 学校における相談事例 1 - 不登校 -
- 第 11 回 項目 学校における相談事例 2 - 非行 -
- 第 12 回 項目 学校における相談事例 3 - 軽度発達障害 -
- 第 13 回 項目 教育相談における心理検査
- 第 14 回 項目 教育相談における心理療法 1 - 来談者中心療法と精神分析療法 -
- 第 15 回 項目 教育相談における心理療法 2 - ブリーフセラピーや認知行動療法を中心に -

成績評価方法（総合）基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや課題提出および出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作のテキストを配布します。（一冊 500 円） / 参考書：教室で生かすカウンセリングマインド - 教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999 年；生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999 年

メッセージ 授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポート課題を数回実施します。期末試験と同様に準備を怠らないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	総合演習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭他 5 名				

開設科目	教育実習(高)	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官	経済学部担当教員				

授業の概要 高等学校教諭免許(公民)に必要な教育実習を、高等学校において行う。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。
3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	事前・事後指導	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	その他
担当教官	古堤 一三				

授業の概要 実習校に出向き学校教育を実際に体験する教育実習に備えるために本学の各学部の合同で実施する事前指導の後を受けて、特に教科「商業」免許状取得希望者を対象に日を改めて実施する事前、事後の指導です。 / 検索キーワード 教育職員免許法, 教育職員免許法施行規則, 事前指導, 事後指導

授業の一般目標 教育実習は、教職志望者が実際の現場に出向いて、教員の職務の一部を実際に担当することを通じて教育活動を体験することですが、この実習を通して下に示すようなねらいを把握し、認識するとともに、教員の使命及び教職の特殊性・専門性に対する自覚を深め、「教師自身が彼らと共に善さを求めて成長する存在でなくてはならない」ことに目を開かせ、意欲的且つ真摯な気持ちで実習に取り組む姿勢を涵養する。 1. 教育理論を実証的に研究し、その深化をはかる。 2. 教員として必要な知識や技術、技能の習得とあわせて具体的な指導方法を習得し、指導力を身につけていく中で、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを認識する。 3. 教育の社会的役割を認識し、公教育に従事する者としての姿勢や態度、心がまえを身につけさせる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育実習の意義を理解し、実習生自身が行動の主体者であることを自覚する。 2. 専門的な用語について、具体的に、平易な言葉で、正確な説明ができる。 思考・判断の観点： 1. 公教育に従事する者としての自覚の上に適切な判断や行動ができる。 2. 専門教科に関連して、変化する経済社会の目指す方向を把握し、その動きへの対処のあり方や問題点などについて考える力がある。 関心・意欲の観点： 1. 新たな未経験・未知の分野に対する積極的な取り組みの姿勢がある。 2. 変化する世界の動きに強い関心があり、グローバルな目でものごとを見ようとする姿勢がある。 態度の観点： 1. 研究心を持ち、生徒と共に成長を目指そうとする意欲的で前向きな真摯な姿勢・態度がある。 2. 現状に満足せず、判断のもととなる知識の幅を広げていこうとする姿勢・態度がある。 技能・表現の観点： 1. 口頭或いは文章などで自己の考えやその考え方を述べる上で必要、適切な語彙力がある。 1. 教材を分かりやすく、系統立てて提示することができる。 その他の観点： 1. 長期的な立場に立ってものごとを考える場合に必要とされる、その歴史性、社会性に配慮しての、与件についても十分な考察力がある。

授業の計画(全体) 公教育に従事する者としての責任を自覚し、絶えざる努力の中で実践力を身につけることにより、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを自覚できるよう、意欲的で真摯に取り組む姿勢や態度の涵養に資することをねらいとして、 1. 事前指導では主として、(1) 教育実習の意義 (2) 教員の使命と教職の特殊性・専門性 (3) 教育実習における留意事項 (4) 学習指導案の作成 (5) 教育実習における評価の観点 などを取り上げる。 2. 事後指導では主として、実習生全員による (1) 教育実習の態様 (2) 反省点及び学び考えたこと (3) 将来に向けての抱負 などについての体験発表を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 1. 事前指導 内容 (1) 教育実習の意義 (2) 教員の使命と教職の特殊性・専門性 (3) 教育実習における留意事項 (4) 学習指導案の作成 (5) 教育実習における評価の観点 授業外指示 実習校との打ち合わせ、諸連絡、実習関係提出物の指示 授業記録 実習終了後、所定日までに学務係へ提出

第 2 回 項目 2. 事後指導 内容 教育実習生による体験発表 (1) 教育実習に対する取り組みの姿勢や態度 (2) 反省点及び考えたこと (3) 将来に向けての抱負 (4) その他

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 事前・事後指導についてのレポート、実習校における教育実習の評価などを中心に
おくが、他に、実習に関する諸提出物等をも参考にして総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。 / 参考書：特
定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。他に、プリント類は、必要に応じて適宜配
布する。参考書については、一般的なものをいくつか掲げる。『教育学入門』上下、村井実、講談社学術文
庫、1976 年、『教育実習ハンドブック』、教育技術研究会編、ぎょうせい 1993 年、『教育実習の研究』改訂
版、教員養成研究会編著、学芸図書、2001 年、『教育実習を考える』、岩本・浪本編著、北樹出版、2003 年。他
に、日本商業教育学会 岡田・清水・黒葛原・中澤・古市『教職必修最新商業科教育法』、実教出版、2005
年、『高等学校学習指導要領』、平成 11 年、『同解説商業編』、平成 12 年

メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、実習に対する意欲的で真摯な態度の中にも学問に
対する誠実な取り組みの姿勢を示してほしい。

備考 集中授業

開設科目	教育実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官					

授業の概要 高等学校教諭免許(商業)に必要な教育実習を、高等学校において行う。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。
3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	商業教育論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古堤一三				

授業の概要 我が国における近代的商業教育は、我が国が近代国家の一員としてたつことを決意した 明治期に導入され、その拡充・発展をみたものです。それはまた、経済発展の原動力となった科学的思考方法とともに「知」の教育を推進するために体系化され組織された学校 制度とも大きな関わりを持っています。ここでは、先ず、我が国の歴史的・社会的背景を 考慮の上に我が国の商業教育についてみていきます。次に、産業の発展著しい現代社会では、人のビジネスに関わる活動範囲の拡大とあわせて、その専門性への要求が高まる中で「知」の学習だけでは十分でないところが沢山あります。知とあわせて情・意の教養が、また行動力と決断力が強く求められることがあった我が国の近代以前の教育を概観する中に、商業教育における人格の陶冶の問題を考えていきます。/ 検索キーワード 学制、教育令、商業学校通則、小学校令、中学校令、帝国大学令、高等学校令、実業学校令、専門学校令、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、基礎教育、専門教育

授業の一般目標 我が国の教育の特質を、各時代が求めた人間像の中に概観するとともに、我が国に商業教育が出現し、それが置かれてきた位置とあわせて、その背景を認識し把握するとともに、その内容・視点・方策などの中に新しい商業教育の方向を探る。とりわけ明治期以降 の我が国の近代学校制度の確立過程の中で、世界及び我が国の政治経済社会の変容と大きく関わりあいながら発展し、位置づけられてきた我が国の教育制度の特色と、この間に生じたひずみを取り除く上での新しい視点や方策について、また、専門性を発揮する上での 基盤を形作っている人格の陶冶の問題について考えます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 適切な判断に導く上で必要な基礎・基本の知識を身につけている。 思考・判断の観点： 1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。 関心・意欲の観点： 1. 教育と職業生活との関わりに強い関心を抱き、現状での克服策に取り組む。 態度の観点： 1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。 技能・表現の観点： 1. 口頭あるいは文章などで自己の考え方を述べる上で必要、適切な語彙力がある。 その他の観点： 1. 長期的な立場に立つてものごとを考える場合に必要とされる、その歴史性、社会性に 配慮しての、与件についても十分な考察力がある。

授業の計画(全体) 主として、1. 教育の社会性、歴史性と商業教育 2. 近代以前の我が国の教育 3. 近代の我が国の教育と商業教育 4. 近代学校制度の完成と普通教育、専門教育 5. 我が国産業の発展・拡大の中での商業教育論 6. 現代の我が国の教育と商業教育(1) 7. 現代の我が国の教育と商業教育(2) 8. 商業教育と倫理 9. 商業教育の目指すところ などの内容を取り上げて授業を進めるが、機械的な暗記ではなく、より長期的な視野に立った、広く高い立場からの思索の上に結論に導いていく態度を身につけるよう頭の切り替えを望みます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 教育の社会性、歴 史性と商業教育
- 第 2 回 項目 2. 近代以前の我が国 の教育 内容 (1) 上世の教育 (公家の教育 (2) 中世の教育 (武家の教育)
- 第 3 回 項目 同上 内容 (3) 近世の教育 (町家の教育)
- 第 4 回 項目 3. 近代の我が国の教 育と商業教育 内容 (1) 国民教育思想の下での教育制度の構想
- 第 5 回 項目 同上 内容 (2) 文部省の設置と「学制」の頒布
- 第 6 回 項目 同上 内容 (3) 「学制」頒布後の我が国の教育(「商業学校通則」の制定に至る間の法制と商業教育)
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 (4) 「商業学校通則」の制定と商業教育機関の整備、拡充
- 第 9 回 項目 4. 近代学校制度の完 成と普通教育、専 門教育 内容 (1) 「小学校令」と初等教育 (2) 「中学校令」と中等教育、高等教育 (3) 「帝国大学令」、「高等学校令」と高等教育

- 第10回 項目 同上 内容 (4)「実業学校令」と中等商業教育 (5)「専門学校令」と高等商業教育
- 第11回 項目 5.我が国産業の発展・拡大の中での商業教育論 内容 (中等教育における個別的・具体的実務性を中心とする教育内容と高等教育・最高教育における抽象的(観念的)論理性を中心とする教育内容との間の乖離の問題)
- 第12回 項目 6.現代の我が国の教育と商業教育 (1) 内容 戦後の教育改革と商業教育: (1)高等学校における商業教育 (2)大学における商業教育
- 第13回 項目 7.現代の我が国の教育と商業教育 (2) 内容 高度成長期以後の商業教育: (1)経済の拡大の中での専門性の深化 (2)情報化、国際化、サービス化の進展と内容の拡充 (3)ビジネスの発展に伴う経済社会の変容と商業教育 (ア.商業教育における具体的実務性と抽象的論理性の乖離から融合へ イ.生涯学習社会の到来と新しい専門性)
- 第14回 項目 8.商業教育と倫理 9.商業教育の目指すところ 内容 (1)産業社会と人間 (2)自由主義社会と「社会的価値ないし目標」との関わりの中での商業教育 (1)生涯学習社会の中での専門性の深化と人格の陶冶
- 第15回 項目 期末テスト

成績評価方法 (総合) 1. 学期末試験を中心に評価する。授業への参加度は出席率を加味して、一定の基準により約3%以内での加減調整を行う。

教科書・参考書 教科書: 特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。他に、プリント類は必要に応じて随時配布する。/ 参考書: 一般的なものとしては、河合・雲英・岡田・山田編著『新商業教育論』(第7版)1997年 多賀出版、石井・大橋・岡田・沢田編著『現代商業教育論』1991年 税務経理協会、日本商業教育学会 岡田・清水・黒葛原・中澤・古市『教職必修 最新商業科教育法』2005年 実教出版、文部省『高等学校学習指導要領』(各年度) 『同解説商業編』(各年度)

メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。履修については、2年次以降にするのが望ましい。

開設科目	職業指導	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永田萬亨				

授業の概要 「労働」あるいは「職業」について意識化させていく活動をともなう職業指導の発展と、技術・職業教育の充実、整備の問題は密接不可分に結びついている重要な課題である。これまでの職業指導は、職業適性検査や個性の発見とかもっぱら心理学的な側面からのみ行われてきたきらいがあるが、それだけでは不十分と思われる。経済社会の発展・成長について職業生活はどうなるのか、技術革新の進展に伴って労働は、どのようにへんびうするのか、さらに職業や雇用はどのようになるのか等々、社会経済的側面も合わせて認識する必要がある。そのことを通し / 検索キーワード 学校から職業への移行、職業教育、生涯教育

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育と貧困
- 第 2 回 項目 文部省の進路指導調査
- 第 3 回 項目 経済政策と進路指導
- 第 4 回 項目 職業指導運動の始まり
- 第 5 回 項目 日本の職業指導運動の体質
- 第 6 回 項目 労働時間
- 第 7 回 項目 賃金
- 第 8 回 項目 企業社会における能力主義管理
- 第 9 回 項目 職業高校
- 第 10 回 項目 各種・専修学校
- 第 11 回 項目 公共職業訓練
- 第 12 回 項目 企業内教育と熟練形成
- 第 13 回 項目 デマケーション
- 第 14 回 項目 職業教育と生涯学習
- 第 15 回 項目 まとめと試験

メッセージ 講義では、ビデオなど視聴覚教材を多用したいと考えているが、受講生は各種ルポタージュを読んでおくことが望ましい。教師側からの一方的な講義にならないように、受講生の主体的参加を希望している。

備考 集中授業